

「東高がんばっていきましょい ーグローバルからグローバルへの挑戦ー」は、まだ終わらない

校長 和田 真志

2014年度から始まった松山東高等学校の国際理解や交流、さらには地域活性化といった現代の課題解決への取組は、文部科学省のSGH事業、さらに「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」といった国の補助を受けた8年間の実践的教育は、今年度で一つの節目を迎えました。この2事業の成果として、「グローバル人材の育成」が本校GL事業により推進され、愛媛県を代表する地域の伝統校として、文武両道、質実剛健を校風とする本校に、強力な武器となる新たな「軸」が着実に根付きました。

これまで、全国に胸を張れる成果を上げることができたのは、何事にも興味関心を示し、探究心が強く、突破力のある優秀な生徒の皆さんの力であることは言うまでもありませんが、その好奇心旺盛な生徒たちを陰に日向にご指導くださった運営指導委員諸氏のお力添えが、本当に大なる支えでありました。そして、この学びを生徒たちの成長にしっかりと結び付け、後押ししてきた教職員の並々なめ熱意がございました。

この最終年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けながら、海外修学旅行については、検討を重ねたもののやむなく中止となりましたが、海外フィールドワーク及び県内企業フィールドワークについては、オンラインを活用して、複数の企業から講演をいただいたり、交流会を実施させていただいたりするなど、新時代に相応しい取組みを着実に実現してまいりました。

さらに、感染状況を見極めながら活動することができ、本校進路課とともに多くの生徒が大阪大学での研修活動を新規に行い、松山市等のご協力を得て「秋山兄弟生誕地」や「坂の上の雲ミュージアム」等の市内フィールドワークをタイムリーに実施し、実物を見ながらの学習も取り戻しました。また、愛媛大学や松山市等と連携した講演や課題研究、発表会も着実に実施することができました。

SGH部では、国際ナショナルデーによる校内啓発や、対外的なコンテスト・大会に出場して成果を上げるなど、これまでの歩みを止めずに前進することができました。特筆すべきは、第101代内閣総理大臣である岸田文雄氏が、令和3年11月20日に愛媛県立松山東高等学校にお越しになったことです。土曜日ということもあってSGH部員によるお出迎えや模擬授業を行いました。この日のことについて総理は、令和3年12月6日の所信表明の中で触れられ、「愛媛県松山市にある県立高校を訪問し、高校生に交じって、模擬授業を体験させていただきました。（中略）

次々に出される課題に戸惑う私に、少し困った表情を浮かべながら、一生懸命タブレットの操作を教えてくれたのは、隣の席に座った、高校1年生の生徒でした。まだ、授業で本格的に使い始めて間もないタブレットを使いこなし、受け身でなく、自分から行動する姿に、日本の未来を切り拓く、「人」の可能性を強く感じました。」と。このことは大きく報道されるとともに、官邸のホームページにも、本校での模擬授業や車座対談が動画が掲載されました。加えて、内閣広報室が外国人向けに作成している季刊誌「KIZUNA」でも大きく取り上げられ、それを知ったSGH部員たちも驚き、喜ぶとともに、さらなる躍進を胸に期したわけですが。若い力は逆境に出くわしても、あきらめるのではなく、どうやったら道を切り拓けるかという、チャレンジすべき壁として向かい合い、思いもかけない発見や成果をもたらしてくれました。

最終年度に当たりまして、これまで8年間の長きにわたり、課題研究等で多大なサポートをいただいた愛媛大学はじめ多くの先生方、愛媛県及び松山市の職員の方々、講演会などにご助力をいただいた県内企業の皆様に、心よりの感謝を申し上げます。来年度以降は、国からの補助等はありませんが、皆さま方にご協力いただいている「松山東高校グローバル人材育成振興会」を活性化し、活用することで、これまで積み上げてきた、本校の新しい伝統を次代へとつないでいく所存でございますので、引き続きのご支援をお願い申し上げます。巻頭の挨拶といたします。

■第1部■	令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業研究完了報告	1
■第2部■	令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業研究開発の成果と課題	9
I	アンケートからみる本年度の成果	10
II	令和3年度のGL事業課の自己評価	21
III	次年度以降への課題	24
■第3部■	令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業研究開発報告書	25
第1章	令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定時の研究開発構想	26
I	研究開発構想調書の概要	26
II	研究開発 取組内容の概要	28
III	研究開発 ビジュアル資料	32
IV	グローバル明教 ビジュアル資料	33
第2章	令和3年度研究開発組織の概要	34
第3章	令和3年度の実施詳細	35
I	1年生の取組(本年度対象:361人)	35
1	各種講演及びワークショップ【G明教I・G明教II】	35
2	市内フィールドワーク【G明教I】	43
3	海外フィールドワーク代替交流【G明教I】	44
4	課題研究【G明教II】	47
5	内容言語統合型学習(East CLIL)【坊っちゃんタイム】	55
II	2年生の取組(本年度対象:97人(GLコース選択生))	56
1	課題研究【G明教III】	56
2	海外フィールドワーク代替交流【G明教III】	64
3	内容言語統合型学習(East CLIL)【坊っちゃんタイム】	65
4	保健講座	66
III	3年生の取組(本年度対象:80人(GLコース生))	68
1	課題研究【G明教IV】	68
IV	留学	75
1	本校の留学促進にむけた取組	75
2	留学生の受け入れ	76
IV	成果の普及	77
1	令和3年度GL事業研究成果発表会	77
2	1・2年生合同中間発表会	80
3	えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 中予	82
4	令和3年度研究成果発表会	82
V	学校環境のグローバル化	88
1	SGH部の活動	88
2	各種交流・講演会	89
3	各種大会参加・入賞	93
4	市内高校生会議	93
5	インターナショナルデー	93
6	第6回中四国高校生会議	94
VI	コンソーシアムにおける取組	98
1	各種取組	98
2	コンソーシアム 会議議事録	99
VI	その他の取組	103
1	松山東高等学校グローバル人材育成振興会	103
2	運営指導委員会 議事録	104
■第4部■	関係資料	109

第 1 部

令和 3 年度地域との協働による高等学校 教育改革推進事業（グローバル型） 研究開発完了報告

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 愛媛県松山市一番町四丁目4番地2
管理機関名 愛媛県教育委員会
代表者名 教育長 田所 竜二

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～ 令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 愛媛県立松山東高等学校
学校長名 和田 真志
類型 グローカル型

3 研究開発名

東高がんばっていきましょいーグローバルからグローカルへの挑戦ー

4 研究開発概要

地域人材育成に資する地域課題の解決等に向けた持続可能な研究（以下「地域課題研究」）を中心とした教育課程の研究開発

(1) グローカル・リーダーを育成するための地域課題研究プログラム開発【グローカル明教】

本校や松山、愛媛の歴史、愛媛の海外進出企業の研究をするとともに、松山市及びまつやま圏域の課題克服と魅力発信のための広範囲・高水準の研究テーマ群について、産官学の連携した協力の下、協働的研究を行い、資質・能力を伸ばす。

(2) 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】

ア 英語の授業において5年間のSGH事業の成果を生かし、高いレベルのディスカッション力、ディベート力等を身に付けた語学力を育成する実践的な「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」の授業を行う。

イ 内容言語統合型学習（E a s t C L I L）を実施する全ての教科で、言語活動を充実させる。英語以外の教科を英語で取り組むことにより、語学力向上と異文化理解の深化を図るとともに、思考力・判断力・表現力・分析力を育成する。

(3) 学校環境のグローバル化

ア SGH部の活用

イ 海外修学旅行による体験的語学研修促進

ウ 海外留学及びアジア高校生架け橋プロジェクトを含む海外の留学生受入れ促進

エ 県内留学生、本県を訪れる海外高校生との交流

オ 俳句の研究・発信、俳句による海外交流、中高連携

カ ICT活用による情報活用能力、情報発信能力の育成

(4) SGHで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築

ア 松山市を中心にした新たな教育資源を開拓

イ 新たな産官学連携のためのコンソーシアム構築

ウ 松山市内の高校生と連携し、地域課題を議論する「松山市高校生地方創生会議」の主催

エ 「中四国SGH高校生会議」を発展させた「中四国高校生地方創生会議」の主催
 オ 他校でも実施可能な地域協働による課題研究プログラムの開発

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

○適用範囲：第1学年全生徒

教科：情報 科目：「情報の科学」 単位数1単位（標準単位数2単位）

○適用範囲：第2学年（年次進行で実施）普通科 グローカルコース

教科：保健体育 科目：「保健」 単位数1単位（標準単位数2単位）

「総合的な探究の時間」（グローバル明教）の単位数をそれぞれの学年2単位で実施

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
井上 敏憲	四国地区国立大学連合アドミッションセンター センター長	委員長
佐伯三麻子	松山東雲女子大学 教授	副委員長
金村 俊治	坊っちゃん劇場 支配人	
菅 紀子	有限会社クラパムコモンカンパニー 代表	
寺村 尚起	三浦教育振興財団 監事	
安宅 理	松山南高等学校 校長	
高岡 伸夫	松山市総合政策部 地方創生戦略推進官	

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機 関 名	機関の代表者	
松山市教育委員会生涯学習政策課	課 長	横山 憲
松山市総合政策部企画戦略課	課 長	田中健太郎
愛媛大学社会共創学部	学部長	徐 祝旗
松山大学人文学部	学部長	櫻井啓一郎
いよぎん地域経済研究センター	社 長	重松 栄治
えひめ地域づくり研究会議	代表運営委員	山本 司
常盤同郷会	理事長	山崎 薫
愛媛県社会福祉事業団	前理事長	仙波 隆三
愛媛県教育委員会高校教育課	課 長	島瀬 省吾
愛媛県立松山東高等学校	校 長	和田 真志

8 カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	梶原 春菜	元京都大学法学研究科助教	非常勤職員
地域協働学習実施支援員	嶋村 美和	元京都大学東南アジア研究所研究員	非常勤職員

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム			○									○
カリキュラム開発等専門家	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域協働学習実施支援員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
運営指導委員会			○									○

(2) 実績の説明

ア カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について

(イ) カリキュラム開発等専門家

氏名：梶原 春菜

元京都大学法学研究科助教、5年間の本校SGH特別非常勤講師、非常勤職員として雇用、月4回本校で勤務

(i) 地域協働学習実施支援員

氏名：嶋村 美和

元京都大学東南アジア研究所研究員、5年間の本校SGH特別非常勤講師「愛媛の国際化」「フィールドワーク入門」等担当、非常勤職員として雇用、月4回本校で勤務

イ 管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

(7) 職員体制に関する支援

海外研修の実績を有するなど、優秀な教員の配置、GL担当教員のための教員の加配（常勤講師1人）、外国語指導助手専任の配置（1人）

(4) 取組内容に関する支援

ALTの資質向上支援（外国語指導助手招致事業費）、生徒のディベート力の向上支援（英語ディベートコンテスト開催事業費）、生徒の国際交流支援（高校生国際交流促進事業費）※今年度は中止、研究に係る費用を優先して令達

(7) 関係機関との連絡調整等

高大連携プログラム等を円滑に実施するための大学及び企業等との連携支援、海外フィールドワークにおける現地との交渉の支援

(1) 運営に関する支援

運営指導委員会の年2回実施（6月28日、3月10日）

コンソーシアムの年2回実施（6月28日、3月10日）

えひめスーパーハイスクールコンソーシアム[※]の実施【発表と意見交換】（1月28日）

※愛媛県教育委員会が主催し、県内高校等が、指定を受けた各種事業の取組や、独自の研究実践について、その成果を広く高校生・中学生にまで普及する成果発表会

(i) 事業終了後の自走を見据えた取組について

コンソーシアムの継続、海外交流の支援、教職員への支援などを行う。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ア グローカル明教	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イ 坊っちゃんタイム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ウ 学校環境のグローバル化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エ コンソーシアムの構築	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(2) 実績の説明 ※第1学年全生徒：361人 第2学年GLコース生：97人

第3学年GLコース生：80人

ア 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

(7) グローカル・リーダーを育成するための課題研究プログラム開発【グローバル明教】

a グローカル明教I 第1学年全生徒

(a) アイデンティティとグローバル

【目的】坂の上の雲ミュージアム及び公益財団法人常盤同郷会の協力を得て、秋山 兄弟生誕地等の史跡でフィールドワークをするなど、愛媛、本校の歴史、伝統、魅力について探究させ、アイデンティティの確立を図る。

【内容】講演及びフィールドワーク

・講演「これからのよのなかの話をしよう」

・市内フィールドワーク（秋山兄弟生誕地・坂の上の雲ミュージアム）

(b) アジアと愛媛の企業

【目的】学習院大学の教授の指導の下、いよぎん地域経済研究センターの協力により、愛媛の企業がグローバル化を進めるための課題とその克服方法について探究学習を行う。グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを交えて実施し、フィールドワーク報告会により、グローバル化への理解の深化、問題解決力、コミュニケーション能力の育成を図る。さらに、フィールドワークで知り得た内容を学年全体で共有する。

- 【内容】講演及びフィールドワーク
- ・講演「企業の見方&地域産品のマーケティング」
 - ・県内企業フィールドワーク代替講演（三浦工業、アテックス）
 - ・海外フィールドワーク代替交流（北京月壇中学、台湾國立中興大学附属高級中学校、三浦工業（中国蘇州・台湾・韓国・インドネシア）、フィリピン大学附属高校、フィリピン渦潮電機）
- 【変更】新型コロナウイルス感染拡大防止のために、講演会はすべてオンラインで実施。また、県内企業フィールドワーク及び海外フィールドワークは中止とし、オンラインでの講演や交流会を代替として実施。（フィリピンとの交流は2年生対象）
- b グローカル明教Ⅱ 地域及び世界の持続的な発展のために 第1学年全生徒
- 【目的】コンソーシアムの一員である、愛媛大学・松山市の協力を得て、地域や世界の持続的な発展のために必要な知見を得るとともに、課題解決のための実践的で協働的な研究活動を行い、グローバル・リーダーとして必要な国際的素養の育成、高度な語学力・コミュニケーション能力や地域マネジメント力（問題発見力・企画立案力・協働実践力）の育成を図る。
- 【内容】講演及び課題研究、発表会
- ・「地域社会の持続可能な発展に向けてー今、なぜグローバル人材が求められるのかー」
 - ・「世界共通のゴール『SDG s』の達成に向かって～足元から世界とつながる！～」
 - ・「いい、加減。まつやま」「笑顔のまつやま まちかど講座」
 - ・課題研究 20テーマ 26時間実施、本校教員が指導、研究成果発表会（3月）
- c グローカル明教Ⅲ グローカル課題への取組 第2学年GLコース生対象
- 【目的】高大連携・地域連携による、より高水準な専門的課題研究を行うためグローバルコースを設定し、課題研究の深化を図る。地方創生のための課題研究を通して、地域マネジメント力（課題発見力・企画立案力・協働実践力）の育成とともに、コミュニケーション能力・思考力・表現力の育成を図る。
- 【内容】個人及びグループによる課題研究、発表会
- ・課題研究 14テーマ 48時間実施
講師：愛媛大学・松山大学・松山市職員・病院勤務医・元大学教員他20人
 - ・発表会 1・2年合同中間発表会（12月）及び研究成果発表会（3月）
- d グローカル明教Ⅳ グローカル課題の解決と発信 第3学年GLコース生対象
- 【目的】グローバル明教Ⅲから引き継ぐ協働的探究活動及び研究論文の作成、成果の発信を行い、地域マネジメント力（課題発見力・企画立案力・協働実践力）の育成とともに、コミュニケーション能力・思考力・表現力の育成を図る。
- 【内容】個人及びグループによる課題研究、発表会
- ・課題研究 13テーマ 26時間実施
講師：愛媛大学・松山大学・松山市職員・病院勤務医・元大学教員他13人
 - ・発表会 GL事業研究成果発表会（9月）
- (f) 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】
- 第1学年は全生徒を対象とし、各学期2科目（各1テーマ）で実施、全6テーマ
- 第2学年も全生徒を対象として各学期1回実施。医療系分野の内容を、科学誌や複数言語の講演会を視聴できる動画コンテンツ「TED Talks」から教材化して行った。
- (g) 学校環境のグローバル化
- a SGH部の活動 41人
- グローバル・リーダーとしての資質・能力の伸長の加速化を目標とし、校内啓発活動、国際協力・交流活動に取り組み、その成果を様々な機会に報告している。
- (a) 校内啓発活動
- インターナショナルデー（国際交流）、市内高校生交流会・勉強会（SDG s勉強会）、フェアトレードの啓発活動、フードドライブ
- (b) 国際協力・国際交流活動
- ハワイ・シンガポール・台湾の高校とのオンライン交流、ビデオレターの制作（ウガンダ・シンガポール・台湾・フィリピン・アメリカ・中国・ハワイ）
- (c) 対外的コンテスト・大会への参加
- 全国高等学校グローバル探究オンライン発表会・四国高等学校国際教育生徒研究発表大会・全国高校生フォーラム・JICA国際協力高校生エッセイコンテスト

- (d) 交流・イベント・研修への参加
三菱プロジェクト探検隊・Future Global Leaders Camp・日露オンライン日本語履修高校生交流プログラム他
- b その他の取組
- (a) 海外修学旅行等による体験型研修促進
本年度も、アメリカ（ロサンゼルス）及び、シンガポール・マレーシアの修学旅行を計画し、約3分の2の生徒が在学中に海外を体験できる体制を整えていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため中止となった。台湾・中国・フィリピンへのフィールドワークも中止となり、代替活動としてオンラインで訪問予定の企業及び学校との交流を行った。オーストラリアでの語学研修も中止としたが、昨年度と同様にオンラインでの語学研修を宇和島南中等教育学校と協力して3月に実施した。
- (b) 留学生の受入れおよび留学の促進
本年度はアジア高校生架け橋事業による留学生を1名引き受けた。また、例年行っている「トビタテ!留学JAPAN」の説明会は、来年度募集が行われなかったため、中止した。
- (c) 海外高校生との交流
本年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、本校に迎えることができなかった。しかし、課題研究やフィールドワークの代替活動・SGH部の活動で、オンラインを活用し昨年以上の多くの海外高校生と交流を図ることができた。
- イ 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な探究の時間、学校設定教科・科目等）
- (i) 第1学年 「総合的な探究の時間」（週2時間）で実施。
松山市シティープロモーション課及びまちづくり推進課による講演、松山市タウンミーティング課主催「笑顔のまつやま まちかど講座」を利用した各政策担当者による講義、地域活性化に取り組んでいる愛媛大学や学習院大学の教授、元地域まちおこし協力隊員からの講演、坂の上の雲ミュージアム・常磐同郷会と協力した市内フィールドワーク。
- (ii) 第2学年 「総合的な探究の時間」（週2時間）で実施。
愛媛大学及び松山大学の教授、松山市総合政策部企画管理課及び松山市選挙管理委員会の職員、県病院勤務医、民間企業研究員等の指導による探究的な活動である課題研究を実施
- (iii) 第3学年 「総合的な探究の時間」（週1時間）で実施。
愛媛大学及び松山大学の教授、松山市総合政策部企画管理課の職員、元大学准教授の指導による探究的な活動である課題研究を実施。
- ウ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について
第1学年でのグローバル明教の課題研究においては、昨年度から本校教員が課題研究のテーマを設定し、その中から生徒がグループでテーマを決定し課題研究に取り組んでいる。全教科の教員が参加することによって、それぞれの得意分野と地域課題を連携させながら課題研究に取り組んでいる。
また、East CLILでは、英語科と各教科が連携し、学習内容の定着と英語でのディスカッション力やプレゼンテーション力の育成を図っている。
- エ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制
カリキュラムの作成については、本校の校務分掌では、グローバル事業課（以下GL事業課）と教務課において作成し、全教科の教科主任及び関係各課長が参加する教育課程検討委員会を年3回開催し、内容を検討しながら運営している。また、各学年でのグローバル明教においては、月1回の学年会で共通認識を図っている。
- オ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制、カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員の学校内での位置付け）
全校体制で本事業は推進するが、中心となって本事業を運営する校務分掌として、GL事業課を設置している。本課に所属する教員は、計画立案、本事業の円滑な実施、考察、事業計画の改善を図っている。課題研究は、課題研究チームをつくり、GL事業課の担当者とはカリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員が協働して活動し、学年団が担当する課題研究の外部機関との連絡・交渉、研究内容についての支援を行っている。また、海外交流事業は、海外交流チームをつくり、GL事業課の担当者とはカリキュラム開発等専門家が協働して、海外フィールドワークの企画・立案・交渉、学年団が担当する海外修学旅行の支援、英語科と協働して行う海外留学の促進事業や留学生受入事業を行っている。
- カ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を

改善していく仕組みについて

本事業におけるそれぞれの内容については、GL事業担当者が具体的な案を立案し、校長決裁を受けたものを、職員会議にて全教職員で共通理解を図りながら推進している。成果の検証・評価については、以下のように行っている。講演については、その都度生徒へのアンケートを行い、内容についての検討と次年度の内容の検討を行う。課題研究においては、各担当者からの聞き取りを行うとともに、学年会で議論し、実施内容の確認と改善を図る。また、総括として生徒保護者対象に3年生は10月に、1・2年生は2月にアンケートを実施し、1年間の本事業の検証を行うとともに次年度の計画に生かすように努めている。

キ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

郷土や世界の持続的発展のために貢献できる人材の育成を目指して、コンソーシアムの産官学それぞれの立場からの指導助言を受けている。松山市からは、地域の魅力や課題について実務者から直接話を伺うことで、生徒への意識付けにつながっている。本年度は、昨年度中止した市内フィールドワークを、感染対策を図りながら松山市の協力の下、実施した。また、愛媛大学や松山大学からは、課題研究の直接的な指導だけでなく、「今なぜグローバルなのか」や「今なぜSDGsなのか」などの根本的な知識や理論を学ぶことで、生徒の思考力や判断力の向上につながっている。さらに、各企業からはグローバルに対する取組や、社会貢献の在り方について学ぶ機会を得ている。

ク 類型毎の趣旨に応じた取組について

本校指定のグローバル型においては、グローバルな視点の育成と郷土の課題の解決に貢献できる人材の育成を目指している。

グローバルな視点の育成のために企画していた多くの内容は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために本年度も中止となった。しかし、その中で駐日欧州連合代表部主催の「EUがあなたの学校にやってくる」を3年連続で実施した。また、外務省主催の「高校講座」を新たに実施したり、海外フィールドワーク参加予定者には、現地企業や交流予定校とのオンラインでの交流を行ったり、ほぼ毎月実施しているSGH部主催のインターナショナルデーには、県内在住の留学生や外国人を招いて交流を行うなど、グローバルな視点の育成に努めることができた。

また、郷土の課題解決に向けては、本年度も松山市の全面的な協力をいただいた。総合政策課に加えて松山市選挙管理委員会から探究的な学習における講演や講座の開設、課題研究における講師派遣をしていただいた。愛媛大学や松山大学との連携についても、昨年度までと同様に課題研究での指導や講演などに協力を得ることができ、生徒の高いレベルでの知的好奇心を喚起することにつながることができている。

ケ 成果の普及方法・実績について

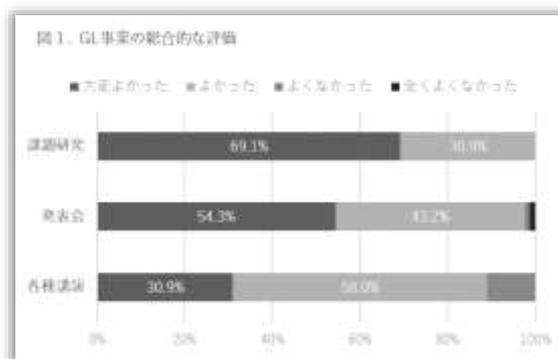
本年度の活動内容については、適宜本校ホームページで発信している。9月には、3年生によるGL事業研究成果発表会を、感染症対策を十分にを行い公開で実施した。12月には1・2年生合同中間発表会を実施し、本校関係者のみではあったが公開した。また、3月には本校で研究成果発表会を、県内限定で公開して実施した。

SGH部が主催して行っている市内高校生会議を本年度も定期的で開催し、市内高校生とともに課題に取り組む体制を構築し、成果の普及を図っている。また、第6回中四国高校生会議もオンラインで開催し、交流の機会の確保に努めている。

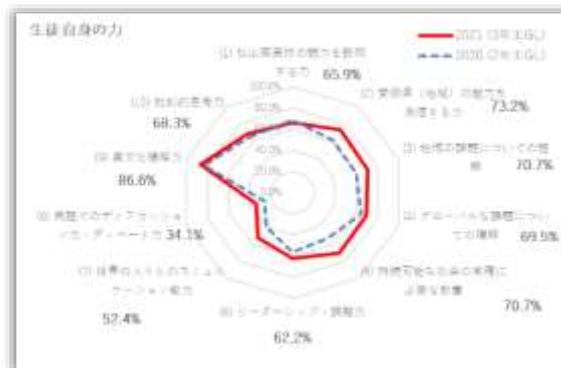
11 目標の進捗状況、成果、評価

本年度は、昨年度に比べるとオンラインでの取組に各関係機関が臨機応変に対応してくださったことにより、多くの事業を実施することができた。また、感染状況を考慮しながら、昨年度実施できなかった市内フィールドワークを実施したり、新たな取組である大阪大学フィールドワークを実施したりするなど、グローバル意識の向上への取組を行うことができた。

本事業の中心的な内容である「グローバル明教」は、この3年間で内容も精査でき、今後も継続できるカリキュラムとすることができた。1年生では、グローバルな視点の育成や地域理解につなげる講演会や講座を前半で行い、知識や思考力・判断力の育成及び地域や世界の現状や課題について理解を深めさせることができている。県内企業フィールドワークや海外フィールドワークが中止となり、生徒の貴重な体験の場を提供することはできなかったが、オンラインによる代替の講演や交流により、地元企業のグローバル化への取組、地域企業としての在り方、地域貢献の考え方を学ぶ機会を提供できた。後半で行う課題研究では、本年度も本校1年団の教職員が主導する研究活



動を行った。各教員による創意工夫により、様々なテーマで研究活動を行うことができ、また生徒自身もグループでの協議を重ね、研究をポスターにまとめることができた。自分達で創意工夫した課題研究の評価は、自己評価の中でも非常に高くなっている。2年生では、GLコースを設定し、研究意欲の高い生徒97名を対象に、高大連携・地域連携による、より高水準な専門的課題研究を実施した。12月にはポスター発表会、3月にはシンポジウムを実施し、地域や世界の持続可能な社会に貢献する意欲や深い教養、課題発見力や問題解決能力・コミュニケーション能力等の育成を図ることができた。3年生では、80名が2年時に行っていた研究を継続し論文にまとめ、9月には全員が研究成果についてプレゼンテーションを行った。3年生の本事業に対する評価は、9割近くが、各種講演、課題研究、発表会のいずれについても、肯定的に評価しており、特に課題研究については、全員が肯定的な評価を行っている。本校独自の外部連携による課題研究が、効果的に機能しているためであると考えられる。



学校環境のグローバル化においては、感染症拡大防止の対策を十分行いながら、昨年度の経験をもとに多くの活動を工夫して実施することができた。SGH部を中心に、定期的な市内高校生会議、留学生などを招いて行うインターナショナルデーや、海外の高校生とのオンライン交流、6回目となる中四国高校生会議の主催など、様々な交流の場の提供や本校の取組の普及活動にもつなげることができている。

コンソーシアムとの協働体制も過去2年間の活動同様に、強固なネットワークの構築によりスムーズな事業運営を図ることができた。また、愛媛大学・松山大学とは新たな連携協定を結ぶ準備ができ、来年度以降も本事業と同じ内容を実施できる体制を整えることができた。

<添付資料>目標設定シート

12 次年度以降の課題及び改善点

本事業の取組を、次年度以降も継続できるように、本年度は取り組んできた。本事業の中心である課題研究は、1年生はグループによる共同研究を本校教職員指導の下、全員で取り組み、2年生以降は希望者によるグループ及び個人研究を外部講師の指導の下、実施できる体制が確立できた。外部講師への謝金についても、同窓会が設立した「松山東高校グローバル人材育成振興会」の基金などを活用することで、対応できる目処をつけることができた。しかし、個別の内容で見た場合には、依然として課題と改善点が残されている。

まず、1年生の課題研究における指導教員の意識統一である。本年度は、多くの講座でフィールドワークや外部講師を積極的に活用した取組が行われ、課題研究に対する教員の意識の向上も見られたが、一部で調べ学習に終わった講座もあるなど、取組での差が見られた。課題研究に対する定期的な研修などを企画し、統一した指導ができるように改善していく。また、テーマ設定で悩む教員も多いため、本年度は過年度の課題研究を検索できるよう準備し対応したが、来年度以降は、さらに過年度の研究を引き継げるような形も準備していく。

次に、2年生のGLコースは外部講師の関係で定員を決めている。来年度の2年生のGLコースへの希望者も定員を超え選考を行った。また、アンケートの中に「希望する内容の講座がなくGLコースを希望しなかった」という生徒が複数いた。希望者全員が受講できるように、また多くの分野の講座が開設できるように、来年度以降、新たに結ぶ愛媛大学及び松山大学との協定を活用し、取り組んでいく。3年生は外部講師の関係で、来年度は論文作成を行わない。その代替として、2年次の課題研究抄録の英文化や各種コンテストへの応募、外部への情報発信などの取組を行わせる。

昨年度も課題として挙げていたが情報発信については、ホームページ上での情報発信のみになっており、課題が残る。SGH事業から本事業まで、カリキュラムとしては成熟し、事業は円滑に進んでいる。「松山東高校グローバル人材育成振興会」の協力者を増やすためにも、動画作成やSNS活用などホームページ以外の情報発信を行う体制を学校全体として構築していく。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	089-912-2954
氏名	近藤 啓司	FAX	089-912-2949
職名	指導主事	e-mail	kondou-keiji@pref.ehime.lg.jp

第2部

令和3年度地域との協働による高等学校 教育改革推進事業（グローバル型） 研究開発の成果と課題

I アンケートからみる本年度の成果

1 アンケート結果

今年度、アンケート調査を全学年の生徒・保護者全員に実施し集計した。実施時期は3年生は10月、1・2年生は2月である。

(1) 生徒

1. 次のことがらについて、あなたの興味のあることを教えてください。

項目	類型	生徒 (2021)				生徒 (2020)				生徒 (2019)			
		強く興味がある	興味がある	あまり興味がない	興味がない	強く興味がある	興味がある	あまり興味がない	興味がない	強く興味がある	興味がある	あまり興味がない	興味がない
(1) 本校や愛媛の歴史	1年	10.6%	45.7%	35.1%	8.6%	9.7%	47.4%	33.0%	9.9%	5.9%	42.7%	41.8%	9.6%
	2年GL	5.2%	50.0%	34.4%	10.4%	7.5%	48.8%	35.0%	8.8%				
	GL以外	7.7%	40.5%	37.1%	14.7%	5.9%	36.7%	42.2%	15.2%				
	3年GL	15.9%	45.1%	34.1%	4.9%								
	GL以外	4.6%	42.0%	40.3%	13.0%								
(2) 愛媛の企業のグローバル化の推進	1年	12.1%	44.5%	36.0%	7.4%	18.5%	42.3%	32.4%	6.8%	11.6%	47.5%	34.2%	6.8%
	2年GL	17.7%	52.1%	24.0%	6.3%	21.3%	53.8%	22.5%	2.5%				
	GL以外	8.1%	47.5%	34.7%	9.7%	7.8%	34.8%	45.6%	11.9%				
	3年GL	26.8%	51.2%	22.0%	0.0%								
	GL以外	6.7%	43.7%	39.5%	10.1%								
(3) 持続可能な社会づくり (SDGs)	1年	31.0%	50.7%	16.8%	1.5%	29.8%	47.7%	18.5%	4.0%	28.0%	52.0%	15.3%	4.8%
	2年GL	42.7%	45.8%	7.3%	4.2%	43.8%	45.0%	10.0%	1.3%				
	GL以外	21.2%	57.5%	16.2%	5.0%	23.0%	45.9%	23.7%	7.4%				
	3年GL	61.0%	29.3%	9.8%	0.0%								
	GL以外	23.1%	54.6%	16.4%	5.9%								
(4) グローバル時代における共生の実現	1年	33.6%	45.7%	18.3%	2.4%	30.7%	43.2%	21.6%	4.5%	26.6%	46.3%	21.8%	5.4%
	2年GL	50.0%	36.5%	10.4%	3.1%	50.0%	41.3%	7.5%	1.3%				
	GL以外	21.2%	51.4%	20.5%	6.9%	18.5%	44.8%	30.4%	6.3%				
	3年GL	57.3%	35.4%	7.3%	0.0%								
	GL以外	22.3%	47.9%	23.9%	5.9%								
(5) 地域の魅力と課題	1年	17.7%	45.4%	30.7%	6.2%	16.8%	46.3%	30.1%	6.8%	16.9%	46.6%	30.5%	5.9%
	2年GL	29.2%	38.5%	26.0%	6.3%	40.0%	45.0%	15.0%	0.0%				
	GL以外	14.7%	45.9%	28.2%	11.2%	11.9%	40.7%	37.0%	10.4%				
	3年GL	43.9%	46.3%	8.5%	1.2%								
	GL以外	10.5%	50.4%	31.9%	7.1%								
(6) 地域の活性化	1年	19.5%	44.2%	31.0%	5.3%	20.5%	46.9%	27.0%	5.7%	17.6%	50.1%	26.9%	5.4%
	2年GL	22.9%	47.9%	22.9%	6.3%	36.3%	48.8%	13.8%	1.3%				
	GL以外	14.7%	45.9%	30.5%	8.9%	12.6%	43.9%	32.7%	10.8%				
	3年GL	54.9%	32.9%	9.8%	2.4%								
	GL以外	13.9%	50.0%	29.0%	7.1%								

2. 次の力が、自分にどの程度あると思いますか。

項目	類型	生徒 (2021)				生徒 (2020)				生徒 (2019)			
		十分にある	ある	あまりない	ない	十分にある	ある	あまりない	ない	十分にある	ある	あまりない	ない
(1) 松山東高校の魅力の説明する力	1年	6.5%	42.5%	42.2%	8.8%	9.9%	42.0%	40.3%	7.7%	4.5%	49.7%	38.1%	7.6%
	2年GL	9.4%	53.1%	33.3%	4.2%	11.3%	57.5%	26.3%	5.0%				
	GL以外	6.9%	37.5%	41.7%	13.9%	6.3%	41.3%	43.5%	8.9%				
	3年GL	17.1%	48.8%	32.9%	1.2%								
	GL以外	8.8%	45.0%	39.1%	7.1%								
(2) 愛媛県(地域)の魅力発信する力	1年	6.5%	36.3%	48.4%	8.8%	10.8%	40.3%	42.0%	6.8%	6.2%	37.9%	49.4%	6.5%
	2年GL	11.5%	46.9%	36.5%	5.2%	15.0%	46.3%	37.5%	1.3%				
	GL以外	4.6%	30.1%	53.3%	12.0%	5.9%	30.4%	53.7%	10.0%				
	3年GL	17.1%	56.1%	25.6%	1.2%								
	GL以外	5.1%	32.9%	53.2%	8.9%								
(3) 地域の課題についての理解	1年	6.5%	34.8%	49.6%	9.1%	9.9%	41.5%	40.9%	7.7%	7.6%	38.1%	47.5%	6.8%
	2年GL	9.4%	55.2%	30.2%	5.2%	11.3%	48.8%	38.8%	1.3%				
	GL以外	4.2%	29.7%	56.0%	10.0%	3.3%	31.5%	54.8%	10.4%				
	3年GL	19.5%	51.2%	26.8%	2.4%								
	GL以外	5.1%	33.8%	54.0%	7.2%								
(4) グローバルな課題についての理解	1年	8.6%	39.8%	43.7%	8.0%	13.6%	43.5%	35.5%	7.4%	8.8%	42.4%	42.4%	6.5%
	2年GL	17.7%	51.0%	28.1%	3.1%	10.1%	54.4%	35.4%	0.0%				
	GL以外	8.5%	35.5%	47.5%	8.5%	5.6%	32.3%	52.4%	9.7%				
	3年GL	20.7%	48.8%	29.3%	1.2%								
	GL以外	6.7%	43.7%	42.0%	7.6%								
(5) 持続可能な社会の実現に必要な教養	1年	10.3%	41.0%	41.0%	7.7%	10.2%	42.9%	39.8%	7.1%	8.8%	39.4%	43.9%	7.9%
	2年GL	13.5%	57.3%	28.1%	1.0%	15.2%	38.0%	44.3%	2.5%				
	GL以外	6.6%	45.6%	40.2%	7.7%	4.5%	35.3%	51.3%	8.9%				
	3年GL	11.0%	59.8%	28.0%	1.2%								
	GL以外	7.1%	41.2%	42.9%	8.8%								
(6) リーダーシップ・調整力	1年	9.4%	28.3%	50.1%	12.1%	10.5%	35.2%	40.6%	13.6%	7.4%	32.9%	47.0%	12.7%
	2年GL	10.4%	34.4%	47.9%	7.3%	11.3%	45.0%	35.0%	8.8%				
	GL以外	6.9%	28.6%	49.0%	15.4%	5.2%	28.5%	49.3%	17.0%				
	3年GL	22.0%	40.2%	31.7%	6.1%								
	GL以外	7.1%	33.6%	44.1%	15.1%								

項目	類型	十分にある	ある	あまりない	ない	十分にある	ある	あまりない	ない	十分にある	ある	あまりない	ない	
(7)	世界の人々とのコミュニケーション能力	1年	5.0%	26.8%	49.6%	18.6%	9.1%	29.3%	46.9%	14.8%	8.2%	24.0%	48.3%	19.5%
	2年GL	10.4%	25.0%	47.9%	16.7%	11.3%	28.8%	52.5%	7.5%					
	GL以外	5.8%	20.1%	52.1%	22.0%	5.9%	21.5%	50.4%	22.2%					
	3年GL	19.5%	32.9%	40.2%	7.3%									
(8)	英語でのディスカッション力・ディベート力	1年	5.0%	18.3%	53.1%	23.6%	8.8%	19.0%	45.2%	27.0%	5.4%	13.8%	51.1%	29.7%
	2年GL	10.4%	11.5%	45.8%	32.3%	11.3%	15.0%	48.8%	25.0%					
	GL以外	4.2%	13.9%	47.1%	34.7%	4.8%	14.4%	48.5%	32.2%					
	3年GL	13.4%	20.7%	43.9%	22.0%									
(9)	異文化理解力	1年	17.4%	55.2%	23.3%	4.1%	21.6%	54.3%	21.3%	2.8%	16.4%	55.1%	25.7%	2.8%
	2年GL	32.3%	54.2%	13.5%	0.0%	22.5%	61.3%	15.0%	1.3%					
	GL以外	18.5%	45.2%	30.9%	5.4%	19.3%	45.2%	30.0%	5.6%					
	3年GL	32.9%	53.7%	12.2%	1.2%									
(10)	批判的思考力	1年	23.3%	48.1%	26.0%	2.7%	21.3%	46.6%	29.5%	2.6%	13.6%	56.3%	27.0%	3.1%
	2年GL	20.8%	54.2%	24.0%	1.0%	26.3%	38.8%	32.5%	2.5%					
	GL以外	16.6%	43.2%	34.0%	6.2%	15.2%	45.6%	36.3%	3.0%					
	3年GL	24.4%	43.9%	28.0%	3.7%									
(10)	GL以外	16.4%	48.3%	30.7%	4.6%									

3. あなたの現在や将来に関する次の問いについてどう思いますか。

項目	類型	生徒 (2021)				生徒 (2020)				生徒 (2019)				
		強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない	
(1)	ボランティアとして、地域の社会貢献活動に参加したい。	1年	19.2%	52.5%	23.3%	5.0%	22.7%	43.5%	26.7%	7.1%	20.1%	50.8%	23.4%	5.6%
	2年GL	33.3%	42.7%	20.8%	3.1%	30.0%	45.0%	22.5%	2.5%					
	GL以外	17.6%	46.3%	27.5%	8.6%	11.9%	44.4%	39.2%	4.5%					
	3年GL	48.8%	32.9%	14.6%	3.7%									
(2)	地域の魅力を、国内や国外に発信したい。	1年	12.7%	39.5%	40.1%	7.7%	21.3%	37.2%	34.9%	6.5%	14.7%	42.4%	35.9%	7.1%
	2年GL	24.0%	44.8%	21.9%	9.4%	27.5%	47.5%	25.0%	0.0%					
	GL以外	7.5%	42.4%	37.3%	12.9%	8.2%	33.6%	49.3%	9.0%					
	3年GL	36.6%	40.2%	19.5%	3.7%									
(3)	留学や海外の大学への進学を考えている。	1年	12.7%	16.8%	33.6%	36.9%	13.9%	16.2%	34.7%	35.2%	13.0%	20.9%	30.5%	35.6%
	2年GL	24.0%	16.7%	22.9%	36.5%	23.8%	28.8%	32.5%	15.0%					
	GL以外	9.0%	16.9%	31.4%	42.7%	6.3%	19.0%	35.8%	38.8%					
	3年GL	32.9%	24.4%	29.3%	13.4%									
(4)	国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい。	1年	6.2%	19.2%	51.6%	23.0%	10.5%	23.6%	44.0%	21.9%	5.9%	20.9%	46.9%	26.3%
	2年GL	9.4%	18.8%	46.9%	25.0%	10.0%	25.0%	43.8%	21.3%					
	GL以外	4.7%	20.0%	44.7%	30.6%	4.9%	15.7%	48.9%	30.6%					
	3年GL	17.1%	25.6%	42.7%	14.6%									
(5)	将来、地域と世界に関連する課題に関わりたい。	1年	10.9%	34.2%	39.5%	15.3%	14.0%	31.3%	39.0%	15.7%	11.3%	28.5%	43.8%	16.4%
	2年GL	21.9%	36.5%	27.1%	14.6%	18.8%	41.3%	35.0%	5.0%					
	GL以外	9.0%	24.7%	43.5%	22.7%	4.1%	25.0%	54.5%	16.4%					
	3年GL	35.4%	41.5%	20.7%	2.4%									
(6)	将来、地元で就職したい、または起業したい。	1年	13.9%	21.5%	44.8%	19.8%	11.9%	27.0%	36.6%	24.4%	8.6%	26.8%	46.7%	17.9%
	2年GL	16.7%	18.8%	39.6%	25.0%	17.5%	21.3%	40.0%	21.3%					
	GL以外	11.8%	22.7%	38.4%	27.1%	8.2%	24.6%	44.4%	22.8%					
	3年GL	19.5%	29.3%	32.9%	18.3%									
(7)	将来、どこに暮らしていても地元のために貢献したい。	1年	17.4%	42.8%	29.8%	10.0%	22.2%	39.2%	27.3%	11.4%	15.0%	37.6%	33.1%	14.4%
	2年GL	19.8%	41.7%	27.1%	11.5%	23.8%	47.5%	22.5%	6.3%					
	GL以外	14.5%	36.9%	34.1%	14.5%	9.3%	37.7%	41.0%	11.9%					
	3年GL	30.5%	37.8%	25.6%	6.1%									
(8)	英語力を高めたいと思いますか。	1年	70.7%	25.1%	3.6%	0.6%	73.9%	21.9%	4.0%	0.3%	67.5%	22.0%	7.9%	2.5%
	2年GL	85.4%	12.5%	0.0%	2.1%	70.0%	25.0%	5.0%	0.0%					
	GL以外	57.6%	31.4%	8.6%	2.4%	51.9%	33.2%	12.7%	2.2%					
	3年GL	69.5%	24.4%	6.1%	0.0%									
(9)	将来、英語力は必要だと思いますか。	1年	71.6%	25.7%	1.2%	1.5%	79.5%	15.9%	3.4%	1.1%	73.7%	20.3%	4.5%	1.4%
	2年GL	86.5%	11.5%	2.1%	0.0%	68.8%	25.0%	6.3%	0.0%					
	GL以外	64.3%	26.7%	6.7%	2.4%	54.9%	31.0%	12.3%	1.9%					
	3年GL	76.8%	14.6%	7.3%	1.2%									
(9)	GL以外	64.1%	25.3%	10.5%	0.0%									

4. グローカル明教（課題研究）での取組について、次の問いのあなたの経験や変化についてどう思いますか。

項目	類型	生徒（2021）				生徒（2020）				生徒（2019）			
		強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない
(1) 研究テーマへの関心度が高まった。	1年	44.0%	46.3%	7.4%	2.4%	40.9%	42.0%	13.4%	3.7%	39.8%	43.2%	11.9%	5.1%
	2年GL	71.6%	23.2%	2.1%	3.2%	61.3%	33.8%	3.8%	1.3%				
	3年GL	79.0%	17.3%	3.7%	0.0%								
(2) 現状分析し、目的や課題を明らかにすることができた。	1年	26.5%	54.6%	15.9%	2.9%	32.7%	49.7%	14.2%	3.4%	30.5%	55.1%	11.9%	2.5%
	2年GL	44.2%	49.5%	5.3%	1.1%	38.8%	51.3%	8.8%	1.3%				
	3年GL	58.0%	39.5%	2.5%	0.0%								
(3) 計画を立て活動することができた。	1年	26.0%	51.6%	19.5%	2.9%	30.7%	44.6%	21.0%	3.7%	23.7%	53.4%	17.8%	5.1%
	2年GL	24.2%	49.5%	22.1%	4.2%	27.5%	47.5%	20.0%	5.0%				
	3年GL	46.9%	39.5%	9.9%	3.7%								
(4) 独自のものを創り出そうと、工夫して取り組むことができた。	1年	25.1%	52.5%	19.5%	2.9%	30.1%	44.6%	21.6%	3.7%	28.2%	48.0%	19.5%	4.2%
	2年GL	37.9%	48.4%	12.6%	1.1%	36.3%	38.8%	23.8%	1.3%				
	3年GL	50.6%	43.2%	6.2%	0.0%								
(5) 他人の意見も尊重し、協力して取り組むことができた。	1年	44.0%	47.5%	7.7%	0.9%	47.4%	39.8%	10.2%	2.6%	44.4%	42.1%	10.5%	3.1%
	2年GL	53.7%	40.0%	5.3%	1.1%	52.5%	38.8%	7.5%	1.3%				
	3年GL	61.7%	32.1%	6.2%	0.0%								
(6) 自分の意見をはっきり相手に伝えることができた。	1年	39.2%	42.8%	15.6%	2.4%	41.8%	38.9%	16.8%	2.6%	29.9%	51.7%	15.5%	2.8%
	2年GL	44.2%	47.4%	6.3%	2.1%	42.5%	46.3%	10.0%	1.3%				
	3年GL	50.6%	43.2%	4.9%	1.2%								
(7) 様々な情報の中から、必要な情報を取り出すことができた。	1年	30.4%	56.6%	11.5%	1.5%	35.2%	49.7%	12.2%	2.8%	27.4%	59.0%	11.6%	2.0%
	2年GL	40.0%	53.7%	5.3%	1.1%	43.8%	46.3%	8.8%	1.3%				
	3年GL	53.1%	45.7%	1.2%	0.0%								
(8) 研究成果を分かりやすくまとめることができた。	1年	20.4%	60.8%	17.4%	1.5%	28.1%	54.3%	14.5%	3.1%	29.7%	52.5%	16.1%	1.7%
	2年GL	33.7%	51.6%	13.7%	1.1%	35.0%	53.8%	11.3%	0.0%				
	3年GL	43.2%	51.9%	4.9%	0.0%								
(9) 新しいことに挑戦したいと思うようになった。	1年	24.5%	50.4%	21.2%	3.8%	34.7%	39.8%	19.9%	5.7%	27.2%	42.5%	24.4%	5.9%
	2年GL	43.2%	41.1%	14.7%	1.1%	50.0%	32.5%	15.0%	2.5%				
	3年GL	56.8%	40.7%	2.5%	0.0%								
(10) 地域への理解が深まった。	1年	16.8%	46.9%	24.5%	11.8%	29.5%	41.8%	19.6%	9.1%	21.2%	41.8%	28.0%	9.0%
	2年GL	31.6%	35.8%	21.1%	11.6%	36.3%	30.0%	22.5%	11.3%				
	3年GL	45.7%	33.3%	14.8%	6.2%								
(11) 情報発信力が高まった。	1年	12.7%	54.0%	26.0%	7.4%	24.2%	47.6%	22.5%	5.7%	17.2%	50.6%	25.7%	6.5%
	2年GL	29.5%	52.6%	16.8%	1.1%	30.0%	40.0%	26.3%	3.8%				
	3年GL	34.6%	51.9%	13.6%	0.0%								

5. グローカル明教での学習が、あなたの高校生活に与えた影響についてどう思いますか。

項目	類型	生徒（2021）				生徒（2020）				生徒（2019）			
		強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない
(1) 進路選択や目標設定が明確になった。	1年	8.6%	36.9%	37.2%	17.4%	13.4%	34.6%	36.6%	15.4%	9.0%	26.6%	42.7%	21.8%
	2年GL	35.8%	34.7%	18.9%	10.5%	25.3%	44.3%	25.3%	5.1%				
	3年GL	44.4%	27.2%	25.9%	2.5%								
(2) 他の教科の学習に役立った。	1年	6.5%	37.5%	40.4%	15.6%	12.3%	30.6%	39.7%	17.4%	7.9%	30.8%	41.0%	20.3%
	2年GL	17.9%	32.6%	36.8%	12.6%	16.5%	31.6%	48.1%	3.8%				
	3年GL	24.7%	39.5%	27.2%	8.6%								

6. GL事業で行った以下の項目についての3年間を通した総合的な評価をしてください。

項目	類型	生徒（2021）			
		大変よかった	よかった	よくなかった	全くよくなかった
(1) 各種講演	3年GL	30.9%	58.0%	11.1%	0.0%
(2) 課題研究	3年GL	69.1%	30.9%	0.0%	0.0%
(3) 発表会（中間発表・シンポジウム・論文発表）	3年GL	54.3%	43.2%	1.2%	1.2%

自由記述より

<1年生>

- ・自分の将来やりたいことについて詳しく考えることができた。
- ・教科書では学べないし、やっていて楽しいことが学べるので知識も豊富になり充実した時間を過ごせました。
- ・愛媛について知る機会がたくさんあり、2年生でもGLをとりたいと思えるようになった。
- ・自分の地域をはじめ、現在そして未来のためにどうすれば良いかを学ぶことができ、とても楽しかったです。
- ・コロナによる制限もあり、十分な活動ができなかったのが残念でした。その中で、できることを見つけて、みんなで協力しながらできたので良かった。

- ・配信を使った講座は、内容がとても充実していて、フィールドワークにもひけを取らないようなすばらしい学びができた。
- ・様々な地域の課題、世界の課題について深く考えることができて、すごく良い経験となった。
- ・調べれば調べるほど、自分が何も知らないことを知って、より学びたい行動したいという気持ちが強くなりました。
- ・今までは地域の問題とグローバルな問題は別問題だと思っていたけど、地域について広く考えたときに世界的に考えないといけなかったり、世界の問題について考えたときに地域に与える影響について考えたりするので、結びつけて考えることは大切だと分かりました。
- ・一つの課題に対して知識を深めたり解決策を考えたりすることで、多面的に物事を考えられるようになった。
- ・自分の意見を伝え、相手の意見を尊重し、グループ内で協力し合うことの重要性を改めて実感しました。
- ・たくさんの分野の話聞いて良かった。課題研究では、最初あまり興味を持てなかったが、やる気のある人に囲まれて、自分も追いつこうと調べるうちにとても楽しくなりました。やる気のある人に自分も感化され、積極的に意見を言え有意義な時間となりました。
- ・校外活動をもっとしたかった。
- ・いろいろな人の考え方に触れることができて、思考が柔軟になったのではないかと感じた。
- ・様々な方からの講演を聞くことで、面白い発想や新たな知識を身に付けることができ、とても貴重な機会だったと思います。
- ・視野が広がる活動ばかりでとても勉強になった。地域のことについてこんなにも知ることができたのはGL事業があったからだと思う。
- ・GL事業のほとんどがオンラインの講義になってしまってとても残念だったが、自分の知らなかった地域の取組などを知ることができて有意義であった。
- ・GLの時間を普通の授業にするか無くせば良いのにと思ったけど楽しかったです。
- ・前半の外部講師を招いた講座と、後半の課題研究とのつながりが分かりにくかった。
- ・新しい知識を身に付けるのはすごく新鮮で楽しいことだと思った。
- ・様々な知識や地元の魅力について知れて、自分の地域により誇りが持てるようになりました。

<2年生>

- ・自分達が主体的に取り組む中で、課題ややるべきことが見付き、解決していくまでの過程がどれほど重要か分かった。
- ・大学の先生の授業を受けて、より専門的なことを学べて良かった。
- ・調べ学習ではなくもっと本格的な研究ができるのかとっていて少し残念だった。
- ・自分で一つのポスターを作ったりする経験がなかったので、自分なりの結論を形にできて良い経験となった。
- ・自分が研究したいことについて、深い学びができ、外国の方との交流を通して様々な分野でさらなる興味がわき、将来したいことが増えた。
- ・テーマについて深く考えることで、今まで知らなかったことも知ることができたとともに、ポスターセッションで様々な人の意見を聞くことができ、さらにテーマを深めることができて良かった。
- ・想像していたよりも専門的なことについて研究することができ、大学受験に対する良い刺激となった。
- ・専門の先生の意見を気軽に聞ける環境はなかなかないので、貴重な時間になりました。
- ・一つの課題ごとに多くの小さな課題を見いだすことができ、これからどうするべきかを深く考えることができて、とても良い勉強になりました。
- ・途中で、他の研究班と話し合いをしてみたかった。
- ・課題解決までのプロセスを学べたのはもちろん、実際に働く社会人と様々な話ができ、すごく自分にとってためになった。
- ・仲間と共同研究したことで、研究分野への理解や思考力の向上だけでなく、協調性やチームをまとめる力が養われたと思う。
- ・興味のある内容を深く学ぶことができたが、コロナの影響でフィールドワークの回数が減ったことが残念だった。また、活動の時間が短かったので、もっと増やしてほしい。
- ・活発なクラスメイトに感化されて、自分も積極的にまた独創的に活動することができました。
- ・プレゼンテーション力やコミュニケーション力など今後必要になる力が付いたと思います。
- ・楽しく研究できました。後輩たちにも良い経験となると思うので、これからもGL事業を継続してほしい。
- ・一つのことを決定するにも、いろいろな立場の人のことを考えて、解決しようとする力が身に付きました。
- ・テーマ設定が大切だと思いました。もう少し担当の先生にも協力してほしい。
- ・自分の将来の夢の実現性を高めるため、積極的に行動しました。この一年で大きな刺激を受け、やりたいことの見通しも定まった。

- ・グローバル化が進む中で、つい世界・外国のことばかりに目が行きがちだったけど。改めて地域を見つめる機会となりました。グローバルと聞くと規模が大きいので、つい自分達も様々な社会問題に関係する一人だということを忘れがちだったので、自分の生き方を見直すことができました。
- ・1年間を通して一つの課題に取り組めたので、知識が深まり、もっと学びたいと思え、将来の仕事の幅が広がった。
- ・今までまったく気付いていなかった地域の課題を知り、それについて研究しているうちに、地域貢献の方法はとてまたたくさんあり、私たちでも十分に組み入れるものだと分かりました。様々な方とコミュニケーションをとる機会があり、地域についてそして地域に携わる方について理解を深めることができた。地域活性化と一概に言うけれど、その中の考えは多岐にわたると実感した。

<3年生>

- ・人に分かりやすく伝えるために研究内容をまとめる力や、仮説・結果・考察をして文章にまとめる力を身に付けられたと思う。
- ・3年間の課題研究から地域に関する課題を発見し、対策を考案した上で発表したことで、多くの人に私たちの取組を拡散できた。
- ・自分の考えや研究を他の人たちに発信することができる機会がなかなかないので貴重だったと思います。論文作成は、字数が多いなどと考えていましたが、書き始めるととても楽しかったです。
- ・発表会を通して自分の研究への理解が深まるとともに友人に自分の研究を発信できて良かった。
- ・自分が研究した、みんなに知ってもらいたいことを自分の言葉で伝えることの大切さを改めて感じました。
- ・発表会ではいろいろな人の意見を見ることができて、視野が広げられたことが良かった。
- ・自分の興味のある事柄について、とことん調べ議論できたのがとても良かった。社会あるいは社会問題が、いろいろな要素が複雑に絡み合っていることが分かった。主体的に考え、自分の意見を相手に伝える努力ができた。発表や論文作成といった節目が複数あるのは大変だが、方向性を改めて考える機会になり、とても良かったと思う。
- ・講座で他国の高校生と意見交換ができた、担当の先生のお話を聞いたりし、いろいろな興味を持つきっかけになる貴重な体験だった。
- ・1、2年生で広く学んだことを3年次に一気にアウトプットするのは大変でしたが、様々なスキルが身に付いた上、自分の興味に迫る研究をすることができ、将来につながったと思います。
- ・地域の課題について、様々な角度から考えることができた。他教科の勉強に役立つことがあったので今後も生かしていきたい。
- ・指導して下さった外部の方や先生方に感謝しています。多くの人々に協力していただいて様々な視点から地域課題に取り組むことができたと思います。私自身の意識や考え方にも大きな影響があり、進路選択にもつながりました。素敵な機会をいただきありがとうございました。
- ・一つのことに研究していく中で、物事を多面的に見ることができるようになりました。
- ・すごく学びが多かったです。GLを選択して本当に良かった。
- ・勉強や部活の両立で大変だったけど、自分の将来には大変ためになりました。
- ・様々な方々から話を聞いて自分の視野が広がりました。他の学校ではできないようなことができて東高に進学して良かったです。
- ・普通の高校生活では経験できないような貴重な体験をすることができました。大変なことも多かったけど楽しかったです。
- ・本当にすばらしい機会を得ることができて良かったです。
- ・愛媛の医療についての問題点がよく分かるようになり、地域医療を良くしていかなければならないことを強く実感できました。先生方のおかげでコロナ禍でも自分の興味のあることを追い続けることができました。ありがとうございました。
- ・3年間で様々な解決されていない問題に触れて、自分たちが住む地域はたくさんの課題を持っていることを知りました。今後、社会に出てもこの現状を忘れずに解決できるような行動を小さなことから始めてみたいと思います。
- ・自分の進路決定に大きく関わったのでGLコースを選んで良かったと思う。しかし、コロナで思うように実験やフィールドワークができなかったのは残念でした。
- ・普通の授業では学べないようなことをたくさん学べて、これから社会に出たときのプレゼンの仕方や、学校外の人との関わり方などを学べて良かった。
- ・身近な地域に潜む課題について、自分から能動的に発見しようと地域の人にアポを取って取材したり、フィールドワークで地域の人々の営みを観察したりして交渉力、観察力、洞察力など社会で必要なスキルを醸成すると共に、隠れた地域の魅力について再発見することができた。

- ・大学の先生の御指導を受けるというのは、東高だからこそ体験できたことだと思う。先生に指摘していただくことで自分の論にどこが不足しているのかが分かり、論理的思考力が高まったと思う。
- ・知的好奇心を満たし、「答えのない問い」を探せた楽しい時間だった。来年からも同じような事業をしていくべきだと思う。
- ・GL事業では様々なことを経験させていただきました。特に、中国に行ったフィールドワークは印象に残り、それが進路選択にもつながりました。
- ・GLコースで課題研究ができて、とてもためになったと思う。もう少し選べるテーマの自由度が高ければより良いと思う。
- ・色々な方のお話をたくさん聞くことができ、視野が広がったのでGLコースを選んで良かったと思う。発表の資料づくりなど大変なことも多くあったが、自分が興味のある分野をとことん研究することができて非常に充実した時間を過ごすことができた。
- ・3年間のGLを通して、GLをやっている良かったなと心から感じました。世界の問題を知ることによって今自分が住んでいる国の有り難みや新たな課題、そして自分の将来の具体的な目標が決まりました。

(2) 保護者

1 今の時点で、次のことについて、お子様は、どの程度興味がありますか。

項目	類型	保護者 (2021)				保護者 (2020)				保護者 (2019)			
		十分にある	ある	あまりない	ない	十分にある	ある	あまりない	ない	十分にある	ある	あまりない	ない
(1) 本校や愛媛の歴史	1年	7.5%	69.0%	21.0%	2.5%	2.9%	64.6%	29.6%	2.9%	6.8%	61.4%	29.9%	1.9%
	2年GL	3.8%	67.9%	24.4%	3.8%	6.8%	69.9%	23.3%	0.0%				
	GL以外	5.8%	59.7%	28.3%	6.2%	3.1%	60.9%	33.9%	2.1%				
	3年GL	5.9%	61.8%	30.9%	1.5%								
	GL以外	5.2%	58.7%	33.1%	2.9%								
(2) 愛媛の企業のグローバル化の推進	1年	8.5%	46.6%	40.2%	4.6%	7.1%	48.3%	39.2%	5.4%	6.1%	54.7%	36.7%	2.6%
	2年GL	5.1%	51.3%	39.7%	3.8%	5.5%	71.2%	23.3%	0.0%				
	GL以外	3.1%	46.0%	42.9%	8.0%	3.1%	45.3%	49.5%	2.1%				
	3年GL	14.7%	57.4%	27.9%	0.0%								
	GL以外	4.7%	39.0%	53.5%	2.9%								
(3) 持続可能な社会づくり (SDGs)	1年	23.6%	56.1%	19.3%	1.1%	16.7%	56.3%	23.8%	3.3%	15.8%	52.1%	29.6%	2.6%
	2年GL	26.9%	60.3%	11.5%	1.3%	21.9%	61.6%	16.4%	0.0%				
	GL以外	12.8%	63.3%	19.5%	4.4%	7.3%	58.3%	31.8%	2.6%				
	3年GL	38.2%	52.9%	8.8%	0.0%								
	GL以外	9.9%	62.2%	26.7%	1.2%								
(4) グローバル時代における共生の実現	1年	19.9%	58.0%	19.9%	2.1%	18.3%	60.0%	20.0%	1.7%	18.0%	57.9%	21.5%	2.6%
	2年GL	21.5%	60.8%	17.7%	0.0%	27.4%	64.4%	8.2%	0.0%				
	GL以外	11.1%	61.1%	23.5%	4.4%	13.0%	55.2%	28.6%	3.1%				
	3年GL	35.3%	57.4%	7.4%	0.0%								
	GL以外	11.6%	57.0%	30.2%	1.2%								
(5) 地域の魅力と課題	1年	12.1%	54.6%	30.4%	2.9%	7.1%	57.9%	31.7%	3.3%	11.9%	51.4%	34.7%	1.9%
	2年GL	7.7%	62.8%	29.5%	0.0%	17.8%	63.0%	17.8%	1.4%				
	GL以外	8.4%	50.4%	35.0%	6.2%	5.2%	56.3%	36.5%	2.1%				
	3年GL	35.3%	48.5%	16.2%	0.0%								
	GL以外	5.8%	48.8%	43.0%	2.3%								
(6) 地域の活性化	1年	10.7%	52.9%	32.9%	3.6%	5.4%	57.9%	33.8%	2.9%	11.6%	51.6%	33.9%	2.9%
	2年GL	14.1%	57.7%	28.2%	0.0%	16.4%	67.1%	16.4%	0.0%				
	GL以外	8.4%	53.5%	32.7%	5.3%	4.7%	51.6%	41.7%	2.1%				
	3年GL	26.5%	52.9%	20.6%	0.0%								
	GL以外	5.8%	51.2%	41.3%	1.7%								

2 今の時点で、お子様は、次の力がどの程度あると思いますか。

項目	類型	保護者 (2021)				保護者 (2020)				保護者 (2019)			
		十分にある	ある	あまりない	ない	十分にある	ある	あまりない	ない	十分にある	ある	あまりない	ない
(1) 松山東高の魅力を説明する力	1年	15.7%	58.0%	24.9%	1.4%	11.6%	53.1%	31.1%	4.1%	9.3%	57.9%	31.2%	1.6%
	2年GL	14.1%	55.1%	29.5%	1.3%	26.0%	64.4%	9.6%	0.0%				
	GL以外	12.8%	55.8%	28.3%	3.1%	13.0%	56.8%	28.1%	2.1%				
	3年GL	23.5%	66.2%	10.3%	0.0%								
	GL以外	11.0%	61.6%	24.4%	2.9%								
(2) 愛媛県(地域)の魅力を発信する力	1年	6.4%	41.6%	47.7%	4.3%	5.0%	42.7%	45.6%	6.6%	5.1%	43.1%	46.3%	5.5%
	2年GL	5.1%	51.3%	39.7%	3.8%	8.2%	60.3%	31.5%	0.0%				
	GL以外	4.4%	44.2%	46.0%	5.3%	4.7%	48.7%	42.9%	3.7%				
	3年GL	13.2%	55.9%	30.9%	0.0%								
	GL以外	2.3%	50.0%	44.2%	3.5%								
(3) 地域の課題についての理解	1年	5.3%	39.5%	50.2%	5.0%	5.0%	32.8%	56.0%	6.2%	4.5%	42.8%	48.6%	4.2%
	2年GL	5.1%	48.7%	41.0%	5.1%	9.6%	49.3%	39.7%	1.4%				
	GL以外	5.8%	38.5%	47.8%	8.0%	4.7%	39.3%	51.3%	4.7%				
	3年GL	10.3%	61.8%	27.9%	0.0%								
	GL以外	5.2%	41.3%	50.0%	3.5%								
(4) グローバルな課題についての理解	1年	7.5%	41.4%	45.7%	5.4%	6.6%	46.1%	40.2%	7.1%	6.1%	46.9%	40.8%	6.1%
	2年GL	9.0%	53.8%	34.6%	2.6%	12.3%	58.9%	28.8%	0.0%				
	GL以外	5.8%	43.8%	45.1%	5.3%	5.2%	43.2%	46.4%	5.2%				
	3年GL	13.2%	63.2%	23.5%	0.0%								
	GL以外	5.2%	47.1%	43.6%	4.1%								

(5)	持続可能な社会の実現に必要な教養	1年	9.3%	45.9%	43.1%	1.8%	6.7%	40.0%	47.1%	6.3%	4.8%	38.6%	49.8%	6.8%
		2年GL	11.5%	53.8%	33.3%	1.3%	11.0%	43.8%	45.2%	0.0%				
		GL以外	7.5%	46.9%	39.8%	5.8%	5.7%	43.8%	45.3%	5.2%				
		3年GL	16.2%	58.8%	23.5%	1.5%								
		GL以外	7.0%	43.6%	44.8%	4.7%								
(6)	リーダーシップ・調整力	1年	12.5%	38.6%	43.9%	5.0%	9.5%	40.7%	42.7%	7.1%	9.6%	44.4%	37.0%	9.0%
		2年GL	16.7%	47.4%	32.1%	3.8%	13.7%	56.2%	27.4%	2.7%				
		GL以外	6.6%	47.3%	38.5%	7.5%	10.4%	38.5%	40.1%	10.9%				
		3年GL	14.7%	63.2%	19.1%	2.9%								
		GL以外	7.0%	46.5%	41.9%	4.7%								
(7)	世界の人々とのコミュニケーション能力	1年	7.8%	33.1%	49.8%	9.3%	7.5%	30.3%	46.5%	15.8%	7.7%	36.3%	41.5%	14.5%
		2年GL	9.0%	38.5%	43.6%	9.0%	13.7%	46.6%	35.6%	4.1%				
		GL以外	5.8%	34.5%	46.0%	13.7%	2.6%	41.7%	45.3%	10.4%				
		3年GL	10.3%	57.4%	29.4%	2.9%								
		GL以外	5.8%	36.0%	51.2%	7.0%								
(8)	英語でのディスカッション力・ディベート力	1年	7.1%	30.6%	44.5%	17.8%	5.0%	22.4%	47.7%	24.9%	4.8%	25.7%	47.6%	21.9%
		2年GL	9.0%	29.5%	39.7%	21.8%	13.7%	27.4%	47.9%	11.0%				
		GL以外	4.4%	30.1%	46.0%	19.5%	5.2%	23.4%	52.1%	19.3%				
		3年GL	8.8%	48.5%	36.8%	5.9%								
		GL以外	4.7%	26.7%	51.7%	16.9%								
(9)	異文化理解力	1年	11.0%	51.2%	33.8%	3.9%	12.4%	50.6%	30.7%	6.2%	11.9%	54.7%	28.0%	5.5%
		2年GL	14.1%	51.3%	32.1%	2.6%	17.8%	60.3%	20.5%	1.4%				
		GL以外	8.8%	49.6%	35.4%	6.2%	7.8%	56.8%	31.3%	4.2%				
		3年GL	19.1%	58.8%	22.1%	0.0%								
		GL以外	10.5%	55.8%	30.8%	2.9%								
(10)	批判的思考力	1年	12.1%	45.7%	37.1%	5.0%	12.1%	43.8%	35.4%	8.8%	13.5%	43.4%	37.3%	5.8%
		2年GL	6.4%	55.1%	34.6%	3.8%	17.8%	49.3%	27.4%	5.5%				
		GL以外	8.0%	46.5%	38.9%	6.6%	8.9%	47.9%	38.0%	5.2%				
		3年GL	17.6%	50.0%	27.9%	4.4%								
		GL以外	10.5%	51.7%	34.3%	3.5%								

3 お子様の現在や将来に関する次の問いに教えてください。

項目	類型	保護者 (2021)				保護者 (2020)				保護者 (2019)				
		強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	
(1)	ボランティアとして、地域の社会貢献活動に参加したいと考えている。	1年	9.3%	39.3%	46.4%	5.0%	8.8%	38.5%	47.7%	5.0%	8.4%	40.5%	46.9%	4.2%
		2年GL	10.4%	46.8%	35.1%	7.8%	16.4%	45.2%	37.0%	1.4%				
		GL以外	5.4%	30.9%	53.4%	10.3%	6.3%	30.7%	55.6%	7.4%				
		3年GL	13.2%	48.5%	33.8%	4.4%								
		GL以外	7.0%	29.7%	55.2%	8.1%								
(2)	地域の魅力を、国内や国外に発信したいと考えている。	1年	4.3%	35.0%	53.9%	6.8%	6.7%	36.4%	50.6%	6.3%	7.1%	31.2%	57.6%	4.2%
		2年GL	11.5%	29.5%	55.1%	3.8%	11.0%	53.4%	34.2%	1.4%				
		GL以外	4.5%	29.6%	54.3%	11.7%	4.2%	23.3%	64.6%	7.9%				
		3年GL	8.8%	47.1%	41.2%	2.9%								
		GL以外	5.8%	31.4%	55.2%	7.6%								
(3)	留学や海外の大学への進学をしたいと考えている。	1年	11.7%	22.1%	45.9%	20.3%	15.9%	22.2%	40.2%	21.8%	11.3%	24.1%	43.4%	21.2%
		2年GL	20.8%	22.1%	37.7%	19.5%	16.4%	38.4%	37.0%	8.2%				
		GL以外	10.8%	25.6%	38.1%	25.6%	7.4%	16.9%	47.1%	28.6%				
		3年GL	23.5%	25.0%	38.2%	13.2%								
		GL以外	9.9%	25.0%	43.6%	21.5%								
(4)	国や地域の担い手として、政策決定に関わりたいと考えている。	1年	5.0%	22.1%	60.4%	12.5%	2.9%	18.4%	56.5%	22.2%	5.1%	19.3%	54.3%	21.2%
		2年GL	7.7%	24.4%	51.3%	16.7%	5.5%	20.5%	65.8%	8.2%				
		GL以外	6.7%	20.6%	51.6%	21.1%	1.6%	15.3%	57.7%	25.4%				
		3年GL	11.8%	26.5%	52.9%	8.8%								
		GL以外	1.7%	11.6%	62.2%	24.4%								
(5)	地域と世界に関連する課題に関わりたいと考えている。	1年	9.3%	36.7%	46.3%	7.8%	7.1%	34.6%	46.3%	12.1%	7.4%	31.8%	49.5%	11.3%
		2年GL	13.0%	39.0%	39.0%	9.1%	8.2%	52.1%	37.0%	2.7%				
		GL以外	5.4%	31.4%	48.4%	14.8%	2.6%	27.5%	54.0%	15.9%				
		3年GL	23.5%	42.6%	27.9%	5.9%								
		GL以外	4.7%	27.9%	52.9%	14.5%								
(6)	地元で就職または起業してもらいたいと考えている。	1年	8.6%	28.9%	50.0%	12.5%	8.8%	31.4%	43.5%	16.3%	7.7%	28.9%	46.0%	17.4%
		2年GL	12.8%	26.9%	47.4%	12.8%	19.2%	19.2%	52.1%	9.6%				
		GL以外	7.6%	34.1%	41.3%	17.0%	9.5%	28.6%	48.1%	13.8%				
		3年GL	11.8%	39.7%	35.3%	13.2%								
		GL以外	9.9%	32.0%	39.0%	19.2%								
(7)	どこに暮らしていても地元のために貢献してもらいたいと考えている。	1年	12.8%	52.3%	31.0%	3.9%	11.7%	58.3%	25.4%	4.6%	14.5%	50.5%	29.9%	5.1%
		2年GL	19.2%	47.4%	26.9%	6.4%	15.1%	58.9%	23.3%	2.7%				
		GL以外	9.4%	48.4%	34.1%	8.1%	13.8%	45.5%	34.4%	6.3%				
		3年GL	25.0%	45.6%	23.5%	5.9%								
		GL以外	9.3%	51.2%	33.7%	5.8%								
(8)	お子様の英語力を高めたいと思う。	1年	56.2%	38.8%	4.3%	0.7%	57.1%	40.4%	2.1%	0.4%	59.2%	37.0%	3.2%	0.6%
		2年GL	56.4%	39.7%	3.8%	0.0%	57.5%	39.7%	2.7%	0.0%				
		GL以外	42.6%	52.9%	4.5%	0.0%	46.6%	46.0%	6.9%	0.5%				
		3年GL	55.9%	38.2%	5.9%	0.0%								
		GL以外	48.3%	44.8%	6.4%	0.6%								
(9)	お子様には、将来、英語力は必要だと思う。	1年	61.2%	36.3%	2.5%	0.0%	62.9%	36.3%	0.4%	0.4%	66.2%	31.5%	2.3%	0.0%
		2年GL	62.8%	34.6%	2.6%	0.0%	71.2%	27.4%	1.4%	0.0%				
		GL以外	51.1%	45.3%	3.6%	0.0%	52.9%	41.3%	5.3%	0.5%				
		3年GL	69.1%	27.9%	2.9%	0.0%								
		GL以外	61.6%	33.1%	5.2%	0.0%								

4 グローカル明教での学習が、お子様の高校生活に与えた影響について、次の問いにお答えください。

項目	類型	保護者 (2021)				保護者 (2020)				保護者 (2019)			
		強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない
(1) 進路選択や目標設定が明確になった。	1年	12.1%	49.3%	33.8%	4.8%	12.5%	41.5%	40.9%	5.1%	11.6%	41.0%	41.6%	5.8%
	2年GL	25.3%	50.7%	24.0%	0.0%	26.4%	52.8%	19.4%	1.4%				
	3年GL	44.8%	47.8%	7.5%	0.0%								
(2) 他の教科の学習に役立った。	1年	11.7%	56.3%	28.6%	3.4%	10.8%	55.7%	29.0%	4.5%	7.7%	51.3%	36.5%	4.5%
	2年GL	18.9%	50.0%	29.7%	1.4%	16.7%	61.1%	22.2%	0.0%				
	3年GL	22.4%	53.7%	22.4%	1.5%								

5 GL事業で行った以下の項目についての3年間を通した総合的な評価をしてください。

項目	類型	保護者 (2021)			
		大変よかった	よかった	よくなかった	全くよくなかった
(1) 各種講演	3年GL	37.3%	59.7%	3.0%	0.0%
(2) 課題研究	3年GL	58.2%	41.8%	0.0%	0.0%
(3) 発表会 (中間発表・シンポジウム・論文発表)	3年GL	47.8%	52.2%	0.0%	0.0%

自由記述より

- ・課題研究によって目指すべき進路が明確になったので大いに役立ったと思います。今後もGL事業を継続して行っていただきたい。
- ・大学の教授や学生さんと課題研究を進められたのは良い体験になったようです。また、発表会で他の生徒さんの課題研究の着眼点や意見はとてもおもしろかった。
- ・様々な体験・活動をさせていただき、成長したと思います。ありがとうございました。
- ・充実したGL事業、貴重な経験を積むことができ感謝しています。限られた時間の中でGLと通常授業の両立に課題が残ります。
- ・3年間通して1つの課題について様々な角度から探究できて良かったと思います。また、研究を通して校内外の方々との交流が広がったことも良かったです。
- ・3年間のGLでの学習を通して、地域に興味を持ち地域のために何とかしたい意識が変わっていく様子がよく分かりました。将来やりたいことも明確になったようで、大変充実した貴重な学びであったように思います。3年間、とにかく楽しんで学習しているのも印象的でした。
- ・地球規模の問題について、グローバルとローカルの関わりが学べて、大学で学びたいこと、将来の夢などを見つけることになり、とても意義深い学びでした。ありがとうございました。
- ・普段の授業では経験できないことができ、大変役立ったと思います。
- ・高大連携授業で深い学びを得ることができました。SDGsについて興味を持ち見識を深めることができました。
- ・物事の考え方・捉え方など、今起きている現状などに注目するようになりました。とても成長した姿を見ることができました。親として大変嬉しく思います。GL事業は将来の夢に向かってとても重要なことを学ぶことができました。
- ・世界で現実に起きている問題・課題について学び、その解決法を考えることができた。非常に有意義だったと思う。
- ・ひとつのテーマについて調べるだけでなく、ポスターにまとめ人前で発表する力がついてすばらしいと思いました。このようなプレゼン能力は、これからの若い人にとっては必須なのかも知れません。それぞれ多岐にわたり、仲間の発表を見るだけでも、良い刺激になり感じました。
- ・中学生の頃から興味・関心を持っていた分野についてGL事業を通してより知識と理解を深めることができ、大変よい学びができたと思うし、今後社会に出てからも非常に役立つ学習ができたと思います。できれば、今後も続けていけると良いと思います。課題を見つけ、自分達が主で自分達が取り組んでいく大事な過程が身につけていく大事な経験になると思うので、できれば続けてもらいたいと思います。
- ・今まで知らなかったことを学べ、視野が広がったと思います。他の人の意見を聞いて様々な考えを知ることができて良かったと思います。
- ・自分が研究してみたいことは残念ながら課題研究として出来ませんでした。仲間とともに意見を出し合い悩みながらも最終発表まで仕上げる姿を見て、本人にとっても良い経験になったと思います。しかし、四国という孤島から全国へ発信できる経済の力や様々な課題の実現の限界も少なからず感じ、圏外での学習意欲が湧き、地元愛は減少したように思います。
- ・地元企業や地域活動の話聞くだけでなく、質疑応答の場で理解を深めることができ、有意義な事業だと子どもは感じているようでした。自分が興味のあるテーマで研究活動ができることも良いと思います。来年度以降もGL事業が続くことも望んでいます。
- ・いろいろな講師の方から話を聞くことができ、今まで知らなかったことを知ることができ、考える機会を与えていただき良かったと思います。

- ・他教科では触れることのない地域への理解が深まり、地域社会の一員としての自覚と愛着も生まれたと思います。
- ・様々な課題について調べ、考え、解決方法を思案することは社会のためにも、今後の自分の目標を見つけるためにも、大切な機会だと思います。
- ・1年のGL明教の時間は有意義な時間だったようで良い経験になったと思います。2年のGL明教の講座は、テーマに偏りがあるような気がして残念でした。
- ・他校と比べて東高たる魅力のある事業なので、学生にとって財産となる学びの場としていただきたい。
- ・自発的に考え行動し、教科の学習だけでは得られない貴重な体験をすることができたようです。日々嬉々として取り組んでいく姿が印象に残っています。
- ・未来につながる生きる講義を受けられる東高生は幸せ者だと思います。

2 アンケート分析

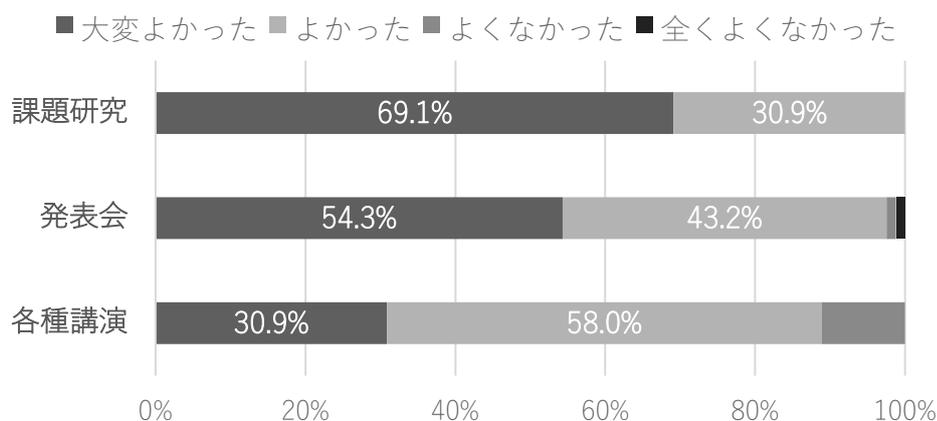
本年度の活動の特徴は、昨年に引き続いて、現地でのフィールドワークや対面の交流活動が制限された一方で、オンラインでの活動が進んだことである。県内・海外企業による講演や海外交流校との交流事業、各種コンテストへの応募がオンラインで行われた。オンラインでの活動の増加により、生徒は新しい情報技術を習得し、発信手段の多様化を実感することができた。また、距離・コストなどの物理的なハードルが低下したことで、課題研究活動等で外部の専門家に話を聞く機会も設けることが容易になった。ただし、対面での活動の減少により、生徒がより質問を投げかけやすい環境で相互対話を行い、問題意識を深めたり、みずから得た知見を基に活動する機会が減ったため、生徒が経験を積み自信を獲得しにくい例もみられた。全体としてオンラインによる活動の短所・限界を確認しつつ、新たな手法による展開の可能性が認識された一年であった。

アンケートの結果からは、本年度の事業成果として、1. GL事業に対する高い評価、2. GL事業を通じて生徒が獲得した力、3. 他の教科の学習や進路選択に対する積極的効果、4. 高校教員による課題研究の定着と効果、5. GL事業の長期的継続の効果と必要性が確認できる。

(1) GL事業全体に対する高評価

今年度のアンケートでは、GL事業を3年間継続して経験した現3年生に、同事業の総合的評価を問う設問を設け(図1)、3年間の事業評価を行う指標とした。それによると、3年生の9割近くが、各種講演、課題研究、発表会のいずれについても、「大変良かった」「よかった」と回答している。とりわけ、課題研究については、全員が肯定的な評価を行い、69.1%が「大変良かった」と回答している。また、発表会(中間発表、シンポジウム、論文発表)と各種講演についても、それぞれ、97.5%、88.9%が肯定的回答を行っており(「強くそう思う」と「そう思う」の回答を合計した割合)、GL事業を通じた学びを積極的に評価している。

図1. GL事業の総合的な評価



(2) GL事業を通じて生徒が獲得した力

① GL事業全体：グローバル・リーダーとして求められる資質

本事業は、地域マネジメント力とグローバルな視点を備えたグローバル・リーダーの育成を目指している。そのために必要な資質・能力として想定している、**地域やグローバルな課題についての知識や問題の発見、コミュニケーション能力及び異文化理解力、批判的思考力**について、どの程度身に付いたかと思うかを3年生に聞いたところ、11項目中10項目において、昨年度を越える評価が得られた(図2)。

現3年生が2年生だった時のデータと比較すると、変化が大きい順に、「(5)持続可能な社会の実現に必要な教養(+17.6ポイント)」、「(7)世界の人々とのコミュニケーション能力(+12.4ポイント)」、「(2)愛媛県

（地域）の魅力発信する力（+11.9ポイント）」、「(3)地域の課題についての理解（+10.7ポイント）」となっている。地域の課題の理解や魅力を発信する力が伸びた背景には、松山市との連携講座の開設や、愛媛県や県下の企業・団体との協力体制の構築があると考えられる（松山市の講座、オンラインでの企業見学）。

加えて、昨年度の調査では、語学力や異文化コミュニケーションの自己評価の低さが課題となっていたが、今年度の調査から、「(7)世界の人々とのコミュニケーション能力」（+12.4ポイント）と「(8)英語でのディスカッション力・ディベート力」（+7.9ポイント）の上昇がみられ、異なる背景をもつ人々とのコミュニケーションを行う際の具体的スキルの習得に手ごたえを感じることができるようになった姿がうかがえる。

本年度も、感染症拡大の影響で、国内外でのフィールドワークや対面でのインタビューなどが制限されたが、ICTを活用した講演や調査手法（インタビュー・アンケート）の普及により、生徒はより多様な意見に接することが可能になった。またオンラインで開催されるコンテストの増加により、応募するための動画撮影などを通じて、みずからの考えをわかりやすく伝える力を養う機会が増えた。このような経験を通して、学習活動が制限される時期においても、コミュニケーション能力や発信力を磨くことが可能になったと言える。

図2. 生徒自身の力



他方で、オンライン事業の課題も挙げられる。「意見の発信」という意味でのコミュニケーション力は向上したが、「相互対話」の能力を養う機会は減ったと言えるかもしれない。画面越しの交流・会議では、質問をしにくいという問題点が一般的に指摘されているように、現地でのフィールドワークの減少により、問題の課題や話し手の意図をより理解した上で、自身の意見を提示する機会は減った。今後はICT化が進展するなかで、オンライン・オフラインの活動をどのように組み合わせ、生徒のグローバル・リーダーとしての資質向上を図っていくかが課題である。

② 課題研究を通じた主体的に行動する力の獲得と意欲の向上

課題研究のねらいは、大きく分けると①課題の発見、②協働して計画的にプロジェクトを実行する力、③情報の収集・分析・発信力の獲得である。加えて、これらの力の獲得以外にも、自信や主体的にかかわろうとする意欲を身に付けることを重要な柱に位置づけている。

GL活動を3年間続けてきた3年生のアンケート結果からは（図3）、①②③にかかわる力11項目中10項目で85%以上の達成度がみられた（「強くそう思う」と「そう思う」の回答を合計した割合）。①課題の発見では、(1)テーマへの関心と(2)現状分析に高い評価がみられた。②協働してすすめる力については、(5)他人の意見を取り入れながら、(6)自分の意見をわかりやすくまとめる力が身に付いた、と答える生徒が90%を超えている。③情報の収集・発信力では、(7)様々な情報から必要なものを選び取り、(8)研究成果をわかりやすくまとめる力が身についたと95%以上の生徒が答えている。

図3. 課題研究を通じた経験と変化



また、意欲の点でも、(4)独自のものを創り出そうと工夫して取り組んだ（昨年度比+18.8ポイント）(9)新しいことに挑戦したいと思うようになった（+15.0ポイント）の項目で昨年度と比較して上昇がみられる。GL事業活動の継続的実施が、生徒が

図4. グローバル明教が生徒の高校生活に与えた影響



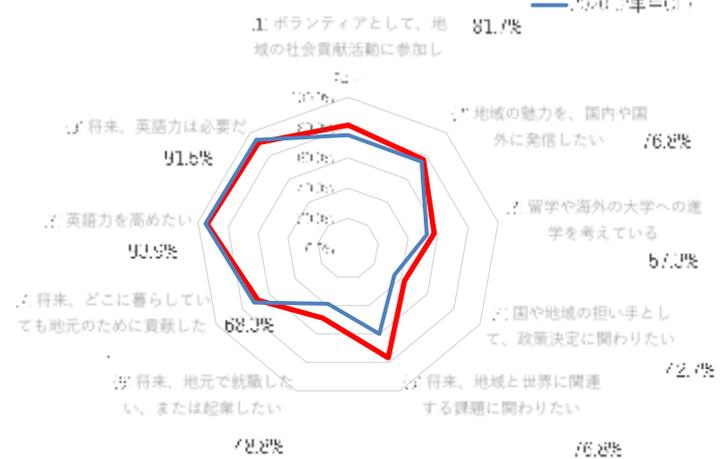
社会の課題解決に主体的に乗り出す意欲とそのためのスキルを身につける機会となったことが確認できる。

③ 進路選択や目標設定の明確化と、地域と関わる意欲の向上

GL事業は生徒の高校での学びや今後の進路にも変化をもたらしている。進路選択や目標設定が明確になったかどうかを問う設問に対して、肯定的な返答が71.6%を占め、2021年度の69.6%から微増が確認できる(図4)。注目されるのは「強く思う」の割合が増えていることで、2021年度の25.4%に対し、今年度は44.4%と、GL事業に参加した3年生のうち、昨年度の2倍近くが進路選択や今後の目標設定の明確化にGL事業が良い影響を与えたと考えている点である。

そうした肯定的評価は、生徒の現在や将来の希望を問う項目の回答結果にも反映されており、(5)将来地域と世界に関連する課題の解決に関わりたい(昨年度比+16.8ポイント)、(6)将来地元で就職・起業したい(+10.0ポイント)など、地域への関与に積極的な回答が増えている(図5)。また、(1)地域の社会貢献活動に参加したいとの回答(+6.7ポイント)にも上昇がみられており、こうした項目の回答で見られる地域の課題解決への意欲の向上はGL事業の目標に沿うものである。卒業後、県外に進学する生徒が多い本校において、GL事業における経験は、生徒が地域との新たな関係性を構築する契機として期待される。

図5. 生徒の現在・将来の希望



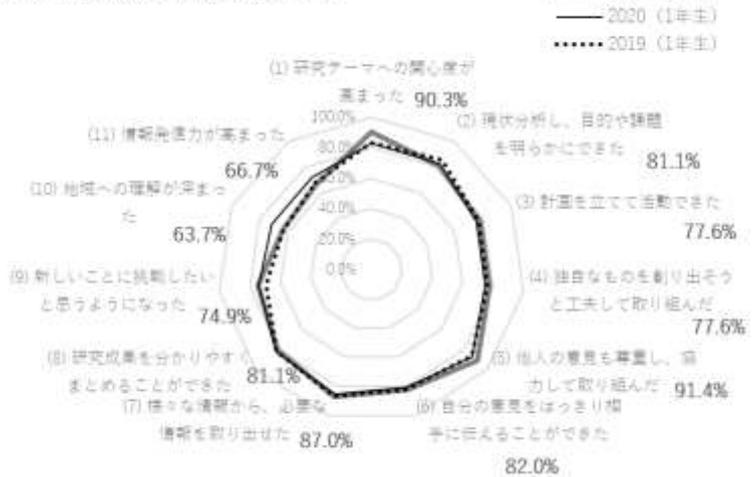
さらに、他教科の学習に役立ったかどうかについても、昨年度48.1%に対して、本年度は64.2%が肯定的に評価しており、他教科への積極的効果がうかがえる。

(3) 高校教員による課題研究の定着と効果

本事業の新たな挑戦として、高校教員による課題研究の指導がある。これまでの課題研究は外部講師に指導をお願いしていたが、本事業終了後の持続的な指導体制の確立と教員のスキルアップのため、昨年度(2020年)から高校教員が1年生の課題研究を指導している。ここでは、高校教員による指導体制について、2019年、2020年、2021年の1年生に行ったアンケート調査を比較し、考察を行った。

「課題研究を通じた経験と変化」に関するアンケート結果から、どの年においても、課題研究で目指している力と、仲間と協働して主体的に関わる意欲に関わる各項目がある程度バランスよく獲得されていることがわかる(図6)。

図6. 課題研究を通じた経験と変化

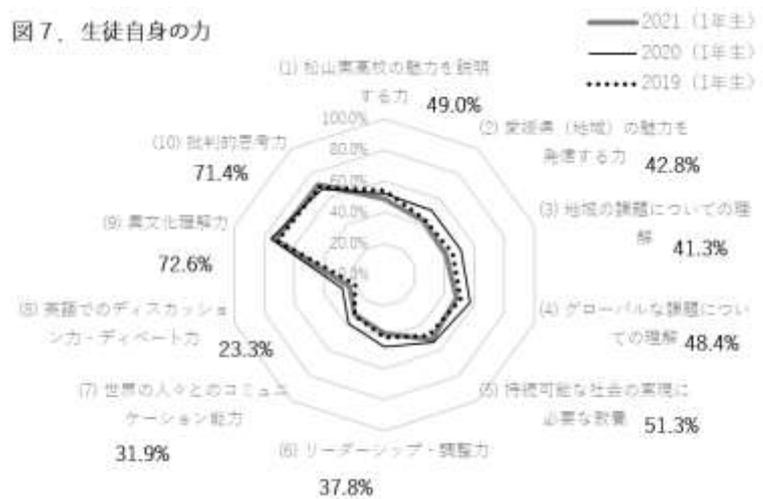


2021年についても、課題研究を通じた経験について、2020年度、2019年度とおおむね同等の達成感を生徒が有している。2021年度の1年生の回答の特徴としては、(1)テーマへの関心、(5)他人の意見を取り入れる、(7)様々な情報から必要なものを選び取る力の達成度が高く、教員の指導が定着しつつあり、その効果が生徒の変化に表れている。

1年生の回答結果から課題として浮かび上がってきたのは、生徒の獲得した技能である。2020年、2019年度に比べ、今年度の1年生は、生徒が獲得した力についての評価がやや低く、なかでも実践に移す力、地域課題への関与といった項目でそれが目立つ。例えば、(6)リーダーシップ(昨年比-7.9ポイント)、(7)コミュニケーション能力(-6.5ポイント)については、昨年度の1年生より低い評価にとどまっている(図7)。さらに、(2)地域の魅力の発信力(昨年比-8.3ポイント)、(3)地域の課題への理解(-10.1ポイント)、(4)グローバルな課題への理解(-8.7ポイント)など、GL事業が目指している知識やスキルの獲得は、昨年に比べて低下している。こうした低い評価の背景には、上記(2. ①GL事業全体で身に付いた力)で言及

したような対面での交流事業や現地のフィールドワークの減少が関係していると考えられる。オンライン活動では生徒の取り組む姿勢が受動的に終始することもあり、問題意識を深め、さらなる知識を獲得するような活動へとつなげることの困難さが示された。直接地域に関わったり、地域に研究成果を還元したりする機会が減ったことから、自信をつけることができず、2021年度の1年生では身に付いた力への評価が低くなったとみることもできよう。今後は、感染症対策を行いつつ、生徒が双方向のコミュニケーションを行うことができるような環境整備を検討していく必要がある。

図7. 生徒自身の力



(4) GL事業の長期的継続の効果と必要性

最後に、GL事業の継続的实施により生徒の技能や意欲の向上がもたらされていることを述べておきたい。前項で1年生の現状認識を踏まえて今年度の課題について述べたが、1年次のアンケート結果の分布図は、過去3年間を比較検討すると、多少の差こそあれ、おおむね類似したパターンを示していることが分かる。このことは、生徒の成長を促すには、1年生の時点で活動を終了せず、2年、3年とGL事業活動の経験を積み重ねていくことが重要であることを示している。

というのも、GL事業1年目を終了した時点での1年生の回答結果(図8)と、2年次以降、本事業を受講しなかった2、3年生のパターン(図9の点線で示したデータ)は非常によく似ている。具体的には、(2)地域の魅力を発信する力や、(3)地域課題、及び(4)グローバルな課題についての理解、(6)リーダーシップについての項目で評価が低めである点が共通している。GL事業を2年目、3年目と継続して体験した2、3年生では、これらの項目で肯定的評価が上昇し、グラフが楕円から徐々に、(2)地域の魅力を発信する力、(3)地域課題及び(4)グローバルな課題についての理解、(6)リーダーシップなどの項目で伸びが示され、正多角形に近い形へとゆるやかにではあるが変化している(図9)。このことが示しているのは、途切れのない継続的な活動が、GL活動の事業目的を達成するために不可欠であり、短期的成果(例えば1年)を求めることは事業目的にそぐわないという点である。

このように、今年度のGL事業に課題はあるが、受講生と非受講生を比較すると、GL事業に参加した生徒の方がおしなべて自分自身に身に付いている力の評価が高い傾向にある。GL事業の目的達成には今後いかにこのような活動を継続していくかが鍵となる。また、非GL生は1年生の時と同じパターンにとどまる傾向にあることから、非GL生に対して、今後も事業の一部に参加できるような対策を行うことは、GL事業の拡充を図る上で重要と考えられる。

II 令和3年度のGL事業課の自己評価

1 グローカル・リーダーを育成するための持続可能な課題研究プログラム開発【グローバル明教】

(1) グローカル明教I

実施内容： 各種講演(1年生)、ワークショップ、市内フィールドワーク、県内企業フィールドワーク(代替講演)、海外フィールドワーク(代替交流)

自己評価： 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため本年度も、年度当初の計画からは大幅に変更して実施した。講演会は、昨年度と同様に各教室でのオンライン受講とした。通信環境のためプロジェクターにより投影し、クラスごとに一斉に受講する方法とした。教員・生徒ともにオンラインによる講演に慣れてきたため、昨年度よりもスムーズに実施することができた。また、講演資料をいつでも見られるように、Teamsにあらかじめアップしたことにより、事前に講演内容について予習したり、あとでゆっくりと見直したりする生徒も見られ、オンラインでの有効な活用方法を見出すことができた。さらに、講演会の内容も、主権者意識の向上から始まり、今グローバルが求められている背景やSDGsの考え方を理論的に学び、その後実際に地域活性化に取り組んでいる市役所職員や地域おこし協力隊員、大学教員それぞれの取組を学ぶカリキュラムとなっており、地域と世界の持続的な発展のために何が必要であるのかを考えさせる時間とすることがで

きた。

昨年度中止した、坂の上の雲ミュージアム及び公益財団法人常盤同郷会の協力による秋山兄弟生誕地等の史跡でのフィールドワークは、実施方法を変更し感染対策を十分行い実施した。フィールドワークの生徒の自己評価は高く、目的としていた愛媛、本校の歴史、伝統、魅力についての理解につながる取組であり、「百聞は一見に如かず」を改めて実感した。

松山市の協力を得て実施している「笑顔のまつやま まちかど講座」は、感染防止対策も兼ねて本年度も多くの講座の実施を依頼した。松山市の全面的な協力により 15 講座が開講でき、少人数でのワークショップを実施することで生徒の興味・関心のさらなる喚起につなげることができた。

県内企業フィールドワーク、海外フィールドワークともに、実施実現に向けて当初の時期よりも遅らせて計画をし、各機関と調整してきたが感染拡大の影響でやむなく中止した。その代替として、県内企業フィールドワーク中に講演していただいていた内容を、オンラインで話していただいた。昨年度と同じ 2 社に講演をお願いしたが、本年度も好意的に取り組んでくださった。企業の取組や海外進出・海外での勤務及び高校生として取り組んでおくべき内容等、様々な情報を提供していただき、地元企業に対する生徒の理解度と海外で働く意識の向上につながることもできた。

各種講演やワークショップの実施後には、ワークシートの提出を行っているが、その自己評価において本年度も、生徒はいずれにおいても高い評価をしている。(第 3 部 第 3 章 参照)

(2) グローカル明教Ⅱ 課題研究～グローバル課題の発見～

実施内容： 課題研究、各種講演

自己評価： 昨年度から、本事業終了後の自走を考え、本校教職員による課題研究を実施している。当該学年である 1 年学年団の先生方に学年会を通じて、課題研究の指導方針や指導計画について G L 事業課より連絡を行い、協議を行った。また、地域協働学習実施支援員から「課題研究とは」「課題研究の進め方」等の指導をしていただいた。

まず、研究概要をもとに、各先生方が内容のプレゼンをした後、生徒の希望をとり講座編成を行った。その後、各先生方の創意工夫によって、様々な分野の課題研究が実践され、128 枚のポスターにまとめられた。本年度も講座内容を直接担当の先生方から聞くことができたので、課題意識を持った状態での生徒の講座選択につながっている。また、各先生方が各教科の特性や得意な分野での研究テーマを設定した関係で、フィールドワークや外部講師の招聘など、各先生方の特徴のあらわれた課題研究が実践された。担当の先生方が熱心に取り組んでいただいた結果、外部のコンクールで入賞する生徒も見られ、1 年間の G 明教の取組で最も印象に残っている活動として、半数近くの生徒が課題研究を選んでおり、生徒の満足度も高いものになっている。

今後も、この取組を継続していくため、本年度、カリキュラム等開発専門家である梶原春菜さんの協力のもと、過去の研究内容を検索できるように取り組んだ。また、この 2 年間で指導していただいた内容を整理し、次年度以降の生徒が引き継いでいけられるような工夫もしていきたい。

(3) グローカル明教Ⅲ 課題研究～グローバル課題への取組～

実施内容： 課題研究、各種講演

自己評価： コンソーシアムの協力の下、愛媛大学、松山大学の講師や元研究員、愛媛県立中央病院の医師、松山市役所の職員、いよぎん地域経済研究センターの方々から直接指導を受ける 14 講座を開講し、G L コース生 97 名が 1 年間をかけて課題研究に取り組んだ。本年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面授業やオンラインを併用しながら取り組んだ。フィールドワークの実施が難しい中、各講師の方々の創意工夫により、広範囲で高水準の課題研究が実践された。また、中間発表会を 12 月にポスター発表の形式で実施することができ、研究をまとめるだけでなく、いかに分かりやすく聴衆に伝えるか、どのような評価をされるのかなど、体験しなければ分からないことを学ぶ貴重な体験の場となった。

本事業が終了する来年度以降に向けて、愛媛大学や松山大学とは課題研究の指導の継続を念頭に、連携協定を結ぶ準備ができており、来年度も G L コース生 85 名に継続した指導ができる体制を確保することができた。

(4) グローカル明教Ⅳ 課題研究～グローバル課題の解決と発信～

実施内容： 課題研究、各種講演

自己評価： コンソーシアムの協力の下、愛媛大学、松山大学の講師や元研究員、福岡赤十字病院の医師、松山市役所の職員の方々から直接指導を受ける13講座を2年次に引き続き、GLコース生80名が取り組んだ。本年度は、2年次までの研究を論文としてまとめることを目標に取り組んだ。作り上げた論文は、プレゼンテーションにまとめ直し、9月に発表会を実施し、80名全員が発表に取り組んだ。外部講師の先生方の熱心な御指導により、「課題研究を体験して良かったか」という問いに、100%の生徒が肯定的に回答しており、十分な教育効果のある取組になったと考えられる。また、防災について研究を行ったグループは、松山市の防災教育フォーラムで発表したり、松山市が発行する防災マップの中に、災害時の自分の行動を記す「マイタイムライン」と、備蓄品のローリングストックについての「我が家の非常食チェックシート」をはさむことを考え採用されたりした。課題研究を通して、コミュニケーション能力、思考力・判断力・表現力・分析力の向上を図ることができた。また、課題研究で学んだことをさらに大学で研究したいと考える生徒も多く、学校型推薦入試や総合型選抜に挑戦し、進路実現を図った生徒も見られ、進路意識の涵養につながる取組となっている。

3 学校環境のグローバル化

実施内容： SGH部（部活動）の活用、海外留学の促進と留学生の受入れ、海外高校生との交流促進

自己評価： 本年度も昨年度までと同様に学校のグローバル化に努めた。本年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、海外修学旅行・短期語学研修・海外フィールドワークの全てが中止となり、毎年参加しているトビタテ！留学 JAPAN や、えひめ高校生ハワイ派遣事業も相次いで中止となった。海外へ飛び立つことはできなかったが、オンラインを用いて代替事業を計画し、画面越しにたくさんの国の人々との交流を実現することができた。日常の国際交流では、モンゴルからの短期留学生を受け入れることができ、様々な学校行事を含めて本校生徒と同じ活動をさせた。留学生の学習に対する意欲は高く、その積極的な取組が学校全体に好影響を与えている。また、駐日欧州連合代表部主催の「EUがあなたの学校にやってくる」ではスロバキア共和国大使館、特命全権大使のマリアーン・トマーシク氏が来校し、講演と座談会のディスカッションを通じて、グローバルな視点の育成に努めることができた。SGH部の活動もオンラインをうまく用いながら例年以上に活発に行われ、松山市や愛媛県と連携した取組にも自主的に参加し、部員各自の国際性が一層高まっている。生徒主導による毎月の「市内高校生交流会・勉強会」では、毎回SDGsの課題を取り上げ、その課題に精通した講師を招き、答えのない課題に対して市内の高校生たちがじっくり考える良い機会となっている。6回の中四国高校生会議は、オンラインでの開催ではあったが、県内外より70名を超える高校生がジェンダー不平等の問題について考え、意見を交換することで刺激を与えあうことができた。国内・海外を問わず、本校の取組を他校や地域へ発信・普及することに努めることができた。

4 SGHで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築

(1) 松山市を中心にした新たな教育資源を開拓

実施内容： 松山市総合政策部企画戦略課や危機管理課、タウンミーティング課、シティープロモーション課、まちづくり推進課、保健予防課、松山市保健所、松山市選挙管理委員会との連携

自己評価： 本年度も松山市総合政策部企画戦略課を中心に多くの部署の方々の協力を得ることができた。課題研究では、引き続き松山市総合政策部危機管理課の芝大輔氏を講師としてお招きして防災講座を開設し、松山市が掲げる全世代型防災教育の一翼を担うことができた。また、防災教育フォーラムでの発表の機会の確保もしていただいた。さらに、主権者教育の一環として取り組んできた、松山市選挙管理委員会との連携をさらに発展させ、課題研究の一つとして新たな講座を実践することができた。

また、昨年度に引き続きタウンミーティング課と連携し、「まつやままちかど講座」を15講座実施し、多くの担当者から直接行政の取組や課題を聞く機会が確保でき、生徒の地域理解と課題発見の貴重な機会となっている。さらに、2年生対象の保健講座では、保健所の医師より感染症について専門的な知識を授けていただくことができた。この3年間で新たにできた松山市との連携を、来年度以降もさらに深めていき、本校とともに松山市にとっても魅力のある取組になるように取り組んでいきたい。

(2) 新たな産官学連携のためのコンソーシアム構築

実施内容： 課題研究での愛媛大学・松山大学との連携、企業訪問代替講演や海外FW代替交流での産業界

との連携、行政機関との連携

自己評価： 以下のように、今年度も多くの企業、大学の関係者の方々に御協力をいただき、愛媛の力が結集された。愛媛型産官学連携体制が構築されている。

連携先	学年	連携内容	期待される効果
いよぎん (伊予銀行) 地域経済研究センター	1年 2年	県内企業の紹介及び助言 課題研究の指導	学校では交渉が困難な企業との連携促進、SDGsへの理解向上、課題研究指導の充実
三浦工業株式会社 株式会社アテックス 渦潮エンタープライズ株式会社	1年 2年	県内及び海外フィールドワーク代替講演、課題研究	県内及び海外フィールドワーク代替講演への協力、関連資料の提供、生徒の県内企業とグローバル化への理解の深化
愛媛大学	1年 2年 3年	課題研究の指導、 海外大学・高校の紹介	課題研究指導の充実、発表の場の提供 学校では交渉が困難な海外大学・高校との連携支援
松山大学	2年 3年	課題研究の指導	課題研究指導の充実

(3) 他校との連携

実施内容： 松山市内の高校生と連携する「市内高校生交流会・勉強会」の実施、県内外の高校生と連携する「中四国高校生会議」の実施

自己評価： SGH部が中心となり、月に1度の「市内高校生交流会・勉強会」を実施しているが、本年度もコロナ禍の中、オンライン等も利用しながら計9回の会議を実施することができた。参加校、参加人数とも昨年に比べて増加し、主にSDGsのそれぞれの取組に対する勉強会や意見交換・調査などを行った。他校との交流機会の少ない生徒にとって、貴重な交流の場になっているだけでなく、企画運営から生徒が参加している活動になっており、貴重な体験の場になっている。また、各学校での活動について発表したり、世界の問題に対して意見を交換したりすることによって、グローバルリーダーとしての資質を養うことや、共通のテーマについて考えを深めることでお互いを刺激しあい、将来グローバルに活躍できる人材としての資質を高める機会となっており、今後も継続できるように学校間の連携をさらに深めていきたい。

また、過去5回実施してきた「中四国高校生会議」を本年度も実施することができた。コロナ禍で本年度も昨年に引き続き、宿泊なしのオンラインでの2日間の開催となった。広島、高知からと、県内の国立・県立高校より70名を超える参加があり、松山東雲短期大学の桐木陽子先生の講演や今年度は「ジェンダー不平等」というSDG5番のテーマについてのディスカッションやディベートを行い、お互いに刺激を受けることができた有意義な2日間であった。来年度は、実施時期や実施方法をさらに検討し、県内外から多くの生徒が参加できるように改善していきたい。

III 次年度以降への課題

第1部に次年度以降の課題及び改善点として掲載

第3部

令和3年度地域との協働による高等学校 教育改革推進事業（グローバル型） 研究開発報告書

第1章 令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定時の研究開発構想

I 研究開発構想調書の概要

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 構想調書の概要

指定期間	ふりがな	えひめけんりつまつやまびがしこうとうがっこう				②所在都道府県	愛媛県
2019～2021	①学校名	愛媛県立松山東高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	1学年9学級 1、063名	
普通科	360	80	80		520		
⑥研究開発構想名	東高がんばっていきましょい ーグローバルからグローバルへの挑戦ー						
⑦研究開発の概要	ア グローカル・リーダーを育成するための課題研究プログラム開発【グローバル明教】 イ 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】 ウ 学校環境のグローバル化 エ SGHで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標 輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、人間的魅力のあるグローバル・リーダーの育成 <育成する人材像> ・地域マネジメント力(課題発見力・企画立案力・協働実践力)を身に付け、郷土の課題の解決に貢献する志を持った人材 ・グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献する人材					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説 ○現状分析 松山市及びまつやま圏域は、本格的な人口減少社会の到来と急速な高齢化を迎え、 ・様々な世代の人がつながり支えあう、安全で安心なまちづくり ・誇れるアイデンティティ、良質な生活環境、豊かな自然という宝の継承 ・地域の魅力・活力があふれるまちづくり が課題となっており、地域課題の解決に向けてグローバルな視点の下、持続的発展を担うグローバル人材の育成が求められている。 ○仮説1 「まつやま圏域未来共創ビジョン」が掲げる目指すべき将来像やその実現に向けた具体的な取組、『第6次松山市総合計画』が示す、一人でも多くの人が笑顔で自分たちの住むまちに愛着や誇りを持ち、また、魅力にあふれ、市外の人からも「行ってみたい」「住みたい」と思われるまちづくりのための施策を学び、松山市を中心とした産官学連携の下、その施策を地域課題研究のテーマとすることで、生徒の主体的、対話的で、深い学びを实践することができる。 ○仮説2 5年間のSGH事業における、世界の持続可能な発展に貢献する深い教養、問題解決能力・コミュニケーション能力等の国際的素養を身に付けさせるプログラム開発に加え、地域課題解決を根幹としたグローバル・リーダーを育成する課題研究プログラムを開発する。また、課題研究のための資質・能力を育成するカリキュラム開発、学校環境のグローバル化、松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築に取り組むことにより、これまで愛媛県のリーダーを育成してきた本校として、地域課題の解決と地域の魅力発信に必要な地域マネジメント力を身に付けた、郷土に貢献するグローバル・リーダーを育成することができる。 ○仮説3 本校は前身の松山藩校・明教館設立から190年、愛媛県最初の中等教育機関である旧制松山中学校創設から140年の歴史を持つ伝統校である。本校のネットワークを利用した発信力					

	<p>を發揮することにより、地域と協働した教育改革を力強く推し進めることができる。</p>
<p>⑧-2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>ア 「総合的な探究の時間」での実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年次1学期 グローカル明教Ⅰ「グローバルとの出会い」 <ul style="list-style-type: none"> ・常盤同郷会・松山市との協働による、講義及び市内フィールドワーク ・企業・大学との協働による、講義及び県内フィールドワーク ・海外進出企業の巡検及び現地高校や大学との交流を行う海外フィールドワーク ○1年次2・3学期 グローカル明教Ⅱ「グローバル課題の発見」 <ul style="list-style-type: none"> ・松山市・大学との協働による、地域の魅力に関する講義・グループ学習 ・産官学連携による協働の下で行う、生徒の主体的な課題研究 ○2年次通年 グローカル明教Ⅲ「グローバル課題への取組」 <ul style="list-style-type: none"> ・地域マネジメント力の育成のため、産官学連携の下、「安全・安心のまちづくり」「魅力あるまちづくり」のテーマでの課題研究 ・課題研究の内容深化のための海外フィールドワーク ○3年次1・2学期 グローカル明教Ⅳ「グローバル課題の解決と発信」 <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル明教Ⅲから引き継ぐ探究活動及び研究論文の作成、成果の発信 <p>イ コンソーシアムの体制</p> <p>松山市教育委員会生涯学習政策課、松山市総合政策部企画戦略課、愛媛大学社会共創学部、松山大学人文学部、いよぎん地域経済研究センター、えひめ地域づくり研究会議、常盤同郷会、愛媛県社会福祉事業団、愛媛県教育委員会高校教育課、愛媛県立松山東高等学校</p> <p>ウ 実施評価</p> <p>運営指導委員会評価、コンソーシアム評価、ルーブリック評価法を用いた教員・生徒による評価、保護者評価、自己評価</p> <p>エ 教科横断的な取組</p> <p>内容言語統合型学習（East CLIL）による全ての教科での言語活動の充実</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>本事業のカリキュラムの実施は、コンソーシアムによる地域ビジョン・求める人材像の明確化により、地域課題研究委員会によってマネジメントする。地域課題研究委員会には、教頭・学年主任・教務課長・進路課長・図書研修課長・グローバル事業課長・課員及び地域協働学習支援員・海外交流アドバイザーから構成され、課題研究の計画、実施のための連絡・調整・支援、進行状況の確認・点検、評価を行うための計画作成を行う。課題研究チームは、地域課題研究委員会が作成した計画に基づき、地域協働学習実施支援員が中心となり外部との調整及び教職員（教科指導委員会・学年会・教科会）との連携を図りながら、カリキュラムを実施する。また、海外交流チームは、海外交流アドバイザーが中心となり、海外フィールドワークの計画・調整、海外留学の支援、留学生の受け入れ等を、グローバル事業課・英語科と連携しながら実施する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○適用範囲：第1学年全生徒 <ul style="list-style-type: none"> 教科：情報 科目：「情報の科学」 単位数1単位（標準単位数2単位） ○適用範囲：第2学年（年次進行で実施）普通科 グローカルコース <ul style="list-style-type: none"> 教科：保健体育 科目：「保健」 単位数1単位（標準単位数2単位） <p>以上の教育課程の特例を適用することにより、「総合的な探究の時間」（グローバル明教）の単位数をそれぞれの学年2単位で実施する。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>特記事項なし</p>

II 研究開発 取組内容の概要

1 取組内容及び管理・運営方法

(1) グローカル・リーダーを育成するための持続可能な課題研究プログラム開発【グローバル明教】

ア グローカル明教Ⅰ（総合的な探究の時間）【グローバルとの出会い】

・対象 第1学年全生徒（第1学期）

①（研究領域）アイデンティティとグローバル

（テーマ）明治の松山・松山中学から見たグローバル

<市内フィールドワーク>時期：4月下旬 場所：坂の上の雲ミュージアム・秋山兄弟生誕地等の
松山市内の史跡・本校同窓会資料館・明教館

②（研究領域）アジアと愛媛の企業

（テーマ）愛媛の企業のグローバル化とSDGsへの取組

<県内フィールドワーク>時期：6月中旬 方法：40名～80名で各事業所を訪問

<報告会>時期：7月上旬 方法：各事業所訪問代表者によるプレゼンテーション及び質疑応答

<海外フィールドワーク>時期：8月上旬 訪問先：台湾、フィリピン、中国

<報告会>時期：8月下旬 場所：子規記念博物館

方法：各訪問代表者によるプレゼンテーション

イ グローカル明教Ⅱ（総合的な探究の時間）【グローバル課題の発見】

・対象 第1学年全生徒（2学期・3学期）

（研究領域）地域及び世界の持続的な発展のために

（テーマ）松山市総合計画及びまつやま圏域未来共創ビジョンから学ぶ地域の魅力と課題

<講義>時期：9月上旬 講師：愛媛大学教授

演題：世界の持続的な発展のための開発目標（SDGs）とは

<講義>時期：9月中旬 講師：松山市総合政策部担当者

演題：松山市総合計画及びまつやま圏域未来共創ビジョンとは

<グループ学習>時期：9月下旬

方法：松山市の「笑顔のまつやままちかど講座」の活用によるグループ学習

<課題研究>時期：10月～3月 実施方法：グループ別探究活動

研究内容：松山市及びまつやま圏域の魅力と課題について

<成果発表会>時期：3月 方法：ポスターセッション

ウ グローカル明教Ⅲ（総合的な探究の時間）【グローバル課題への取組】

・対象 第2学年グローバルコース生徒（80名）（通年）

※生徒は、希望進路に関わらず、グローバルコースを選択することができる。

（研究領域）地域マネジメント力の育成

（テーマ）「安心・安全のまちづくり」「魅力あるまちづくり」

○ より高水準な専門的課題研究を行うためのグローバルコースの設定

○ 高大連携・地域連携による課題研究の深化

<海外フィールドワーク>

時期：8月上旬 訪問先：フィリピン

11月上旬 訪問先：ドイツ

<成果発表会>○中間発表会 時期：12月 方法：ポスターセッション

○研究成果発表会 時期：3月 方法：プレゼンテーション発表及び
シンポジウム

エ グローカル明教Ⅳ（総合的な探究の時間）【グローバル課題の解決と発信】

・対象 第3学年グローバルコース生徒（80名）（第1・2学期）

グローバル明教Ⅲから引き継ぐ協働的探究活動及び研究論文の作成、成果の発信

<成果発表会>時期：9月（文化祭） 方法：プレゼンテーション発表及びシンポジウム

<情報の発信>

○ 「日本地域創生学会」等地方創生に取り組んでいる学会での発表を検討

○ 内閣府地方創生推進室主催「地方創生政策アイデアコンテスト」、愛媛県主催「愛媛グローバル・フロンティア（EGF）アワード」、松山市まちづくり提案制度（次世代育成支援事業）、愛媛大学社会共創学部主催「社会共創コンテスト」等の地方創生コンテストへの応募

※ 中間発表会や成果報告会等では、課題研究に関するポスターセッションやプレゼンテーション発表、シンポジウムを実施する。議論や発表方法等の検討を通じて、課題研究の深化を図ることが期待できること

から、これらの会には、グローバルコースに属さない生徒にも参加させ、成果発表の評価や質疑応答に取り組みさせる。また、活動報告等をまとめた成果物（News Letter 等）を全校生徒に配布するなどにより、グローバルコースでの成果を全校で共有することとする。

- (2) 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】
 グローバル・リーダーの育成には、グローバルな視点で地域課題の解決に貢献する志はもとより、日本語を母国語としない人々と議論したり、地域課題に関する研究成果について海外に発信したりすることのできる高い英語力を育む必要があるため、次の取組を実践する。
- ア 英語の授業において5年間のSGH事業の成果を生かし、高いレベルのディスカッション力、ディベート力等を身に付けさせる実践的な「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」の授業
- イ 内容言語統合型学習（East CLIL）による全教科での言語活動の充実
- 英語以外の教科を英語で実施
 - 語学力向上と異文化理解の深化
 - 思考力・判断力・表現力・分析力の育成
- (3) 学校環境のグローバル化
- ア SGH部の活用
- イ 海外修学旅行による体験的語学研修促進
- ウ 海外留学及びアジア高校生架け橋プロジェクトを含む海外の留学生受け入れ促進
- エ 県内留学生、海外高校生との交流
- オ 俳句の研究・発信、俳句による海外交流及び中高連携
- カ ICT活用による情報活用能力、情報発信能力の育成
- キ 松山市の姉妹都市（フライブルク市（ドイツ）等）の高校生との交流促進
- (4) SGHで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築
- ア 松山市を中心にした新たな教育資源を開拓
- イ 新たな産官学連携のためのコンソーシアム構築
- ウ 松山市内の高校生と連携し、地域課題を議論する「松山市高校生地方創生会議」の新設
- エ 「中四国SGH高校生会議」を発展させた「中四国高校生地方創生会議」の新設
- オ 他校で実施可能な地域協働による教育プログラムの開発

2 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名
松山市教育委員会生涯学習政策課
松山市総合政策部企画戦略課
愛媛大学社会共創学部
松山大学人文学部
いよぎん地域経済研究センター
えひめ地域づくり研究会議
常盤同郷会
愛媛県社会福祉事業団
愛媛県教育委員会高校教育課
愛媛県立松山東高等学校

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

計画立案段階及び毎年4月に、コンソーシアム代表者会議を開催し、松山市及びまつやま圏域が掲げる将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有を図る。その後、9月、3月に開催するコンソーシアム会議において、本事業が地域ビジョン・求める人材像に合致しているかを検討し、改善を図る。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

地元自治体である松山市との連携の下、5年間のSGHで培ったネットワークを活用し、産官学でコンソーシアムを構築する。

海外進出企業及び地方創生に取り込む企業の紹介・交渉を調査研究組織である「いよぎん地域経済研究センター」に依頼する。また、より広範囲のテーマの課題研究に向けた協働的な地域課題研究のため、えひめ地域づくり研究会議、常盤同郷会、愛媛県社会福祉事業団等に協力を依頼し、研究開発体制を構築する。

管理機関として指導助言及び支援を愛媛県教育委員会高校教育課に、生徒が主体的に地域課題研究

を行うために必要な地域が抱える課題及び魅力あるまちづくりに関する視点の育成の支援を松山市に依頼する。「第6次松山市総合計画」「まつやま圏域未来共創ビジョン」等の担当者と協働しその体制を構築する。

SGH事業で培った、高大連携による広範囲・高度な課題研究の体制を維持し、持続的な高大連携につなげる研究体制を愛媛大学と構築する。また、資質・能力向上のために愛媛大学の高大接続科目及び大学主催の特別公開講座の受講も推進する。さらに、地域課題解決の観点から、地域とのつながりの深い松山大学との新たな連携も構築する。

(4) 海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

本校に勤務している海外交流アドバイザーを継続指定（月3～4回×4時間×12月配置）

氏名：村上美智子（海外経験豊富、本校SGH事業における海外交流アドバイザー）

職務・経歴：地域課題研究委員会の委員として、グローバル課題への取組の指導・助言及び外部機関との連絡・調整を行う。同氏は、SGH事業においても海外交流アドバイザーをしており、海外フィールドワークに関する様々な折衝や、県外のSGH校との連携、本校の英語版HP等に関わる重要な業務を遂行した。本事業でも、その経験を生かし、海外交流アドバイザーを依頼し、今後は、各教科・科目や総合的な探究の時間に相当する「グローバル明教」やSGH部による放課後の海外の機関との連携交渉などを担当する。

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

管理機関により、地域協働学習実施支援員を指定（月7～8回×4時間×12月配置）

氏名：嶋村美和（元京都大学東南アジア研究所研究員、本校SGH事業における特別非常勤講師）

職務・経歴：地域課題研究委員会の委員として、産官学の外部関連機関との連絡・調整を行う。同氏は、SGH事業において、特別非常勤講師として、専門分野のアジア・アフリカ地域研究を基にして、「世界から日本を見る」「愛媛の国際化」「フィールドワーク入門」「多様性を考える」などのテーマで、生徒に課題研究の指導をした。同氏が有する知識及び技能は、生徒の学習への興味・関心の高まり、志の醸成に多大な貢献をした。本事業では、地域協働学習実施支援員として、各教科・科目や総合的な探究の時間に相当する「グローバル明教」実施時における外部との調節、探究的な学習活動のファシリテーションに係る業務を担当する。

(6) 運営指導委員会の体制

- ・学識経験者（2名） 四国地区国立大学連合アドミッションセンター 教授 井上 敏憲
松山東雲女子大学 教授 佐伯三麻子
- ・文化（1名） 坊っちゃん劇場 支配人 平野 淳
- ・国際（1名） 有限会社クラパムコモンカンパニー 代表 菅 紀子
- ・経済（1名） 三浦教育振興財団 監事 寺村 尚起
- ・学校教育（1名） 松山南高等学校（SSH指定校） 校長 染田 祥孝
- ・松山市（1名） 総合政策部地方創生戦略推進官 吉田 健二

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

- ア 生徒の変容の検証
アンケート調査、観察、レポート、プレゼンテーション作品、成果発表会、討論会、学力調査
- イ 教員の変容の検証 アンケート調査、観察
- ウ 保護者の変容の検証 アンケート調査、観察
- エ 学校の変容の検証 自己点検・自己評価、学校評価委員会による評価
- オ 松山市、大学、企業、国際機関との連携に対する検証 アンケート調査
- カ 運営指導委員会による評価

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

管理機関：本事業実施上必要な指導・助言、及び予算面、人事配置等本事業の円滑な運営実施における支援

コンソーシアム：事業計画の立案及び実施における協力・助言

地域課題研究のための外部関係機関の紹介・交渉

- ・5年間のSGHで構築したネットワークに、本事業から地元自治体として松山市が参画・地域課題研究のため松山市が中心となったコンソーシアムを構築
- ・松山市総合政策部企画戦略課が窓口となり各課との連絡調整を行い、広範囲の地域課題研究を円滑に行うことができるよう協働して支援

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

本事業は、地域課題の解決に貢献する志を持ち、地域を支える人材の育成に貢献する事業であり、事業終了後も継続して探究的な学びである地域課題研究に取り組む。

- 課題研究の課題設定に必要な情報の提供について、松山市主催の「笑顔のまつやままちかど講座」を活用する。
- 課題研究に係る企業等訪問について、本校の地理的な利便性を生かし、引き続き実施する。
- SGH事業で培った高大連携事業の一環として作成したルーブリック評価票を活用し、探究活動を活性化させることにより、生徒の主体的、対話的で深い学びを促進する。
- 課題研究のための必要な資質・能力育成カリキュラム開発について、5年間のSGH事業及び3年間の本事業の取組を発展させていく。
- 新設する「松山市高校生地方創生会議」を継続して実施する。
- 平成27年度にSGH事業の海外フィールドワークを支援することを目的に「松山東高等学校グローバル人材育成振興会」が発足。平成28年度からは、海外フィールドワークを含む、グローバルリーダーを育成する様々な活動を支援することとなった。多くの賛同者からの寄付により、様々な事業に支援を受けた。140年の歴史を有する本校は、産官学に多くの人材を輩出しており、本事業の取組を地域に今まで以上に発信し、より多くの支援を目指す。

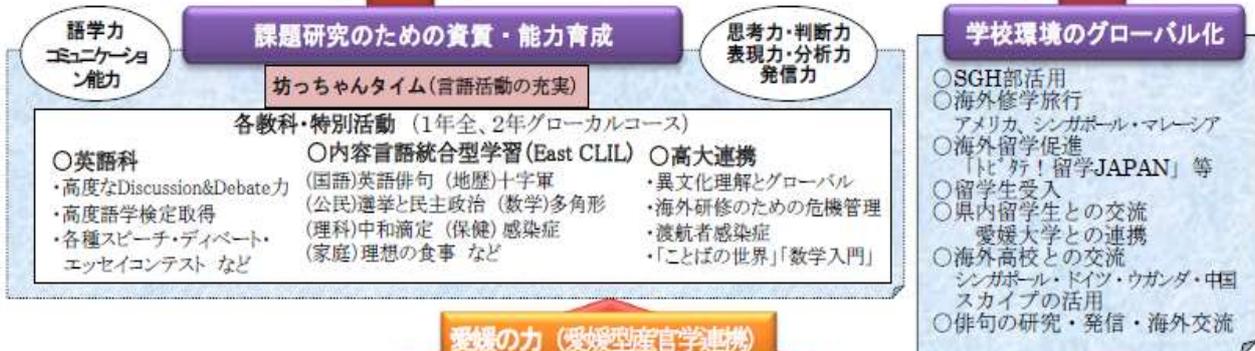
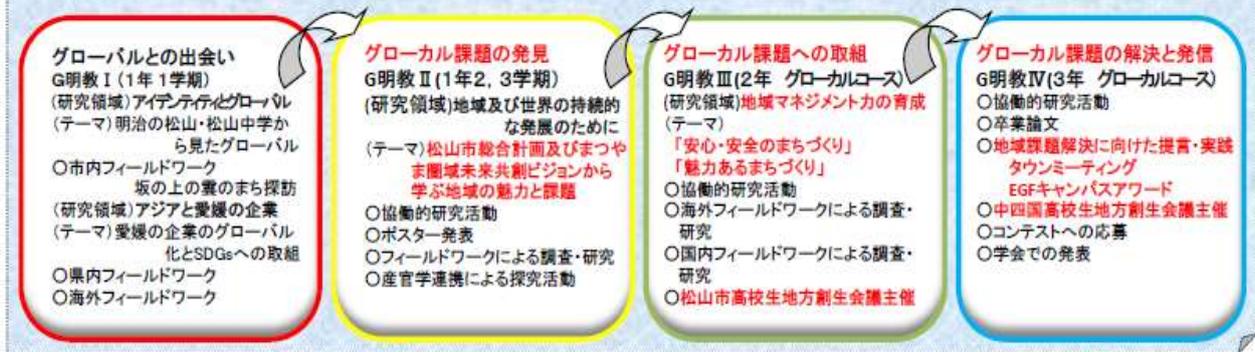
(研究開発構想名) **東高がんばっていきましょい**
— グローバルからグローバルへの挑戦 —

輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、
 人間的魅力のあるグローバル・リーダーの育成

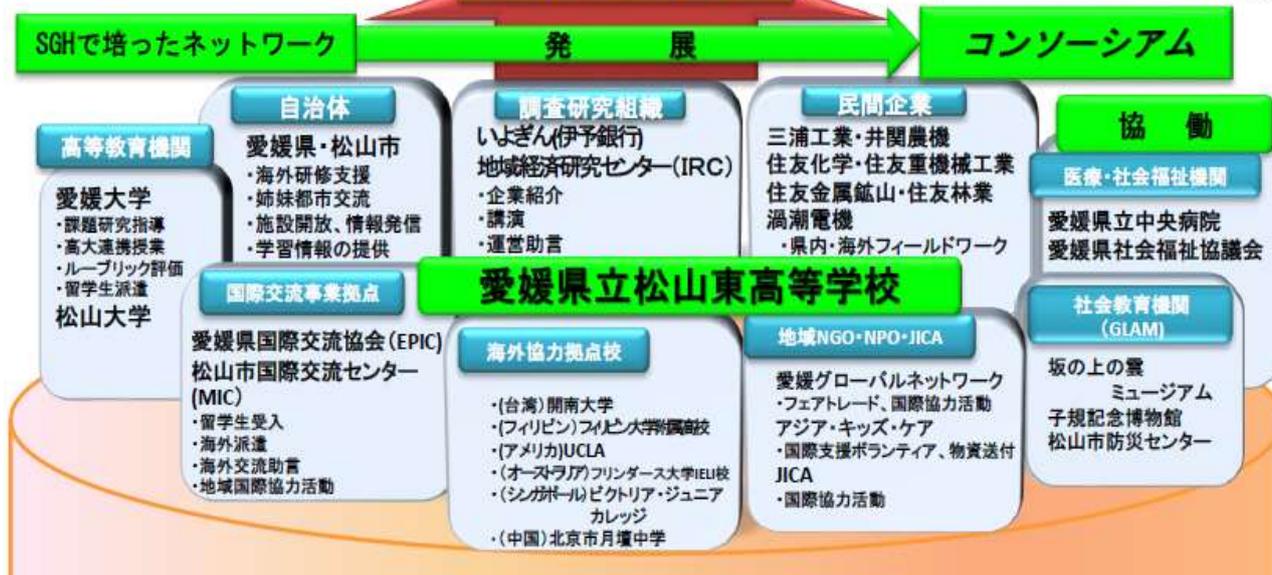
育成する
人材像

- 地域マネジメント力(課題発見力・企画立案力・協働実践力)を身に付け、郷土の課題の解決に貢献する志をもった人材の育成
- グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献する人材の育成

グローバル・リーダーを育成するための持続可能な課題研究



愛媛の力(愛媛型産官学連携)



グローバル・リーダーを育成するための持続可能な課題研究プログラム開発

グローバル明教（G明教）

グローバルとの出会い

G明教 I 1年生1学期 360人 2単位

＜アイデンティティとグローバル＞

- ・本校の歴史(講演)
- ・秋山兄弟が接した世界(講演)
- ・松山市内フィールドワーク(坂の上の雲ミュージアム・秋山兄弟生誕地他)
- ・アジアと愛媛の企業＜
- ・愛媛の企業のグローバル化とSDGsへの取組について(講演)
- ・県内企業訪問(三浦工業・井関機械・鴻希電機・住友化学・住友重機械・住友林業・住友金属鉱山)
- ◆県内企業訪問報告会
- ・優秀レポート発表
- ★海外フィールドワーク
- ・台湾・フィリピンにおける企業拠点訪問及び現地大学・高校との交流、ディスカッション
- ◆海外フィールドワーク報告会
- ・海外フィールドワーク報告、短期留学参加者発表
- (松山市立子規記念博物館)

グローバル課題の発見

G明教 II 1年生2,3学期 360人 2単位

＜地域及び世界の持続可能な発展のために＞

- ・松山市総合計画及びまつまやま圏域未来共創ビジョンから学ぶ地域の魅力と課題
- ・SDGsについて(講演)
- ・松山市の課題と魅力(講演)
- ・課題研究事前説明
- ・「安心・安全のまちづくり」の魅力あるまちづくりを目標に、高大連携・地域連携による協働的研究活動
- ・国内外学会へのポスター発表
- ★県内・市内フィールドワーク
- ・産官学による連携
- ・先進地視察
- ◆研究成果発表会
- ・約100枚のポスター発表
- ・ポスターセッション実施

グローバル課題への取組

G明教 III 2年生 通年
グローバルコース80人 2単位

＜地域マネジメント力の育成＞

- ・高大連携・地域連携による、より高水準な専門的課題研究を行うためのグローバルコースの設置
- ・「安心・安全のまちづくり」の魅力あるまちづくりを目標に、課題研究のための協働的研究活動
- ・国内外学会へのポスター発表
- ・地域での政策提言や実践活動
- ★海外フィールドワーク
- ・ロサンゼルス修学旅行
- ・シンガポール・マレーシア修学旅行
- ・ウガンダでの国際協力活動
- ・ドイツでの探検学習
- ★国内フィールドワーク
- ・先進地視察
- ◆研究中間発表会
- ・ポスター発表(個人)
- ◆研究成果発表会
- ・シンポジウム開催
- (I 英語、II 政治・外交、III 地域・経済、IV 環境・開発の4分野)
- 「松山市内高校生地方創生会議」

- ※次世代リーダー育成塾
- ※留学生受入
- ※県内留学生との交流
- ※俳句による海外高校生との交流

- ※語学研修
- ・オーストラリア語学研修
- ※トビタテ!留学JAPAN他、各種留学
- ※えひめ高校生ハブワイ派遣事業

グローバル課題の解決と発信

G明教 IV 3年生 1,2学期
グローバルコース80人 1単位

＜協働的研究活動および研究論文の作成＞

- ・G明教 IIIから引き続き大学・地域等と連携した協働的研究活動
- ・研究成果をまとめた論文の作成(個人・グループ)
- ◆研究論文発表会・研究成果の発信
- ・文化祭での研究論文発表会
- ・タウンミーティング、EFGアワードでの政策提言
- ・国内外学会への研究論文発表
- ・学校ホームページ上での研究成果の公表
- ・海外大学進学のためのエッセイ等の作成
- 「中四国高校生地方創生会議」

第3章 令和3年度の実施詳細

I 1年生の取組（本年度対象：361人）

以下の内容で実施した。

	内容	カリキュラム名	回数 etc.	日付・期間	人数
1	各種講演及び ワークショップ	G明教Ⅰ G明教Ⅱ	8回	4/15～10/21	全員
2	市内FW	G明教Ⅰ	2カ所	6/17	全員
3	海外FW代替交流	G明教Ⅰ	2回	12/14、15	選抜
4	課題研究	G明教Ⅱ	20講座、13回	7/1～3/17	全員
5	East CLIL	坊っちゃんタイム	6授業	通年	全員

1 各種講演及びワークショップ【G明教Ⅰ・G明教Ⅱ】

本年度の1年生が聴講した講演及びワークショップは8講座である。

実施日	講演内容	講師
4月15日 (木)	これからの、よのなかの話をしよう	NEXT CONEXION 代表 越智 大貴 氏
4月22日 (木)	世界共通のゴール「SDGs」の達成に向かって～足元から世界とつながる！～	愛媛大学国際連携機構 小林 修 准教授
5月6日 (木)	地域社会の持続可能な発展に向けて～今、なぜグローバル人材が求められるのか～	愛媛大学社会共創学部 西村 勝志 教授
5月27日 (木)	いい、加減。まつやま	松山市シティプロモーション推進課、まちづくり推進課 西原 進 氏、久保明日香 氏、禰野 智子 氏、高垣 真也 氏
6月3日 (木)	レベゼン故郷！井の中の蛙 大海をゆく	一般社団法人 いよのミライカイギ 代表理事 富田 敏 氏 伊予市双海町地域おこし協力隊 上田 沙耶 氏
6月10日 (木)	企業の見方&地域製品のマーケティング	学習院大学経済学部経営学科 上田 隆穂 教授
7月8日 (木)	ワークショップ 笑顔まつやま まちかど講座	松山市役所 各担当者
10月21日 (木)	企業グローバル化の取組と課題 ☆県内企業フィールドワーク代替講演	三浦工業株式会社 鴨川 洋人 氏 株式会社アテックス 西本 大介 氏

(1) これからの、よのなかの話をしよう（講演者：NEXT CONEXION 越智 大貴 代表）

①主旨 主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせる。

②概要 社会や政治には福利の最大化を目指したり、個人の自由を尊重したりする視点があり、様々な意見をぶつけ合いながら学び、より良い方法を選ぶ力を身に付けることが大切である。

③生徒評点（低評価1←→5高評価）

Q1. 主権者となるうえで大切なことを理解できたか。

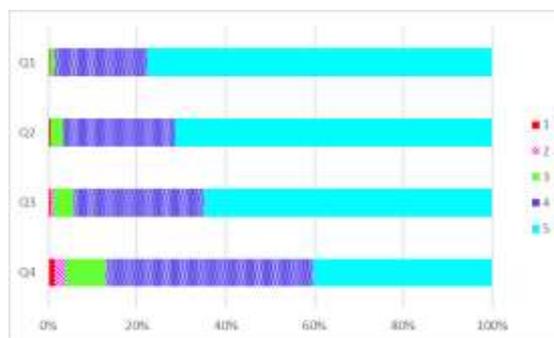
Q2. 政治や社会に対する興味・関心が高まったか。

Q3. 「挑戦」することの意義を理解することができたか。

Q4. 「自己肯定感」を高める術を学ぶことができたか。

④生徒感想

- ・自分に日本を変えられるという自覚を多くの人が持つことが大切だと思う。そのために、様々な経験をして自分のことを正しく評価できるようにしたい。
- ・より良い主権者であるためには、自分を発信していく能力が必要だ。選挙に参加しないと意見が反映されることはない、というように、まずは意見を伝える努力をするべきだと思う。
- ・自分の身の回りのものに対して常にアンテナを張り、自分の意見を持ち、行動することが大切だ。
- ・情報を集められるだけでなく、それを編集できる力を身に付けること。偏差値ではなく経験値を積むこと。
- ・異なる職に就き、社会を見る視点が違うので、皆それぞれの視点から見た課題を見つけて解決することで、



社会を変えるより良い主権者になれると思う。

- ・グローバル化の中で英語に限らず様々な言語に触れる機会があると思うから、その点も視野に入れて行動したい。
- ・正しく新しい知識を得ることが、より良い主権者になるため、グローバルに活躍するために、共通して必要なことだと思った。
- ・自分の意見を持って、いろいろな視点から物事を考えることが大切だと思いました。時には常識を疑うことも大事ということなので勇気を持って行動したいと思います。
- ・他人任せだったり、周りに流されたりせずに、自分で気付き考え実行することが大切だと思う。
- ・政治は難しいことだと思って避けてしまいそうになるが、まずは行動してみることが大切であるということや、意外と身近で小さな政治が行われていることに気づけたので良かった。
- ・18歳になったとき、自信を持って国の政治に参加するために、高校生活の中にある政治を意識し、自分の意見を持ち、常に発信できるようにしたい。
- ・これからの日本は変化が著しくたくさんの課題を抱えているので私たち若者が率先して課題解決に取り組みなければいけないと思います。そのために高校でのG明教などの活動を通して、社会に関する知識を身に付けたり、友達とのコミュニケーションにより多角的な視野を持てるようになります。
- ・まずは選挙に行き、次にさらに良い答えや政治家を選べるように努力する。この繰り返しが賢い有権者を育て、そしてよりみんなが幸せな社会の実現につながると思った。
- ・高校生活の中でも、話し合いなどの活動があるが、多数意見にすぐに決めるのではなく、また少数意見ばかりに注目するのではなく、一人ひとりの意見を平等に扱い、全員が納得するような結論を出したい。
- ・「権利は私たちの持っている武器だ。だけど、武器である以上、使い方に注意しないといけない。」という言葉に共感した。「自分の意見を自由に発言できる権利」があっても、その発言で相手が傷つくようなことは言ってはいけないと思う。
- ・私たちには、この社会をより良いものにする責任があると感じた。インターネットなどでは政治家や社会に対する批判がよく書かれている。批判的な姿勢を持つことは大切だと思うが、考えを持つだけでなく、その意見をきちんと選挙に生かすべきだ。
- ・小さなことでも、人と対話して意見を交わしながら考えを深めることが、政治に参加することにつながると分かった。
- ・自分の考えを伝えることが苦手だが、これからたくさんの人と関わり、コミュニケーション能力を向上させたい。



(2) 世界共通のゴール「SDG s」の達成に向かって～足元から世界とつながる！～

(講演者：愛媛大学国際連携機構 小林 修 准教授)

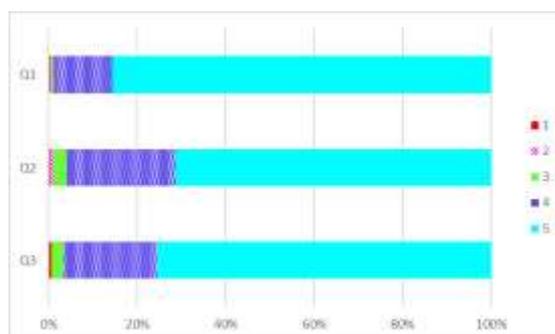
- ①主旨 グローカルリーダーを育成するために必要なグローバルな視点を養うために、世界の持続的な発展のための開発目標 (SDG s) について学ぶ。
- ②内容 持続可能な開発目標 (「SDG s」) について説明をしていただいた後に現在、達成度の高い国や低い国について考察を行いました。また、2030年までに日本が達成することが難しい以下の四つの分野についてもお話していただきました。

③生徒評点 (低評価 1 ←→ 5 高評価)

- Q 1. 持続可能な開発目標について理解は深まったか。
- Q 2. 地域から世界につながることに理解は深まったか。
- Q 3. 今後求められる人材について理解は深まったか。

④生徒感想

- ・具体的な数値やグラフを見ることで、SDG s への理解を深めることができた。
- ・経済活動が豊かでも、地球上の住むところが無くなって



しまったら生きていけないという話が印象に残っている。自分たちの生活の「土台」となる環境を守ることが大切だ。

- 目標が達成できないのは国や政治家のせいだと思っていたが、自分たち国民のせいでもあることが分かった。
- SDGsすべての項目一つ一つが具体的で驚いた。簡単な言葉で表されているが、その達成はとても難しいことを知った。
- 常に新聞やテレビ、インターネットなどから情報を得て、「知らないから何もしない」という状況をつくらないようにしたい。
- 30年前から地球温暖化の進行が予測されていたのに、行動を起こしていなかったのは残念なことだと思う。多様な人材が求められる今後の社会で、現状を十分把握して小さなことでも行動を起こせる人になりたい。
- 正しい現状を知らなかったり、そこから目を背けたりしてきたことが、今の地球をつくってしまっているということを知りました。
- コロナウイルス感染症の影響で二酸化炭素の排出量が減ったというデータがあった。収束を願う一方で、これを機に日々の生活を見直す人が増えてほしい。
- コロナ禍の中で、生き抜く力、つながり・つながることを身に付けて、様々な課題を乗り越えていきたいと思った。
- 同級生ぐらいのグレタさんが、涙ぐみながらも力強く主張する姿に心を奪われた。
- 私たちの経済活動、社会や文化はすべて根底に自然環境があるということを忘れずに感謝していきたい。
- 自分にできることはほんの小さなことかもしれないが、一人ひとりが心がけて行動することで、やがて大きな活動になり、世界を変えていくことができるだろう。
- 「すべての人に健康と福祉を」の項目に興味を持った。先進国と発展途上国、地域や大陸によって、かかる病気の違いについて詳しく調べたい。現在は特に、病気の予防のために手洗いが大切であるので、「安全な水とトイレを世界中に」についても考えたい。
- 過去の人たちだけに責任を押し付けるのではなく、私たちも課題解決のために取り組んでいきたい。最後の、小林先生の「コロナの後も大変だから頑張ろうね。」という言葉で、よりいっそう責任が感じられた。
- 今の有り様、目指すべき目標が分かったので、まずは家族を巻き込んで自分のできることを続けようと思います。



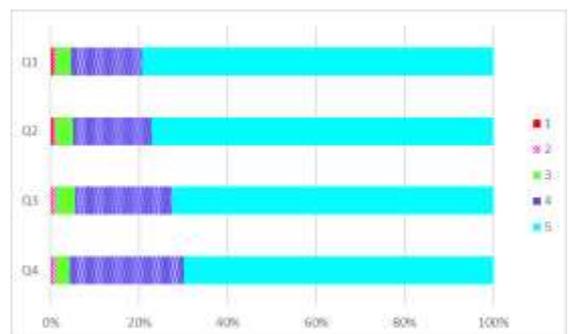
(3) 地域社会の持続可能な発展に向けて—今、なぜグローバル人材が求められるのか—

(講演者：愛媛大学社会共創学部 西村 勝志 教授)

- ①主旨 地域と世界の持続的な発展のために必要なグローバルな視点とは何かについて理解を深めるとともに、地域や世界の課題の解決に向けて取り組む意義について学ぶ。
- ②内容 持続可能な社会の実現を目指して研究及び実践を行っている愛媛大学社会共創学部の教授から、「グローバルとは」「地域の現状と求められる人材とは」「地域は、どこへ向かうべきか」について詳しく説明していただいた。地域が活性化するためには、他の地域や国とつながることが必要であり、グローバル人材が重要な役割を果たすこと、地元松山を大好きになるとともに、愛媛県のみならず他の地域や他の国のこと、さらには世界に興味・関心を持つことが大切であると教えていただいた。

③生徒評点 (低評価1 ←→ 5 高評価)

- Q 1. グローバルについて理解は深まったか。
- Q 2. グローバル人材について理解は深まったか。
- Q 3. 愛媛県の現状について理解は深まったか。
- Q 4. 愛媛県の諸課題について理解は深まったか。



④生徒感想

- ・愛媛県では地域ごとに産業の特色が大きく異なっていて面白いと思った。東予地域の第二次産業ではどのようなものが作られているのか、具体的に調べたい。
- ・地元を知るために他の地域のことを知ることが大切だと思った。県外に出て、地元の良さをたくさん気づいていきたい。
- ・地域の課題を解決するためには、地域以外のことをたくさん知らなければならない、ということが印象的だった。
- ・世界だけ、地域だけなど、どちらかだけを知るのではなく、両方を知ることで多面的な視点を身に付けたい。
- ・小さな地域でも世界でも、次世代に課題を残さないことが大切だ。
- ・課題はそれぞれの地域によって異なるので、様々な問題について多面的な視点から適切に判断し、迅速な対応ができることが重要であると分かった。
- ・地域社会の中にも、グローバル社会だからこそ生じている問題があることが分かった。
- ・世界共通の考えを用いるだけでなく、地域に馴染むような考えを用いることも必要だ。
- ・行政と地域のつながり、協働もとても大切だと思った。
- ・グローバル視点も大切だが、グローバル視点や地域に任せる、地域が自立することも重要。
- ・私たちの地域社会がこれほど危機的状況にあると思っていなかった。課題が山積みになっていると知り、少し不安になった。
- ・自分自身には傾聴力が欠けていると思った。周囲の人の意見に耳を傾けたい。
- ・判断力やコミュニケーション能力など、どこでも通用し役に立つ力を身に付けたい。
- ・誰かに何かを伝えようとしても、無知であればうまくいかない。文系・理系にこだわらず、多面的に知識を蓄えたい。
- ・チーム作りについては、コロナ禍の今だからこそ心がけるべきことだと感じた。様々なことが制限されているので、相互で規律を守るよう声を掛け合って協調していけば、より良いチームワークを形成することができる。今をチャンスだと思って生活していきたい。
- ・愛媛県の良さには、豊富な自然、農業・漁業などたくさんあることが分かったが、その魅力に気づいておらず、発信したり活かしたりすることができていないのが、とてももったいないと感じた。その魅力に気づいて、それを活かすことができるのが、グローバル人材であると分かった。



(4) いい、加減。まつやま

(講演者：松山市シティプロモーション推進課 西原 進 氏、久保 明日香 氏、神野 智子 氏
松山市まちづくり推進課 高垣 真也 氏)

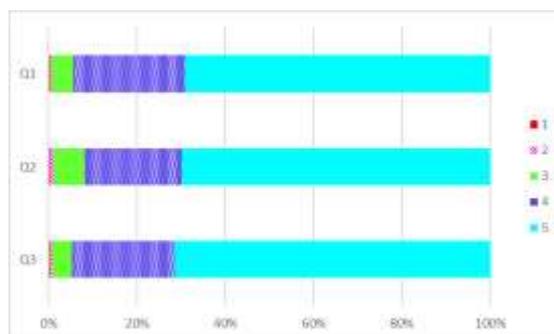
- ①主旨 松山市職員から、地方自治体の持つ課題や未来を知り、日本、愛媛、本校の歴史、伝統、魅力について探究させ、日本人・愛媛県人としてのアイデンティティの確立を図る。
- ②概要 「松山市の人口の将来予想」について考察を行った。そのうえで松山市が100年後生き続けるために今現在行っている政策、また今後必要となってくる政策について説明していただいた。政策を行っていく上で「松山市がどんな都市であるか」理解することが大切であり、講演の後半は、具体的な事例を挙げていただくことでその理解を深めることができた。

③生徒評点 (低評価1 ←→ 5 高評価)

- Q1. 松山市の課題について理解は深まったか。
- Q2. 松山市の魅力について理解は深まったか。
- Q3. 松山市のまちづくりについて理解は深まったか。

④生徒感想

- ・県外にとても憧れがあったが、自分の住んでいる町について知ることも大切だと思った。
- ・松山市のSNSは良いアイデアだと思う。松山について詳しくない人も気軽に質問できる。
- ・メディアアプローチが特に気になった。全国テレビ番組に取り上げてもらっていた。



- ・現在存在する店や商店街が、将来無くなってしまうと寂しい。松山の魅力を全国に伝えたい。
- ・人口減少の一番の原因は出生率の低下だと思うから、出産・育児をしやすい地域づくりが必要だ。
- ・まずは松山の活気を保ちつつ、郊外の町にも良い影響を及ぼすような取組がほしい。
- ・今でさえ公共交通機関の料金が高いので、これ以上高くなったら困る。
- ・興味→理解→体験・相談→移住・定住という流れがあると、満足した状態で住むことができるので安心だと思った。
- ・県外から来た人たちにたくさん愛媛を知ってもらい、住んでもらうための取り組みが大切だと分かった。
- ・周囲の自治体とも協力し合って移住者や住民が過ごしやすいようにするべきだ。
- ・松山にはご飯や飲み物がおいしいお店がたくさんある。家族や友人と美味しい店を探すのはとても楽しい。松山という町をこれからも守り続けたい。
- ・スマートフォンで気軽に見ることができるPR動画やオリジナルアニメを見てみたい。
- ・他の地域でも移住を求めていると思う。様々な地域に目を向けて将来生活する場所を考えたい。
- ・大学を卒業後、愛媛に戻るという選択肢も視野に入れて将来を考える。
- ・県外の大学への進学を考えているが、少しでも多くの松山の魅力を発見していきたい。そして、県外に行ったとき、松山の魅力を発信し、たくさんの人に松山を知ってもらいたい。
- ・若者のプロジェクトチームである「マツワカ」に興味を持ちました。学生や若い世代も松山市や地元のために活動ができるというのは、松山市のためにもなり、また自分自身を成長させる1つのきっかけになると思いました。



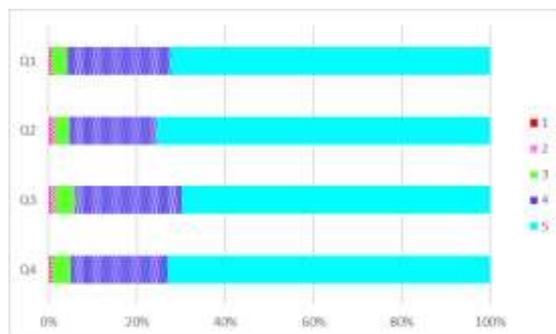
(5) レペゼン故郷！井の中の蛙 大海をゆく

(講演者：一般社団法人 いよのミライカイギ 代表理事 富田 敏 氏
伊予市双海町地域おこし協力隊 上田 沙耶 氏)

- ①主旨 人口減少時代において、地域の活性化は急務とされており、各地域で様々な取組が行われている。地域への移住促進や町おこしを実践されている方より、その取組と課題を聞き、地方創生において主体的に行動するために必要なことを考えさせる。
- ②内容 伊予市双海町で取り組んできた地域おこしの取組やこれからの取組について、分かりやすく説明していただいた。田舎であることによる「できない」ことを嘆くのではなく、田舎であることによる「できる」こと、可能性を追い求めることが大切であることや、継続して事業を行うためには「予算ゼロから考える 人手をかけない 無理をしない」ことや、情報の発信や地域間で連携を図ることの重要性などを教えていただきました。

③生徒評点 (低評価 1 ←→ 5 高評価)

- Q 1. 地域活性化について理解は深まったか。
- Q 2. 地域活性化について興味・関心が高まったか。
- Q 3. 地域おこし協力隊について理解は深まったか。
- Q 4. 地域の魅力について考えることができたか。



④生徒感想

- ・富田さん、上田さんのお二人はアイデアを実現するまでの期間が短く、どんなことでも実行しているのがすごいと思った。悩みながらもやりたいことの実現に向かって動いていることに感動した。
- ・町おこしは色々な地域で行われているが、双海町のアイデアは個性的で面白いと感じた。特に鱧 (ハモ) の話が印象的だった。鱧と町のイメージを上げてブランド化することで、生産者の収入を上げようとしていた。生産者だけでなく外部の方が動くというのは考えたことがなかった。
- ・成功例である「軽トラ市」を他の地方に情報発信していた。みんなの力でより良いものを、という志が感じられ、「TTP (徹底的にパクレ)」という先生の言葉は地域の再建のヒントになっていると感じた。

- ・企画を考えるときは大勢で良いものにするべきだと思っていたが、少人数で軽い気持ちから始めることが「軽トラ市」などイベントの成功につながったと聞いて驚いた。
- ・無理や背伸びをせずに、地域にあるものを活かす考え方は、持続可能な地域活性化のために必要なものだと思った。田舎の活性化は難しいと思っていたが、地域のためにまだまだできることがあると考えを改めた。
- ・双海町には何度も行ったことがあるけど、こんなにも様々な取り組みが行われているのは知らなかった。
- ・知名度を上げるためにはあらゆる人の協力が必要だと分かった。
- ・都市化するのがよい、のではなく、地域がその地域らしく世界にアピールするという理想的な発展の形を大切にしていきたい。
- ・紹介された景色がとてもきれいで、田舎ならではの温かさ、素朴さ、美しさも大切にしていきたい。
- ・都会に行きたいと考えるより先に、愛媛についてもっとよく知るべきだと感じた。
- ・一つの考え方や生き方に縛られず、自分らしい人生を歩む人はとてもかっこよかった。
- ・自分が何かを成し遂げたいと思った後、実現のために「自ら」積極的に周りと交流して、コミュニティを築いたり勉強したりして自分のためになる行動をとっていくことが、達成への道になると感じた。
- ・自分から動くことの大切さを学んだ。仲間と協力して行うのも大切ではあるけど、そのきっかけを作ることがもっと大切で、ただの一般人である自分にもアイデアと勇気だけでできると知った。
- ・都会だから住みやすいのではなく、自分自身が住む地域の良さを知ることによって住みやすいと感じられるのだと思った。



(6) 企業の見方&地域産品のマーケティング (講演者: 学習院大学経済学部経営学科 上田 隆穂教授)

- ①主旨 愛媛の企業がグローバル化を進めるための課題とその克服方法について研究するために、グローバル化や企業に関する基礎的な知識や研究の手法について学ぶ。
- ②内容 講演の前半では、企業を研究するために必要となる経済学と経営学についての基礎的な知識を教示していただいた。また、先生が御専門とされているマーケティングについても具体的な商品を例に挙げながら簡潔に説明していただいた。マーケティングにおいては、「3C分析-Customer-Competition-Company」が有効であり、地域創生においても経営学の手法を用いることが有効であることを学びました。後半は、先生が実際に関わりを持たれた「屋久島」「能登半島」「海士町」を例に地域活性化についてお話していただいた。「地域ブランド要素の発見」や「地域と企業の連携」、さらに「Only 1であることの重要性」について具体的なお話をしていただき、グローバル事業を取り組んでいく我々にとって大変有意義な時間となった。

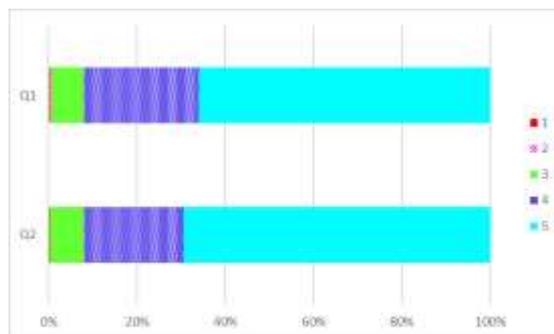
③生徒評点 (低評価 1 ←→ 5 高評価)

Q 1. 企業の見方について理解は深まったか。

Q 2. 地域活性化について理解は深まったか。

④生徒感想

- ・様々な工夫を凝らしながら地域活性化に努めている商業に感銘を受けた。
- ・講演で、何においても「継続」させることが大切だと学んだ。今できることは少しでも地域の状況を学ぶことだ。
- ・まったく無名なものでも、取り上げ方と売り方次第で結果が変わると思った。
- ・現在放送されているCMや商品のキャッチコピーは消費者の潜在心理から生まれたと考えるととても面白いと思った。
- ・「No. 1にならないと意味がない」という考え方がかっこよかった。No. 1は記憶に残るしアピールしやすい



だろうと思った。

- 人、資源、金の限られる中、良いところが少ない中でも、比較・観察することで今ある良いものを伸ばし、良いところが増えていくのはすごいと思った。
- 他人にはない「何か」を持つということは、とても重要なことだと思うので、特技を伸ばし、好きなことを見つけていきたい。
- 営業や企業の仕事への関心が低かったが、地域のよいところを発展させたり、住民と協力したり、他の企業と組んだり、奥が深くて面白いと思った。
- 松山市と他の市の産業や自然などを比較し、まだ知られていない松山市のアピールポイントを見つけたい。
- みんながやっていることではなく、独りが考えたものをする方が人気が出るのは当然かもしれないと思った。
- 経済学を考えていく上で、論理がとても大切であると分かりました。日常生活でも3C分析は実用性がありそうなので、積極的に使っていきたい。
- 消費者のニーズを考えて開発することの重要性を知りました。同じものでもPRの仕方で売り上げに大きな影響があり、松山にもPRができるものがないか調べてみたい。
- 心に残ったのは、常識を破るということです。当たり前だと思っていたことに意味がなかったり、マイナスの効果があつたりすることが分かりました。日頃の生活に取り入れていきたい。
- 自分は起業に興味があったので、今回の講演は大変勉強になりました。様々な視点と消費者ニーズに立った戦略を考えていきたい。
- 水族館やラム酒の話の聞いたが、もっと身近にある企業がどのような取組をしているのかを調べてみたいと思った。
- 今回の講演を参考に、物事を客観的に見ることのできる人間になり、いろいろなところで成功できる人間になりたい。
- 経済学に興味はなかったが、講演を聞き興味がわきました。地域産品の有効活用によって、地域活性化にも貢献したい。
- 地元オンリーのものを売り出すことが良い。



(7) ワークショップ「笑顔のまつやま まちかど講座」

①主旨 地域の魅力や課題について「笑顔のまつやま まちかど講座」を活用し、松山市の担当者から直接話を聞き、興味・関心を高めるとともに、2学期から始まる課題研究のテーマについて考えさせる。

②内容 以下の15講座に分かれて講義及び質疑応答を行った。

	講 座 名	担 当 部 署
①	松山市の台所事情	財政課
②	SDGs～持続可能な地域を目指して～	企画戦略課
③	松山市の観光～道後温泉の取組～	道後温泉事務所
④	みんなで支えあう地域福祉	保健福祉政策課
⑤	「危険ドラッグ」は、「ダメ。ゼッタイ。」	医事業事課
⑥	食の安全～食中毒予防の豆知識～	生活衛生課
⑦	子どもの笑顔を咲かせましょう！！	子ども総合相談センター事務所
⑧	海洋プラスチック問題と プラスチック・スマート&家庭でできる食品ロス削減のススメ	環境モデル都市推進課
⑨	私たちのまちは私たちの手で～いっしょにやろや～	まちづくり推進課
⑩	美しい景観まちづくり	都市デザイン課
⑪	あなたにもできる応急手当	警防課
⑫	災害への備えについて	防災・危機管理課

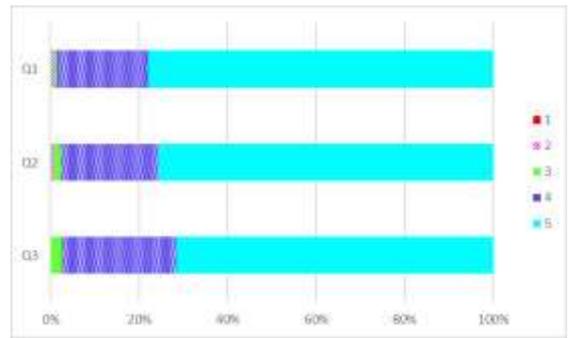
⑬	ことばを大切にすまちな松山	文化・ことば課
⑭	松山再発見～意外と知らない松山の歴史と文化財～	文化財課
⑮	選挙豆知識	選挙管理委員会事務局

③生徒評点（低評価1←→5高評価）

Q1. 市政の取り組みについて理解することができたか。

Q2. 松山市の魅力や課題について理解は深まったか。

Q3. 受講を通して自己との接点を見つけることができたか。



④生徒感想

- ・松山市も様々な問題に対して取組をしていることが分かりました。まちづくり講座では、高校生である私たちでも事業ができ、市からの支援をもらうことができると初めて知りました。協議会では様々な分野の団体が話し合っていて、「市民とつくる自立したまち」に近づくのに重要な役割を果たすだろうと思いました。
- ・災害への備えについて、の講座を受講して、今から災害への備えが必要だと思いました。最低一週間分の備えを完璧にするには、今から始めるべきだと思います。
- ・松山の台所事情の講座で、予算計画の判断事項は身の丈に合っているかどうかを聞きました。派手な出費は控えているのだと分かりました。また松山市の歳入を一家計のものに直したとき、給料が3割ぐらいいかなくて、5割以上を支援や借金で賄っていて、とても厳しい生活だと思いました。
- ・応急手当では、「応急手当はケガを治すためだけでなく、負傷者の心も癒すためにするものだ」と教わりました。また救急車の適切な利用法を学びました。松山市の人口に対して救急車14台は足りないと思います。119番通報が本当に必要か冷静に判断したいと思います。
- ・地域福祉については、地域行事に参加することや、災害時などによく呼びかけられる自助・公助・共助・互助のような行動が、私たちにできる地域福祉であり、行政や専門職の方に任せるのではなく、むしろ一般市民である私たちが本当の意味での地域福祉をつくるのかもしれないと思った。
- ・松山市文化振興の講座では、最後にショートショートを作る体験をしました。新しいものを考えるのにもいろいろな方法があると知って、いざ自分もやってみるとあまり進まなくて、難しいと感じました。
- ・海洋プラスチック問題と食品ロスの講座で「プラスチックの長所はゴミになれば短所になる」という言葉にハッとさせられた。プラスチックゴミが環境に及ぼす影響の大きさを改めて知った。食品ロスは少しの工夫でかなり減らせることや、不要なものは寄付できると知った。一人一人の意識次第で、世の中は大きく変わると思った。
- ・考古学の松山再発見では、いろいろな古墳などから歴史や生活などを考えて証明しているのはとても面白そうでした。土器なども触らせていただきました。過去を知ることで未来を考える、次の世代を考える、という精神にとっても興味がわきました。
- ・食の安全講座で、手洗いについても学びました。汚れが落ちにくい部分のデータを見たので、手洗いの際には気をつけていきたいです。また長時間かけて手洗いをするよりも、30秒を2回が良いと知りました。



(8) 企業のグローバル化の取組と課題（講演者：三浦工業株式会社 鴨川 洋人 氏

株式会社アテックス 西本 大介 氏）

☆県内企業フィールドワーク代替講演

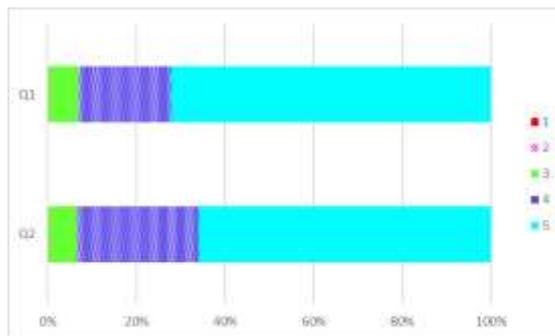
- ①主旨 地元企業の担当者から、身近な企業のグローバル化や地域貢献の取組を学び、グローバルな視点の育成を図るとともに、様々な課題への解決方法を学び課題研究の深化を図る。企業に関する基礎的な知識や研究の手法について学ぶ。

②内容 県内企業フィールドワークを予定していた企業の中から2社に協力を依頼し、オンラインでの講演会を実施した。各企業の業務内容や海外進出の様子、海外で事業を進めていく上での課題やその対応策などについて、ご自身の経験をもとに分かりやすく講義していただいた。

③生徒評点（低評価1 ←→ 5高評価）

Q1. 企業の取組について理解は深まったか。

Q2. 県内企業についての理解は深まったか。



④生徒感想

- ・三浦工業が愛媛の企業だとは知っていたけど、海外展開しているとは知らなかった。愛媛の企業がどこまで大きくなるのか、とても興味がわいた。
- ・アテックスの「地元の人意見を聞く」という考えのもとに、委員会などの学校活動でも周囲の意見を聞いていきたい。
- ・自分たちの強みを活かすこと・伸ばすことが大切だと知りました。
- ・海外で商品を販売するためには、時差や関税の問題があると学ぶことができた。
- ・各々の企業も、時代に合わせて必死に取り組んでおられることが伝わってきた。そのような企業努力によって生まれたものや、個人の経験はすばらしいと思った。地元企業にもこのように先進的・先鋭的になるとうとする企業があると知ることができて良かった。
- ・自分の身の回りでよく見る機械などを地元企業が作っていると知り、今生活している愛媛県を誇りに思った。
- ・地元企業に、世界に進出するような企業があると知って驚いた。地方でもグローバルに活動できると知ることができて良かった。
- ・どちらの企業も高い目標を持って活動していた。自分もいろんな場面で目標を持って過ごせば、充実した毎日になると思った。
- ・新型コロナやSDGsなど社会の流れが変わる中で生き残っていくためには、自身の強みが何かを分析、把握して、それを活用する方法を考えることが大切だと分かった。
- ・海外勤務経験のある方のお話から、考えすぎずに前向きにチャレンジしていくことが自分自身を変える第一歩であることを強く感じたので、これからはまず挑戦してから考えようと思った。



2 市内フィールドワーク【G明教I】

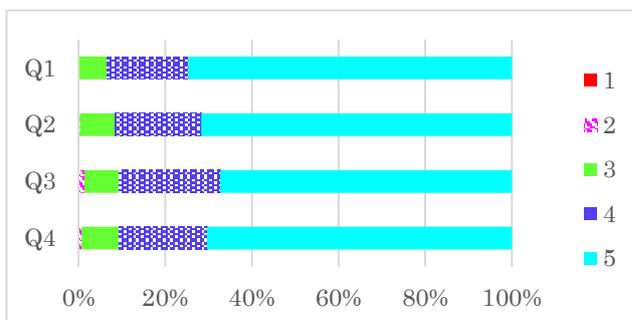
(1) 研究領域 アイデンティティとグローバル

(2) 主旨 日本、愛媛、本校の歴史、伝統、魅力を実際に自分の目で見て体感することで、日本人・愛媛県人としてのアイデンティティの確立を図る。

(3) 内容 本年度の1年生が訪問した先は二つである。

実施日	訪問先	内容
6月17日(木)	秋山兄弟生誕地	クラス単位で本校ゆかりの秋山兄弟生誕地を訪れ、公益財団法人常盤同郷会の方から秋山兄弟の業績とグローバル化についての話を伺った。
	坂の上の雲ミュージアム	クラス単位で司馬遼太郎氏の長大な作品『坂の上の雲』に基づいて創設されたミュージアムを訪問した。本校ゆかりの正岡子規や秋山兄弟が近代日本の国家形成に果たした役割を生徒自身が思索する契機となった。

- (4) 生徒評点（低評価1 ←→ 5高評価）
- Q1. 郷土に関する関心が高まったか。
- Q2. 秋山兄弟についての理解は深まったか。
- Q3. 東高生としての自覚を養うことができたか。
- Q4. 坂の上の雲のまちづくりについての関心は高まったか。



(5) 生徒感想

- ・秋山兄弟生家で、二人は「独立心」を大切にしていたことを知った。独立心とは、自分で考えて自分で動ける力だと捉えた。日頃の勉強から自分自身のモットーにしていきたい。
- ・正岡子規や秋山兄弟の家系図を見て、歴史には載っていないけれども裏で支え続けた人がいることが分かった。自分も周りの人を支えていける人になりたい。
- ・秋山兄弟や正岡子規が、学びに対して熱心であったこと、当時の状況では避けて通れなかった戦争に巻き込まれながらも努力をして大活躍したことなどが伝わってきた。特に偉大な家に生まれる必要はなく、努力が大切で、人として完成された中身のある人間になることが重要なかもしれない。
- ・秋山好古も言っていた「一以之貫」、目の前のことに誠心誠意、大切に全力に生きること。秋山兄弟が様々な歴史を残したのは、一瞬一瞬を大切にしていたからだと思った。
- ・松山出身の人が日本のために貢献した有名人であると知り、松山市への関心が高まった。
- ・これまで自分自身は勉強をするだけで、しっかり学びを生かそうと努力できていただろうか？と振り返るきっかけになった。
- ・「貧乏がいやなら、勉強をし」という言葉が印象に残った。自分に何か足りないと感じたときなど、勉強や努力をすることが大切だと思った。
- ・たくさんの事を学んだ今、人とのつながり、その時代に起こった出来事など様々なことが頭の中で結びつき、とても面白かった。
- ・フィールドワークを通して、地域の特徴や歴史を知るとはとても大切だし、グローバルに活躍するためにも必要なことだと考えました。
- ・「灯台もと暗し」という言葉通り松山に住んでいながら、松山に関する偉人について知らなかった。これからは、郷土に目を向け、地元愛を持って生活していきたい。
- ・秋山好古さんのように、ふる里を愛し、恩返しをする気持ちや社会貢献しようとする気持ちを私も持ちたい。
- ・今回知った偉人たちのように世界で活躍し、後世に名を残すような存在になりたいと思った。
- ・高校という夢へ向かっての最終ステージに差し掛かっている中で、この体験は自分の中で大きな活力になったと思う。将来の目標がだんだん具体的なものに変ったように感じた。
- ・グローバル化していく中で、海外の先進技術を取り入れたり海外へ出向いたりするだけでなく、自分の郷土の文化に誇りをもって、世界に発信していくことが大切だと思いました。
- ・松山には誇るべき人や場所がたくさんあり、すばらしいと改めて思いました。



3 海外フィールドワーク代替交流【G明教I】

(1) 主旨

滞在先で主に県内企業の海外拠点をフィールドワークする。同時にフィールドワーク先の現地大学・高校との交流学習を行い、英語での本校・愛媛・日本の紹介や成果発表プレゼンテーション、ディスカッションを行い、高度な語学力・コミュニケーション能力、思考力・判断力・表現力・分析力の育成を図る。

(2) 実施内容

年度当初は、10月23日(土)～10月27日(水)の4泊5日で台湾、10月25日(月)～10月29日(金)

の4泊5日で中国（北京・上海）を訪問する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止及び、海外渡航中止勧告が継続していたために、本年度もオンラインでの交流に変更して実施した。

①企業との交流

実施日時 12月14日（火）15：00～17：30

交流先 三浦工業（中国）有限公司、台湾三浦工業株式会社、韓国ミウラ工業株式会社、ミウラインドネシア株式会社

内容 14:00～14:20 学校紹介（日本）
14:20～14:40 中国（台湾）より
14:40～15:00 韓国より
15:00～15:20 インドネシアより
15:20～15:40 中国（蘇州）より
15:40～16:00 質疑応答



生徒感想

- ・お話を聞いている中で一番感じたのが、世界で活躍するためには英語力が必要だということです。そのために高校生のうちに英語をたくさん学ぶべきだと思いました。また、企業の方の海外で働くメリットを聞いて、より海外に行ってみたいという気持ちが高まりました。特に国際感覚が身に付いたという話を聞いて、私も国際的な視野を身に付けて社会に貢献できる人材になりたいなと思いました。
- ・海外で働いている方のお話を聞いて、将来海外へ出るためには、変化への柔軟性が必要だと分かりました。そのため、日頃から臨機応変に対応する柔軟性を身に付けていきたいと思います。また、英語力や言葉を相手に伝える力も必要だと感じたので、高校生活でしっかりと英語を勉強して、簡単な表現で噛み砕いて伝えられるようにしていきたいです。
- ・視野を広げ、物事を柔軟に考えることの大切さを知りました。海外で働いたり、留学に行ったりすることが私の一つの夢です。今回貴重なお話が聞き、もっと世界にも目を向けいろいろな世界を自分の目でみて、様々な文化を尊重していきたいと思います。
- ・それぞれ別のところにある同じ会社でも、求められるもの、必要とされている人材の種類としてはある程度似通っている箇所がある、ということに気づきました。そして、どこで生きるにも英語力、言語力が求められることも感じました。そのため、一定のレベルの英語力は高校生のうちにつけておくべきかなと思いました。
- ・台湾、韓国、中国、インドネシアの三浦工業のお話を聞いて、それぞれの国にそれぞれ違った問題があり、そのことについて調べていきたいと思いました。特に中国の大気汚染やSDGsについて調べていきたいと思いました。中国の大気汚染についてずっと状況は悪くなっている一方なのかと思っていたけど、少しずつ良くしていこうとしていたので、どんな会社がどんなことをしてるのか調べたいと思います。中国の生徒さんたちは日本語がとても上手で楽しかったです。
- ・台湾、韓国、中国、インドネシアの三浦工業の方々の貴重な体験談などのお話を聞いて海外で言語がどれほど大切なのか、必要なことは何なのかを知ることができました。今回は、リモートという形で催され吸収できることにも限界があったと思いますができる限り吸収できたと思います。コロナが収束して海外にまた行けるようになったら行きたいと思います。

②中国

実施日時 12月14日（火）16：45～17：45

交流先 北京月壇中学校

内容 16:45～17:00 学校・国紹介（本校）
17:00～17:15 学校・国紹介（北京月壇中学校）
17:15～17:30 質疑応答
17:30～17:45 文化交流



生徒感想

- ・中国との学校交流では、いろいろな意味で文化や民族性の違いを感じました。始めは、中国の人は気難しく、少し怖いイメージがあり緊張していましたが、質疑応答などを通して中国の高校生の人たちを少し身近に感じることができました。今回はリモートでの交流会でしたが、いつか外国に住む人と実際に会って話したりしてみたいなと思いました。また、今まで海外にいる日本人の人の話を聞いたりする機会はありましたが、言語が異なる外国人の人達と交流する機会はなかったのでよい経験



になったと思います。

- ・リモートでの研修は海外での研修より確かに受け取ることができる情報や経験の密度が小さかったけれど、違う国、違う価値観の人の話が聞けて、とても貴重な体験ができました。また、リモートで遠く離れた人々と交流ということで、改めてネット社会の発展や世界的なグローバル化を実感しました。それぞれの方々の視点が異なり、こういう捉え方もあるのだ、という新しい発見もありました。自分の視野を世界に広げることの必要性や英語学習の大切さを再考させられた研修でした。
- ・海外の高校生の勉強時間が想像以上に多くてとても驚いたと同時に、私も負けたくないと思ったので、これからはもっと自主的に自分のための勉強をしていきたいです。
- ・中国の高校生の話を聞いて、日本語がとても上手でびっくりしました。また、話の中でおいしそうな中華料理が出てきたので食べてみたいと思いました。国は違っても、高校生というつながりから、興味のあるものや好きなものが似ているので話を聞いていて楽しかったです。
- ・中国の高校生との交流では学校紹介だけでなく文化の紹介もしていただけだったので、もっと中国について知りたいなと思える交流で、とても楽しかったです。

③台湾

実施日時 12月15日(水) 15:30~16:30

交流先 国立中興大学附属高級中学

内容 15:30~15:45 学校・国紹介(本校)

15:45~16:00 学校・国紹介(国立中興大学附属高級中学)

16:00~16:15 質疑応答

16:15~16:30 交流活動



生徒感想

- ・台湾の中学生の英語力に圧倒されました。また、地震が多かったり長雨や台風があったりと日本と似ていることも多く、以前よりも身近に感じられるようになりました。しかし台湾の皆さんが日本人の私たちに英語で一生懸命説明してくれていたのに、ところどころしか理解できなかったことがとても悔しかったです。自分の言いたいことを伝えられるようにしたい、そして国を問わず誰とも会話できるようになりたいと強く思いました。今回の海外フィールドワーク代替研修では、実際に現地の人たちの声を聞いて多くの刺激を受けることができたのでこの経験を忘れることなくこれから国際感覚を養っていききたいと思います。
- ・台湾は日本と同じようにプレートの狭間に存在していて、地震が多いということに驚きました。土砂崩れなど日本と似た災害が多く発生していて、どこの国も大変なのだと思いました。また、みんな流暢に英語を話していて、純粋にすごいと思いました。環境が違っても母国語ではないことは同じなので、あんなに英語が上手なのは努力があるんだろうなと思いました。これから生きていくのに英語力はとても重要だと思いました。なので、夜寝る前などに英語ラジオを聴くなどして、耳を鍛えたいと思いました。
- ・台湾の生徒の英語力にとっても驚きました。それと同時に英語を身に付けることで様々な国の人とコミュニケーションが取れるなと感じました。また名探偵コナンが台湾で有名であることが嬉しかったです。台湾は日本と同じように災害が多く、日本と似た避難行動などがあり、意味のある行動はどの国でも共通なのだと思いました。二日間の研修で学んだことや感じたことをこれからの生活に生かしていきたいです。
- ・実際に台湾の学生の方々と交流することを通して、多くの発見や学びが今日もありました。日本と似ているところや違っているところ色んなことが知れて本当に楽しかったです。台湾の素敵なおところを知ることは母国の良さを知ることにもつながると思いました。もっと色んな世界を知って、自分の将来の選択肢を広げていきたいと思いました。そのためにも様々なことに興味を持って、いろんな国の方と交流をして多様な考えを知るために英語力を伸ばしていきたいと思いました。
- ・台湾の高校生の方々と交流を通して、英語の必要性を痛感しました。英語の発音はもちろん、聞き取ることも難しかったので、本当にリスニング力とスピーキング力を伸ばしたいと思いました。また、台湾の方々は質問にもしっかり答えてくださり、気さくな人が多かったなと思いました。ちがう国の人たちと交流するのはすごく楽しかったし、自分のためになったと思うのでこれからもそのような機会があれば積極的に参加したいです。
- ・英語での交流という貴重な体験をすることができ、とても楽しかったです。台湾の方の英語がとても上手で、私もあんな風に話せるようになりたいなと思いました。リスニングの力をもっと伸ばして、もっ

とたくさん話せるようにしたいなと思います。今回は、質問もできて丁寧な回答ももらうことができたので、またこのような機会があれば、積極的に質問したいなと思いました。

4 課題研究【G明教II】

(1) 主旨

生徒の好奇心を刺激するような幅広いテーマ群についての協働的研究活動を行うことで、地域や世界の持続可能な社会に貢献する意欲と深い教養や問題解決力・コミュニケーション能力等の国際的素養の育成を図る。

(2) 概要

本年度から1年生の課題研究は、本校の教員が主体となって実施した。地域協働学習実施支援員の嶋村美和氏より「課題研究の進め方」について講義をしていただいた後に、各担当教員から研究概要の説明を行った。その後、希望調査を行い各講座の受講生徒を決定した。また、課題研究の導入の段階で、嶋村美和氏に作成していただいた「研究テーマの見つけ方」も活用した。課題研究は13回計26時間で取り組んだ。成果は年度末成果発表会にて発表した。

(3) 課題研究の担当教員及び課題研究テーマ一覧

No	氏名	課題研究テーマ
1	岡田 信	作家 大江健三郎の人生を切り拓いた人々
2	横川 節	二つの洋画を比べてみよう
3	日野 琢	世界の選挙事情
4	佐々木 泰洲	未来のスーパーキッズを育てよう！ 少年少女への指導方法の実践と研究
5	高田 修和	究極のカレーレシピ作成(スパイスの効能)
6	丸山 祥弥	松山神社探訪
7	近藤 健一	いま求められる防災とは
8	石村 昌弘	要らないものを欲しいものへ！
9	小野 榮子	住み続けられる街づくり ～「地方創生」を本気で考えよう～
10	大塚 森	中予地域の公共交通を考える
11	石山 香代	ICT活用で「まなび愛」研究室
12	友近 拓也	えひめ・まつやま・やきゅう
13	長谷川 公彦	ベートーヴェン『第九』研究～国を超えた地球規模の人類愛～
14	茂松 克明	デジタル作品とアナログ作品
15	阿部 秀信	地域の宝 三輪田米山を知る～地域文化の活用を目指して～
16	稲葉 麻衣	暮らし×SDGs～目標達成のための「行動の10年」で私たちができること～
17	野中 千愛	愛媛のことばとくらしを考える
18	仲田 亜純	愛媛の神話・民話の世界
19	片岡 敦子	高校生が考える、愛媛を「住みたいまち」にするためのアイデア
20	越智 潤子	幼児の玩具について考える

(4) 各講座の研究内容（希望調査時の講師から生徒への説明内容）

No. 1

担当者	岡田 信
テーマ	作家 大江健三郎の人生を切り拓いた人々
概要	本校の卒業生である作家大江健三郎氏の人生をたどり、彼が人生の節目で出会った三人の人物について、その著作を読むことを通して、また、フィールドワークを通して理解を深める。 1 大江健三郎と渡辺一夫 2 大江健三郎と重藤文夫 3 大江健三郎と伊丹十三(宮本信子)

No. 2

担当者	横川 節
テーマ	二つの洋画を比べてみよう
概要	<p>何かしらの共通点のある洋画二つを鑑賞し、相違点を考察することによって、名画の名画たるゆえんに迫ろうという試みです。</p> <p>名画と呼ばれる洋画二つを比べて、一つの問題がどのように異なる描かれ方をしているかを考察します。たとえば人種問題、ジェンダー問題、同一主題の表現のしかた、そもそもの主題の深さ、または同じ俳優の非常に異なる作品、等でもかまいません。</p> <p>研究対象は洋画、その中でも名画とされているものに限ります。(片方はその限りではありません。)名画の基準として、当時の評価の高い(有名である)もの、アカデミー賞の作品賞か監督賞を受賞しているもの、または指導者推奨の作品、とします。主に古い作品となるでしょう。アニメ、ホラー、邦画(『七人の侍』以外)は原則として除きます。また、吹き替えは他要素が入るため字幕で鑑賞します。</p> <p>対象映画を探すことが最初にして最も高いハードルです。初めのうちは指導者推奨作品と一緒に鑑賞します。(それらを研究してもかまいません。)その後、自分で探すこととなりますが、映画は通常1時間半から2時間半ですから、できればもともと洋画鑑賞の習慣がある人、また家庭やGLの時間に鑑賞できる環境を持つ人に適しています。フィールドワークは行いません。完全インドアで物語に集中・没頭し、心の中の世界を広げましょう。</p>

No. 3

担当者	日野 琢
テーマ	世界の選挙事情
概要	<p>日本では、近年投票率の低下が問題とされている。特に、若者の投票率の低下が課題となっている。日本とは異なる地域・文化・宗教・経済的状況の異なる国の選挙事情を調査する。政治参加について、歴史や投票率の状況、政治参加に対する意識など様々な側面から調査し、日本の政治参加の課題とその解決策を考察し、政治参加の重要性を再認識するとともに、地域を担う主権者としての意識を養う。</p>

No. 4

担当者	佐々木 泰洲
テーマ	未来のスーパーキッズを育てよう！ 少年少女への指導方法の実践と研究
概要	<p>皆さんは普段、人に何かを「教える」という活動をしていますか。友人に勉強を教える、スポーツを教える、趣味を教えるなどなど…。「教える」「指導する」ことは実はとても難しいことです。好きなことや得意なことでも、相手に「教える」「指導する」となるとなかなか上手にできない、という経験は皆さんもあると思います。この講座ではそんな「指導」に関する指導方法の実践と研究を行います。そして、テーマにもあるように同世代ではなく、自分たちよりも年下の少年少女を相手にした指導実践もしてもらい予定です。(コロナの状況次第)相手に分かりやすく指導する、ポイントを理解してもらうには、相手の視点に立つことが大切です。この講座で、どうすればうまく「教える」ことができるのか、考えてみませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導するテーマ：自分が得意なもの・その魅力をぜひ伝えたいもの 例：スポーツ・楽器・芸術・英会話・勉強(学問)など 指導対象：保育園・幼稚園・小学校・中学校などに行きたい(希望) <p>※コロナの状況次第では厳しいかもしれませんが、少なくともこの講座内での指導実践は行います。</p>

No. 5

課題研究 担当者	高田 修和
課題研究 テーマ	究極のカレーレシピ作成(スパイスの効能)

課題研究概要	カレーは、誰もが好きなメニューである。多種類の香辛料を併用して、食材に味付けするというインド料理の特徴的な調理法を用いた料理に対する英語名である。転じて、それを元にしたヨーロッパ系の料理や、同様に多種の香辛料を併用して味付けされる東南アジアなどの料理も指す。国際的に人気のある料理の一つとなり、世界中でカレー文化が根付いている。世界のカレー文化を調査し、その上で、スパイス、材料、調味料、付け合わせ、サラダについても吟味しながら、自分だけの究極のカレーレシピを完成させてみませんか。
--------	---

No. 6

担当者	丸山 祥弥
テーマ	松山神社探訪
概要	<p>街中の鳥居、田んぼの中のこんもりとした森、山の頂の小さな社、大都会の高層ビルの屋上、全国のいたるところに神社はあります。神社のある風景、それはごく身近な、しかし日本にしか見られない独特の風景です。そこには、山、海、河、風など自然を司る神様、衣食住や生業を司る神様、さらに国家や郷土のために尽くした偉人や、子孫の行く末を見守る祖先の御霊(みたま)などが神様として祀られています。日本全国津々浦々で、八百万(やおよろず)の神様が神社に祀られ、そのような、神社を中心とした、日本の神々への信仰が神道です。</p> <p>神道は日本の民族宗教といわれ、日本人の暮らしにとけ込んでいます。例えば、初詣や厄除、初宮参りや七五三、結婚式や地鎮祭など、神道の行事は日常生活のいたるところで見かけることができます。しかし、あまりにも身近なせいか、神道について知らないことが多いのも事実でしょう。一緒に神社や神様についてもっと勉強しませんか。</p>

No. 7

担当者	近藤 健一
テーマ	いま求められる防災とは
概要	<p>平成の時代では「阪神淡路大震災」「新潟中越地震」「東日本大震災」「熊本地震」と日本は大きな災害に見舞われました。「西日本豪雨」では愛媛県にも甚大な被害が出ました。令和となった今も、30年以内に高い確率で発生するといわれている「南海トラフ巨大地震」をはじめ、多くの災害に巡り合うことは避けられないでしょう。そんな災害が発生したとき、人々の命を守るために大事なことは何か。安全・安心が持続できるまちづくりに必要なことは何か。それらについて普段から考えていくことが本当の「防災」です。</p> <p>この講座では、過去の災害について知って上で、地域を防災の目線で見つめ直す活動を通じて、その知識と実践力を身に付けます。</p>

No. 8

担当者	石村 昌弘
テーマ	要らないものを欲しいものへ!
概要	<p>従来から行なわれてきた「リサイクル(再循環)」とは異なり、単なる素材の原料化、その再利用ではなく、元の製品よりも次元・価値の高いモノを生み出すことを、最終的な目的とする「アップサイクル」について考える。サステナブル(持続可能)なものづくりの新たな方法論のひとつを知ることで、環境問題への関心を高める。</p>

No. 9

担当者	小野 榮子
テーマ	住み続けられる街づくり ～「地方創生」を本気で考えよう～
概要	<p>日本が抱えている課題、地元愛媛が抱えている課題を掘り起こし、地域の課題の解決や、住み続けられる街づくりについて考えてみよう。安全で災害に強く、持続可能な都市及び住環境の実現について事例研究や現地調査、データ分析を行い、課題の背景にある問題点を浮き彫りにし、課題解決のための方法を探る。地元である愛媛や松山市の課題と魅力を明らかにしていくとともに、地域創生に向けて、今何が必要か、どうすれば理想に近づけるのか、自分たちの考える愛媛や松山の未来像の具現化と、地域創生への取組を検討していこう。そして、まずは一歩! できることから始めてみよう! 調べ学習だけでなく、フィールドワークや取材調査を積極的にを行い、地域が抱える課題解決と、より良い未来の創世のための発信にも力を入れたい。</p> <p>「地域創生☆政策アイデアコンテスト 2021」への応募を視野に入れているので、要求される内容のハードルはそれなりに高いと思って欲しい。</p> <p>Think locally、 act regionally、 leverage Globally!</p>

	<p>身近なところから地道に一步一步を進めつつ、世界にも視線を向けていきたい。 校内での発表のための課題研究というレベルにとどまるのではなく、SDGsに関わる活動手段の1つとして考えて欲しい。一緒にやってみたいと思う人は、ぜひ！</p>
--	--

No. 10

担当者	大塚 森
テーマ	中予地域の公共交通を考える
概要	<p>愛媛県をはじめ日本の大都市圏外の地域では、人口減少や過疎化の進行、自家用車の普及などの影響により、地域公共交通の存続が危ぶまれています。一方、交通空白地域や移動制約者にとってこれらは生活のかかった問題となっています。</p> <p>中予地域の域内および他の地域との地域間の今後の公共交通の活性化のため、公共交通を取り巻く環境と現状について調査し、先進事例などを比較していきたいと思います。</p> <p>Keywords 鉄道、軌道、LRT、バス、航空、交通網、シームレス化、インバウンド</p>

No. 11

担当者	石山 香代
テーマ	ICT活用で「まなび愛」研究室
概要	<p>幼児教育、特別支援教育、高齢者、在日外国人などを対象にICTを活用して楽しく学習する方法を模索したり、ICTの便利さを身近に感じてもらうことで、さらに質の高い幸せな生活を送ってもらえるための研究をする。</p>

No. 12

担当者	友近 拓也
テーマ	えひめ・まつやま・やきゅう
概要	<p>本校の野球部は県内最古の歴史を有しており、その創部には正岡子規が深くかかわっているといわれている。子規は東京大学予備門に通っているときにベースボールに出会い、その面白さに惹かれ、プレーに熱中した。その後、帰郷したときに松山中学(現松山東高校)の後輩たちにベースボールを教えた事が記録として残っている。子規はベースボールで使われる英語の言葉を日本語に訳すなど、日本に野球を普及発展させることに大きく貢献したことが認められ、野球殿堂入りを果たしている。</p> <p>愛媛県の野球は、子規が伝えてから「野球王国」と呼ばれるほどの盛り上がりを見せるようになったが、その歴史や背景について課題研究していく。</p> <p>(1) 本校野球部のOBで本校野球部の歴史を調査研究された方に講演していただきます。 (2) 明教館資料館に残る資料を見させていただきます。 (3) 子規記念博物館にフィールドワークに行きます。(子規とベースボールのコーナーがあります。) (4) 子規が詠んだベースボールに関する短歌や俳句を調べます。 (5) 坊っちゃんスタジアムにある「の・ぼーるミュージアム」にフィールドワークに行きます。 (6) 坊っちゃんスタジアムの周辺にある子規の句碑や近藤兵太郎氏の石碑を調べにフィールドワークに行きます。 (7) 旧松山市営球場跡にフィールドワークに行きます。</p>

No. 13

担当者	長谷川 公彦
テーマ	ベートーヴェン『第九』研究 ～国を超えた地球規模の人類愛～
概要	<p>地球規模の人類愛、差別なき兄弟愛を謳うベートーヴェン作曲《交響曲第9番》はヨーロッパだけでなく、早くから日本でも、そして中南米やアフリカでも歓迎されてきました。その理由は何かを様々な方法で探っていく講座です。</p> <p>できれば特に男声パートを募って、第4楽章を歌えるようになり、県内で開催される『第九』演奏会に参加して、地域の新たな若い力となることが目標です。しかし現状から、合唱練習や演奏会参加はできないかも知れません。それでも、作品鑑賞や楽譜・音楽史をとおした「人間ベートーヴェン」の研究、ドイツ語歌詞の暗唱とその理解は、大きな学びとなり、東高生の将来に必ず活かされるものと考えます。</p>

	歌う人、ピアノを弾くコレペティートル、弦楽器などで探究してみたい人など、広く参加が可能です。
--	--

No. 14

担当者	茂松 克明
テーマ	デジタル作品とアナログ作品
概要	以前は、デジタル作品を制作するには、処理能力の高いハードウェアと高価なアプリケーションが必要でしたが、現在はスマートフォンやタブレット向けの無料、安価なアプリケーションが普及し、気軽にデジタル作品を制作することが出来るようになりました。そのような中で、デジタル作品の良さやアナログ作品ならではの表現など、それぞれの良さを考えていきます。

No. 15

担当者	阿部 秀信
テーマ	地域の宝 三輪田米山を知る ～地域文化の活用を目指して～
概要	三輪田米山は幕末～明治時代に生きた松山の神主である。豪快な性格で、地域の人々に請われ多くの幟や神社の注連石を書き、現在も松山市を中心に多くが残っている。独特の躍動感のある書は全国的に高く評価され、作品が各所に収蔵され、高校書道の教科書にも掲載されている。それほど存在であるにもかかわらず、今年生誕200年を迎える松山での認知度は低下傾向にある。 これからの時代は地域にある資源を有効活用していくことが求められている。米山書の魅力について研究するとともに、書道の枠内にとどまらず、美術館との連携や地域の文化資源として活用する方法を考えていく。

No. 16

担当者	稲葉 麻衣
テーマ	暮らし×SDGs ～目標達成のための「行動の10年」で私たちができること～
概要	【内容】 SDGs 目標達成の期限2030年まであと10年になりました。地域の現状を客観的に分析し、暮らしに関する様々な課題をいかに解決していけばよいか、街を歩いて調べたり、自治体や企業や大学にインタビューしたり、他国の取組を調べたりしながら考えます。 1 日常の暮らしから地域の課題を挙げます。 2 その課題に関連して行われている活動を調査します。 3 その活動に関連する人々や企業を調査します。 4 地域(自分)はこれから何ができるか、何をすべきか提言します。 【方法】 1 一人一台端末を利用し、資料を検索したり、他国の政策を調べたりするとともに、毎時間その日に学んだことを論文の形で残していきます。 2 課題解決のためには多くの人や企業が関わっていることを知り、可能なら直接話を聞いたり、見学をさせてもらったりします。 3 他国の取組について、オンラインを用い、留学生や海外の学生に話を聞きます。

No. 17

担当者	野中 千愛
テーマ	愛媛のことばと暮らしを考える
概要	みなさんは、私たちが使う伊予弁が日本語を学習する外国人にどのように聞こえているか考えたことはありますか？この講座では、愛媛に住む外国人にアンケートやインタビューを実施し、伊予弁にどんな印象を持っているか、伊予弁での会話中に難しさを感じている点はどこかを調査します。また、愛媛での生活において不便を感じている点、特に、コロナ禍において苦勞している点などを聞き取ります。そのアンケートやインタビューを元に、愛媛に住む外国人がより快適な生活を送るための改善策や、海外に向けて愛媛の魅力をアピールするために私たちにできることを考えていきます。最終的には、伊予弁と英語の2言語を使い、愛媛の特産品や暮らし方を発信する取組を計画しています。課題研究を通して、言葉や暮らしから私たちの住む地域について考え、地元の魅力を世界に発信する活動を行います。

No. 18

担当者	仲田 亜純
テーマ	愛媛の神話・民話の世界
概要	この講座では、個人端末や図書館資料を使って、地域に伝わる神話や民話について調べ、その話から読み取れる地域の自然や住んでいる人々の当時の暮らし、考え方などについて分析します。また、民話の中の暮らしと現在の暮らしを比較し、民話が伝える教訓を活かして、現在の地域が抱えている課題を解決するための取組について考えます。

No. 19

担当者	片岡 敦子
テーマ	高校生が考える、愛媛を「住みたいまち」にするためのアイデア
概要	高校を卒業後、県外へ進学・就職した人たちが地元に戻ってくるためには、愛媛や自分たちが住むまちに、どんな魅力があればよいでしょうか。県外からの移住・定住に対するアプローチは何かできるでしょうか。「住み続けたい」「戻りたい」と思うまちづくりのアイデアを考えます。地域スポーツ、伝統文化、習慣、食、観光など、自由な発想を持ち寄ってください。現状を批判するのではなく、課題を解決するための方法を考えましょう。

No. 20

担当者	越智 潤子
テーマ	幼児の玩具について考える
概要	幼児にとっての遊びについて考え、玩具制作等の実習を行います。また、幼児との交流について振り返り、今後の取組を考えていきます。玩具制作として手芸実習を行うので、材料等費用の負担があります。また、手芸実習を伴うので、定員を8名とします。





(5) 課題研究の成果

課題研究の成果として、研究結果をポスターにまとめた。以下が作成したポスター一覧である。
(合計 128 枚、代表例は巻末に掲載)

ポスター番号	タイトル	発表者	担当教員
01-01	大江健三郎の人生を切り拓いた人々 伊丹十三	野本帆希 梶原世和 土居美優 加藤愛理 後藤涼太	岡田先生
01-02	大江健三郎の人生を切り拓いた人々 渡辺一夫	伊予岡侑希 奥村峻大 松平定大	
01-03	大江健三郎の人生を切り拓いた人々 重藤文夫	大溪柚乃 仲田真子 土岐桜里奈 藤田琉奈	
01-04	大江健三郎の人生を切り拓いた人々 武満徹	小野葉右介 山下貴大 永田真悠 西森ほのか	
02-01	映画における黒人の描かれ方	今井心愛 竹本芽依	横川先生
02-02	最強のバナナ ～2つの映画から学ぶノーマライゼーション～	角百華 武田花音	
02-03	マルコム X とキング牧師	田中亨空 大森晴真 吉田昊生	
02-04	【神回】洋画見ただけで考察してみた!!!!!!	井上蓮 和泉蒼空 重信大斗	
02-05	Cindellera Story	越智愛子 松田都月	
02-06	お金か愛、どちらを選ぶのか	大本晴香 姫野奈々子 石河咲笑 西田桃子	
02-07	映画に見る同性愛への向き合い方	守屋みのり	
02-08	フェミニズムとファッションのつながり	岸本芽依 ゆっこ	
02-09	なぜインド映画は世界的ヒットを飛ばす?	宮下隼一 長尾知樹	
03-01	投票率は社会状況に関係しているか。	村井健太郎 朝倉輝義 郷田彩人	日野先生
03-02	世界幸福度と投票率の関連性	中野咲彩 野本響葵 辻智永	
03-03	シルバー民主主義の社会から抜け出す	奥田智世 川端かれん 新澤菜々美	
03-04	これからの子どもたちが政治に関心をもつには	古田宗則	
03-05	あなたの選挙関心はどこから?	手納晴人 村上隆真	
03-06	若者の投票率の低さは今に始まったことなのか	大田健介 田中大地 谷脇亮太	
03-07	外国人と選挙	笠見明日香 西村幸穂	
03-08	外国から学ぶ日本の選挙改革案	川田博之 田口快	
04-01	野球の楽しさを知ろう!	高須賀甲汰	佐々木先生
04-02	ソフトテニスの楽しさを伝えよう!	船戸優汰	
04-03	幼少期における体育の大切さ	渡部日陽	
04-04	城から発見! 歴史の楽しさ!	夏井優羽	
04-05	バスケの楽しさを伝える	和田健跳	
04-06	Enjoy running	羽藤愛果	
04-07	生徒会長になろう	佐藤七海	
04-08	歴史を楽しく学ぼう! -知識があればあるほどいい! -	関戸心寧	
04-09	楽しい学びの定義~歴史の授業を通して~	井手希	
04-10	走り幅跳びにおける記録向上のための指導	片山悠太	
04-11	クイズで発見! 漢字の面白さ!	福田偉大 木田聖太郎 内藤颯真	
04-12	英語教えてみたら...	成嶋美貴 平松沙笑	
04-13	1000年の向こう側へ逢いに行く	渡部真由 中田真由 加賀山貴子	
04-14	サッカーの楽しさに触れあってもらおう!	片山響基 井上遥仁	
04-15	英単語から始まる英語の世界	西川瑞希 両川里奈	
04-16	Let's enjoy English! ~小学生が楽しめる英語の授業~	桧垣茉奈 上野真琴	
04-17	Let's 忍者修行!	三好彩藍 菅美咲	
04-18	How to teach	五島実咲 西島みかさ 脇坂優美	

05-01	おいしいカレーで、ぐっすり寝よう！	森本さくら 小田宮一花	高田修先生
05-02	究極のバターチキンカレーへの道のり	宮庄愛 八木里菜	
05-03	食べて健康に！ヘルシーカレーレシピ	笠井璃子 梶野遥 寺谷柚香	
05-04	俺のカレー	小松大起 篠原琥太郎 豊元優	
05-05	市販のルーのカレーとスパイスカレーの違い	稲多教経 深内順正 布袋俊幸	
05-06	スパイスとの格闘	高木晴基 田中直登 松田諒	
05-07	カレーを訪ねて三十分	渦岡遼丞 小濱宗太郎	
05-08	余さず活用！美味しいカレーパスタ	丸田悠紀 渡部晶翔	
06-01	支えあり 変わらぬ姿 ここにあり	浅野愛加里 新谷みこと 松崎希実	丸山先生
06-02	おみこじ	玉井悠登 亀岡士恩 濱崎恒志	
06-03	あなたは解けますか？平面図形 ～江戸時代の難問～	黒瀬重樹 安永智久	
06-04	神社の装飾	泉遼奈 越智由美歌	
06-05	神社参拝の作法	奥村晃大 用土優 渡部陽向汰	
06-06	神社の歴史と現在に残る文化財	菅愛里 森千咲 和田真依	
06-07	神紋について	川崎貴大 黒田嵩晃	
06-08	名前で分かる神社の由来	田辺尚毅 濱瀬桔平	
06-09	なぜ神主さんの仕事は守られ続けているのか？	近藤十和 福岡洸大	
06-10	神社が賑わうために	井上直哉 浅野睦貴 伊藤大翔	
06-11	注連石・注連縄について	松友慶珠 山西恒平	
07-01	大丈夫そ？～地震から身を守るために～	長野有沙 森田優 二宮凜	近藤先生
07-02	災害から生き残れ！！	田中興晃 松下優大 鷹尾知明	
07-03	備えはOK？南海トラフ、心がけよう！減災意識	森川潤 堀内晴希 稲多慶次	
07-04	家から始める シン・防災	楠俊司 名智馨 宮田颯大	
07-05	「いつかやろう」はバカヤロー？！	柳田真衣 田房聖菜 重松姫奈	
08-01	アップサイクルの真実	竹田實穂 坂東芭琉 深見仁晴	石村先生
08-02	3Rとアップサイクルの違いは何だろう？	高井宥哉 浜崎慶 森崎亮裕	
08-03	廻るプラスチック	塩崎界智 山田圭吾 山田 康太	
08-04	アップサイクルによる環境保全	山田侑生 大西孝多 赤根終人 徳永渉	
08-05	人のアイデアでものに新たな息吹を！アップサイクル	田中優希 大西那智	
08-06	紙袋でポーチを作ろう！！！！！！！！！！！！！！！！	小山陽菜 金子ななみ 宮内彩羽	
09-01	都市部の過密化問題について	西森悠真 對馬逸希	小野先生
09-02	地方の過疎化の課題と対策について	尾賀大輝 石橋憲昇 林遼治	
09-03	愛媛の活性化への道のり ～第一、二、三次全ての方向からのアプローチ～	谷村琉風 尾崎脩 赤松瑞夏	
09-04	地域創生の問題と今後の課題	日野義之 乗松遼斗	
09-05	「愛媛の祭」について	菅梨歩	
09-06	人口減少社会をどう乗り切るか	佐伯凌雅	
10-01	松山の都市開発と都市活性化を鉄道の面からみて	花本拓真、大塚蒼良、関谷勇輝、宮側友輔	大塚先生
10-02	<i>IYOTETSU Crisis</i>	香川萌亜 清水彩衣 鶴見空土 橋本直人	
10-03	大丈夫か!? JR四国のこれから	小西慧、平田ゆら、渡辺葵	
10-04	愛媛の空港利用者 実際どうなの課！！	中尾亮介 大西湧斗 大西合志	
10-05	現在、未来の松山のまちづくりは？	豊田光、中原滉太、能島悠斗、山口琥太郎	
10-06	JR松山駅が生まれ変わる!?	西山雅人	
11-01	知的障がいのある子どもへの支援～合理的配慮に基づくICT活用～	相原咲希・大野彩夏	石山先生
11-02	過疎ってるヤツいる?! ICTにお任せあれ!!	井上花鈴・本田弥海・吉岡直美・土居大哲	
11-03	ICTでより良い医療を～オンライン診療の可能性～	丑田光彩・武田未央・大久保直樹・水野圭佑	
11-04	ICT農業を知ってこれからの農業をI see!!	井関 南・大堀夏波・菊地彩華・星野こころ	
11-05	VRで広がる観光～リアルな体験してみませんか～	笹岡真優・土屋理帆・山戸菜乃・山中夏希	
11-06	ICTで学びを豊かに～多様な視点からみたICT活用～	越智勇斗・永野柚希・藤代 愛	
12-01	高校野球をもっと楽しむために	武田晴奈 栗田心陽 宮倉零奈	友近先生
12-02	大谷翔平に学ぶ夢の描き方	上田麗紗 笠崎暖乃 柴田葉奈	
12-03	VOZE HISTORY	岩城芽衣 内田莉子 菅 舞華	
12-04	野球王国愛媛	松田駿 真鍋伯琉 山下誠司	
12-05	愛媛の野球	家高亮太 栗林莉奈 神野未羽 真部来海	
13-01	Schlusschor aus der Symphonie Nr. 9 Op.125 An die Freude	伊藤ゆり 山本悠生 新谷ことね 岡田陽菜 下門花菜 続木裕介 佐藤潤之介 岡山千笑	長谷川先生
13-02	ベートーヴェンの軌跡～挫折と名声の下で～	高木うらら 堀江和奏 二宮陽 谷口愛名 濱本沙織	
14-01	現代アートと地域活性化	長野り子 天倉尚志	茂松先生
14-02	日本における伝統的モチーフと現代社会の結びつき	松田恵実 藤川貴生	
14-03	デジタルアートの価値	杉本明莉 武田花 西村舞音 横田実奈 串部心深	

15-01	活字の洗脳から抜け出せ	高橋彩未 永易理沙 梅田健志 山内駿介	阿部先生
15-02	米山が遺したメッセージ	平岡遼太郎 石倉歩 岡野百合	
15-03	三輪田米山とゆくい～よの旅	玉乃井翔和 菅樹生 佐伯祐	
16-01	じぇじぇジェンダー ～私たちの幸せとジェンダー平等～	石丸救人 木村悠雅 小林隼士	稲葉先生
16-02	真のジェンダー平等を目指して ～おれらが一人一人の花を咲かせる種となるぜ～	田原英桔 鍛冶崎広輝 二宮慶信	
16-03	海の保全と改善 ～他国の取組から考える～	山本陸太 福岡樹季	
16-04	CHALLENGE FOR WOMEN ～日本の女性も立ち上がって～	古瀬礼奈 和田実依奈	
16-05	海洋汚染について考える ～これからの海のために～	小野伶王 井下義翔 藤田琉生	
16-06	女も天下を取りたい！ ～ジェンダー平等実現のために～	岡本希 柴千琳	
16-07	海の生物を守ろう ～プラスチックごみを減らすためには～	東正一花 大西桜子 松本芽依 岩田蒼	
16-08	フードドライブは偽善ですか?! ～私たちがすべきこととは～	森文花 大本琉月	
16-09	ETHICAL LIFE ～賢い消費者になろう～	高内七海 三好彩愛 宮本弥怜 大西莉世	
16-10	ぼくたちが止めます ～地球温暖化への具体的な対策～	田上学人 二宮宙輝 山本隆貴	
16-11	広がれ！ジェンダー平等の輪!! ～政治の視点から見たジェンダー・ギャップ～	李喜延 小笠原寧珂	
17-01	知っていますか?! ことばの壁	石川笑子 松岡由樹 村口心香	野中先生
17-02	コロナと日本語 世界の声に耳をすませば	益田岳幸 奥谷小麦 武部未来花	
17-03	Guide to IYO BEN	谷口愛優花 中岡綾乃 白石麻依 谷口春菜	
17-04	英語しゃべるのひよってるやついる～?	豊嶋実季 原英里菜 大野鈴華 沖本真里奈 吉田陽香	
17-05	英語と日本語の壁 ～方言～	尾崎薫平 黒田涼暉 園部溪太 前崎輝 坂本拓海	
18-01	愛媛の神話と今	森花音 田中貴琉 田邊広大	仲田先生
18-02	The mystery of Mt. Tsurugi and Israel	月岡一護 兵頭勇哉 二宮秀太	
18-03	昔話に見る日本人の特徴	大塚玲奈 重藤結月 藤岡凜 水口藍良 岡本小都美	
18-04	首無し馬の伝説	玉井菜々美 西山奈那 山内芽依 森川古都	
19-01	SNSで魅力を発信するにはin松山	須賀大雅 松本拓磨 大森義仁 仙波栞理	片岡先生
19-02	外国人向けに愛媛の魅力(食べ物・場所)を発信しよう	山田大喜 山下叶翔 寺井斗梧	
19-03	SNS戦略で愛媛県への移住者を増やす	渡邊悠陽 飛田陽香 白石愛実 黒川晴矢 島崎匠海	
19-04	温州みかんだけじゃない!! “柑橘王国”愛媛をPRしよう	野本龍宏 和田真翔 河野早紀 曾我日夏莉	
19-05	誰と?どこ行く?～記憶に残る1ページを～	穴吹柊斗 井上慶人 柳亮 佐伯苺	
20-01	玩具がもたらす効果	木村和暉 平田波琉	越智先生
20-02	かえるくんとかぶきあげくんの幼児のためのおもちゃ作り	小川花凜 長野杏香	
20-03	幼児のための知育おもちゃ	加藤夕風 川原陽	

5 内容言語統合型学習 (East CLIL) 【坊っちゃんタイム】

(1) 主旨

英語以外の教科を英語で取り組むことにより、語学力向上と異文化理解の深化をめざし、同時に思考力・判断力・表現力・分析力の育成にもつなげる。

(2) 授業の流れ

授業は毎学期ごとに定めた科目にあわせて、その指定教科の担当教員と英語科教員と外国語指導助手 (Assistant Language Teacher、以下ALT) が協力して行う。2時間でひとつの授業とし、各時間の実施内容は下記の通りである。

1時間目 (英語担当教員・ALT)	2時間目 (教科担当教員・ALT)
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容についてのオーラルイントロダクション 言語活動をしなが、本時の単語の理解 本時の教材の内容理解 内容理解のチェックと言語活動 (次時までの課題のサポート) 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容の復習 課題をグループで発表 (聞き手は評価用紙を用いて、発表者のプレゼンのよいところを研究する) 実験もしくはグループワーク 教科担当教員による補足・ALTによる評価 自己評価

(3) 実施内容

	科目	テーマ
1学期	East CLIL Modern Sociology	Economy and Innovation of Technology
	East CLIL Home Economics	Food and Health
2学期	East CLIL Japanese	EnGLISH Haiku
	East CLIL Chemistry	Acid-Base Neutralization Titration

3 学期	East CLIL Mathematics	Polygons
	East CLIL Health Science	Virus

(4) 評価

- ・生徒たちは学期に一度のEast CLILの時間を大変楽しみにしており、意欲的に取り組んでいる。
- ・パワーポイントの活用やShow & Tellを行うことで生徒個々のプレゼンテーション技能が高まっている。
- ・生徒の英語に対する興味・関心が高まり、積極的に英語を使用する態度が養われつつある。
- ・当該教科担任も英語を用いることで、生徒の学習意欲を喚起している。
- ・ALTは他教科の教師との関わりが増え、積極的な教職員間コミュニケーションを図ることができる。
- ・学校全体で取り組む活動として定着している。



II 2年生の取組（本年度対象：97人（GLコース選択生））

以下のような内容で実施。

	内容	カリキュラム名	回数 etc.	日付・期間	人数
1	課題研究	G明教Ⅲ	24回	4/16～3/18	対象者
2	海外FW代替交流	G明教Ⅲ	1回	12/14	選抜
3	East CLIL	坊ちゃんタイム	6授業	通年	対象者
4	保健講座	G明教Ⅲ	2授業	通年	対象者

1 課題研究【G明教Ⅲ】

(1) 主旨

生徒の好奇心を刺激するような、幅広いテーマ群についての協働的研究活動を行うことで、地域と世界の持続可能な社会に貢献する意欲と深い教養や問題解決力・コミュニケーション能力等の国際的素養の育成を図る。

(2) 概要

以下の講師をお招きして、課題研究（24回）を実施。12月の1・2年生中間報告会でポスター発表を行い、3月には研究成果発表会にてシンポジウムを開催し発表した。

(3) 課題研究の講師一覧

No	氏名	所属	課題研究テーマ
1	竹島 久美子	愛媛大学社会共創学部	人口減少下における持続可能な地域社会について考える

2	岡本 威明	愛媛大学教育学部	食品の機能性評価および調理加工に関する研究
3	松浦 一雄	愛媛大学工学部理工学研究科	光を分けて、世界を見よう！
4	井門 俊	愛媛大学工学部理工学研究科	最先端のビジュアルコンピューティング技術とその応用
5	小林 修	愛媛大学国際連携推進機構 アジア・アフリカ交流センター	Beyond SDGs 2030 - SDGs から見た世界の今と、2030年以降の私たちの暮らし
6	二神 透 芝 大輔	愛媛大学防災情報研究センター 松山市総合政策部危機管理課	災害の世紀に備える防災・減災のシステム論的アプローチ
7	武智 研志	松山大学薬学部	臨床統計を用いて情報データの活用について考えてみよう
8	橋本 満	松山大学薬学部	医薬品情報を用いて医薬品の適正使用について考える
9	松田 耕一 新土居 勇	松山市選挙管理委員会事務局	若者の投票率と選挙啓発 ～企画から実践までやってみよう～
10	山内 俊史	愛媛県立中央病院新生児内科	赤ちゃんを通して社会を見つめる
11	重松 栄治 中川 智裕 他6名	いよぎん地域経済研究センター	人生100年時代を見据えた今後の生き方、地方の在り方
12	大川 理恵	Save Yemen Babies 代表	日本在住難民の方との、バランスのよい付き合い方とは
13	Vincent Merkhofer	MIC (まつやま国際交流センター)	Don't Worry About English! Communicate Culturally!
14	嶋村 美和 梶原 春菜	元京都大学東南アジア研究所研究員 元京都大学法学研究科助教	多文化社会をどう生きるか——生活者の視点から捉えなおす「共生」

(4) 各講師の研究内容 (希望調査時の講師から生徒への説明内容)

No. 1

担当者	愛媛大学社会共創学部 竹島 久美子 (たけしま くみこ)
テーマ	人口減少下における持続可能な地域社会について考える
概要	愛媛県に限らず、人口の減少にとともに、空き家や休耕地の増加、商店街のシャッター通り化、地域消費の停滞、財政の逼迫など地域は様々な問題を抱えています。本講座では経済学的なアプローチから、地域の課題について考えていきます。まず、グループまたは個人の各々の興味関心をもとに地域の課題を抽出し、研究テーマを設定するところから始めます。その後、各自の研究テーマに沿って文献やインターネットで情報を集めると同時に、県や政府の各種統計データをもとに分析を行っていきます。場合によっては行政や関係者へのヒアリング調査やアンケート調査を行えたらと考えております。そして、得られた研究結果から考察を行い、課題に関する改善案や地域活性化案などを検討していきます。

No. 2

担当者	愛媛大学教育学部 岡本 威明 (おかもと たけあき)
テーマ	食品の機能性評価および調理加工に関する研究
概要	本講座では、以下の2つの分野を中心として課題研究に取り組んでいきたい。 ① 食品 (食品成分も含む) の機能性評価に関しては、動物細胞を用いた生化学・免疫学的手法を用いて実験科学的に探求していく。(本分野を希望する生徒は、休日や祭日に愛媛大学にて実験が遂行可能で、理系志望であることが望ましい) ② 食品の調理加工に関しては、実際に調理を実践しながら、食品の栄養成分、物性、色調、味覚等の変化を科学的に解明していくとともに、松山市内の飲食店や食品メーカー等と連携して機能性食品の開発を行っていく。これまでに、松山市内のカフェ、飲食店、愛媛県内の蒲鉾メーカーとの連携実績があり、来年度も継続予定です。また現在、松山東高校2年生4名とともに、八幡浜市にて令和3年5月開催予定のダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会に出場予定です。令和4年5月にも日本大会があるので皆さんも一緒に出場して、八幡浜市ならびに愛媛県の地域活性化に寄与してみませんか？

No. 3

担当者	愛媛大学国際連携推進機構アジア・アフリカ交流センター 小林 修 (こばやし おさむ)
テーマ	Beyond SDGs 2030 - SDGsから見た世界の今と、2030年以降の私たちの暮らし
概要	<p>国連加盟国を中心に 2030 年までの達成を目指す世界共通のグローバル目標 SDGs (Sustainable Development Goals)。本課題研究では、気候変動災害や感染症パンデミックにおける世界各国の持続可能性の現状について、SDGs 達成度指数、人間開発指数、エコロジカル・プリントなどの指標を調査研究することから探る。調査を通じて、2030年以降の暮らしに関して、持続可能性が最も低くなるシナリオ、最も高くなるシナリオ、そしてその中間シナリオを描くことを試みる。その上で、世界がより持続可能となるために、今私たち自身にできること、すべきことについて提案する。</p> <p>この課題研究を通じて、以下の力を身に付けることをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SDGs のターゲットと評価指標について説明できるようになる。 2. 世界各国の持続可能性を評価する指標を3つ以上説明できるようになる。 3. SDGs の達成に貢献する人になるために必要な高校での学びについて、具体的な目標を立てられるようになる。 <p>高校卒業後の進路と自らの将来の暮らしについてビジョンを描き、説明できるようになる。</p>

No. 4

担当者	愛媛大学理工学研究科生産環境工学専攻 松浦 一雄 (まつうら かずお)
テーマ	光を分けて、世界を見よう！
概要	<p>青空や海の輝きにもあるように、光の波長ごとの成分や強さを調べることで、遠くにある物質の存在や性質を調べることが出来る。分光法の基礎を学習・体験した後、光が空間を進む際の強度変化について計算する方法を学ぶ。学んだ方法をグローバルな問題に適用し、その解決策について考える。具体的には以下のように進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分光法の基礎 放出される光や吸収される光を波長ごとに分けることで、様々な物質の存在や内部の状態を調べることができる。原理を学んだ後、簡易分光器を設計・手作りし、分光を体験する。 2. 輻射輸送方程式 多くの場合、光(電磁場の一種)は、必ずしも真空でない、吸収・発光・散乱のある媒体中を進む。その際の、光の強度の変化を計算する方法について学ぶ。 3. 身近な地域課題に対する分光法の応用 学んだ方法論に基づいてグローバルな問題を考え、その解決策を探る。

No. 5

担当者	愛媛大学大学院理工学研究科 井門 俊 (いど しゅん)
テーマ	最先端のビジュアルコンピューティング技術とその応用
概要	<p>近年の飛躍的な計算機能力の発展に伴い、次世代のデジタル技術が目覚ましい勢いで進歩している。なかでも3次元コンピュータグラフィックスなどのビジュアル関連の技術は、現実社会への影響の大きさからも、今後特に注目すべきといえる。</p> <p>本課題研究では、</p> <ol style="list-style-type: none"> (A) デジタル画像処理 (B) 画像解析・画像認識 (C) コンピュータグラフィックス (D) コンピュータ可視化 <p>などの各技術分野について、調査およびその将来性についての検討を行う。</p>

No. 6

担当者	愛媛大学防災情報研究センター 二神 透 (ふたがみ とおる) 松山市総合政策部危機管理課 芝 大輔 (しば だいすけ)
テーマ	①災害の世紀に備える防災・減災のシステム論的アプローチ ②国内外の同年代と交流しながら様々な分野で防災にアプローチしよう！

概 要	<p>① 21世紀は災害の世紀と言えます。今、地震の活動期に入るとともに、地球温暖化による気候変動によって、雨の降り方が大きく変化しました。そして、活断層の活動による直下型地震や、プレート境界域での巨大地震が近い将来発生します。特に、四国に住む私たちは、南海トラフ巨大地震に備えることが喫緊の課題です。地域で災害の犠牲者を出さないためには、減災対策を徹底的に行うことが最も効果的です。減災とは、対策の足し算であり、多くの対策を足し合わせることで、被害を減ずるという考え方です。</p> <p>この研究課題では、様々な対策を要素として捉え、要素間の関係を明らかにし、減災の全体像を明らかにしたいと考えています。例えば、リスクマネジメント、自助・共助・公助、災害避難シミュレーター、マイタイムライン、災害図上訓練、クロスロードなど、一人一人の意識を変えていくことが最も重要だと考えています。</p> <p>② 防災の知識を学び、みなさんが主体的に小中学生への防災教育や大学生防災士の活動などに関わりながら実践力を身に付け、松山市と愛媛大学が連携して進める「全世代防災教育」の推進役として、県内他校の高校生や、被災地など全国の生徒・学生、海外の同年代と防災イベントで交流するほか、まちづくりやファッション、アニメなどの分野でも防災の要素でアプローチし、広く市民に防災意識を啓発できるような取組を皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。</p> <p>日本全国や世界を視野に考え、交流し、楽しくアイデア溢れる学びにしましょう！</p>
-----	---

No. 7

担 当 者	松山大学薬学部 武智 研志 (たけち けんし)
テ ー マ	臨床統計を用いて情報データの活用について考えてみよう
概 要	<p>皆さんの身近にある病院や薬局などの臨床現場では、患者さんに医療を提供することはもちろんですが、その際に様々な医療情報データが集積されていきます。これらの情報をうまく活用することで、特定の医薬品の使用による疾病発生リスクまたは予防効果、あるいは薬剤師による指導がもたらす疾病発生の軽減などを示すことができ、これまで以上に質の高い医療を患者さんに還元することも可能になります。本講座では、臨床課題に対する解決策を「臨床統計」を駆使して、臨床現場で役立つエビデンスの構築について、皆さんで積極的に議論しながら学んでいただけたらと思ひます。</p> <p>具体的には、「臨床統計」について、基本的な考え方などを学習してもらった後から、各自の研究テーマをどのように設定するところからはじめます。そして、テーマに沿ってアンケート調査などを一般の方や学生を対象に行い、臨床統計を用いて分析・考察を行っていただけたらと思ひます。講座中には、薬剤師が行った臨床現場でのエビデンスなども紹介しながら、臨床現場（リアルワールドデータ）がどのように活用され、今後どのように付き合っていくのかを医療従事者の立場で考えてみる機会にもなればと思ひます。</p>

No. 8

担 当 者	松山大学薬学部 橋本 満 (はしもと みつる)
テ ー マ	医薬品情報を用いて医薬品の適正使用について考える
概 要	<p>近年、膨張する医療情報の中で、特に医薬品情報に関して理解し、個々の患者に適した薬物治療を提案できることが、薬の専門家である薬剤師の職務として求められています。本課題では、特定の病気に関する医薬品の種類や作用機序等の医薬品情報を自分で収集してまとめたのち、年齢や別の疾病を併せて発症しているような特定の患者に対する適切な医薬品の選択とその判断基準になるポイントについて考察していきます。</p> <p>具体的には、まず患者に薬を作用させるうえで、考えなくてはならない基本的事項について勉強していきます。その後、担当教員と相談の上になりますが、学生が主体的に選んだ疾患について調査し、またその疾患に対する医薬品を作用機序別にまとめていきます。その中で同じ作用機序をもつ医薬品について、医薬品情報から個々の医薬品の特徴を明らかにし、それがどのような患者の治療に有効であるかを考察していきます。</p> <p>※作用機序：薬が疾患に対して治療効果を及ぼす仕組みのこと。</p>

No. 9

担 当 者	松山市選挙管理委員会事務局 松田 耕一 (まつだ こういち) 新土居 勇 ((にいどい ゆう)
テ ー マ	若者の投票率と選挙啓発 ～企画から実践までやってみよう～

概 要	<p>選挙は国民が政治に参加する最大の機会であり、民主主義の根幹をなすものですが、近年、その各種選挙において投票率の低下、特に若者の投票率の低さが全国的な問題となっており、総務省や全国の選挙管理委員会では、様々な投票率向上に向けた取組を行っています。</p> <p>そこで、本講座では、選挙制度の基礎知識をはじめ、投票率低下の原因や対策について、これまで行われた調査研究や先進的な取組などを学びながら、実際に選挙啓発の企画立案や実践を行うことで、社会や地域などの問題や課題に自ら参加し解決する主権者としての能力を身に付けることをめざします。</p> <p>《以下は、本講座で予定している内容の一部です》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○選挙制度の基礎知識を蓄えよう！ <ul style="list-style-type: none"> ・選挙の種類と投票方法 ・禁止されている選挙運動 ・近年の各種選挙の投票率 ○選挙啓発はなぜ重要か？ <ul style="list-style-type: none"> ・選挙啓発の必要性 ・投票率向上に向けた各種調査研究 ・松山市における選挙啓発の取組 ○模擬選挙をやってみよう！ ○投票に関するアンケート調査を行なってみよう！ ○選挙啓発を企画、実践してみよう！（選挙啓発のポスター作成や放送収録等） ○もうすぐ18歳になる私たちが今できること
-----	--

No. 10

担 当 者	愛媛県立中央病院新生児内科 山内 俊史（やまうち としふみ）
テ ー マ	赤ちゃんを通して社会を見つめる
概 要	<p>本講座では、赤ちゃんが生まれ育つ地域社会について、周産期（赤ちゃんが生まれる前後の時期）の医療の観点から学んでいきます。可能な範囲でいろいろな場所に足を運び、赤ちゃん、子ども、家族と会い、その経験を通してこれからの世代が解決していくべき社会課題について一緒に考えていきます。研究テーマの例を挙げると、子育て世代包括支援、周産期メンタルヘルス、母乳育児支援、出生前診断、遺伝性疾患、先天異常、医療的ケア児、療育、がん・生殖医療、胎児の栄養、里親制度、周産期医療ネットワークなど、ひとりひとりが興味のあるテーマを選び、それに対して自分たちの足元から何ができるか、何をすべきなのか、について考えます。皆で積極的に議論しアイデアを出し合いながら楽しく有意義な時間を過ごしましょう。</p>

No. 11

担 当 者	いよぎん地域経済研究センター 重松 栄治（しげまつ えいじ）、 中川 智裕（なかがわ ともひろ）他6名
テ ー マ	人生100年時代を見据えた今後の生き方、地方の在り方
概 要	<p>本講座で人生100年時代を見据えた今後の生き方、地方の在り方について以下のことを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①愛媛の現状について、データを活用し分析する力を身に付けます。 ②問題解決に関して課題を発見できる力を身に付けます。 ③調査を進めるにあたって、アンケート調査やRESASを活用してのデータ取得方法について学びます。 ④自分の意見を相手に伝えるために、各発表においてプレゼン能力を向上させます。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「人生100年時代」 2. 100年時代を見据えた生き方を考える 3. 100年時代を見据えた地方の在り方を考える 4. 生徒発表 講評 5. 問題発見手法 6. 身近な問題を考える 7. 生徒発表 講評 8. 現状分析手法 アンケートの実施方法 9. ○○を調査するアンケートを組み立てる 10. アンケートを集計する

	11. アンケートを分析する 12. 結果発表 講評 13. 現状分析手法 RESAS 活用方法 14. RESAS を集計する 15. RESAS を分析する 16. 結果発表 講評 17. 100年時代を見据えた地方の現状を分析する① 18. 100年時代を見据えた地方の現状を分析する② 19. 100年時代を見据えた地方の課題を抽出する① 20. 100年時代を見据えた地方の課題を抽出する② 21. 100年時代を見据えた地方の方策を考える 22. 発表資料作成 23. 発表 講評
--	--

No. 12

担当者	Save Yemen Babies 代表 大川 理恵 (おおかわ りえ)
テーマ	日本在住難民の方との、バランスのよい付き合い方とは
概要	<p>紛争や、迫害などの理由により、難民として、日本に避難した方って、どのくらいいると思いますか？</p> <p>日本での暮らしは、どうなのか？難民の方に直接聞いてみたいと思いませんか？</p> <p>本講座では、難民について、皆さんと一緒に考え、研究していきます。</p> <p>はじめに、</p> <p>①日本に滞在する難民の統計的な調査、なぜ、難民は発生するのかを調べる。(4月～5月)</p> <p>次に、②実際に、内戦で日本に避難して来た難民の方とお話して、(6月)</p> <p>その難民の方との会話から、</p> <p>③これから、どんなことが社会的課題なのかを、提案していく。(7月～9月上旬)</p> <p>そして、④その提案された課題の中から、自分たちが出来そうなものから取り掛かれるものは、何なのか？を考える。(9月中旬～11月)</p> <p>⑤出来るものから、実践する。(12月～3月)</p> <p>提案したことが、何が良くて、悪いかは、実践しながらでないと、判断できません。ですので、まずは⑤『できるものから、実践する』までは、やってみましょう！</p>

No. 13

About lecturer	Name: Vincent Merkhofer About lecturer: Vincent is an award winning teacher with a long career in all facets of EnG Lish Communication. He has worked with students who have survived severe brain trauma, adults enrolled in college-based literacy programs and EFL students from around the world at UC Santa Barbara, San Jose State and UC Berkeley. He has worked as book editor for Kawaijuku and as an TOIEC and TOEFL test administrator for ETS. He is from San Francisco, California and currently lives in Matsuyama with his wife and two dogs.
Theme of this lecture	Don't Worry About EnG Lish! Communicate Culturally!
Outline of this lecture	<p>In this seminar, participants will gain an understanding of the communication characteristics of both soft-type cultures (Japan, Thailand) and hard-type cultures (U.S., Germany, China, etc.).</p> <p>They will also explore major communication conflicts that arise from differences in way of life and language and communication techniques that will help them to avoid these conflicts and help them to communicate in EnG Lish more confidently and easily.</p> <p>The seminar will include video clips drawn from film and television illustrating examples of communication characteristics of both hard and soft cultures, classroom discussion about what differences and conflicts will potentially cause problems in communication and role playing to develop verbal and non-verbal strategies to avoid these misunderstandings.</p> <p>コミュニケーションに関する内容なので、英語に苦手意識がある方にも、是非受講してください。</p>

No. 14

担当者	元京都大学東南アジア研究所研究員 嶋村 美和 (しまむら みわ)
-----	----------------------------------

	元京都大学大学院法学研究科助教 梶原 春菜 (かじわら はるな)
テーマ	多文化社会をどう生きるか——生活者の視点から捉えなおす「共生」
概要	<p>皆さんは「愛媛で会う外国人」というと、誰を思いうかべますか？松山城で遭遇する外国人観光客、学校の英語の先生、エスニック料理レストランの店主など、いろいろあると思います。今年年間、日本におよそ3200万人の外国人がやってきます（2019年）。現在は新型コロナウイルス感染症により渡航規制が敷かれていますが、今後規制の緩和により、松山でもまた外国人観光客の姿を目にすることになるでしょう。他方で、愛媛県には今1万2000人の外国人が住んでいます。出身国別にみると、愛媛県では、中国、ベトナム、フィリピンの順に多く、このトップ3で外国人居住者の78%を占めます。とりわけ近年増えているのは、技能実習生や専門技術を有する資格で来日した外国人で、松山市や今治市を中心に製造業や建設業に従事しています（愛媛労働局調べ）。「身近にいる外国人」を考えたときに、イメージと現実のギャップや、私たちの知らない外国人の存在に驚く人もいるのではないのでしょうか？</p> <p>愛媛県の人口（134万人）の1%という、居住外国人の人数は小さな数のように見えますが、少子高齢化が愛媛でも問題となっていることを考えると、今後私たちの生活や経済はますます外国人の貢献抜きでは回らなくなるでしょう。そして身近にすむ外国人の数も今後ますます増えると予想されます。私たちは「隣に住む日本人」として、外国人をどのような形で地域社会に迎え入れたら良いのでしょうか？</p> <p>この講座では、同じ地域に生活する者という視点から、外国出身者との共生を考えます。働いて生活するために愛媛にやってきた外国人は、生活、医療、教育の各分野でどのような問題に直面するのか、近隣住民とのトラブルはどのように生じ、それはどのように解決すれば良いのか、あるいは未然に防ぐことが出来るのか。近年、「多文化社会」や「多文化共生」が日本の将来を考える上でのキーワードのように語られていますが、それは実際にどういうことを意味するのか、皆さんに考えてもらおうのが、この講座のテーマです。なお、本講座では「多文化社会」とは、近年外国からやってきた人だけでなく、外国人と日本人の両親を持つ子供（大人）や、国籍は日本だけれども外国にルーツを持つ人も含むと捉えています。講座の前半は、レクチャーとディスカッションによる各人の知識の習得、後半は得た知識を使って、自分たちの関心あるテーマで調査し、外国人の生活の助けになるような成果物を出してもらいます。楽しく勉強しましょう。</p>

(5) 課題研究の中間発表

課題研究の中間発表として、研究結果を生徒各自で（あるいはグループごとに）ポスターにまとめた。以下がその作成したポスター一覧である。（68枚）発表の詳細は『IV. 成果の普及』の「2 1・2年生合同中間発表会」にて記載。

番号	タイトル	発表者	講師
01-01	結局地域活性化って何なの？	東達也	竹島
01-02	地消地消×フードダイバーシティ	平松花穂	竹島
01-03	もし愛媛県に瀬戸内海がなかったら…	越智勇満	竹島
01-04	地域活性化のための理想の多世代交流拠点とは	横山紗音	竹島
02-01	思いのこもった魔法の瓶～シークワサーマーレード商品化へ向けて①～	笹田菜月 菅野颯太 磯野由依	岡本
02-02	思いのこもった魔法の瓶～シークワサーマーレード商品化へ向けて②～	岡本拓実 高村藍梨 鈴木陽菜	岡本
03-01	すべての人に教育を、SDGs NO.4	井口航晴	小林
03-02	作る社会から創る社会へ	森一生	小林
03-03	Chance For All Children～全ての子供に平等にチャンスを～	武田もなみ	小林
03-04	Virtual Ocean～SDGs海の豊かさを守ろう～	杉本和歌菜	小林
03-05	アイスランドとジェンダー平等と日本	藤本佳野	小林
03-06	現実	稲葉留美	小林
03-07	すべての子供に教育を～今この瞬間も子供は働いている～	河野叶和	小林
03-08	わたしたちが創る未来の健康～“持続可能”な医療をめざして～	藤田彩愛	小林
04-01	農業リベンジャーズ ～棚田の最適化～	吉岡日菜乃 笠井翔洋 三宅義之 高野匠翔	松浦一
04-02	最強の棚田をつくれ！ in seiyoshi	児玉大和 須佐美岳 能田恭佑 窪田有希	松浦一

05-01	Our life with VR～SAOの実現に向けて～	二宮勇太	井門
05-02	情報に「触れる」タンジブル～情報に実感を与えるには～	宮本兼伸	井門
05-03	「最強の義眼」作成計画～神経インターフェイスの新たな可能性～	斎藤遊斗	井門
05-04	あなたは気づいている？クロスモーダル現象と利用	五十嵐翼	井門
05-05	Education×VR～勉強を苦から楽へ～	岡田拓真	井門
05-06	情報と健康 スマホ、使い過ぎていませんか？	重松元	井門
05-07	推しが画面から出てこないなら自分から行けばいいじゃない～VRによる夢の二次元交友～	藤岡佑哉	井門
05-08	「見えない何か」が手に触れる!?!～矛盾を可能にする空間ハプティクス～	天野安里	井門
06-01	地震にも負けずにネパールがんばる	上島瑛惟人 笹田翔太 明日孝允 佐野光	芝・二神
06-02	日本はタイと学びタイ!!	岸本丈太郎 平松由衣 齋藤董 二宮花鈴	芝・二神
07-01	あなたは大丈夫？身近に潜む受動喫煙	西隅勇翔 千石莉音 谷川愛采 古手川明里	武智
08-01	妊婦さんでも服用できる抗アレルギー薬	一宮早希	橋本
08-02	片頭痛の薬物治療と相性	徳永果威	橋本
08-03	寝る子は育つ	村上 陸	橋本
08-04	ネフローゼ症候群～ステロイド薬と免疫抑制薬による治療～	綱崎李紅	橋本
09-01	選挙？ うっせえ うっせえ うっせえわ	岡田玲奈 玉井理帆	松田
09-02	貴殿は選挙に本気ですか？～世界と日本、比べてみました！～	渡辺双葉 一色俊寛 武方優奈	松田
09-03	選挙しか勝たん～各自自治体の取り組み～	河田志帆 鎌田琴子	松田
10-01	新生児医療から医療的ケアへ～命を救う支援のつながり～	大西花乃	山内
10-02	はにゃ!? ～血液のがん～	松岡結子	山内
10-03	筋ジストロフィーと遺伝	重見萌絵	山内
10-04	がんと生殖医療と地域	渡部紗羅	山内
10-05	風しんから赤ちゃんを守ろう	谷岡沙恵	山内
10-06	助けたい小さな命～小児がんと闘う子供たち～	小坂萌恵	山内
10-07	妊産婦のメンタルヘルスを守る	山岡由蘭	山内
10-08	あなたは受ける？出生前診断	植田実咲	山内
11-01	#えひめで子育てしてみた	久野拓海 遠藤いぶき 窪中瑞希 近藤千夏	中川
11-02	未成年の主張	池川正真 越智華奈 小野下未来 窪田捺希	中川
12-01	共生に向けて	西川結菜	大川
12-02	難民と現地の人々が絆を深めるには？～未来ドラフトを通じて～	安部紗世	大川
12-03	日本の冷たい難民対応に迫る	多田莉紗子	大川
12-04	シリア難民問題に迫る	本田そよ花	大川
12-05	難民問題を「知る」	森脇早希	大川
12-06	日本での難民の生活と世界の比較	岡本歩夏	大川
12-07	私たちが「今」できること	菊池ひより	大川
12-08	未来ドラフトを通して考える日本における難民教育について	日野鶴乃	大川
13-01	What are ways to encourage English communication for Japanese high school students?	石田遼太郎	ヴァンセント
13-02	What are differences in personal communication between members of Japanese society and Western societies?	石橋審平	ヴァンセント
13-03	Does Japan's education satisfy the requirements of today's international society?	村上逞	ヴァンセント
13-04	What do you say in polite form?	名合真梨	ヴァンセント
13-05	How do differences in culture create differences in communication?	小野真悠子	ヴァンセント
13-06	"Does the Japanese facility for "pretending not to see" facilitate or hamper cross-cultural communication?"	伊藤夏希	ヴァンセント
13-07	What are the differences between the way Japanese argue and the way Westerners argue?	松下楓佳	ヴァンセント
13-08	What are the differences in attitudes toward personal communication and the way of thinking/speaking in "Soft-type culture" versus "Hard-type culture"?	藤岡愛結	ヴァンセント

14-01	外国人の子どもは日本の学校に通えていない？～不就学～	宮竹宏徳	嶋村梶原
14-02	外国人の持つ「小さな疑問」、もっと気楽に解消させたい！	越智天音	嶋村梶原
14-03	外国人に介護してもらおう時代？	樽井祐奈	嶋村梶原
14-04	災害と外国人観光客 旅をもっと楽しくご安全に！	鈴木美空	嶋村梶原
14-05	手話のグローバル化は進むのか？	立花なごみ	嶋村梶原
14-06	外国人と地域住民の交流を通して松前町の活性化を図る.	平井愛純	嶋村梶原
14-07	愛媛県の企業が外国人労働者にできるサポートは？	山口葉央	嶋村梶原
14-08	在日外国人×医療 松山市の現状	梅崎鈴歩	嶋村梶原

(6) 課題研究の成果

3月の研究成果発表会では、課題研究の成果をふまえて、シンポジウム形式での発表・議論を行った。議事録は『IV. 成果の普及』の「4 令和3年度研究成果発表会」に記載。

2 海外フィールドワーク代替交流【G明教Ⅲ】

(1) 主旨

課題研究の充実を目的として、フィールドワークを実施し、滞在先で研究経過の発表や意見交換を行う。同時にフィールドワーク先の現地大学・高校との交流学习を行い、英語での本校・愛媛・日本の紹介や成果発表プレゼンテーション、ディスカッションを行い、高度な語学力・コミュニケーション能力、思考力・判断力・表現力・分析力の育成を図る。

(2) 実施内容

年度当初は、10月23日（土）～10月27日（水）の4泊5日でフィリピンを訪問する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止及び、海外渡航中止勧告が継続していたために、本年度もオンラインでの交流に変更して実施した。

①企業との交流

実施日時 12月16日（木）11：50～12：50
 交流先 渦潮エンタープライズ株式会社フィリピン
 内容 11：50～12：10 学校紹介（本校）
 12：10～12：30 フィリピンより
 12：30～12：50 質疑応答

生徒感想

- ・フィリピンで電動三輪車を販売するBEMAC BEETの活動が、そこで普及しているガソリン式三輪車を電動車に置き換えることによって大気汚染などの問題の解決に貢献していることを学びました。そのような対策の要は、企業の高い技術力とそれを活用する発想にあると思いました。自分の強みを分析し、それを広く問題解決に活かす姿勢を大切にしたいです。
- ・実際にフィリピンへ行って企業の見学をすることはできませんでしたが、リモートでも多くのことを学べたし、質問もたくさんすることができました。環境問題を解決するために工夫された電動三輪車は、交通量が多いフィリピンの国を考慮したもので、企業の高い技術がなければできないものだなと感じました。私は今現在SDGsについてGLで学んでいるので、企業がSDGs達成のためにどのようなことをしているのかももっと詳しく学び、自分にできることを探したいと思いました。楽しかったです！このような機会を設けていただきありがとうございました。
- ・BEMACさんのお話を聞いて最も印象に残っているのは、「市民の成長とともに企業を成長させる」という言葉です。独自のEV事業の展開は、地球にやさしいだけでなく、現地の人々の収入を増やすことや雇用促進につながっていることを知りました。企業が海外展開をするうえでの利点や苦勞、フィリピン社会の今を学ぶことができ、自分の将来につながる経験になりました。ありがとうございました。



②フィリピン

実施日時 2月14日（月） 16：45～17：45

交流先 U P I S (フィリピン大学附属高校)
 内 容 16:45~17:05 学校・国紹介 (本校)
 17:05~17:25 学校・国紹介 (UPIS)
 17:25~17:45 質疑応答

生徒感想

- ・同じ年代の外国の方と話すのが初めてだったので緊張しましたが、新鮮でとても楽しかったです。フィリピンに行って直接顔を合わせての交流ができなかったのが残念でしたが、フィリピンの学校の様子を教えてもらい、また日本についても教えることができ良かったです。皆さんとても流暢に英語を話されていて、自分ももっと頑張ろうと思えました。とても楽しくて、貴重な体験でした。ありがとうございました。
- ・コロナの影響で直接顔を合わせてお話をすることはできませんでしたが、オンラインでも同世代の人と学校のことや身近なことなどたくさんを知ることができ、文化の違いなども良い意味で楽しむことができました。そしてこのような交流がこれからも続いてほしいなと思ったし、自分から交流の輪を広げていきたいなと思いました。貴重な時間をありがとうございました。
- ・同じ年齢の外国人の方と話すのは初めての経験で、とてもいい刺激になりました。実際に会ってお話することはできませんでしたが、プレゼンテーションでフィリピンの学校のことなどを知ることができ、勉強になりました。一番印象に残っているのは、フィリピンの方が「英語は第二言語だけど、普段から英語を使う機会が多いから自然と使えるようになった。」とおっしゃっていたことです。自分も日ごろから英語で話す機会を作り、英語力をアップさせていきたいと思います。このような貴重な経験ができる機会を作っていただきありがとうございました。
- ・ここ松山東でしか経験出来ないフィールドワークに参加することが出来て本当に良かったです。画面越しでしたがそれでも伝わってくるフィリピンの高校生の熱意に刺激を受けました。生活している環境は違えど、一生懸命自分の思いを伝えようとするとその気持ちが相手に伝わり、とても嬉しくなります。英語を器用に話すことが出来なくても、相手に伝えようとする強い気持ちがあればコミュニケーションを取ることが出来るということを改めて実感しました。今回の経験を生かして自分の進路を実現するために頑張ろうと思います。貴重なお時間をありがとうございました。



後日生徒よりUPIS生徒一人一人にお手紙を送付し、草の根の交流が継続している。

3 内容言語統合型学習 (East CLIL) 【坊っちゃんタイム】

(1) 主旨

様々なテーマについて英語で学ぶことにより、語学力の向上をめざし、同時に、思考力・判断力・表現力・分析力の育成にもつなげる。

(2) 授業の流れ

教科書で取り上げられている教材について雑誌やTEDを利用して深く調べてリテリングを行ったり、オンライン英会話を利用して、チューターとフリートークができるように関連事項の充実を図る。2時間でひとつとし、各時間の実施内容は下記の通りである。

1 時間目 (英語担当教員)	2 時間目 (英語担当教員)
<ul style="list-style-type: none"> ・レッスン内容についての単語の理解 ・教材の内容理解とグループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン人チューターとのオンラインレッスン ・調べたことの発表やリテリング ・自己評価

(3) 実施内容

	科目	テーマ
1 学期	East CLIL on the Global Issues	Japanese Dishes
2 学期	East CLIL on the Global Issues	Medical Care science
3 学期	East CLIL on the Global Issues	History

(4) 評価

- ・ネイティブスピーカーと個別に一定時間会話をする体験ができた。度胸もついた。
- ・音読はできても、とっさに英語で答えることができずとてもはがゆかった。次はもっと頑張ろうと思った。

- ・話すだけでなく、聞く練習にもなるので良かった。
- ・既習内容をさらに深化させて英語で話すことで語彙力の強化や教材理解につながった。



4 保健講座

(1) 主旨

海外に渡航する際に事前に知っておくべきこと、現地で病気にならないために必要なこと、もしも病気になってしまった場合の対処方法、帰国後に注意すべきこと等を学ぶことで、海外で健康を維持し、安全に有意義な活動ができるようにするためのスキルを身に付ける。また、グローバルな人材として活躍するために必要な感染症に関する知識やその対策について学び、国内、海外を問わず健康を維持し、安全に有意義な活動ができるようにするためのスキルを身に付ける。

(2) 実施内容

以下の2講座を外部講師に依頼し実施した。

実施日	講演内容	講師
6月14日(月)	海外研修・留学のための危機管理	愛媛大学国際連携推進機構 国際教育支援センター 准教授 高橋 志野 氏
10月25日(月)	グローバルに考える感染症のはなし	松山市保健所 医師 中村 清司 氏 松山市保健予防課 保健師 神尾 佐貴恵 氏

①「海外研修・留学のための危機管理」

講師：愛媛大学国際連携推進機構国際教育支援センター 高橋 志野 准教授

場所：本校 地歴公民教室・化学講義室・化学実験室

概要：安全で安心な海外派遣・留学のためには、日本人の危機意識の低さを認識する必要がある。考えられるリスクとしては、窃盗・強盗・暴動・テロなどがある。安全確保のための情報源（外務省海外安全ホームページ・感染症情報センター）や外務省在外公館等とのネットワークを駆使して危機判断の情報収集源とレベルを上げなければならない。

生徒感想：

- ・海外に行くときに気を付けておくべきことや、巻き込まれやすいトラブル、それに対する対策などを具体的に知ることができた。
- ・外国の常識と日本の常識は全く異なるということが一番印象に残っている。日本での当たり前が、海外では目立ってしまい、被害者や時には加害者になってしまうことがあることを聞いて驚いた。そうならないように、事前の準備をしっかりとしていきたい。
- ・今回の講演を聞いて、改めて海外に行きたい気持ちが強くなりました。コロナが収まったら、しっかりと対策をして行きたい。
- ・日頃から「もしも・・・」のことを想定し、危機感を持って行動していきたい。
- ・現在コロナ禍で海外に行けないが、今でも可能な身近な国際交流はたくさんあるので、海外との交流は続けていきたい。海外に行ける状況になれば、事前の情報収集と、プランBを思い浮かべて、有意義な海外研修を行いたい。
- ・プランBという言葉が特に印象に残った。大学に入ったら留学に行きたいと考えているので、普段からプランBを常に立て、用意周到な人間になり、十分な知識を頭に入れてから留学したい。



- ・日本とは異なる人や言語の中でやっていける気がしなかったのが、今回の講演で、海外に行くための対策が分かり、将来は行ってみたいと思うようになった。
- ・海外では日本とは全く異なる文化、価値観であることを常に意識して行動し、命の次にパスポートが大事であることを忘れず、トラブルに巻き込まれないようにノーという意思表示をはっきりしたいと思う。
- ・急なトラブルに対応できるコミュニケーション力や日本人が苦手な積極性などを日頃から身に付けておくべきだと分かりました。

②「グローバルに考える感染症のはなし」

講師：松山市保健所 中村 清司 医師、松山市保健予防課 神尾 佐貴恵 保健師

場所：本校 アリーナ

概要：感染症に対する基本的な知識を講義していただいた後、新型コロナウイルスや、愛媛県でもマダニが媒介し感染例が毎年報告されている SFTS ウイルスについて、また、海外で気を付けるべき感染症について、人形劇を用いて分かりやすく教えていただいた。

生徒感想：

- ・保健所と聞くと、私はイヌ・ネコに関係することを考えてしまうのですが、今日聞いたお話では、コロナウイルスに関しても大切なお仕事をされていることを知ることができました。医療関係のことに注目しがちですが、感染経路を調べるという役割も人々の不安を和らげたり、感染を防ぐ方法を見つけたりするという点でとても大切だと思いました。そして何より根気のいるお仕事だと思います。改めて自分自身の知識の無さを実感しました。
- ・私は今回の講演を通していかに自分が感染症に関して無知であるかを学びました。今まで私は感染症をただ「危なそうなもの」「うつさないよう、うつされないように」というくらいの認識で、ウイルスがどのように体に侵入するか、感染症にかかった時にどう対応するかなど、全然わかっていなかったものがたくさんあることに気づかされました。
- ・今回の講演を聞いて、新型コロナウイルスの詳しいお話やワクチンの違いなどについて説明していただき、より理解が深まりました。私はワクチンを打つか未だに悩んでいるのですが、今回のお話を参考に検討していきたいと思います。これから、グローバルにグローバルに活躍したいと願う私たちにとって、海外の医療状況を知ることは、大切なことだと思いました。先生の話は若者にもすごく興味を持てるように、人形劇や歌などを織り交ぜながら工夫してお話いただき、大変分かりやすかったです。
- ・私は将来医療系に進みたいと考えているので、感染症についてのお話を現場の方から直接お話をきくことができ、大変勉強になりました。コロナウイルスの話では、私もつい最近ワクチンを打ったばかりで、スパイクの設計図や体の中でどのように変化しているかなど、大変興味深く聞くことができました。また、一番衝撃的だったお話が、天然痘のお話でした。撲滅されたと認識していましたが、実験用に海外にまだウイルスの一部を保存していたり、凍土の下にまだ残っているかもしれないなどと聞いて、大変驚きました。
- ・私は将来海外渡航をしたいと考えているので、地域ごとに様々な感染症があることについて知ることができ大変勉強になりました。日本では事例はなくても、海外では存在している感染症などもあることから、何も知らずにいるということは大変怖いことだと感じました。海外へ渡航する際には、関連するサイトを参考にするなどしたいと思います。
- ・この講演を聞いて、感染症について深く学ぶことができました。何よりも予防の徹底を行うことが重要であると感じました。「自分の健康は自分で守る」ということを実現することは難しいことではないと思います。日々の取組を大切にしたいと思いました。
- ・自分が感染しているかもしれない、ウイルスを持っているかもしれないという意識を持って感染対策をするようにしたいと思いました。今は新型コロナウイルスの感染拡大は落ち着いているが、今後拡大していく可能性はあるので、日ごろから感染症対策を怠らないようにしたいと思いました。「自分の健康は自分で守る」という言葉を忘れず、日々健康に気を付けて充実した毎日を過ごせるようにしていきたいと思いました。



Ⅲ 3年生の取組（本年度対象：80人（GLコース生））

以下の内容で実施した。

	内容	カリキュラム名	回数 etc.	日付・期間	人数
1	課題研究	G明教Ⅳ	13回	4/19～9/27	対象者

1 課題研究【G明教Ⅳ】

(1) 主旨

生徒の好奇心を刺激するような、幅広いテーマ群についての協働的研究活動を行うことで、地域と世界の持続可能な社会に貢献する意欲と深い教養や問題解決力・コミュニケーション能力等の国際的素養の育成を図る。

(2) 概要

昨年（2年次）から継続して、以下の講師（13人）の先生方に、課題研究（全13回）を実施。9月の研究成果発表会で、全員が発表した。

(3) 課題研究の講師一覧

No	氏名	所属	課題研究テーマ
1	岡本 威明	愛媛大学教育学部	食品の機能性と安全性の評価および調理加工に関する研究
2	竹下 浩子	愛媛大学教育学部	SDGsで社会を変える
3	野澤 一博	愛媛大学社会共創学部	人口減少下における持続可能な地域経済について考える
4	松浦 真也	愛媛大学理学部	北欧と日本の比較分析
5	松浦 一雄	愛媛大学工学部理工学研究科	光を分けて、世界を見よう！
6	井門 俊	愛媛大学工学部理工学研究科	国内外における最先端のVRおよびAI技術
7	羽藤 堅治	愛媛大学大学院農学研究科	食料生産におけるスマート化農業に関する研究
8	小林 修	愛媛大学国際連携推進機構 アジア・アフリカ交流センター	Beyond SDGs 2030 - SDGsから見た世界各国の今と、2030年以降の私たちの暮らし
9	中山 晃	愛媛大学教育・学生支援機構 英語教育センター	地域観光英語：地元の観光地を学び、英語で案内・紹介してみよう！
10	Jonathan Jackson	松山大学講師	Multi-culturalism in Japan
11	芝 大輔	松山市総合政策部危機管理課	松山市の「全世代型の防災教育」事業の企画立案や教育プログラム作り、教育の実践に参画して、皆さんの手で松山のまちづくり・ひとづくりを進めよう！
12	長友 太郎	愛媛県立中央病院新生児内科	赤ちゃん、子ども、母、地域 2020-2021
13	梶原 春菜	元京都大学法学研究科助教	プラスチックごみ問題を考える

(4) 各講師の研究内容（希望調査時の講師から生徒への説明内容）

No. 1

担当者	愛媛大学教育学部 岡本 威明(おかもと たけあき)
テーマ	食品の機能性と安全性の評価および調理加工に関する研究
概要	<p>本講座では、以下の3つの分野を中心として課題研究に取り組んでいきたい。</p> <p>① 食品（飲料も含む）の機能性評価に関しては、生化学・免疫学的手法ならびに動物実験（マウス）等を用いて実験科学的に探究していく。</p> <p>② 食品の安全性評価に関しては、一般細菌ならびに食中毒菌培養寒天培地を用いて検討していく。</p> <p>③ 食品の調理加工研究に関しては、実際に調理を実践しながら、食品中の栄養成分、物性、色調、味覚等の変化を科学的に解明していくとともに、松山市内の飲食店等で販売可能な新規食品（飲料も含む）の開発も視野に入れて検討する。</p> <p><過去のテーマ例：一部抜粋></p> <p>【A】 柑橘未利用資源による抗アレルギー効果の解明 【B】 シークワサー葉パウダー等を用いた新規健康食品の開発 【C】 フードスタンプ等を用いた食品衛生に関する実験構築と実践</p>

No. 2

担当者	愛媛大学教育学部 竹下 浩子 (たけした ひろこ)
テーマ	SDG sで社会を変える
概要	<p>2015年9月に国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されて以来、SDG sの認知度はますます高まっています。朝日新聞の最新調査では、SDG sの認知度は27%に上昇しています。また、電通の調査によると、都道府県別のSDG s認知度は、愛媛県は第3位(21%)と高く、愛媛県の人々のSDG sに対する関心の高さが伺えます。</p> <p>そこで、様々な世代の人にSDG sについての関心をさらに高めることを目標として、その方法を考え、実際に行動に移すことで、高校生として社会に参画してほしいと思います。SDG sについて関心を持ってもらう方法の例として、プロモーションビデオを作成する、SDG sゲーム等を開発する、地域のイベントにブースを出すなどが挙げられます。</p> <p>これからの方法について、計画、実践、評価・検証を行い、持続可能な社会の構築に主体的に関わってもらいたいです。</p>

No. 3

担当者	愛媛大学社会共創学部 野澤 一博 (のざわ かずひろ)
テーマ	人口減少下における持続可能な地域経済について考える
概要	<p>人口の減少にともない、空き家や休耕地の増加、商店街のシャッター通り化、地域消費の停滞、財政の逼迫など地域は様々な課題を抱えています。地域の課題は種々ありますが、本講座では経済的な視点から地域の課題について考えていきます。まず、グループまたは個人の各々の関心をもとに地域の課題を抽出し、研究テーマを設定するところからはじめます。その後、各自の研究テーマに沿って文献やインターネットで情報を集めると同時に、県や政府の各種統計データをもとに分析を行っていきます。場合によっては行政や関係者へのヒアリング調査やアンケート調査を行えたらと考えております。そして、得られた研究結果から考察を行い、課題に関する改善案や地域活性化案などを検討していきます。</p>

No. 4

担当者	愛媛大学理学部 松浦 真也 (まつうら まさや)
テーマ	北欧と日本の比較分析
概要	<p>最近、日本でも福祉、環境保全、男女共同参画、教育などの観点から、北欧についての関心が高まってきています。その一方で、まだまだ「馴染み深い地域」とまではいっていない気がします。</p> <p>この課題研究では、スウェーデンを中心に、北欧諸国と日本とを客観的に比較することで、北欧に対する理解を深めるとともに、日本社会の未来について考えます。具体的に、どんなテーマ、切り口から北欧と日本の比較を行うかは、受講者の皆さんの興味をもとに決めたいと思います。</p> <p>なお、あまり知られていないかもしれませんが、スウェーデンは1749年以来、継続的に人口調査を実施するなど、世界有数の「統計大国」です。その上、情報公開も進んでいますので、スウェーデンについての客観的なデータや情報は、インターネットを通じて入手可能です。加えて、北欧と関わりのある様々な立場の方々にも、協力をお願いしたいと思います。</p>

No. 5

担当者	愛媛大学理工学研究科生産環境工学専攻 松浦 一雄 (まつうら かずお)
テーマ	光を分けて、世界を見よう！

概 要	<p>青空や海の輝きにもあるように、光の波長ごとの成分や強さを調べることで、遠くにある物質の存在や性質を調べることが出来る。分光法の基礎を学習・体験した後、光が空間を進む際の強度変化について計算する方法を学ぶ。学んだ方法をグローバルな問題に適用し、その解決策について考える。具体的には以下のように進める。</p> <p>4. 分光法の基礎 放出される光や吸収される光を波長ごとに分けることで、様々な物質の存在や内部の状態を調べることができる。原理を学んだ後、簡易分光器を設計・手作りし、分光を体験する。</p> <p>5. 輻射輸送方程式 多くの場合、光(電磁場の一種)は、必ずしも真空中でない吸収・発光・散乱のある媒体中を進む。その際の、光の強度の変化を計算する方法について学ぶ。</p> <p>6. 身近な地域課題に対する分光法の応用 学んだ方法論に基づいてグローバルな問題を考え、その解決策を探る。</p>
-----	--

No. 6

担 当 者	愛媛大学理工学研究科 井門 俊 (いど しゅん)
テ ー マ	国内外における最先端のVRおよびAI技術
概 要	<p>近年の飛躍的な計算機能力の向上に伴い、次世代のデジタル技術が急速な勢いで発展している。なかでも、バーチャルリアリティ (VR) や人工知能 (AI) などは、現実社会への影響の大きさからも、今後、特に注目すべき最新技術であるといえる。</p> <p>本課題研究では、特に、</p> <p>(A) VRの基礎と産業応用 (B) 拡張現実 (AR) (C) コンピュータグラフィックス (CG) (D) AIと画像処理 (E) AIと自然言語処理</p> <p>などの各技術分野について、最先端技術やその応用等を調査研究する。</p>

No. 7

担 当 者	愛媛大学大学院農学研究科 羽藤 堅治 (はとう けんじ)
テ ー マ	食料生産におけるスマート化農業に関する研究
概 要	<p>Society5.0を食料生産分野で実現するためのスマート農業について研究を行う。最先端の食料生産について、データサイエンスに基づくIoT利用、ビッグデータ、人工知能などについて実験研究を行う。</p> <p>特に植物や環境のデータ収集においては、ドローンや熱画像などの市販の計測装置の利用と、自分たちでラズベリーパイを用いて作成する環境や植物のデータ計測装置などを用いて実践的な研究に挑戦させる。</p>

No. 8

担 当 者	愛媛大学国際連携推進機構 小林 修 (こばやし おさむ)
テ ー マ	Beyond SDGs 2030 - SDGsから見た世界各国の今と、2030年以降の私たちの暮らし
概 要	<p>国連加盟国を中心に 2030年までの達成を目指す世界共通のグローバル目標SDGs (Sustainable Development Goals)。本課題研究では、世界各国の持続可能性の現状について、SDGs達成度指数、人間開発指数、エコロジカル・プリントなどの指標を調査研究することから探る。調査を通じて、2030年以降の暮らしに関して、持続可能性が最も低くなるシナリオ、最も高くなるシナリオ、そしてその中間シナリオを描くことを試みる。その上で、世界がより持続可能となるために、今私たち自身にできること、すべきことについて提案する。</p> <p>この課題研究を通じて、以下の力を身につけることをめざす。</p> <p>4. SDGsのターゲットと評価指標について説明できるようになる。 5. 世界各国の持続可能性を評価する指標を3つ以上説明できるようになる。</p>

	<p>6. SDG sの達成に貢献する人になるために必要な高校での学びについて、具体的な目標を立てられるようになる。</p> <p>7. 高校卒業後の進路と自らの将来の暮らしについてビジョンを描き、説明できるようになる。</p>
--	--

No. 9

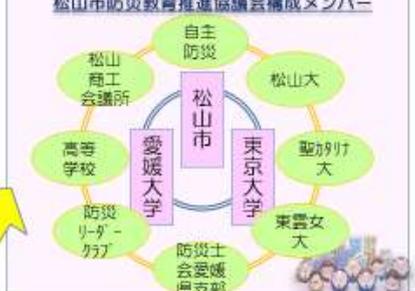
担当者	愛媛大学教育・学生支援機構英語教育センター 中山 晃 (なかやま あきら)
テーマ	地域観光英語：地元の観光地を学び、英語で案内・紹介してみよう！
概要	<p>「インバウンド」というキーワードの下、外国からの観光客の方々をおもてなしする様々な取り組みが、愛媛県内の各観光地で盛んにおこなわれています。</p> <p>この課題研究では、単に地元の観光地についての英語表現を学ぶだけでなく、外国人観光客をおもてなしする際の様々な課題について調査し、また、外国人に対して、英語でガイドを行うことの意義やその在り方についても検討します。</p> <p>これら一連の学びを通して、地元・松山の地域社会が抱える観光に関する課題を、自分自身の課題として認識し、高校生の視点で、その解決にどのように貢献できるか探究することを目的とします。</p> <p>【予定している内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松山城についての英語でのプレゼンテーション ・道後温泉周辺についての英語でのプレゼンテーション ・松山市内の観光資源についての英語のクイズ作成 ・オーバーツーリズム等の観光公害に対する取り組みについての調査 ・(日程が合う場合のみ) 大型客船寄港に伴う英語でのボランティアガイド

No. 10

担当者	<p>Belongs to: Lecturer at Matsuyama University</p> <p>Name: Jonathan Jackson</p> <p>Jonathan Jackson is from Leicester in the UK, where he worked originally as a music teacher. He later trained to teach English before coming to Japan in 2010. His first job was in a conversation school in Matsuyama and he went on to teach in an English-only pre-school and a few more conversation schools in the city. Since 2014 he has been teaching English at Matsuyama University.</p>
テーマ	Multi-culturalism in Japan
概要	<p>This workshop seeks to answer questions about Japanese society in the future.</p> <p>For example:</p> <ul style="list-style-type: none"> • With its decreasing population, can Japan survive as a mono-cultural society? • How prepared is Japan to adapt to a multi-cultural society? • What are Japanese people's present attitudes to people from other countries? • Does language education - both Japanese, for newcomers, and English, or other languages, for Japanese people - need to be improved? • Would multi-culturalism harm Japanese culture? • What are the benefits (economic, social, cultural) of multi-culturalism? • What is the history of multi-culturalism in the past in Japan (for example, Chinese influence, the 'Christian Century', towns where many people from other countries live now, like Isesaki in Gunma)?

No. 11

担当者	松山市総合政策部危機管理課 芝 大輔 (しば だいすけ)
テーマ	松山市の「全世代型の防災教育」事業の企画立案や教育プログラム作り、教育の実践に参画して、皆さんの手で松山のまちづくり・ひとづくりを進めよう！

<p>概要</p>	<p>松山市では、市長公約である「小学生から高齢者まで切れ目のない防災リーダー育成」を進めるため、東京大学、愛媛大学などと連携協定を締結して、産官学民のオール松山（下記資料参照）で全世代型の防災教育ができる環境づくりや仕組みづくりをおこなっています。</p> <p>松山市でスタートした全国にも例のない取組に、あなたも参画できる貴重な機会です。ぜひ、皆さんのアイデアや実践力を松山市政に生かしてみましよう！</p> <p>本課題研究では、災害や防災に関する基礎的な知識を学び、市の事業を研究して、あなた自身の発想やアイデアを市の防災教育事業に反映させていくことを目的にしています。皆さんが考えた防災教育のプログラムを、皆さん自身の手で、小学生・中学生や地域の人たちに教えていくことも可能です。</p> <p>企画立案や防災教育の実践を通して、行政の事業とはどのようなものなのか、どのような組織が連携して、まちづくり・ひとづくりが進められているのか、様々な職域や世代の方々と一緒に学んでいくことができます。</p> <p>そして、このような取組を、国連を通じて東南アジア諸国をはじめとする、世界に広げていきたいと考えています。</p> <div data-bbox="335 739 1436 1388" style="text-align: center;"> <h3>オール松山で命を守るひとづくり!! 全世代型防災教育について</h3> <p>～小学生から高齢者まで! 切れ目のない防災リーダー育成のために～</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>★7月豪雨からこれまでの経過</p> <p>2018年7月6, 7日 7月豪雨で高浜地区をはじめ市内で甚大な被害が発生。地域防災力強化を!</p>  </div> <div style="width: 30%;"> <p>2019年5月31日 【松山市防災教育推進協議会設立】 愛媛大学×松山市×東京大学連携協定を軸に「産官学民」が連携して全ての世代に防災教育を行う全国初の全世代型防災教育の取組をスタートします!</p> <p>松山市防災教育推進協議会構成メンバー</p>  </div> <div style="width: 30%;"> <p>2019年9月～ 愛媛大学防災情報研究センターに「松山防災リーダー育成センター」設置</p> <p>様々な対象や世代に応じた防災教育の研修プログラムを作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学生教育プログラム 高校生教育プログラム 地域防災士研修プログラム 教職員防災研修プログラム 産業界BCP講習プログラム 福祉関係者研修プログラム <p>小中高の教育現場でレベルに応じた防災教育を実施 教職員や企業、地域など対象に応じて防災教育を実施 全世代、切れ目なく防災リーダーを育成!</p> </div> </div> </div>
-----------	--

No. 12

担当者	愛媛県立中央病院新生児内科 長友 太郎 (ながとも たろう)
テーマ	赤ちゃん、子ども、母、地域 2020-2021
概要	<p>本講座では、赤ちゃんが生まれ育つ地域社会について、周産期（赤ちゃんが生まれる前後の時期）の医療の観点から学んでいきます。実際にいろいろな場所に足を運んで赤ちゃん、子ども、家族と会い、その経験をモチベーションとしてこれからの世代が解決していくべき社会課題について一緒に考えていきます。研究テーマの例を挙げると、子育て世代包括支援、周産期メンタルヘルス、母乳育児支援、出生前診断、遺伝性疾患、先天異常、医療的ケア児、療育、がん・生殖医療、胎児の栄養、里親制度、周産期医療ネットワークなど、ひとりひとりが興味のあるテーマを選び、それに対して自分たちの足元から何ができるか、何をすべきなのか、について考えます。皆で積極的に議論しアイデアを出し合いながら楽しく有意義な時間を過ごしましょう。</p>

No. 13

担当者	元京都大学大学院法学研究科助教 梶原 春菜 (かじわら はるな)
テーマ	プラスチックごみ問題を考える

概 要	<p>本課題研究では、プラスチックごみ問題の原因や経緯を調べ、解決策を探ります。</p> <p>前半はグローバルな視点から、後半は地域（ローカル）の視点からプラスチックごみ問題を考えます。</p> <p>前半は、プラスチックごみを手掛かりに、「利害の対立をどのように調整するか」という問題を様々な側面から考えてみたいと思います。環境問題には、世代間の対立、南北間の対立（発展途上国と先進国）など、様々な利害の衝突が見られます。例えば、将来世代に良好な環境を残すことは重要な課題ですが、現在快適さを享受する私たちは将来世代のために、自分たちの利益をどの程度犠牲にする用意があるのでしょうか？また、日本をはじめ先進諸国は雑多なプラスチックごみを東南アジアなどの発展途上諸国に輸出し処理してもらっていますが、近年これらの諸国がごみの引き受けを拒否する事態が生じています。先進国のリサイクルを支えるために発展途上国に負担を強いるやり方は限界に来ているのです。その一方で、アメリカは世界最大の使い捨てプラスチックの排出国ですが、問題の解決に消極的です。どうしたらアメリカを問題の解決に関与するよう促すことが出来るのでしょうか？国家や個人の博愛主義的な行動に頼らず、国家や個人は自己の利益を追求する利己的なものであることを前提として、どうすれば問題の解決が可能なのかを皆で考えます。具体的には模擬会議などの形式を利用することを考えています。講師は国際関係論などの知見や過去の事例についてレクチャーを行い、問題を理解するツールを提供します。</p> <p>後半は、愛媛県におけるプラスチック問題の解決を自分たちの関心のある側面から考えてもらいます。今年度（2019年度）の1年生の課題研究で、同じタイトルでその現状や解決策について様々な側面から考える研究を行っていますが、次年度の本研究では、日本や愛媛県の特性を生かした問題解決を考えてもらいます。日本のプラスチックごみ問題にはこれまでの歴史的経緯や制度的な問題が存在します。日本でプラスチックバッグの規制が遅れている背景にはどのような要因があるのでしょうか？また日本では他の先進諸国に比べて若者の環境運動が盛り上がらないとの指摘がなされますが、仮にそれが事実であるとして、デモ運動による政策形成への影響という形以外に、プラスチックごみ問題の解決を進める方法はないのでしょうか？受講者には文献を調べるほか、関係機関に話を聞きに行き、（可能であれば）具体的な解決方法を考えてもらいます。柔軟な発想による主体的な取組を期待しています。</p>
-----	---

(5) 課題研究の成果

課題研究の成果として、研究結果を生徒各自で（あるいはグループごとに）論文にまとめた。なお、別冊にて論文抄録集あり。発表の詳細は『IV. 成果の普及』の「1 研究成果発表会」にて記載。

論文番号	論文タイトル	発表者	講師
30101	シークワサーによる新たな愛媛の地域活性化への調理加工研究	林奈々子	岡本先生
30102	シークワサーを使用した食品開発による地域および環境問題解決の提案	菊池 光	
30103	抗アレルギー効果を持つ食品の発見とその有効利用に関する研究	大西 歩	
30104	骨芽細胞に与える各種ビタミンの影響	城戸 椿	
30105	シークワサーの食品加工と第6次産業について	安藤菜穂	
30106	黒くなる果物、ならない果物、なる部分、ならない部分	菅 七海	
30107	抗アレルギー効果のある食品の研究	永田和子	
30108	シークワサーを活用した六次産業活性化への貢献	池田光希	
30201	SDGsと新型コロナウイルス	加藤彰悟	竹下先生
30202	男女の賃金格差の是正	河津遥架	
30203	SDGsに関する松山東高校の取り組み	乃万智美	
30204	地元から始めるSDGs ～子ども食堂の新たな役割～	福田雛乃	
30205	高校生とSDGs	芳野亜美	
30206	SDGsから考える未来に繋ぐ建築	玉井健登	
30207	SDGs と住み続けられるまちづくり	神野小雪	
30208	パートナーシップの在り方	竹田 彩	

30301	超高齢化地区、久万高原町を救うには	小倉歎大	野澤先生
30302	地域おこし協力隊の文化的活動における取組みの有用性について	野村隆志	
30303	若年層の進学・就職に伴う人口流出	隅田真央	
30304	伊予市の地域持続性 伊予市への移住	檜垣京吾	
30305	四国新幹線は地域を救うのか	柚山道明	
30401	北欧デザインと日本	石川太一	松浦真先生
30402	日本の労働環境改善と女性の更なる社会進出の実現に向けて	月岡菜々	
30403	多文化共生社会の実現に向けて今私たちができること	菅原菜々美	
30404	北欧の街から学ぶ 人々とアートの深いつながり	平 美奈	
30405	北欧の教育制度から日本の教育に活かせること	大西真由	
30406	北欧のスポーツ、モルックと障がい者スポーツ	丸山真司	
30407	有機・オーガニック食品の実態調査と今後の課題	楠田梓乃	
30408	印象語から分析する北欧デザイン	井上美咲	
30501	光と糖度	橋村瑞希	井門先生
30601	VRが生み出す「ポケモンとの触れ合い」	谷口 洸	
30602	人工知能が人間と共に仮想空間で作品制作をする時代へ	山下あすか	
30603	エンターテインメントにおける映像技術の活用	吉村萌夏	
30604	SF映画のxR技術は格差レス社会へのターニングポイントとなるか	樽茶大生	
30605	効率的な技術学習のためのAR、VR、MRの活用法	大野竣平	
30606	鑑賞のVRコンテンツにおける課題	新田佑次郎	
30607	リアルで緊張感のある避難訓練へ	井出麻友	
30701	成長阻害剤がキャベツとカンパニュラへ与える影響に関する研究	山口絵里奈	羽藤先生
	成長阻害剤がキャベツとカンパニュラへ与える影響に関する研究	石崎芽唯	
	成長阻害剤がキャベツとカンパニュラへ与える影響に関する研究	楠田和可	
30801	「日本に暮らす私たちが消費パターンによって変える世界」	伊賀上陽音	小林修先生
30802	No Hungerを現実	高須芽依	
30803	貧困をなくすためには	篠崎紀華	
30804	日本文化の捉え方	杉野若葉	
30805	再生可能エネルギーを身近にしよう	大谷安奈	
30806	SDGsの視点から考える次世代型自動車の有効性	野上朔佳	
30807	SDG3番の観点から見るアフリカ	矢野葉子	
30808	豊かな国の貧しい心	井上 藍	
30901	コロナ禍での外食について	明比かさね	中山先生
30902	観光業 PR から見るメディア・伝える力	三原心春	
30903	体験型観光による移住促進	竹縄あゆみ	
30904	愛媛と台湾でのコロナ禍における旅行に対する考え方の違い	藤田沙羅	
30905	松山と松山	進藤ひより	
30906	中国語の繁体字と愛媛の観光について	玉井志歩	
30907	松山&松山 台湾の高校生に提案する修学旅行プラン	松本まどか	
30908	愛媛のインバウンドを活性化させるために	川吾奈々子	

31001	HOW BICULTURAL PEOPLE ARE PERCEIVED IN JAPAN AND THEIR SENSE OF IDENTITY	松岡美響	ジャクソン先生
31002	Media literacy	坪内琴乃	
31003	English Education with Music Can music help English learners improve the clarity of their speech?	池内優葉	
31004	Foreign residents' experiences of the Japanese health care system	渡邊麻梨亜	芝先生
31101	まつやま防災マップ提案	蒲池純奈	
	まつやま防災マップ提案	三浦ほのか	
	まつやま防災マップ提案	末富りっか	
	まつやま防災マップ提案	山口真那	
	まつやま防災マップ提案	竹ノ内悠	
	まつやま防災マップ提案	中川優依	
31101	周産期医療の現場	小笠原朋夏	長友先生
31102	コロナ禍の周産期の問題と望まない妊娠による0歳0か月0日児虐待死	濱田和花	
31103	障がいと向き合う社会を目指して	山名里沙	
31104	脱施設化に注目した国内外の里親制度比較	木下輝来	
31105	周産期医療の現状とメンタルヘルス	堀江 杏	
31106	新型コロナウイルスと周産期における命の選別	村上由羽	
31107	晩婚化と日本	河端愛海	
31108	子宮頸がんワクチンの現状は自分たちの世代にどのような影響を及ぼすのか	渡部愛生	
31109	周産期と生命倫理について	仙波佑一郎	
31110	日本は里親委託率を上げるだけでいいのか	楠本菜央	
31111	命の選別に繋がる意思決定を支えるにはどうすればよいか	松井彩夏	
31112	コロナ禍の周産期と出生前診断	村上佳穂	
31101	脱プラスチック社会は実現可能か	谷本遼汰	梶原先生
31102	リサイクルの仕組みと費用負担から考える「プラスチック循環型社会」のありかた	松下卓央	

IV 留学

	内 容	対象者人数
1	本校の留学促進に向けた取組	全校生徒
2	留学生の受け入れ	1人

1 本校の留学促進にむけた取組

(1) 「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム 高校生コース」への参加説明会

主に短期の留学希望者を対象に「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム 高校生コース」参加に向けての説明会を3月に実施した。当コースは自分が希望する留学プログラムを申請して審査を受け、採用されると奨学金を出してもらえると、ユニークなものである。既定の留学プログラムが用意されていてそれに申し込む一般的なものと異なるため、その周知と採用に向けてのポイントについて説明を行った。説明会には多くの生徒が集まり、第7期生として2年生が2名、1年生が1名採用となった。しかしながら、コロナ禍により今年度中に渡航することはできなかった。しかし、この7期生については次年度いっぱいまで渡航期限が延長されることとなったので令和4年度の夏に2名が留学を考えている。

(2) 春休み語学研修プログラム（オーストラリア短期語学研修代替事業）

① 事業主旨

グローバル化が加速する21世紀に求められる、豊かな語学力・コミュニケーション能力・異文化体験をもつ「グローバル人材」を育成するため、夏休みの海外語学研修を8年前から行っている。主に初めて海

外に行く生徒を対象に募集をかけ、海外を経験することにより、帰国後もますます語学学習に熱心に取り組んだり、さらには海外への留学や進学を目指したりする生徒を育てる。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、夏季の実施を延期し、3月に渡豪できるよう準備していたが、それもかなわず中止となった。現地での研修に変わるものとして、クイーンズランド州政府教育省をはじめ様々な機関とオンラインプログラムを作成し、実施した。

② 事業概要

- ・ 1日3時間5日間のコース
- ・ 現地で語学学校に行き、ホームステイしながら生活することを疑似体験
(語学力の強化と、オーストラリアの文化体験)

	3月21日 (月・祝)	3月22日 (火)	3月23日 (水)	3月24日 (木)	3月25日 (金)
Slot 1	開講式 異文化コミュニケーショントレーニング	現地街探検の 事前準備	現地学生との 交流の事前準備	【語学研修】 プレゼンテーションの まとめ	サザンクロス 大学講義体験 質疑応答
Slot 2	【語学研修】	【語学研修】	【語学研修】	【語学研修】 プレゼンテーションの 発表練習	
Slot 3	現地ホームステイ体験	現地街探検	現地高校生との 交流	プレゼンテーション発表会	閉講式 5日間の振り返り

・ 実施時程

- 12:20 集合
- 12:30 ~13:20 Slot 1
- 13:30 ~14:20 Slot 2
- 14:30 ~15:20 Slot 3
- 15:20 解散

- ・ 生徒数 40人 (本校 28人、宇和島南中等教育学校より 12人、計 40人)

2 留学生の受け入れ

(1) Enkhbold Dulguun (エンフボルド・ドゥルグーン)

国籍：モンゴル

本校での履修期間：2021/10/21~2022/3/11

履修内容：1年8組に在籍。期間中は同組の生徒と同様に授業に参加

部活動：バレーボール部

担当教員の評価

モンゴルからの留学生で、本校で学び様々な経験をした。クラスには、海外への留学や外国に興味を持っている生徒も多くいたこともあり、すぐにクラスに溶け込むことができた。初めは日本語を難しいと感じていた場面もあったがすぐに上達し、友人や担任との会話は全て日本語ですることができた。帰国前に生徒にモンゴルを紹介するスピーチをしたときには、日本の高校生でも使わない美しい日本語の表現をし、また、冗談を入れながら話していた。

授業は、理解できないことを友人に聞くなど前向きな姿勢で取り組んだ。部活動はバレーボール部に所属し、友人とともに熱心に活動した。試合に出場するなど様々な経験を通して、チームメイトと深く交流した。

礼儀正しく、積極的に学習や部活動に取り組む姿は、クラスの生徒に良い影響を与えた。また、今回の交流により本校生徒の多くが国際的視野を養うことができた。

本人の感想：

アジア架け橋プロジェクトにエントリーをして、返事を待っていた時からもう1年間が経ちました。合格と聞いた後、家族と一緒に喜び、いろいろな思いをめぐらせ、留学を楽しみにしていました。日本に来てからは新たなことを学んだり、沢山の友達を作ったり、日本とモンゴルの様々な違うところ・似ているところを理解できるようになりました。ここに松山東高校に通って、感じたことやわかったことを紹介したいと思



います。

登校前日、少しナーバスな気持ちでホストマザーと一緒に校長先生や担当の先生たちに会いました。みんな優しく、その瞬間に何も心配することはないという気がしました。教室に入って、自己紹介をして一番後ろの窓側の席に座った時から部活のみんなと知り合って帰るまで瞬間まで、一日中ずっとアニメの世界にいました。これまでアニメで見ていた日本の学校の様子を自分の目で見て、今でもうまく表現できませんが、一言でいうと全部で夢のような一日でした。それからは忙しい日々が続いて、分からない事が沢山ありましたが、毎日を楽しんで過ごしました。一番驚いたことを言えば、学校がとつても寒いということでした。日本よりモンゴルのほうが寒いのですが、学校は全然違いました。エアコンを使わないうちは授業中に何も書けないほど手が冷たくなりました。そして風邪をひいたこともあります。でも、今はもう慣れましたし、風邪もひかなくなりました。

東高校に通って、わかったことの中で大切にしたいと思ってるものが二つあります。一つ目は、お互いを尊敬すればできないことはないということです、文化祭とかグループマッチとかの学校行事は、校長先生はじめ生徒みんなまで参加して助け合います。みんな準備はもちろん、終わった後は見る見るうちに周りをきれいに自分のやるべきことをちゃんとやっていました。二つ目は、日本では誰かできない人がいたら「一緒に頑張ろう！」と励まして、教えてくれることです。そして教わることで、最後にみんなまでできるようになってくることです。私は日本に来て体育の授業が大好きになりました。モンゴルの学校ではバスケットボールとバレーボールしかなく、さらにスポーツが上手な人だけやって、そうでない人はやらなくてもかまいません。私は何もしないで見るだけでした。日本ではバスケやバレー以外にテニスとかバドミントンとかもやってみました。最初からできるはずはなかったのですが、教えてもらって、時間をかけることで少しずつできるようになりました。ただ頑張ってみたいという気持ちで挑戦すればいいのだと思いました。

10月からのことを振り返ると、何もなかった真っ白な紙の上にすばらしい絵が描かれたかのような楽しい思い出と経験が沢山あります。この思い出を大切にしていつまでも忘れないようにしたいと思います。将来モンゴルと愛媛県そして日本の架け橋になる為に一生懸命頑張ります。愛媛県立松山東高等学校の皆様本当にありがとうございました。いろいろお世話になりました。また会える日を楽しみにしています。

IV 成果の普及

生徒のGL事業を通じた成長を発揮する場所として、以下三つの発表会とその他の普及活動を実施した。

	内容	発表学年	開催日（開催順）
1	令和3年度GL事業研究成果発表会	3年生	9/27
2	1・2年合同中間発表会	1・2年生	12/16
3	えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 中予	1・3年生	1/28
4	令和3年度研究成果発表会	1・2年生	3/10

1 令和3年度GL事業研究成果発表会

主旨：2年間の課題研究の発表を実施することで、それまでに取り組んできた課題研究の成果（問題解決力・思考力・分析力の向上）を示し、これまで重ねてきた発表を生かして高度なコミュニケーション能力・表現力・ディスカッション力を示し、さらに磨きをかける。

日時：令和3年9月27日（月） 13:40～16:30

場所：松山東高等学校 体育館・125教室・1210教室・地歴公民教室

参加者：全校生徒、教職員、来賓（課題研究指導講師、運営指導委員、コンソーシアム代表者会委員、市内中学校関係者、県内高校関係者、県外地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定校関係者、本校生徒保護者等）

内容：開会行事 挨拶 校長 和田 真志 総合司会 3年3組 柚山 道明 3年4組 池内 優葉
代表生徒発表 「ビタミンによる悪影響」（岡本 威明先生講座）3年5組 城戸 椿
「生かそう防災マップ～大切な家族の安全・安心のために～」(芝 大輔先生講座)
3年2組 蒲池 純奈 3年2組 三浦 ほのか 3年4組 末富 りっか
3年4組 山口 真那 3年8組 竹ノ内 悠 3年8組 中川 優依
卒業生によるシンポジウム 司会 3年6組 木下 輝来 3年8組 渡辺 有紗
卒業生 平成30年卒業生 板橋今日子さん（神戸大学4回生）
令和元年卒業生 岡本 千奈さん（お茶の水大学3回生）
令和2年卒業生 渡邊 真紘さん（早稲田大学2回生）

閉会行事 挨拶 校長 和田 真志



分科会 (15会場)

1 2 1 教室

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| ①「SDG s と新型コロナウイルス」 | 加藤 彰悟 |
| ②「超高齢化地区、久万高原町を救うには」 | 小倉 歆大 |
| ③「人工知能が人間と共に仮想空間で作品制作をする時代へ」 | 山下あすか |
| ④「SDG 3 番の観点から見るアフリカ」 | 矢野 葉子 |
| ⑤「まつやま防災マップの活用についての提案」 | 山口 真那、末富りっか、竹ノ内 悠 |

1 2 2 教室

- | | |
|---------------------------------------|-------|
| ①「周産期医療の現場」 | 小笠原朋夏 |
| ②「男女の賃金格差の是正」 | 河津 遥架 |
| ③「地域おこし協力隊の文化的活動における取組みの有用性について」 | 野村 隆志 |
| ④「SF映画の x R 技術は格差レス社会へのターニングポイントとなるか」 | 樽茶 大生 |
| ⑤「豊かな国の貧しい心」 | 井上 藍 |

1 2 3 教室

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| ①「コロナ禍での外食について」 | 明比かさね |
| ②「コロナ禍の周産期の問題と望まない妊娠による0歳0か月0日児虐待死」 | 濱田 和花 |
| ③「SDG s に関する松山東高校の取り組み」 | 乃万 智美 |
| ④「若年層の進学・就職に伴う人口流出」 | 隅田 眞央 |
| ⑤「効率的な技術学習のためのAR、VR、MRの活用法」 | 大野 竣平 |

1 2 4 教室

- | | |
|-------------------------------|-------|
| ①「鑑賞のVRコンテンツにおける課題」 | 新田佑次郎 |
| ②「観光業 PR から見るメディア・伝える力」 | 三原 心春 |
| ③「障がいと向き合う社会を目指して」 | 山名 里沙 |
| ④「地元から始めるSDG s ～子ども食堂の新たな役割～」 | 福田 雛乃 |
| ⑤「伊予市の地域持続性 伊予市への移住」 | 檜垣 京吾 |

1 2 5 教室

- | | |
|------------------------|-------|
| ①「四国新幹線は地域を救うのか」 | 柚山 道明 |
| ②「リアルで緊張感のある避難訓練へ」 | 井出 麻友 |
| ③「体験型観光による移住促進」 | 竹縄あゆみ |
| ④「脱施設化に注目した国内外の里親制度比較」 | 木下 輝来 |
| ⑤「高校生とSDG s」 | 芳野 亜美 |

1 2 6 教室

- | | |
|--------------------------------|-------|
| ①「SDG s から考える未来につなぐ建築」 | 玉井 健登 |
| ②「北欧デザインと日本」 | 石川 太一 |
| ③「エンターテインメントにおける映像技術の活用」 | 吉村 萌夏 |
| ④「愛媛と台湾でのコロナ禍における旅行に対する考え方の違い」 | 藤田 沙羅 |
| ⑤「周産期医療の現状とメンタルヘルス」 | 堀江 杏 |

1 2 7 教室

- | | |
|----------------------------------|-------|
| ①「新型コロナウイルスと周産期における命の選別」 | 村上 由羽 |
| ②「SDG s と住み続けられるまちづくり」 | 神野 小雪 |
| ③「日本の労働環境改善と女性の更なる社会進出の実現に向けて」 | 月岡 菜々 |
| ④「成長阻害剤がキャベツとカンパニュラへ与える影響に関する研究」 | 山口絵里奈 |
| ⑤「松山と松山-コロナ禍後のさらなる交流に向けて-」 | 進藤ひより |

1 2 8 教室

- | | |
|----------------------|-------|
| ①「中国語の繁体字と愛媛の観光について」 | 玉井 志歩 |
|----------------------|-------|

- ② 「晩婚化と日本」 河端 愛海
- ③ 「パートナーシップの在り方」 竹田 彩
- ④ 「多文化共生社会の実現に向けて 今私たちができること」 菅原菜々美
- ⑤ 「成長阻害剤がキャベツとカンパニュラへ与える影響に関する研究」 石崎 芽唯

129教室

- ① 「成長阻害剤がキャベツとカンパニュラへ与える影響に関する研究」 楠田 和可
- ② 「松山&松山 台湾の高校生に提案する修学旅行プラン」 松本まどか
- ③ 「子宮頸がんワクチンの現状は自分たちの世代にどのような影響を及ぼすのか」 渡部 愛生
- ④ 「シークワサーによる新たな愛媛の地域活性化への調理加工研究」 林 奈々子
- ⑤ 「北欧の街並みから学ぶ 人々とアートの深いつながり」 平 美奈

1210教室

- ① 「北欧の教育制度から日本の教育に活かせること」 大西 真由
- ② 「日本に暮らす私たちが消費パターンによって変える世界」 伊賀上陽音
- ③ 「愛媛のインバウンドを活性化させるために」 川吾奈々子
- ④ 「周産期と生命倫理について」 仙波佑一朗
- ⑤ 「シークワサーを使用した食品開発による地域および環境問題解決の提案」 菊池 光

化学講義室

- ① 「抗アレルギー効果を持つ食品の発見とその有効利用に関する研究」 大西 歩
- ② 「北欧のスポーツ、モルックと障がい者スポーツ」 丸山 真司
- ③ 「No Hunger を現実に」 高須 芽依
- ④ 「HOW BICULTURAL PEOPLE ARE PERCEIVED IN JAPAN AND THEIR SENSE OF IDENTITY」 松岡 美響
- ⑤ 「日本は里親委託率を上げるだけでいいのか」 楠本 菜央

化学実験室

- ① 「命の選別につながる意思決定を支えるにはどうすればよいか」 松井 彩夏
- ② 「シークワサーの食品加工と第6次産業について」 安藤 菜穂
- ③ 「有機・オーガニック食品の実態調査と今後の課題」 楠田 梓乃
- ④ 「貧困をなくすためには」 篠崎 紀華
- ⑤ 「Media literacy」 坪内 琴乃

生物講義室

- ① 「(EnG L ish Education with Music Can music help EnG L ish learners improve the clarity of their speech?)」 池内 優葉
- ② 「コロナ禍の周産期と出生前診断」 村上 佳穂
- ③ 「黒くなる果物、ならない果物、なる部分、ならない部分」 菅 七海
- ④ 「印象語から分析する北欧デザイン」 井上 美咲
- ⑤ 「日本文化の捉え方」 杉野 若葉

生物実験室

- ① 「再生可能エネルギーを身近にしよう」 大谷 安奈
- ② 「Foreign residents' experiences of the Japanese health care system」 渡邊麻梨亜
- ③ 「脱プラスチック社会は実現可能か」 谷本 遼汰
- ④ 「抗アレルギー効果のある食品の研究」 永田 和子
- ⑤ 「光と糖度」 橋村 瑞希

地歴公民教室

- ① 「VRが生み出す「ポケモンとの触れ合い」」 谷口 洸
- ② 「SDG s の視点から考える次世代型自動車の有効性」 野上 朔佳
- ③ 「まつやま防災マップの活用についての提案」 蒲池 純奈、三浦ほのか、中川 優依
- ④ 「リサイクルの仕組みと費用負担から考える「プラスチック循環型社会」のありかた」 松下 卓央
- ⑤ 「シークワサーを活用した六次産業活性化への貢献」 池田 光希



参加者感想：

- ・限られた時間の中で、簡潔に発表が行われており、研究の成果を感じました。SDG sの視点も生徒それぞれが持っており、身近なテーマから大きなテーマがあり、面白いと思いました。様々な活動・研究を通して課題研究能力が身に付き、リーダーとして育成されていると感じました。
- ・多様な研究に触れられるように分科会が設定されている点が良かったと思う。プレゼンテーションもよく練習されており、質疑にも「なぜ」を問うものが多く、探究的な学びの素地が、多くの生徒に備わっていると感じた。
- ・3年生の成果発表はやはりこれまでの活動の積み重ねがあるためか、とても完成度が高いように思いました。
- ・一人ひとりの発表が、しっかりデータをもとに組み立てられており、考え方をまとめている。こうした学習を続けることで、より多角的なもの見方・考え方が養われていくと思う。
- ・先輩の声というのは、生徒達にとっても良く響いていたように思いました。活躍している先輩達の高校時代の話は、とても参考になったと思います。大学での生活や将来の夢についてもしっかりと目的意識が感じられ、後輩達も良い刺激を受けたと思います。
- ・しっかりと発表を聞き、質疑応答も積極的に行われていることがすばらしかったです。アウトプットする力をつけていっているこの事業がこれからも続いていくと、生徒の自分の考えを発信する力、そして自分で調べてまとめる力もつけていけるものだと感じました。
- ・大学で何を学びたいかのきっかけにもなるこうした研究を今後も続けていってほしいと思います。
- ・卒業生の先輩達の話聞き、大学選択や勉強法などをいろいろ考え始める子どもの気持ちがよく分かった。こうして卒業生の人たちの話を聞くことで、子ども達の心に響き、将来に向け大きな夢や希望を膨らませることができるのなら、もっと多くこういう場を子ども達に与えてほしいと思った。
- ・ユニークな視点で取り組んだ作品や、多くの人にアンケートを実施した取組など、それぞれ工夫が見られたところが印象的だった。また、プレゼンテーションが上手な発表者が多く、成果発表を楽しんでいる姿勢もとても良かったと思います。成果発表以外にも、これまで取り組んだGL活動の意義と今後の目標を述べる生徒もいて、GL事業の意義を実感することができた。

2 1・2年生合同中間発表会

主旨：2年生が今まで行ってきた課題研究の発表を実施することで、それまで取り組んできた課題研究の成果（問題解決力・思考力・分析力の向上）を示し、これまで重ねてきた発表を生かして高度なコミュニケーション能力・表現力・ディスカッション力に、さらに磨きをかける。また、発表の仕方やポスターのまとめ方を1年生に示し3月の研究成果発表会に向けての指針を示す。

日時：令和3年12月16日（木） 14:40～16:30

場所：松山東高等学校 体育館、アリーナ

参加者：2年生GLコース（97名）、1年生、教職員、課題研究指導関係者、運営指導委員、コンソーシアム委員、本校生徒保護者

内容：14:40～14:45 開会挨拶

14:45～15:00 中間報告①「国をつなぐ Sports Festival」

発表者：安部紗世、多田莉紗子、本田そよ花、森脇早希（大川 理恵先生講座）

15:00～15:15 中間報告②「Is Japan's Education Offering Us Enough Skills that Satisfies The Requirements of International Society?」

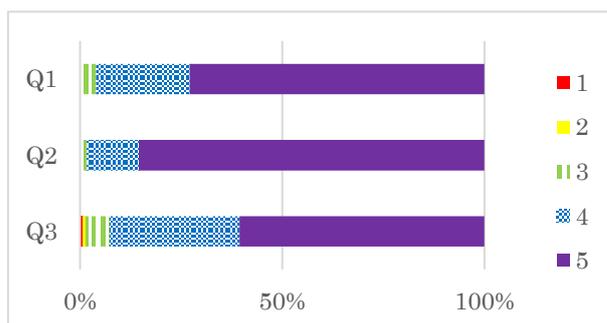
発表者：村上 暲（Vincent Merkhofer先生講座）

15:25～16:20 ポスターセッション

16:20～16:25 閉会挨拶

生徒評点：（対象は1年生のみ）

- Q1. 今日の会により、3月に向けて自分のすべきことが理解できたか。
- Q2. 2年生の発表、ポスターセッションは役に立ったか。
- Q3. 現在実施している課題研究の見通しを立てることができたか。



生徒感想：

- ・英語での発表があまり理解できなかったため、ポスターセッションで再度聞いた。先生から生徒への一方向

だけでなく、双方向の主体的な教育が大切だということが印象に残った。

- ・自分の研究の中で出す提案も、利点だけではなく課題も提示していきたい。
- ・自分自身の今までの学校生活における積極性が足りていないと反省した。
- ・自分が考えた企画に興味を持ってもらうための、人を惹きつける面白さが重要だった。
- ・全体発表の二つは、1年生全員が見ている中で発表をしていて、自分もあんな風になりたいと思った。
- ・初めて聞く人たちに向けて発表するときには、自分が思っているよりもゆっくり話すと良いことが分かったので、自分の発表の際に参考にしたい。
- ・自分の個性を生かし、興味のあることを追求していくことの楽しさややりがいを感じました。
- ・ポスターセッションでは、ただ分かりやすくまとめるだけでなく、人を引きつける話し方やタイトルにも興味を湧きました。
- ・それぞれが身の回りにある問題に着目して、様々な方法で課題解決に取り組んでいてすごかったと思う。ポスターのまとめ方が理解できていなかったが、今回でイメージを具体化することができて良かった。
- ・どの発表者も自身の探求する課題をより良く解決することに対しての熱意がすごくあり、自分も今探究しているテーマについてより深く考え、核心を突いた発表ができるようになりたいと思った。
- ・先輩方が熱意を持って私たちに紹介してくださる姿は、輝いていて格好良かった。私たちも3月には先輩方のように発表できるように、より一層課題研究に熱心に取り組んでいきたい。
- ・自分が知らなかった知識やなんとなくの知識で終わらせていたことについて、新しい発見があってすごく面白かった。
- ・世界は一見平和そうに見えても多くの問題を抱えていることが分かり、それに対してどのような解決法があるのかという先輩方の主張を聞き、私自身も社会の現実問題についていろいろ考えさせられました。人のため、地球のために、将来を担う私たちが積極的に活動し、世界をより良い方向に導くことは大切だと思いました。
- ・研究の途中で新たな疑問が湧いたり、問題が生じたりしたときに、それに対して新たな案を複数考えられていた。私も今後の研究では柔軟な発想をして、解決へ向けてのより良いアイデアを多く考え出したい。
- ・一つの問題に重点を置いて、さらにその問題について細かく調べていくことによって、意外と自分達にも解決につながる一歩があることが分かりました。
- ・「実際に話を伺って」「実際に活動に参加して」という内容が含まれていて、聞く方としてもより納得させられた部分があり、グローバルな視点を持って研究するためには、自分が体験し実感することが重要で、そのために積極的に関わっていくことが大切であると感じました。
- ・どの発表を見ても、自分で主体的に行動していくことこそが、誰かのためにも自分のためにもなるんだと思った。



参加者感想：

- ・中間発表としては、十分なものが大半だった。発表内容もしっかり準備できていた。同一講座でも、生徒によって独自に発展させている発表も多く、個人研究としても充実している発表が多かった。
- ・どのポスターもよく調べてあるのはもちろんのこと、デザインもきれいに分かりやすいポスターに仕上げているとびっくりしました。
- ・課題を自分で見つけ分析し、解決策を自分のできるところまで落とし込んでいるところはすばらしいです。
- ・将来必ず役に立つ学びをさせてもらっているこの子たちは幸せだと思います。
- ・ポスターセッションでのプレゼンテーションや質疑応答は社会人になってからも役に立つ実践的な学習だと思う。
- ・皆しっかりと発表していて、とてもよい取組だと思う。人前で自分の考えを伝えられる力を養うためにもすばらしい経験となる取組だと思う。
- ・発表者の声に熱があり、自信が感じられた。発表者のみならず質問コメントする側も活発になされており、全体の取組が活性化していると感じました。閉塞的なコロナ禍の中、頼もしく思えました。
- ・運動会の様々な競技、各国の菓子のように、発展的にプランが示され、試行まで進めるなど、十分な時間をかけ、計画的に研究が進行していることがよく理解できた。

- ・実体験を踏まえたアイデアで説得力があった。自分達でスポーツフェスティバルの種目を体験する動画も面白かった。ヨルダンにシリア難民が多く受け入れられている背景などについての説明を、冒頭に加えるともっと分かり易くなったと思う。
- ・重要なテーマを取り上げ、グローバル化と教育の問題を追及している。この問題意識を持ち続け、変化が周囲にも及ぶことを期待したい。
- ・英語の発音が極めてすばらしかった。また、表現力・説得力があり堂々とした発表が印象的でした。日頃の学びがよく出せたと思います。
- ・プレゼンスキル、発音もよく訓練されていた。また、スライド画像についても、キーワード、強調すべき文字はフォントを大きくし、太字にするなどの工夫は良かったが、やや具体性に欠ける印象であった。するとやはりQ&Aでは「具体的に示してほしい」とのコメントが出たが、それに対する発表者のアンサーがしっかりとした納得できる内容だったので安心した。

3 えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 中予

主旨：「スーパーグローバルハイスクール」「スーパーサイエンスハイスクール」「スーパープロフェッショナルハイスクール」「高等学校地域協働推進事業」等の指定校、各職業学科の代表校等、県立高校等における先進的な教育活動の発表と意見交換を通して、研究の普及と深化を図る。また、本コンソーシアムを、中学生や保護者、地域、教育関係者に公開して、各高校の特色ある取組を紹介し、本県県立高校で学ぶ魅力を伝える。

主催：愛媛県教育委員会

日時：令和4年1月28日（金）13：30～15：00

場所：オンライン開催（各学校）

参加者：県立高等学校・中等教育学校・関係国立高等学校の生徒及び関係教職員（本校からは発表者4名、一般参加者80名が参加）

内容：

- 13：30～13：40 開会行事
- 13：40～13：50 取組概要の紹介
- 13：55～14：10 ディスカッション①
- 14：15～14：30 ディスカッション②
- 14：35～14：50 ディスカッション③
- 14：50～15：00 閉会行事

参加生徒感想

- ・愛媛の良さをさらに多面的に捉えるきっかけとなった。
- ・愛媛のことをいろいろな視点から知ることができて良かった。また、他校の高校生と関わる機会ができて良かった。
- ・相互の意見交換を経て、自分の視野が広がったように思い、貴重な経験となった。
- ・愛媛の魅力を改めて知ることができました。自分達もグローバルに向けて、課題解決に向けて取り組んでいきたい。
- ・「日本の次世代リーダー養成塾」から帰ってきて5か月ぐらいが経ち、福岡でみんなの前で夢を公言し、強く決心した8月から何か自分は変われるだろうかと少し不安になっていたけど、質問に答えていくうちに自分に自信がつき、もう一度気合いを入れ直して頑張ろうと思えた。
- ・意見交換を通して、どのように自分達の取組が周りに影響を与えているのかについて知ることができた。質疑応答を等してこれまでの活動について振り返ることができたと同時に将来どのように活動をつないでいくかを考えることができた。



4 令和3年度研究成果発表会

主旨：1年間の課題研究の発表を実施することで、それまでに取り組んできた課題研究の成果（問題解決力・思考力・分析力の向上）を示し、さらに発表を通じて高度なコミュニケーション能力・表現力・ディスカッション力を養う。

日時：令和4年3月10日（木）13：15～15：55

場所：愛媛県立松山東高等学校 第1教棟2階、第2教棟1階～4階、特別教棟2階、3階

参加者：1・2年生、教職員、保護者、GL事業運営指導委員、愛媛県教育委員会、県内高等学校・中等教

育学校の教職員、愛媛大学・松山大学関係者、コンソーシアム関係者、市内中学校関係者

内容：13：15～13：30 開会行事 ① GL事業取組内容ビデオ上映 ② 校長挨拶

13：30～13：45 代表生徒発表①「REASAS×真珠×結婚式=?」
発表者：尾崎 脩、赤松 瑞夏、谷村 琉凧 (小野 榮子先生講座)

13：45～14：00 代表生徒発表②「ジェンダー平等の輪を広げたい
～政治の視点から見たジェンダーギャップ～」
発表者：李 喜延、小笠原 寧珂 (稲葉 麻衣先生講座)

14：10～15：30 松山東High School Society
① 1年生ポスター発表 19分科会会場
② 2年生シンポジウム 4会場

15：40～15：50 アジア高校生架け橋プロジェクト事業留学生発表 1年8組 Enkhbold Dulguun

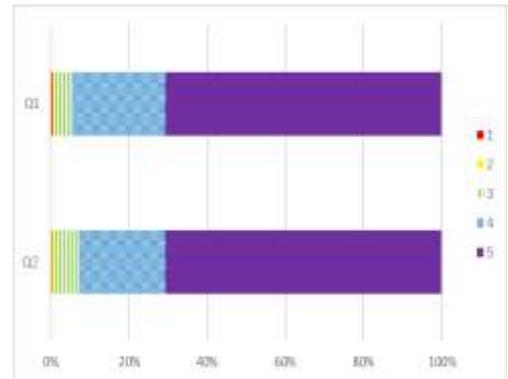
15：50～15：55 閉会行事 校長挨拶

生徒評点：

- Q1. 課題研究を通して、知識を深め視野を広げることができたか。
- Q2. グローカルな課題を発見することができたか。

生徒感想：

- ・リモートでの発表も新しい発見がありましたが、やはり自分たちが行った研究を対面で発表するのが楽しかったです。
- ・ある班の発表の中で、「地理的な見方をすることで地域について知ることができる」という言葉が印象的でした。私も与えられる情報や目に見える情報だけでなく、実際に自分が興味のあることを見つけて調べて行ってみる、という行動を起こしていきたい。
- ・今までは自分の興味のあることについて深く調べてきたけれど、今回それをお互いに共有することで、新たな発見がたくさんできて面白かったし、視野が広がった気がします。
- ・他の人たちの発表と比べると、自分たちの発表はまだまだ改善すべき点がありました。他の班の発表を聞くことで、研究方法や発表全般について勉強になることがありました。
- ・一見、関わりのないようなことが、実は意外な関係性を持っているなど、新しい発見がありました。社会の中には隠された(見えていない)様々なつながりがあると思います。もっと視野を広げていきたいと思いました。
- ・記憶に残る発表も、残らない発表もあり、他とは違う何かをしないと記憶に残らないかもしれないと思いました。人前で発言をするのは緊張しますが、気分が高揚するし、達成感があり、楽しかったです。
- ・質問に対して相手が納得するように答え、説明をすることも、重要な発表スキルだと思いました。
- ・情報があふれる現代社会では既にアイデアが出尽くしたように感じられることもあるけれど、関係がないものを組み合わせたりすることで同時に解決できるような革新的なものも出し得ることが分かりました。
- ・ポスターや発表で使う情報は抜粋したもので、それが原因で相手に伝わりづらい部分がありました。多くの情報から上手くまとめる必要があったので大変でした。自他ともに理解できる上に、説得力のある情報を活用しながら来年の研究に取り組みたいです。
- ・今後、様々な課題と向き合い、自分なりの解決策を考えていく中で、周囲の声やアドバイスをしっかりと聞くこと、積極的に声を上げ、行動に移して試みることで、そのための勇気を大切にしたいと思います。
- ・まだまだ自分が実力不足でした。ポスターの内容や見やすさ、分かりやすさの他にも発表時や質疑応答の対応力に関して、すごいと思ったグループがたくさんありました。
- ・受動喫煙の話では、喫煙者にたばこをやめてもらう方向性のことばかり考えていましたが、喫煙者と非喫煙者の共生という考え方を聞いて、その形が一番良いと思いました。



- ・見て見ぬふりを日本人同士ではするのに、外国人には親切であることを不思議に思いました。ウブントウの考え方はとてもすばらしいもので、「私は他の人たちによって生かされている」という考え方は助け合いのために重要だと思いました。また、ためらわずに助けを求めることも大切だと思いました。
- ・地域の課題を見つめ、悪いところばかりを指摘するのではなく、地元の名産品の知名度や需要を上げて、さらにSDGs解決に貢献しながら地域の課題を解決するという取組はまさに今必要になっている地域課題解決のための最良のアイデアだと思いました。
- ・自分がどれだけ世界の問題を知らないのかを、思い知る機会になりました。自分ひとりでは何もできないという意識を変えて、世界や身の回りの地域に目を向けていくことは、諦めないでいたいと思いました。
- ・自分では考えつかないような視点から愛媛県や日本の問題について考えを深めていて、面白かったです。特に選挙と理想の高校教育の発表が、今の自分たちに対して身近な問題だったので、分かりやすく、興味深かったです。
- ・一見関係なさそうに見えることも、実際は深く関わりあっており、様々な分野について学習することが、別の分野についての理解も深めるのだと気が付きました。
- ・世の中に正解の答えがないからこそ、自分たちで考えなければいけないことがたくさんあるので、真剣に考えてみようと思いました。
- ・自分の知らない問題が愛媛にもたくさんあって、自分は何も考えずに生活していたので、自分の生活に携わってくれている事業が抱える課題を知りたいと思いました。特産品をただ楽しむだけでなく、課題を知り、自分にできることを考えて協力していきたいです。
- ・日本はジェンダーの不平等性が大きく取り上げられている印象がありましたが、法制度的には決して世界各国に遅れていないことに驚きました。
- ・選挙権を獲得してから初めての選挙の投票に行った人は、その後の投票にも行く割合が高くなっているという調査結果を見ました。私もあと数か月で選挙権を獲得するので、はじめての選挙参加に備えて調べるべきことを調べ、責任と自覚を持ちたいです。



参加者感想：

- ・高校生らしい瑞々しい感性と、しっかりとした調査・考察に感心しました。生徒たちが目的を持って調べ、考え行動する。その成果が近くで見られて良かったです。質問者とのディベートも面白かったです。
- ・シンポジウムではじめに隣の人と意見交換させるのはとても良いと感じました。ずっと意見交換に移行できる東高生はすばらしいと思いました。
- ・学校の授業の枠を越えて、地域課題の解決にもつながっているすばらしい取組発表でした。
- ・グローバル事業で新たな視点や知識のきっかけづくりになっていると思うので、継続した展開をしていただくと地域にとっても良いと思います。関わる側の私たちも良い経験をさせていただいています。
- ・自ら課題設定を行い、協同的な学びの中で、気づきがあり限られた期間の中で探究成果を形にできていた。生徒たちが達成感や自己肯定感を感じられる活動であったと感じました。
- ・発表後複数のテーマについて全体での話し合いの時間があつたが、限られた時間の中で活発な意見交換を聞くことができました。日頃から問題解決への意識の高さがうかがえました。
- ・回答無き問題に挑戦し、追求する姿勢が随所に見られました。受け身ではなく自ら学べる取組で質の高さを感じます。支援していただいている方々に感謝申し上げます。
- ・コロナ禍により現場へ足を運ぶことができない中、よく調べられていたと思われます。

2年生シンポジウム議事録：

I 「意識改革～グローバルな視点で目指す社会の形～」 (司会：西川結菜、石田遼太郎 記録：山口葉央)

発表①「SDGsから見る私たちの未来」

発表者 武田もなみ

【要旨】持続可能な開発目標（以下、「SDGs」という）のうち、14（海の豊かさを守ろう）、（貧困をなくそう）、3（すべての人に健康と福祉を）、5（ジェンダー平等を実現しよう）、4（質の高い教育をみんなに）の順で着目し、世界が抱える問題とSDGsの現状を調査して、自分たちができることを考えた。そして、私たち一人一人が当事者意識をもって、SDGsを絶対に達成しなければならないという信念のもと、行動する必要があることを述べた。

【質疑応答】

- Q. 「エコロジカルフットプリント」とは何か。
A. 一人一人に関係するエリアを並べているもの。

発表②「We Need A Change」

発表者 日野 鶴乃

【要旨】どのように日本人が難民問題について学んでいるかを調べたところ、詳しく学ぶ機会がほとんどないことが分かった。また、発表者が過ごした経験のあるカナダと日本の教育を比較したところ、日本は、受験に必要な知育のみを重視していることが明らかとなった。そこで、開発教育について理解を深めている教師を育成し、生徒に難民の立場でロールプレイングをするなどの開発教育を実施することを政府に提言した。

発表③「Does the Japanese propensity for “pretending not to see” facilitate or hamper cross-cultural communication?」

発表者 伊藤夏希

【要旨】「見て見ぬふり」が異文化コミュニケーションを促進するか、侵害するかを調査するため、講師の Vincent 先生にインタビューを行ったり、各国の Social Capital を比較したりした。その結果、日本人は、外国人は助けるが、身内に対しては、黙認して助けられないなどの冷たい態度をとる傾向にあることが明らかとなった。他人に迷惑をかけてはいけないという考えや風潮をなくし、自分が率先して困っている人を助けるようにすることが、今の私たちがすべきことである。

発表④「手話のグローバル化を進めるために」

発表者 立花なごみ

【要旨】アンケートの結果を通して、国際手話や地域の手話の活動の認知度が低いことが分かった。手話のグローバル化への第一歩として、手話の知名度を上げるために、日本語対応手話や日本手話、アメリカ手話の違いや国際手話の現状、県内の手話サークルを調査してまとめた。手話、ろう者の認知度を上げることと、外国人ろう者が声を上げやすい地域にすることが、手話のグローバル化を行う上で、大切なことである。



《まとめ》

グローバルな視点から社会を見つめ直すと、SDG s の達成、難民、コミュニケーション力、ろう者の方への理解など様々な課題が見つかった。このような課題を解決したうえで、世界中のみんなが幸せに生きる方法はあるのだろうか。そう考えたとき、あるにしろないにしろ大事になってくるのは「私たちのこれからの行動」だ。政府や国連などの支援を頼りにするのではなく、私たち一人一人が世界の様々な課題に向き合い、できることを前向きに考えていく。そうすることによって、未来の社会の形は今よりもよりよいものとなるだろう。国民性の違いによる新型コロナウイルスへの対策の違いはどのようであるか。

II 「これからの愛媛で生きる」

(司会：久野拓海、越智勇満 記録：二宮花鈴)

発表①「地産地消×フードダイバーシティ」

発表者 平松花穂

【要旨】東温市の少子化は深刻である。そこで個性を尊重した生き方に注目し、2020年度に日本一となった学校給食をフードダイバーシティの面から考えた。給食センター所長様へも取材をすると給食への愛を感じることができた。

発表②「命を守る！我らの提案！」

発表者 上島瑛惟人

【要旨】タイやネパールの学生と交流をして意見交換をした。もし日本で災害が起きたら、日本語が分からない外国の方にとっては私たち以上の恐怖に襲われると思い、言語問わず日本人も外国人も一緒に防災を楽しく学べる“防災すごろく”、“災害トランプ”を考えた。

【質疑応答】

- Q. 災害トランプについて、13種類のピクトグラムは外国人に分かるのか。
A. みんなに分かってもらえるよう、自分たちで作る。
Q. 防災すごろくについて、復興にはお金がかかると思うため人生ゲームのように貨幣を追加してはどうか。

A. 参考にして今後さらに良いものとなるよう改良していきたいと思う。

発表③「選挙に“本気”な若者の若者による若者のための選挙啓発」 発表者 岡田玲奈

【要旨】若者の投票率はとても少ないが、選挙は“未来を変える道具”である。そこで投票率の高いスウェーデンの取り組みと比較した。また、日本の各自治体が新たに始めた選挙啓発から自分たち若者の目線から新しい選挙啓発を提案する。



【質疑応答】

Q. マイナンバーカードはあまり普及していないが、選挙に利用できるのか。

A. インターネット投票はまだ普及していないので、同時進行で少しずつ実現していきたい。

Q. 子どもたちに主権者教育をすればするほど、意識が下がっているように感じられるが、どのような主権者教育をすればいいか。

A. 主権者教育には2種類あると考える。1つ目は、スウェーデンのように幼い子どものうちから“選挙に行くのは当たり前”ということを習慣化させること。2つ目は、“選挙に行こう”とただ単に呼びかけるのではなく、“なぜ選挙に行くのか”、“選挙に行くことで何が変わるのか”を伝えること。

Q. スウェーデンの選挙活動の一つである政治家の話や話を直接聞くことは日本では難しいがどうするのか。

A. 日本の法律上、政治家の全員や各政党が集まることは難しいが、最近はSNSが発達しているため、対話とはいかないが、常に新しい情報を得ることはできる。

発表④「理想の高校教育」

発表者 小野下未来

【要旨】コロナ禍で学校教育もまだ先が見えないが変化が要される時代。そこで日本の教育の現状を、教育水準の高いフィンランド、オーストラリアの特徴と、松山東高校生へのアンケート結果を交えて考える。また、理想の教育に向けた様々な案を具体的にまとめた。

【質疑応答】

Q. 海外では大学入試でエッセイにおける判断があるが、日本ではどうなのか。

A. AO入試など、少しずつ普及している。まだ制度が整っていないのは仕方ないが、その中でも今の現状に対して、意志を持って生活すべき。

Q. 海外の夏休みはどう過ごすのか。

A. 海外では宿題のない夏休みが3ヶ月もある国もあり、ボランティア活動に参加したり、家族と過ごしたりするなど有意義な時間を過ごしている。

<まとめ>

今回の発表は、食品・防災・選挙・教育の様々な面から愛媛について考えた。現在、どの分野においてもたくさん問題を抱えている。それらは、行政や自治体などが解決すべきであるかもしれない。しかし、愛媛に住む一人一人が問題に目を向け、少しでも意識を変えれば、とても大きな力が生まれるだろう。その第一歩として我々高校生が深く考え、積極的に行動していく必要がある。

Ⅲ「未来へつなげ～日本の医療～産業の未来」

(司会：重見萌絵、村上陸 記録：千石莉音)

発表①「あなたは大丈夫？身近に潜む受動喫煙」

発表者 古手川明里

【要旨】受動喫煙の影響について高校生を対象とした調査を行った。アンケート、尿検体による調査を行い、動画も作成した。それらの分析結果から、受動喫煙を防止するには動画内容を工夫したり、禁煙の意義を知ってもらったりすることが大切だとわかった。今回の調査から高校生は受動喫煙に対する意識が高いということが分かったが、この結果は松山東高校の生徒だけに言えることなので調査の範囲を広げると一般の高校生についての傾向がわかるだろうと考えた。

発表②「ネフローゼ症候群に対する薬物治療と薬剤選択」

発表者 綱崎李紅

【要旨】腎臓の病気であるネフローゼ症候群に対する薬物治療・選択についての研究を行った。ステロイド薬は副作用に対する工夫の効果が出やすく、中時間型が使われやすいということや、免疫抑制剤はステロイド薬の補助として肝臓、腎臓の状態に合わせて使われるということが分かった。また、薬の安全保障は

どのように行われているのかについては肝機能、腎機能のデータを通して調べていきたいと考えた。

【質疑応答】

- Q. ステロイド薬には副作用がある中、実際に医療現場で使用されていることについてどう思うか。
A. ステロイド薬は、受容体に働きかけるため服用せざるを得ないため、時間を空けるなどの副作用を抑える工夫をすればよい。
Q. ネフローゼ症候群にかからないための予防法・普段の生活で実践できることは？
A. 生活習慣病などから発症するためその予防をすることが大切。
Q. 短時間型・長時間型が使われるのはどういうときか？
A. 短時間型は薬を何回も作用させるため代謝が早い人、長時間型は大量摂取が可能なため症状が重い人に使われる。

発表③「新生児医療から在宅ケアへ」

発表者 大西花乃

【要旨】 新生児医療を学ぶ中で、医療的ケア児について研究した。医療的ケア児は増加傾向にあることがわかり、その理由や医療的ケア児とその家族が抱える課題について考えた。また、養育者や学校現場における課題も考えた。その課題の解決には法律が重要だと考えた。今はまだできることは少ないが、将来そのような人に出会ったとき、支援などがあることを知っているだけでも役に立つだろう。

【質疑応答】

- Q. ICU とは？
A. 集中治療室のこと。重症疾患のこどもや大きな手術後のこどもなどが対象。症状によって分けられている。(心臓疾患→CCU、呼吸器疾患→RCU)
Q. 看護師が不足している理由は？
A. 政府が力を入れていなかった。普通の看護師とは違い、難しい仕事のためと考える。
Q. シンポジウムで上げた以外の問題点は？
A. 負担が母親に偏っていること。養育者が家庭内にいないこと。

〈Discussions〉

テーマ：「日本の医療についての意見交換会」

①身の回りの人が喫煙をしていたらどうする？

- ・吸うか吸わないかは個人の自由であるが吸う人は周りへの配慮をすべきだ。
- ・非喫煙者からしたらタバコは害だが、喫煙者はそれで生活が成り立っていることもあるので非喫煙者、喫煙者のどちらも暮らしやすい社会を作る努力が大切だ。

②社会的マイノリティの人々と尊重しあう社会を作るためには？

- ・知ることが大切。正しい情報を身につけ、相手の立場になって考える。
- ・批判的な考え方を持つのではなく、一度立ち止まり相手のとらえ方を考えることが大切。
- ・学校教育で学ぶ機会を作るべき。

③薬剤の副作用を踏まえた上でどのように選択していきたいか？

- ・長期的な視点からメリットとデメリットの有益性を考えて選択する。
- ・医者や薬剤師と相談して正しい薬を正しい量服用する。

④税金を上げて医療費を完全無償化にすべきか？

- ・そう思う。ほんとに治療を必要としている人が治療をすることができ、一つでも多くの命を救えたら良いと考えるから。
- ・税を上げてまで無償にする必要はないと思う。むやみに医療を受ける人が増え、本当に必要な人が医療を受けられなくなるかもしれない。
- ・経済的に治療を受けられない人もいるため無償化することで助かる人もいるのではないかな。

IV 「世界に革命を起こせ～えひめの産業～」 (司会：笹田菜月、宮本兼伸 記録：児玉大和)

発表①「思いのこもった魔法の瓶」

発表者 磯野由依

【要旨】 捨てられてしまうことが多いシークワサーの皮などをマーマレードに加工し、食品ロスを減らす一つの形として、大会や商品化を通して全国に発信していこうとしている。このことを通じて、環境への配慮や、SDGs 12番「つくる責任、つかう責任」への知見も深まった。

【質疑応答】

- Q. いつ頃商品化されるのか？

A. 6月以降、高島屋等で販売される予定である。来年の文化祭でも販売する方向だ。

発表②「農業で儲かるには？」

発表者 高野匠翔

【要旨】西予の人口増加作戦 生産年齢人口を増やしたいので産業を活性化させたい。そこで、様々なデータを基にグラフや数式を製作し、数理モデルを製作した。これを利用し、「儲かる農業」をアピールし、地域を活性化させていきたい。

【質疑応答】

- Q. 数理モデルが完成した時の感想は？
A. 普段習っていることを応用し、できた時の喜びが大きかった。
Q. 太陽光が一番いいのか？
A. 太陽光には不要な波長もあるので、一番ではないかもしれない。ただ、考えた末、最も現実味があった。
Q. 実際に数理モデルを使い作った棚田の効果は？
A. 農業を効率化すれば何かしらプラスになるという考えで進めてきており、実際の効果や、収穫量などの詳しいデータは、まだ検証不足であり、考察が満足にはできていない。

発表③「推しが画面から出てこないなら自分から行けばいいじゃない」

発表者 藤岡佑哉

【要旨】情報化や進んだテクノロジーを用いて、次元を超えたふれあいを実現できるのではないかと、という観点で、近年出現しているテクノロジーを調査した。様々な高性能デバイスにより、2次元との触れ合いが実現するのもそう遠い未来ではないかもしれない。

【質疑応答】

- Q. 非常に進んだデバイスも出てきている中、本当に2次元と3次元の壁がなくなれば何をしたい？
A. 重力までも感じられるなら、推しをお姫様抱っこしたいと考えている。
Q. この技術は愛媛の産業にどう生かせるのか？
A. テーマが他2つとずれているため、2つほど深くかかわっていないが、この技術革新は愛媛に貢献するだろうという考えで進めている。
Q. VRを使うことによる、様々な機能を搭載した精巧な人形を用意する以上のメリットはあるのか？
A. 機材が軽く、小さく済むという利点がある。
Q. AIとの会話はあらかじめインプットされているものなのか？
A. 理想は自分で思考するものだが、現実的には会話のビッグデータからの抽出を行い、最適にしゃべるものになるだろう。
Q. AIにも知能が芽生えている。抱きしめたり、何らかの行為を行う場合、同意が必要なのではないかと？
A. それはそれとして、そういうVR作品として楽しむしかない。

<まとめ>

現在、愛媛の産業では、従事者の減少、少子高齢化などの様々な問題が起こっている。それらの解決のため、SDGsとの結びつけや、今までにない視点からの斬新な解決法を提案し、解決に貢献した。また、直接関わっていないようなことでも、一人一人自覚を持ち、日々の生活を顧みること、見えてくるものもあるかもしれない。このような行動の積み重ねが、愛媛の産業の活性化や、課題の解決につながるだろう。

V 学校環境のグローバル化

これまでに挙げた内容の他に、以下のような方法で学校環境のグローバル化を推進した。

	内容
1	SGH部の活動
2	各種交流・講演会
3	各種大会参加・入賞
4	市内高校生交流会・勉強会
5	インターナショナルデー
6	第6回中四国高校生会議

1 SGH部の活動

(1) 部の概要

参加生徒数：41人（1年生：13人、2年生：16人、3年生12人）

活動概要：英字新聞を使って英語力を鍛えながら、海外の高校とオンラインで交流したり、在県の外国人

の方を招いて交流したりする国際協力活動、フェアトレード等の校内啓発活動、近隣の学校の生徒を集めて交流やSDGsの学習などに精力的に取り組んだ。

(2) 今年度の活動内容

ア 全員参加の活動

- 1 International Day を毎月企画運営し、外国人を招いての国際交流活動を熱心に行った。(全9回)
- 2 市内高校生交流会・勉強会を毎月企画運営し、SDGsの諸問題について市内の高校生と学んだ。(全9回)
- 3 フェアトレードの啓発と、商品販売の機会を企画し、活動に熱心に取り組んだ。(全3回)
- 4 フードドライブを行い、集まった食品をまつやま子ども食堂へ届けた。
- 5 ハワイやシンガポールの高校と定期的なオンライン交流を熱心に行った。
- 6 アメリカ・シンガポール・ウガンダ・中国・台湾・ハワイ・フィリピンの高校生にビデオレターを作成し、送付した。(全6回)
- 7 第6回中四国高校生会議の企画・運営を行い、近県高校の活発な交流を実現させた。(2/5、6)

イ 有志での活動

- 8 「まつやま異文化交流」に参加し、近隣の高校生と一緒にフィリピン生徒と国際交流をした。
- 9 「Future Global Leaders Camp 2021」に参加し、SDGsの諸問題について学んだ。
- 10 「三菱プロジェクト探検隊」に参加し、企業のメンターとエネルギー問題について研究した。
- 11 「『坂の上の雲』のまちを巡ろう！360度動画リレー」に参加し、松山市の地域創生事業に協力した。
- 12 令和3年度愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会 研究発表の部に出場した。【最優秀賞・愛媛県知事賞】(12/3)
- 13 令和3年度愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会 日本語意見発表の部に出場した。【最優秀賞・愛媛県教育委員会教育長賞】(12/3)
- 14 令和3年度(第40回)四国高等学校国際教育生徒研究発表大会 研究発表の部に出場した。【優秀賞】(1/13)
- 15 令和3年度(第40回)四国高等学校国際教育生徒研究発表大会 日本語意見発表の部に出場した。【優秀賞】(1/13)
- 16 「2021年度全国高校生フォーラム」で発表した。(12/19)
- 17 「G Local High School Meeting 2022 (全国高等学校グローバル探究オンライン発表会)」に出場した。【金賞・審査員特別賞】(1/29)
- 18 「日露オンライン日本語履修高校生交流プログラム」に参加した。(2/19・20)
- 19 「JAICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2021」に参加した【国内機関長賞】
- 20 「全国高校生Pre SDGs Youth Summit」に参加した。(2/11)
- 21 令和3年度愛媛県高校生英語ディベートコンテストに出場した。【優勝・ベストディベーター賞】(10/30)
- 22 第2回みきゃんカップ英語ディベート大会に出場した。(3/12)
- 23 春休み語学研修プログラム(オーストラリア)に参加した。(3/21~25)

2 各種交流・講演会

(1) 外務省「高校講座」

外務省の各国専門担当官から直接話を聞くことで、国際情勢や外交問題に関心を持ち、国際理解の精神を涵養し、グローバル人材の育成を図る。

期 日：令和3年10月12日(火) 14:40~17:30

会 場：講演(各教室) 座談会(化学講義室)

参加者：講演 2年生全員 座談会 1、2年生希望者・SGH部

講演者：松本 英之氏 在ユジノサハリンスク日本国総領事館副領事

生徒感想

- ・私自身外務省について、知らないことも多く、今回の講義を通して、外務省の仕事や内容について理解することができました。特に、外務省の人は習得する言語数が多く、大変だと感じました。今後、国際化社会になっていくと思いますが、そんな状況でも対応できるよう、日本の文化を理解したり、多言語を使えるようにしたりしたいと思います。

- ・自分は外国と関わる仕事をしたいと考えていて、今回直接お話を聞く機会があり、とてもうれしかったです。人の命にかかわる仕事をしたいという目標を達成されている先生のお話を聞き、モチベーションが上がりました。
- ・なかなか聞くことができない外務省で働いている人の話を聞けることができ、よい経験になったと思う。英語が苦手だけど現地の人と交流できるということを考えると楽しく勉強できると思う。将来ヨーロッパに旅行に行きたいのでスペイン語やドイツ語の勉強を少しやってみるのもいいと思った。外国の魅力に気づき、興味を持った外国について調べて見ようと思った。
- ・グローバルに活動する仕事ならではのやりがいや特徴を学べる、興味深い講義だった。外交官という仕事は敷居が高いものだと感じていたが、話を聞くうちに親近感が湧いてきた。この職業について、さらに深く知りたい。
- ・今回の講座で外交に関する話をたくさん聞いて良かった。私は将来的に世界を相手にした職業に就きたいと思っているのでとても有益な時間だった。一度アメリカへの留学の経験があり、その時に、現地の人が日本についていろいろなことを知っていて驚いた経験が私にもある。まずは日本のこと、愛媛のこと、地元の魅力をたくさん知って、そこから世界につながるようなことをしようと思う。
- ・外務省と聞くと、文系でないと就職できないのかなと思っていたのですが、お話をしてくださった松本さんが理系だったことを知り、どんな学部でもなりたいた職業につくことができると勇気をもらいました。
- ・もともとは医学部を目指されていたことに驚きました。留学をするなど、自ら積極的に経験を積むことによって、あたらしい価値観・考え方を知り、将来選択に生きるのだなと思いました。私は、自分が将来どのようなことをしたいかわかりません。しかし、今日の講演を聞いて、目の前に訪れるチャンスを自らつかんで、様々な経験を積んでいきたいと思いました。非常に有益な講演だったので、これからの生活に生かしていきたいです。



(2) 「EUがあなたの学校にやってくる」開催

欧州連合（EU）とその加盟国の大使館員から直接話を聞くことができる「EUがあなたの学校にやってくる」の講義を1年生対象に実施し、グローバルな視点の育成を図る。

期 日：令和3年11月9日（火） 15：40～17：30

会 場：本校 体育館 会議室

参加者：1年生全員（体育館）、希望者（会議室）

講演者：スロバキア共和国 マリアーン・トマーシク（Mr. Marián Tomášik）駐日特命全権大使

生徒感想

- ・EUといえばユーロ。加盟国のうち19か国がユーロを使っていると聞き、他国と同じ通貨を使うというのはどんな感じだろうと気になった。また、EUは男女平等を基本価値としていていること、環境問題に周辺国一丸で取り組んでいることはとてもいいなと思った。国境を越えて助け合える、協力し合える関係は大切だと思う。今回のイベントで国際問題やヨーロッパについて興味が湧いてきた。
- ・社会科の授業でEUについては少し学んだけれど、その取り組みは今回初めて知った。特に日本と同じ目標をもって二酸化炭素の排出削減に努めたり、グリーンフィールドを行っていることに驚いた。

- ・もっとほかの国の話も聞きたかった。
- ・スロバキアについては知らないことばかりであったが、こちらが思っている以上に自然が美しい国であった。夜になると動物が山からおりてくると聞き、親近感がわいた。また、コインのデザインは各国の判断で好きにしていという決まりは面白いと思う。EU加盟国すべてのコインを集めたくなった。
- ・EUが何を目的として作られどのようなことをしているのか、について知ることが出来た。ヨーロッパ諸国が対立するのではなく、協力していることが学べた。EUへの興味関心が大きくなった。
- ・EUは大国に人口、経済活動で対抗するために作られたものと中学時代に聞いていた。でもそれしか知らなかった。実際はヨーロッパが日本とも何らかの形で関わっていると知り、もっとEUについて調べてみたいと思った。世界に目を向ける必要があると強く感じた。



(3) 大阪大学フィールドワークと国際交流

ほとんどのオープンキャンパスがオンラインになる中で、実際に大学キャンパスを見学し、教授や在学生の話聞くことは、進路に対する意識を高く持つ動機づけとなる。

海外フィールドワークが延期・中止となる中で、大学に在学している留学生と英語で交流する機会を設けることにより、生きた英語を使う良い機会を得る。

期 日：令和3年12月22日（水）、23日（木）

会 場：大阪大学豊中キャンパス・箕面新キャンパス

参加者：1年生希望者20人、2年生希望者20人

日 程：

12月22日

7：00 松山東高校発（貸し切りバス2台）

11：30 大阪大学豊中キャンパス着

13：00 模擬講義①（基礎工学研究科 佐藤宏介 教授）

14：15 模擬講義②（言語文化研究科 山本佳樹 教授）

15：25 大学・学部・大学生生活紹介

- ・大学概要説明（高等教育・入試研究開発センター）
＜学生による学部・大学生生活紹介＞

- ・工学部 環境・エネルギー工学科4年 守實友梨

- ・法学部 国際公共政策学科4年 高市桃子
質疑応答

16：15 豊中キャンパスツアー（20人×2グループ）

19：30 本校卒業生との座談会（宿泊ホテルにて）

12月23日

8：40 箕面キャンパス着

9：00 模擬講義③（言語文化研究科 横井幸子 准教授）

10：20 箕面キャンパスツアー

12：30 留学生との交流

ディスカッション及びプレゼンテーションの作成及び発表会

14：30 箕面キャンパス発



生徒感想：

- 今回のFWはとても充実していました。コロナ禍ということもあり普段感じることでできないたくさんの経験ができました。実際に講義を受けることができて、大学の雰囲気を感じることができ、ここで学びたいと改めて思いました。大学内の施設も生徒がより学べやすくなる最新の機能があたり、大学構内の広さに驚いたりみるだけではわからないたくさんの経験ができました。まさに「百聞は一見に如かず」だったと思います。また座談会では東高から神戸大学、大阪大学などに進まれた先輩方にたくさんの話をいただきました。自分の意識もいい方向へ向かったと思います。留学生との交流では英語力のなさを痛感しました。グローバル化が進む中でもっと実用的な英語も学んでいきたいです。本当に今回いい体験ができました。多くの人に感謝したいです。
- 今回の大阪フィールドワークでは、リモートでは感じることでできない大学の雰囲気であったり、講義の様子であったり、今の大学生と生で話すことができたりととても充実した二日間となりました。先輩方との座談会では、自分が今、勉強で困っていることや大学のこと、受験のこと、一人暮らしのことなどたくさんのことを直接聞くことができ、楽しかったですし、連絡先も交換して、メール上でも質問したり、話をしたりできる環境というものが作れたというのは人見知りの私にとっては、大きなことだと感じています。また、二日目に行った留学生との交流では、SGH部として英語で仕切らなければならなかったのが、不安要素が大きかったのですが、班のみんなと楽しく英語で交流できたので、いい思い出になりました。留学生とは連絡先を交換して、今でも英語でやり取りをしています。こうやって先輩方や留学生の方と連絡を取ることができているのは、この大阪フィールドワークがあったからです。本当に貴重な経験をありがとうございました。来年は受験生ということで、この経験をもとに自分の将来についてしっかりと考え、明日の自分が今日の自分を超えられるように頑張っていきたいと思います。
- 実際に大学を訪れ先輩方の声を聴いたり、通われたりしている学生さんたちをみて大学というのが少し身近に感じられるようになりました。今まで自分が行きたい学部ばかりで考えていて総合大学の強みなどは考えたことがなかったので新しい進路選択の視野が生まれてよかったです。自習スペースや学生同士の交流スペースなどが充実していて、自主的に勉強に取り組みやすい環境だなと感じました。また、自分と同じ夢を持った先輩とお話をさせていただきとても刺激になりました。私がお話をさせていただいた先輩方は口をそろえて自主性が大事だとおっしゃっていたので義務教育でなくなった今の高校生活から自主的に積極的に頑張りたいと思いました。パンフレットやホームページを見ることと生で見るとは全く違うなと思ったので気になった大学にはできる限り足を運んで後悔のない進路選択をしたいです。
- 実際に足を運んで大学の雰囲気を感じられ、これからの学習、学校生活に対するモチベーションを高めることができた。今回のフィールドワークで強く感じたことがある。それは、何か少しでも興味を惹かれることがあったときそれにとびこんでいく大切さだ。未来設計と同等か、それ以上に大事ではないかと思った。お話を聞いた阪大生は、大学でとる授業や研究は自分の興味に合わせて選ぶと言われていた。それは勉強に限ったことではないそうだ。自由な時間があるから、サークルやアルバイト、ボランティア等、やりたいことを自分で選んでできるという。きらきら光って見えた大学生は、自分で好きなことを見つけ、打ち込んでいた。高校生の私は、決められた内容の勉強をしているが、大学の勉強は「自分で選ぶ」という点で別物だった。大学生活を豊かなものにするため、今、幅広く様々なことに興味を持ち、自分の好きを見つけ、そしてそれに打ち込める大学に進みたいと思う。得意ではなく好きで進路を見つけられるようにしたい。



3 各種大会参加・入賞

- (1) 英語ディベートコンテスト
 - ・令和3年度 愛媛県高校生英語ディベートコンテスト 優勝 (Aチーム) 第3位 (Bチーム) ベストディベーター賞
- (2) 英作文・英語エッセイコンテスト
 - ・第60回 全国高等学校生徒英作文コンテスト 優秀賞1名
 - ・JAICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2021 国内機関長賞1名
- (3) 研究発表・プレゼンテーション
 - ・令和3年度 愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会 研究発表の部 最優秀
 - ・令和3年度 愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会 日本語意見発表の部 最優秀
 - ・令和3年度 愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会 留学生意見発表の部 特別賞
 - ・令和3年度 四国高等学校国際教育生徒研究発表会 研究発表の部 優秀
 - ・令和3年度 四国高等学校国際教育生徒研究発表会 日本語意見発表の部 優秀
 - ・G Local High School Meeting 2021 (全国高等学校グローバル探究オンライン発表会) (金賞・審査員特別賞)
 - ・未来ドラフト2021 オーディエンス賞
 - ・地方創生☆政策アイデアコンテスト2021 四国経済産業局長賞
 - ・第9回ナレッジイノベーションアワード 高校生アイデア部門コンテスト 入選

4 市内高校生会議

他校との交流の機会が少ない市内の高校生が集まり、各学校での活動について発表したり、世界の問題に対して意見を交換したりすることによって、グローバルリーダーとしての資質を養う。企画・運営は全て生徒が行う。毎回SDGsの課題を一つ取り上げ、その分野に精通したゲストを招き、話をしていただいたり、生徒のディスカッションにコメントをいただいたりする。専門家の口から出る本物の話は大変興味深く、生徒達の心に残るものである。

【実施記録】

- ①4/17土 まつやまNPOサポートセンターサブマネージャー 白石悟さん
SDG9 産業と技術革新の基盤を作ろう
- ②5/22土 こころのクリニックたちばな・精神科医 橘厚子さん
SDG3 すべての人に健康と福祉を
- ③6/6日 津軽三味線奏者・「絢の会」主催 片山慈(めぐみ)さん
SDG4 質の高い教育をみんなに
- ④7/11日 オペラ歌手・小学校音楽講師 榮基子さん
SDG10 人や国の不平等をなくそう
- ⑤8/9月 サマーキャンプ
SDG11 住み続けられる街づくり
- ⑥9/25土 愛媛国際交流センター(EPIC) 交流員 大森典子さん
SDG16 平和と公正を全ての人に
- ⑦11/13土 医療史研究者・近代史文庫会員 富長泰行さん
SDG3 すべての人に健康と福祉を
- ⑧12/12日 松山市議会議員 小崎愛子さん
SDG5 ジェンダー平等を実現しよう
- ⑨2/5土 第6回中四国高校生会議
松山東雲短期大学 桐木陽子先生
SDG5 ジェンダー平等を実現しよう

5 インターナショナルデー

英語ネイティブスピーカーとの関わりが乏しい中で、毎月県内在住のゲストを招き、その方の出身国についての話を聞くことで、英語を聞き・話す機会を設ける。また、学校紹介をしたり、英語を使って一緒に活動したり

する中で、英語を読み・書き・プレゼンテーションする力も養う。

【実施内容】

- (1) 生徒による学校紹介
- (2) ゲストによる国の紹介
- (3) 交流活動

【実施記録】

- ①4/24 土 オンライン (シンガポール・フィリピン・アメリカ・オーストラリア)
- ②5/15 土 オンライン (アメリカ3名)
- ③6/12 土 (ドイツ・ナイジェリア・オーストラリア・アメリカ)
- ④7/31 土 ビオトープ遠足(伊予郡松前町) (シンガポール・アメリカ5名)
- ⑤8/10 火 サマーキャンプ
(ニュージーランド・アメリカ(2名)・カナダ(2名)・オーストラリア(3名)・
エチオピア・ガボン・シンガポール)
- ⑥10/16 土 道後公園遠足 (アメリカ(3名)・オーストラリア・インド・インドネシア・ミャンマー)
- ⑦11/6 土 留学生、ALT歓迎会 (アメリカ(2人)・モンゴル)
- ⑧12/25 土 Xmas パーティー
(イギリス(2名)・シンガポール・アメリカ(4名)・エチオピア・オーストラリア)
- ⑨2/6 日 第6回中四国高校生会議
(アメリカ(2名)・フィリピン・カナダ(2名)・ニュージーランド(2名))

6 第6回中四国高校生会議

【特徴】 生徒の発案から始まった事業。今年も本校SGH部が主催として計画立案・司会進行を務めた。

【主旨】 都市部の高校に比べ、他校との交流の機会が少ない地方の高校生が集まり、自分たちのGL事業や各学での活動について発表したり、世界の問題に対して意見を交換したりすることによって、グローバルリーダーとしての資質を養う。さらに、共通のテーマについて考えを深めることでお互いを刺激しあい、将来グローバルに活躍できる人材としての資質を高める。

【日時】 令和4年2月5日(土)、6日(日)

【場所】 オンライン開催のため各参加校教室

【参加者】 生徒61名、教員9名

【参加校】 ①広島県立尾道東高等学校(4名) ②高知県立高知西高等学校(6名)
③愛媛大学附属高等学校(8名) ④愛媛県立宇和島南中等教育学校(4名)
⑤愛媛県立宇和島東高等学校(7名) ⑥愛媛県立松山中央高等学校(4名)
⑦愛媛県立松山東高等学校(28名) 計7校

【内容】 テーマ「SDG5 ジェンダー平等」を考える

1日目・2月5日(土)

- 12:30~13:00 受付(オンライン接続)
- 13:00~13:30 オリエンテーション・アイスブレイキング
- 13:30~14:00 参加各校の学校紹介・活動報告
- 14:00~15:30 ディスカッションとプレゼンテーションの準備(SDG5 ジェンダー平等)
- 15:30~17:00 プレゼンテーション発表会(日本語)
- 17:00~18:00 プレゼンテーションの講評と講話
松山東雲短期大学・桐木陽子先生(松山市男女共同参画推進財団理事長)

2日目・2月6日(日)

- 8:30~9:00 受付(オンライン接続)
- 9:00~10:00 英語プレゼンテーションの仕上げと練習(ネイティブスピーカーたちと)
- 10:00~11:30 Hawaii mid-pacific institute との交流・プレゼンテーション発表会(英語)
- 11:30~12:30 プレゼンテーション振り返り
- 12:30~13:00 自由交歓会
- 13:00 閉会

【ディスカッション内容】

「性別とは、世界と接する際に自らが示す一面に過ぎません。大切なのは、自分と異なる相手やその経験、価値観をいかに受け入れるかです。」

(オードリー・タン 台湾のデジタル担当大臣、プログラマー)

ウォームアップ1 次の外科医と負傷した少年は、どんな関係でしょう。

父親と息子が交通事故に遭い、父親も息子も重傷です。別々の救急病院に運ばれ、息子が運ばれた病院では、外科医が意識不明の少年を一目見て「これ、息子！」と叫びました。

ウォームアップ2 以下のグラフは、中学生を対象に「将来なりたい職業」を男女別に調査した結果です。男子の回答、女子の回答はそれぞれどちらでしょう。なぜそう思いましたか。

将来なりたい職業A	将来なりたい職業B
1 会社員	1 会社員
2 ITエンジニア/プログラマー	2 公務員
3 公務員	3 看護師
4 You Tuber	4 パティシエ
5 ゲーム制作者	5 教師
6 鉄道の運転士	6 幼稚園の先生/保育士
7 サッカー選手	7 料理人/シェフ

第一生命「大人になったらなりたいもの」アンケート (2021/03/17)

1 「女だから」「男だから」という性別による決めつけやイメージで、嫌だな、変だな、と思うことを挙げましょう。

2 次の日本のジェンダー不平等に関する数字と事実を見て、感じたことを書きましょう。

- (1) ジェンダー・ギャップ指数 120位/156か国 (2021年/世界経済フォーラム)
- (2) ジェンダー不平等指数 24位/162か国 (2020年/UNDP)
- (3) ジェンダー開発指数 55位/167か国 (2020年/UNDP)

*ジェンダー・ギャップ指数 (GGI) : 各国の男女格差を数値化したもので、スイス非営利財団世界経済フォーラムが2006年から毎年発表している指標。「経済」「政治」「教育」「健康」の4つの分野のデータから作成されており、0が完全不平等、1が完全平等を示す。

*ジェンダー不平等指数 (GII) : リプロダクティブ・ヘルス (性と生殖に関する健康)、エンパワーメント、労働市場への参加の3つの側面における達成度から、女性と男性の間にある不平等を映す指数。0が完全平等、1が完全不平等を示す。

*ジェンダー開発指数 (GDI) : 人間開発の成果におけるジェンダー・ギャップを表した指数。人間開発の3つの基本的な側面である健康、知識、生活水準における女性と男性の格差を測定している。

- (4) 国会における女性議員の割合 9.9%、166位 (2020年/列国議会同盟)
- (5) 企業の役員に占める女性の割合 6.2% (2020年7月/東洋経済新報社「役員四季報」)
- (6) 男女の幸福度 女性の方が男性より8.2%幸せだと感じている (2014年/世界価値観調査)
- (7) 「女性の幸福度- (マイナス) 男性の幸福度」 世界1位 (2010年/世界価値観調査)
- (8) 女性賃金が男性賃金に対して何パーセント低いかを示す「男女間賃金格差」 23.5% (OECD加盟国の中では2番目に高い: 2021年/世界経済フォーラム)
- (9) 結婚したことのある女性のうち7人に1人が身体的暴力の被害者 (2020年/政府広報マガジン)
- (10) 大学 (学部) の学生に占める女性の割合 人文科学 (65.3%)、看護学 (90.6%)、理学 (27.9%)、工学 (15.4%) (文部科学省「令和元年度学校基本統計」)

3 若い世代の、ジェンダーに対する意識の高まりを示す活動や事例を調べましょう。

4 世界の女性リーダーについての記事を読んで、あなたが感じたことを書きましょう。

世界の女性リーダー コロナ禍 共感呼んだ言葉

新型コロナウイルス感染症によって世界が混乱し、各国指導者の危機対応能力が問われた。未知のウイルスとの闘いで社会に不安や不満が渦巻く中、焦点にな



ったのは具体的な政策だけでなく、国民をまとめる言葉の力。特に女性リーダーたちが存在感を放った。危機感を無敵にあおるのリーダーたちの率直なメッセージは共感を呼んだ。

市民目線で高い支持



ニュージーランドのアーダン首相（最前列、左から4人目）が発足させた第2次政権の閣僚ら—2020年11月、ウェリントン（ゲッティ—共同）

女性指導者と言えは、か移動の自由は「苦難の末に勝ち取った権利」と語り、苦しみの決断だったと訴えた。は子ども向け記者会見を開き、賞賛に回答。ニュージーランドのアーダン首相は自宅から動画でメッセージ発信を続ける。幼い長女の乱入で配信が中断した様子にも共感が集まった。

一方、菅義偉前首相は発信力の弱さをたびたび指摘された末、退陣した。女性リーダーが活躍する国々とは対照的に、日本は男女格差を測るジェンダーギャップ指数や女性議員の割合が先進国で最低レベルの状況から脱せないでいる。

ジェンダーギャップ指数

順位	国	値
1	アイスランド	0.892
2	フィンランド	0.861
3	ノルウェー	0.849
4	ニュージーランド	0.840
11	ドイツ	0.796
16	フランス	0.784
23	英国	0.775
30	米国	0.763
102	韓国	0.687
107	中国	0.682
120	日本	0.656
156	アフガニスタン	0.444

※2021年、世界経済フォーラム(WEF)による。数値は0が完全不平等、1が完全平等を示す

国	女性国会議員の比率
ニュージーランド	49.2%
フランス	39.5
ドイツ	34.9
英国	34.2
米国	27.6
中国	24.9
韓国	19.0
日本	9.9

※国会議員の割合(IPU)による。一院制の国会と二院制の場合は下院(日本は衆院)が対象。2021年10月時点

「コロナ禍でのメッセージ」

アイスランド

ヤコブスドッティル 首相(45)

「世界的に急増しているジェンダーに基づく暴力との闘いにも、全力を尽くさなければならない」
2020年11月、ツイッター



ノルウェー

ソールバルグ 前首相(60)

「みんなが家にいることで、誰かが病気になるようにすることができる」
20年3月、子ども向けの記者会見



デンマーク

フレデリクセン 首相(44)

「愛する人をハグできないことはつらいけど、コロナなどの難しさに比べたら、小さな犠牲だ」
20年12月、インスタグラム



ドイツ

メルケル前首相(67)

「どれだけ多くの人愛する人を失ったか、愛する人の最期に寄り添えなかったかを忘れてはいけない」
20年12月、テレビ演説



フィンランド

マリン首相(36)

「(終息まで)どれだけ時間がかかるのか、どう回復するのか、今の私たちの行動にかかっている」
20年12月、国連特別総会



ニュージーランド

アーダン首相(41)

「あなたは1人ではない。私たちはあなたの声を聞く」
20年3月、記者会見



台湾

蔡英文総統(65)

「パンデミックに国境はない。手を取り合い、苦難を乗り越えよう」
20年4月、ビデオメッセージ



カリブ海のオランダ自治領 シントマールテン

ヤコブス首相(53)

「動かないで。家にパンがないなら、クラッカーを、シリアルを、オーツ麦を、イワシを食べて」
20年4月、テレビ演説

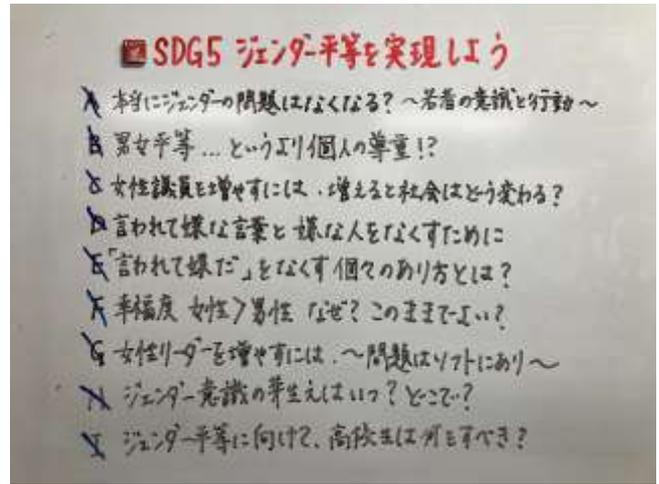


世界の女性リーダー

新型コロナウイルス禍で注目された

写真はロイター、フェイスブックから





【生徒感想】

- ・画面越しではあっても、いろいろな学校の人と話し合いができて良い経験になりました。来年はもっとたくさんの高校の人が参加してくれるといいなと思います。
- ・最初のアイスブレイキングから各校盛り上がっていて2日間とっても楽しかったです！同じ熱量を持った仲間とプレゼンし合うのは刺激になりました。なにかこの会議から学んだことを行動に変えたいと思います
- ・1日目は時間が押してしまって、最終的に講師の方のお話の時間が短くなってしまったのが残念でした。オンラインで交流する時は特に、発言者が準備をしている時間、つまり聞き手にとっては何も無い時間をいかに省くかを考えなければいけません。事前に順番を伝えているのだから、自分のグループの発表が近づいたらパソコンの近くに行っておくなど、みんなが徹底すべきだと思います。
- ・他の県の事も知るところができて楽しかったです！ただ、講師の先生のお話を30分ほどしか聞けなかったのが、少し残念でした。また、感想や質問をするグループがわかりにくかったので、ボードを作っておいてもいいのかなと思いました。
- ・グループで、みんなが混乱してしまうほど、熱く深く考えて、語り合うことができました。さまざまな視点からの発表に、驚いたり、納得させられたりと、刺激的で学びのある2日間でした。欲を言えば、他の学校ともグループが組めたら、もっと楽しいだろうなと思いました。来年も楽しみにしています！
- ・県をまたいでの交流ができてとても新鮮でした！オンラインということもあって会話がはずみにくかったの

が少し残念でした。来年は私たちが進行などをしていかなければいけないので、頑張りたいです。

・いつもは関わりのない学校の方々とお話しができたし、ジェンダー平等について色々な視点から考えることができたので、とても有意義な時間を過ごすことができました。参加していて楽しかったし、参加できてよかったです！！今回、あまり自分から質問を考えられなかったのも、これからは考えをもっと深めるためにも、常に疑問を持ちながらイベントに参加したいです。来年も楽しみです！！

・今年は県外の高校生とも交流出来て良かったです。ただやっぱり直接会うに越したことはないんだなと思いました。例えばチームをせっかく作ってプレゼンを作るのに各校で作ることになったりだとか、、、ブレイクアウトルームを使って自分たちの端末でも出来るのであればやってみたかったと思いました。しかし今回の中四国会議ではレベルの高い話し合いができたかなと思いました。各校で成長のある会議だったと思います

・ディスカッションやプレゼンテーション講師の先生のお話を通してジェンダー平等について今までよりさらに深く考えることのできた濃い2日間でした。初めて交流できた学校もたくさんあって、その方々はやはり意識が高く、積極的な発言、考え方にとっても刺激をうけました。次回はグループ内にとどまらず、質問など前に出て発言することを意識して頑張ります！来年は対面で開催されることを楽しみにしています！

・画面越しでも楽しむところは盛り上がり、ディスカッションは積極的に、プレゼンはクリエイティブに、とメリハリのついた充実した会議だったと思います。ただオンラインでの開催だったので、せっかく県内外のいろいろな学校の同世代の人たちと話せる機会なのに、実際はいつものメンバーで話し合っただけで発表する、という形になってしまったのは残念でした。さらに効率的な方法を追求してみるといいのではないかなとも思いました。主なテーマはジェンダー問題についてでしたが、根本的な解決のために今高校生の私たちが出来ることは何かを深く考え、解決への方向性が少し見えてきた感じがしました。問題について話すことはあっても、その解決方法について言及することはなかなかないので、みんなで熱心に議論できていい機会でした。ジェンダーに限ったことではないけれど、世の中の問題にはデータや数値だけでは測れない事実・原因があることを実感し、また問題にかかわるどの立場の人もそれぞれある意味で被害者なのかなとも思いました。自分でもよく考えるきっかけになりました。

・今回の課題は、タイムマネジメントとzoomの使い方だと思いました。プレゼンの準備時間が短いので、取捨選択が難しく時間内に収めるのが大変なのかなとも思いました。画面にタイマーを表示するなどして、時間を意識してもらおうといいかなとも思いました。また、愛大附属のように自宅から参加する人たちは話し合いが出来ないので、何もしない時間が生まれてしまうため、チャットやブレイクアウトルームを活用できればいいかなとも思いました。

・愛媛県だけではなく高知県や広島県、さらにはハワイからの参加もあり、色々な人の話が聞けてとても楽しかったです。気になったのは、発表をするときの声の大きさと空白の時間があることです。発表者からパソコンまで距離があったので、いつもより大きめの声で話す必要があったと思います。また、ディスカッション後に意見を発表するとき、発表者が決まっておらず、もたつくことがありました。ディスカッションの時間内に発表者を必ず決めておくべきだと反省しています。

・いつもの交流会などとは違った学校の方が参加して下さり、様々なプレゼンや意見を聞くことが出来て良い経験になりました。今回学べたことを、私たちの部活だけで終わらせるのではなくクラスの友達や学校全体に伝える機会も作ってみたいなとも思いました。来年は他校の方とも直接会って話したいです。

・いつもと違う学校の方が参加して下さり、楽しくまた深い議論ができました。私はジェンダー問題があまり好きではないけど、今の自分たちには何が出来るのかいい意見が沢山出てきました。1日目は接続の問題があっただけで遅くなったけど、2日目はタブレットの方も使って上手に進めていたと思います。来年は対面でしたいです！！

・松山市内の高校の参加が少なかったですが、様々な学校の方とジェンダー平等の問題について深く議論できて良かったです。オンラインだったけど、ある程度スムーズに進められていたし、活動もできたから一安心です。リアルタイムだともっと深い話し合いまでできたかなと思うところもあったので、来年は直接集まれる環境になってほしいです！

VI コンソーシアムにおける取組

1 各種取組

(1) 大学との連携

連携先① 愛媛大学

- ・課題研究講師派遣 G明教Ⅳ（3年生GLコース）の課題研究の時間に9講座開設
講師9人及びTA5人が指導
- G明教Ⅲ（2年生GLコース）の課題研究の時間に7講座開設

- 講師7人及びTA3人が指導
G明教Ⅱ（1年生）の課題研究の時間に講師派遣 4人
- ・講演講師派遣 G明教Ⅰの講演に講師を派遣 講師2人
 - ・保健講座講師派遣 1人
 - ・運営指導委員会・コンソーシアム会議 委員派遣
- 連携先② 松山大学
- ・課題研究講師派遣 3講座開設 講師3名が指導
 - ・コンソーシアム会議 委員派遣
- 連携先③ 学習院大学
- ・講演講師派遣 1人
- 連携先④ 大阪大学
- ・大阪大学FW 講義3名、キャンパスツアー8名、留学生10名
- (2) 産業界との連携
- 連携先① いよぎん地域経済研究センター（IRC）
- ・課題研究講師派遣 1講座開設 講師6名が指導
 - ・海外FW訪問先紹介
 - ・課題研究連携先の紹介
 - ・コンソーシアム会議 委員派遣
- 連携先② 県内企業FW代替講演
- ・三浦工業、アテックス
- 連携先③ 海外FW代替講演
- ・三浦工業（中国）有限公司、台湾三浦工業株式会社、韓国ミウラ工業株式会社、ミウラインドネシア株式会社、フィリピン渦潮電機
- (3) 行政機関等との連携
- 連携先① 松山市役所
- ・講演講師派遣 総合政策部シティプロモーション推進課
 - ・課題研究講師派遣 総合政策部危機管理課
 - ・笑顔のまつやま まちかど講座 受講 15講座開設
 - ・保健講座 松山市保健所 松山市保健予防課
 - ・運営指導委員会・コンソーシアム会議 委員派遣
- 連携先② 愛媛県国際交流課、（公財）愛媛県国際交流協会（EPIIC）
- ・ハワイ高校生との交流

2 コンソーシアム 会議議事録

(1) 第1回コンソーシアム 会議録

期 日：令和3年6月28日（月） 場所：愛媛県立松山東高等学校 会議室

参加者 横山 憲氏、田中 健太郎氏、西村 勝志氏、重松 栄治氏、
山本 司氏、山崎 薫氏、仙波 隆三氏、泉 圭三氏
川本 昌宏主幹、近藤 啓司指導主事、名本 雅一指導主事
嶋村 美和地域協働学習実施支援員、梶原 春菜カリキュラム等開発専門家
和田 真志校長、仲尾 頼和教頭、村井 浩昭教頭、高山 由美事務長
皆川 雅文GL事業課長、稲葉 麻衣GL事業課員、武智 豊GL事業課員

【和田校長挨拶】

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型」の指定を受け3年目となった。その前に、SGHとして5年間、文部科学省の支援を受けながら事業に取り組んできた。8年間にわたる長きにおいて取り組み、今年度は3年目最後の年ということで、これから先、松山東高校がGL事業をどのように取り組んでいくか、ご意見をいただきたい。

この事業が実施できているのも、産官学と地域とのつながりが、この事業の原動力であるので、引き続き、ご協力お願いしたい。

【事業内容説明】（GL事業課長） 本年度の取組と来年度以降の取組について
協 議

【山本 司氏】

コロナ禍において、オンラインでやってみて、よかった点、工夫された点などがあるか。

【GL事業課長】

利点としては、落ち着いた環境の中で、参加できることである。また本年度は、県教育委員会のご尽力によって、1人1台端末が支給され、Teams を活用して資料等を事前に掲載している。生徒はいつでも手元で、資料が見れるような状態であり、振り返りにも活用できる。ただ、講師の先生方との直接の対話がないため、講師の先生方の熱量が伝わりにくい点や、講師の先生方の話しづらさなどが課題ではないか。また、質問を遠慮してしまうようで、これまで体育館で行っていた時に比べると少ないのではないか。

【山本 司氏】

質問が出にくいということだが、シンポジウムなどでは、事前に生徒を指名しておくことも方法としては考えてみてはどうか。

3年目で最終年ということではあるが、このような教育活動が持続可能になるように、県教育委員会のサポートや民間の団体が協力して、良い活動を続けていってもらいたい。コロナウイルスの影響で、やむを得ずリモートでの取組をしているが、リモートであれば世界と直接つながることができる。ピンチをチャンスに変えるような取組を行えば、効果を高めることができるのではないか。対面でしか効果が上がらないものと、リモートで効果が上がるもの同士を上手く組み合わせたい。

【西村 勝志氏】

生徒の皆さんとオンラインでも話をさせていただき、高校生としては、積極的に質問してくれていたと思う。様々な企画をたてられて、学ぶ目的・目標・達成度などを学校として振り返りをされているのではないかと思います。しかし一方で、生徒個人の学ぶ目的を考えさせることが、自分がなぜ参加したのか、学校でこのようなことがあるから参加したのではなく、自らがどのような目的で参加したのかを考えることで、自主性や自分で考える意識をより持たせることが大切ではないか。そのようなことを確認させ、蓄積していくことで、生徒の自主性なども高まるのではないかと思います。

GL事業をぜひ継続してほしい。

【重松 栄治氏】

2年生のGLコース課題研究のところで、話をさせていただき、「時代は変わった」という印象を受けた。生徒がしっかりと考えて取り組んでいる。すばらしい活動をされていると思う。「カーボンニュートラルを考える」というテーマで、グローバルの中におけるグローバルの考え方について、生徒に意見を求めたところ、よく考えて応えてくれてすばらしいと思った。これからの社会においては、「社会課題の解決なくして、存在意義はない」というようなところに来ているのではないかと思いますので、彼らがそのような考え方を持っていることはすばらしいと思った。社会人になった時にすばらしい人材になるのではないかと思います。愛媛県の中核になって、愛媛県を盛り上げていける人材になってもらいたい。私たち民間の立場のものも、地域に残していくものを伝えていくことが大切ではないかと思う。将来、地域に還元してくれるのではないかと思いますので、ぜひ継続してほしい。

【横山 憲氏】

GIGAスクール構想において、松山市も、小学1年生から1人1台端末を使用して、パソコンを活用した授業をしてもらっている。今回課題研究などで取り上げているようなSDGsや選挙制度などについて中学生などでも取り組んでいる。これまでは、手を挙げた児童・生徒の意見が中心であったが、1人1台端末を活用して、全員の意見が、前の画面に映し出されるような授業も行われている。そういった子どもたちが、今後、高校に進学してくるので、自分で調べて、自分の意見が言えるというような子どもたちが増えていくのではないかと思います。このような事業を続けていただいて、高校生のレベルで、地域の課題や社会の課題を自分たちで考えて発表するような取り組みをぜひ行ってほしい。

【田中 健太郎氏】

これだけのカリキュラムをコロナ禍の中で実施したことはすばらしいと思う。松山市も、「まちかど講座」で関わらせていただいている。松山市の職員にとっても、生徒の皆さんに伝える中で、勉強させていただくことも多くある。若い人の意見を聞かせていただけることも大変貴重である。私どもも今後とも協力したいと思う。

【山崎 薫氏】

秋山兄弟生誕地の訪問について、コロナ禍ではあるが、1日で全クラス訪問していただき、この場所を生かしていただいたことに感謝申し上げます。今後の提案として、来年度以降、鹿屋体育大学前教授の濱田初幸先生を講師としてご依頼してはどうか。グローバルな考え方を伝えただけのではないかと思います。

【仙波 隆三氏】

国際交流を進めていく上で、グローバル化を抑制していくような香港のような動きや、今回のようなコロ

ナ禍など障壁があることを学ぶ良い機会になっているのではないかと。その中で、どのようなかたちで国際化を進めていき、人材を育てていくか検討していくべきではないかと考えている。SGHから8年となり、東高の中に、カリキュラムとしても構築されてきたのではないかと。これからは、これまでの活動を地域に還元をして、地域に広げていく、生徒がこれまで以上に外へ出ていくような具体的な活動を進めていくことも検討してはどうか。地域に広げていくことで、民間資金の導入も考えられるのではないかと。思う。

【泉 圭三氏】

この3年間で、すばらしい人材が育っていると感じた。松山市も一緒になって活動していけたらと考えている。中高生の年代から、課題の解決を目指す人材を育成していくことがこの国際情勢において大切ではないかと思う。

【西村 勝志氏】

生徒へのコロナワクチン接種についてはどうか。附属高校では18歳以上の希望者に接種する予定である。

【和田学校長】

現在、県教育委員会の指示を待っている。県立学校であり本校独自で行うことは難しい。

【和田学校長挨拶】

来年度以降も、この事業を継続していかねばならないと感じた。

この事業には課題が4つある。教育課程について、情報を取り崩して、総合的な探究の時間に行うために文部科学省と交渉をすること。費用について、グローバル基金や三浦保基金などを活用すること。コロナ禍における取組を精査していくこと。教職員のスキルについて、スキルの継承と地域との連携を継続していくことである。

これらの課題意識を持ちながら、生徒のために努力していきたいと考えている。そのためにも、コンソーシアムの方々からの協力をこれからもお願いしたい。

(2) 第2回コンソーシアム 会議録

～期日：令和4年3月10日 場所：愛媛県立松山東高等学校 会議室

参加者 横山 憲氏、田中健太郎氏、西村 勝志氏、北須賀 逸雄氏、重松 栄治氏、山本 司氏
山崎 薫氏、仙波 隆三氏、泉 圭三氏、川本 昌宏主幹、近藤 啓司指導主事
名本 雅一指導主事、嶋村 美和地域協働学習実施支援員、梶原 春菜カリキュラム開発等
専門家、和田 真志校長、仲尾 頼和教頭、村井 浩昭教頭、高山 由美事務長
皆川 雅文GL事業課長、稲葉 麻衣GL事業課員、武智 豊GL課員

【和田学校長挨拶】

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型」3年目を終えることとなった。この国の事業が終わっても、自分たちの力でなんとか続けていきたいと考えながら、今年1年かけて、現状を見直し、来年度へ向けて準備することをやってきた。この事業が実際に実現したのも、コンソーシアムを中心とした地域との協働が全ての要である。来年度以降このようなかたちを継続するためには、引き続き皆様方のご指導・ご支援をいただき、進めていきたいと考えている。本日は、これまでの3年間の評価をしていただきながら、来年度以降にいかしていければと考えており、ご意見をお願いしたい。

【事業内容説明】 (GL事業課長) 本年度の取組と来年度以降の取組について協議

【西村 勝志委員】

研究成果の発表について、発表会をした後に生徒へ改めて、気づきのためのアクションをとられているか。担当教員は、当然、振り返りはされていると思うが、生徒は気づき・教訓などが次にいかせるか、そのようなものがあるかどうか。

【GL事業課】

今年度は感染対策のために、1年生は、教室固定で発表するかたちで実施した。そこでの発表について、聴衆は感想を書くようにしており、それを来週整理させて、各担当の教員が最後まとめるようにしている。2年生がポスター発表をした時は、感染が落ち着いていたので、実際に、ポスターセッションというかたちで、聞いた人が感想を入れるという方法で行い、その感想をまとめさせて提出させるようにした。それ以後の、12月から3月までの研究のための、考える材料として活用するようにした。また、ワークシートというかたちで、感想などをまとめさせて集めて、その評価を見ながら、GL課で来年度以降の改善点として活用している。

【西村 勝志氏】

感想のところで、ただ一枚の紙に感想を書きなさいということではない導きをされると、より効果は高いのではないかと。発表を聞いて、1年生のポスターセッションは、非常に良いかたちで作られていて、それは

コロナ禍での指導の賜物ではないか。2年生のパワーポイントの資料のづくりも、見事なもので、大学生に負けず劣らずの内容で、これは良い意味の影響があるのではないかと思う。

【山本 司氏】

プレゼンを見させてもらって、まとめ方・プレゼンの仕方等が伸びてきているなど感じた。これからも続けていくことが大事ではないか。研究テーマにもなっております、これからの愛媛で生きるということ、高校生たちが研究して発表していることがすばらしいと感じた。8年間の事業の取組ということで、社会人となっている卒業生もいるのではないか。これまで良い発表をし、夢を語ったものに何かフォローアップというかたちで、後輩や現役の生徒と話せるようなかたちをとることができれば、お互いが刺激し合って良いのではないか。母校に戻って来るといった機会の確保を設けていただければと思う。

【和田学校長】

社会人活用について、先日の松山南高校のSSHの発表で、30代の卒業生で海外の大学で働いている方が来られていた。本校でも、今後、この事業で発表をしたり、活躍した生徒とのつながりを持って、県外や海外でキーパーソンになるような人材を活用したらよいのではないかと考えている。

【重松 栄治氏】

このような事業を、授業中に受けられることは、本当に幸せではないかと感じており、適切とも思う。このような機会が与えられていることは、すばらしい。課題研究担当の講師の先生方の経歴や研究テーマも多岐にわたっており、このような授業が受けられることはすばらしい。日本、愛媛県は、少子高齢化ということで、人口も減少している。しかし、アジアやアフリカでは人口爆発しており、そのような観点から考えると、彼らが20年後、30年後に日本の中心になっていった場合に、グローバルな視点がなかったら、日本以外の国と戦っていけない。そもそもそういった感覚を持ちながらのグローバルということが、非常に大事なのではないか。そういった大前提がありながら、彼らZ世代の特徴としては「社会課題が許せない」ものが多い傾向にあり、また、社会課題に対応していくということが、発表資料などからも見えており、高校生からこのようなスタンスでいて、やったことが社会に反映されていくようなことがすばらしいのではないか。教科教育も大切ではあると思うが、こういった自発的に社会課題に取り組み、グローバルな視野を持った人材を育てるような取組を継続してやっていっていただきたい。

【GL事業課】

外部の先生方にグローバルな視点を色々なかたちでご教授いただく機会を得ることが、大変ありがたく思っている。生徒に刺激を与えていただけるように、今後ともご協力をお願いしたい。

【北須賀 逸雄氏】

平成26年からスーパーグローバル事業(SGH)が始まって、GL事業となって今年で8年間となり、SGHから続けてきたよい事業を継承しつつ、なおかつ課題研究を大事にしながらやってこられたのではないか。特にこの2年間は、コロナ禍で十分な事業ができなかったということだが、その中でも、いい形で課題研究が発展してきている。松山東高校は、文武両道で、学校行事も盛んである中、課題学習で探究的な学びを発展させることができたことが、松山東高校の特徴となっているのではないか。今後の課題研究の在り方は、生徒の負担にならないように、継続して行ってほしい。グローバル人材育成振興を活用していただいて、希望する生徒には研究の機会などを提供していただければと思う。

課題研究をする中で、生徒たちが自分が大学に進学して、実践してみようというような研究テーマの事例は、特に3年生などはあるのか。

【GL事業課】

医学系講座では、12名のコース生がいるが、半数以上の生徒が医学部への進学を決めている。また、機能的食品に関するテーマの講座では、難関国公立大学への進学を決めており、薬学部や農学部などで食品の分析や機能性に関する研究などに取り組んでいく予定である。また、松山市の防災の講座の生徒では、防災のことをさらに深めていきたいと考え、難関国公立大学の推薦型の入試で進学を決定している。生徒たちにとっては、教えていただいたことが、進路決定について、大きく影響しているのは事実だと思う。

【横山 憲氏】

義務教育においても、ICT教育が本格的に始まっていて、タブレットを活用し、ロイロノートで意見を交換したり、学校教育の中では当たり前になってきている。インターネットを通じて、世界とつながっていることは子どもたちの中では普通のことになってきている。SDGsの考え方も教育に浸透してきており、世界で同じ目線で、同じ目標を掲げ、考える素養というものも小学校段階からある。このような中で、本校では、高校生の間に、地域と関わる取組があることもすばらしい。われわれ自治体においても、地域を持続していくことや課題を解決していくことは、若い人の発想や力はこれから当然必要になってくる。地域の良さや課題を見つけて、地域で活躍する人材を育成することについても、松山市としては協力していきたい。

【田中 健太郎氏】

持続可能な地域とするために、地域の良さや地域の課題を自分たちの目で見つけていけるような人材が必須であると思うので、そのようなかたちで取り組まれていることは、世界の比較の中でもやっていると感じた。松山東高校の生徒なら、地域を離れても、これまで課題研究に取り組んだことをいかして、今後も取り組んでいけるのではないかと。また、1年生から3年生までコースの生徒には全員に今年度発表させることができたことはすばらしい。自分で考えてまとめて発表するスキルは、社会に出ても役立つ力だと思う。また、松山市も、「まちかど講座」やフィールドワーク、松山市の施設の活用、防災、選挙などで協力したいと考えている。

【西村 勝志氏】

愛媛大学としても今後とも連携していきたい。また、課題研究のテーマに関して、高校側では、大学にテーマ依頼をしているのか。

【GL事業課】

SGH事業の時は、愛媛大学の入試課が窓口になっていただいて、テーマ依頼ができていたが、GL事業に移るときに、業務負担というかたちで難しいということになった。これまでのつながりを利用しながら、個別に対応していくかたちで実施してきた。不足しているものにつきましては、学部長様のご協力を得ながら、個別に対応していただくというかたちになっている。担当している現在の本校教員はできるが、次の担当へと継承していったときに、それも難しいと考え、学校長に対応していただくことにした。来年度のGLコースの募集をしたときに、自分が学びたいことがなかったというアンケートもあり、係としては心苦しく、いろいろな講座をできるように、松山大学様も含めて、それぞれと協定していただく準備をしている。

【西村 勝志氏】

課題研究のテーマを決める上で、生徒たちは、AIやVR、DXなどに関心が高いのではないかと。社会が求める人材に、まずはその土台づくりを高校からそして大学へつなげていくために、本学も連携していきたい。

【山崎 薫氏】

課題研究が、課題研究と名乗っていれば、その中で課題研究をしているというようなことにならないようなことが大事だ。また、課題研究の講師として、浜田さんという柔道・スポーツを通じてグローバル教育という視点で使命感を持ってやっておられる方がいるので、ぜひ今後課題研究の講師をお探しでしたら依頼してはどうか。

【仙波 隆三氏】

SGHから8年間、教職員の皆様お疲れ様でした。これからさらに、補助事業がなくても継続していくべきものである。また、社会において、18歳の選挙、成人年齢、裁判員裁判など、座学だけでは通用しない、生きる力を育むことが必要である。そういった意味でも継続して行ってほしい。

【重松 栄治氏】

グローバル化とDXは相性が良く、本当はリアルで海外に行くなどの研修に行くことが良いが、それができなかった場合に、DXなどのデジタル化がサポートになるはずである。特に生徒たちが成長して大人になったときに、メタバースとかヴァーチャルオフィスなどが普通になってくる。海外に行かなくても、海外に行ったのと同じような体験ができるのではないかと。こういったことを次回からの戦略に組み込んでいったら良いのではないかと。

【学校長挨拶】

これからの学校教育のあるべき姿を見ながら、この松山東高校が地域を代表する学校としてますます躍進できますように、地域と連携して取り組んでいきたい。ご協力よろしくお願ひいたします。

VI その他の取組

その他に以下の内容の取組を実施した。

	内容
1	松山東高等学校グローバル人材育成振興会
2	運営指導委員会

1 松山東高等学校グローバル人材育成振興会

(1) 発足経緯

平成 27 年度に実施したウガンダFWの際に、その費用の一部を寄付によって賄うためにPTA会長を代表とする「松山東高等学校グローバル人材育成振興会」として発足した。その後、平成 28 年度に規約を改正

し、対象をウガンダFWのみならずグローバルリーダー育成における様々な取組に活用できるようにして新たな「松山東高等学校グローバル人材育成振興会」を結成した。振興会の会長には、永野能弘氏（四国建販代表取締役社長）に就任していただき、学校・同窓会とは分離した第三者的組織となった。

(2) 振興会趣意書・役員表

松山東高等学校グローバル人材育成振興会 趣意書

皆様方には、時下、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。日ごろから松山東高校の教育活動に対しまして格別の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、松山東高校は平成26年度から文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」事業の指定を受け、「東高がんばっていきましょい ～ALL愛媛で育てる世界にはばたく人材～」の研究開発構想のもと、輝かしい歴史と伝統を受け継ぎながら、SGH事業を通して世界で活躍できる人間的魅力のあるグローバルリーダーを育てる取組を行ってきました。

この事業を通して「世界の持続可能な発展に貢献する意欲と深い教養を身に付けた人材」、「問題解決力・コミュニケーション能力等の国際的素養を持つ人材」、「日本人としてのアイデンティティを持ち、愛媛や日本の魅力を世界に発信する人材」が松山東高校から多く輩出するよう、5年間にわたり課題研究を始めとする取組が展開されてきました。今までの生徒の熱心な活動の様子は、本校ホームページやGL News Letter等で紹介しています。

平成28年、これまでの生徒の取組や成果を鑑み、新たに松山東高等学校グローバル人材育成振興会を立ち上げました。毎年皆様から会費を募り、国際感覚・国際的教養を身に付けたグローバル人材を育成するために広く活用してきました。令和元年度からは、SGH事業のレガシーを継承し、地域課題に取り組む「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」に文部科学省から新たに指定を受けました。つきましては、今後も引き続き皆様方より会費を募り、生徒の活動を支援していきたいと考えております。なお、使途につきましては下記の内容を予定しております。

このことは、松山東高校のみならず松山、愛媛さらには日本の一層の発展に資するものと考えます。何とぞ、この趣旨を御理解の上、皆様方の温かい御支援、御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。
令和3年6月吉日

松山東高等学校グローバル人材育成振興会 会長 永野 能弘

<p><会費の使途の具体例></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆海外フィールドワーク・海外研修に参加する生徒等への補助 ◆学会・研究会で発表する生徒等への補助 ◆講演会等実施時の講師旅費・謝金 ◆教育活動に役立つICT機器の整備

松山東高等学校グローバル人材育成振興会役員

会 長	永 野 能 弘	四国建設機械販売株式会社代表取締役社長（同窓会副会長）
副 会 長	稲 葉 隆	大一ガス株式会社常務取締役
副 会 長	二 宮 以 紀	松山東高校PTA会長
顧 問	和 田 真 志	松山東高校校長
顧 問	村 田 裕 司	同窓会長
理 事	重 松 栄 治	いよぎん地域経済研究センター取締役社長
理 事	宇 和 上 正	同窓会副会長
理 事	村 瀬 ち か	松山東高校PTA副会長
理 事	仲 尾 頼 和	松山東高校教頭
理 事	村 井 浩 昭	松山東高校教頭
理 事	高 山 由 美	松山東高校事務長
会計監査	井 手 一 隆	同窓会事務局長
会計監査	中 野 記 久 子	松山東高校PTA監査

2 運営指導委員会 議事録

- (1) 令和3年度 第1回 松山東地域との協働による高等学校教育改革推進事業運営指導委員会 記録
～日時：令和3年6月28日（月）場所：愛媛県立松山東高等学校 会議室～
参加者 井上 敏憲委員、佐伯三麻子委員、菅 紀子委員、寺村 尚起委員、安宅 理委員

高岡 伸夫委員、川本 昌宏主幹、近藤 啓司指導主事、名本 雅一指導主事
和田 真志校長、仲尾 頼和教頭、村井 浩昭教頭、高山 由美事務長
皆川 雅文GL事業課長、稲葉 麻衣GL事業課員、武智 豊GL事業課員

【川本主幹挨拶】

グローバルな視点を持ち、地域を支えるリーダーの育成を目的としたグローバル型の本事業において、松山東高校では、これまでに郷土の魅力を世界に発信し、社会の持続的な発展に貢献できる人材を育成し、昨年度は、のべ450人もの外部講師にご協力いただき、講演会やワークショップを実施したり、のべ94人の生徒が、国内外の企業などと連携した取組を実施したりするなど多くの成果をあげてこられた。最終年度になる本事業は、これまでの取組をさらに発展させるとともに、事業終了後も継続して取り組みが実施できるカリキュラムについて研究していただくことになっている。県教育委員会としては、地域と密着したコンソーシアムとの協働に加え、専門的見地から、指導・助言をしていただく本委員会を設置することで、取り組み状況の把握等を行っていただきたい。

【学校長挨拶】

SGHの時には、グローバルを中心に行っていたが、この3年間は、地域との協働ということが大きなテーマであった。地域との協働については、委員の皆さまのご助言などをいただき、何とか3年間進めてきた。この3年間で、国からの予算はなくなるが、事業継承はしていかなければならないと考えている。謝金や旅費などの予算が必要になってくるのが今後の課題となる。また、教育課程においても、今は研究指定校として特例を認められているが、今後どうしていくべきかを解決しながら前に進んでいこうと考えているので、皆さまのご意見をうかがいながら進めていきたい。

【事業内容説明】 (GL事業課長) 本年度の取組と来年度以降の取組について

協議

【井上 敏憲委員長】

教育課程の特例措置は今後どうなるのか

【和田学校長】

文部科学省に問い合わせたところ、国の事業を継続していくためであれば、特例措置は認められるのではないかと回答をいただいている。8月中の申請を行いたい。

【寺村 尚起委員】

OBからの寄付や大口の寄付などはないのか。

【GL事業課長】

グローバル人材振興基金が同窓会を中心にできており、新入生の保護者・PTA・同窓会関係の方々から寄付というかたちでいただいている。PR不足であるため、基金が増えていない。コロナの影響で、同窓会総会などでのPRできていないのが現状である。

【和田学校長】

オンライン同窓会では、案内をしている。今後機会があるごとにPRを行いたい。

【高岡 伸夫委員】

まつやまSDGs推進協議会(松山市)に東高も参加していただいている。180くらいある団体にも参加していただいているので、ここを利用して、寄付や講師の依頼などを進めてみてはどうか。企業と高校生徒の連携を進めてみてはどうか。

また、まちづくり推進課では、まちづくりの提案制度がある。2人以上でまちづくりをテーマにした取り組みをすれば、上限10万円までの100%の補助を得られるものもある。申請を検討してみてはどうか。

【井上 敏憲委員長】

企業にとっても利点が考えられる。Win Winの関係になるのではないかと。

【和田学校長】

予算に関して、三浦保基金や愛媛県教育振興会の基金なども利用していきたい。

【井上 敏憲委員長】

すばらしい発表会をされているので、冊子をつくって広告を取ってみてはどうか。情報発信のひとつとして、考えてみてはどうか。

【菅 紀子委員】

すばらしい発表会を行っているので、ぜひ一般の方への発信も考えてみてはどうか。また、地元の企業の方にもみていただくことや、YouTubeに内容をあげてみることも考えてみてはどうか。

【佐伯 三麻子委員】

YouTubeの利用については、内容について、個人情報なども課題であると思うが、部分的な内容にして活用してはどうかと思う。

【和田学校長】

CATVに依頼をして、動画編集をして番組を作成していただいているかどうかを考えている。また、学校のYouTubeにあげることが難しいようなら、CATVの中のYouTubeチャンネルにあげていただくことも考えてみる。

【菅 紀子委員】

公開の仕方もいろいろあるので、慎重に検討すればできるのではないかな。

【佐伯 三麻子委員】

グローバル化における言語コミュニケーション支援のひとつとして、海外から来られている方が、災害時に情報を得られるための言語情報の発信を行うことで、命を守る取組につながっていくと思う。海外FWで学んだことを、還元していくことが大切ではないかな。

【井上 敏憲委員長】

長期滞在している外国人への情報発信も検討してみてもどうか。

【安宅 理委員】

松山南ではSSHも20年目となり、来年度21年目に入り、ゼロ予算となり、認定校となる。無償で来ていただける講師の方を探したり、地域の企業の方で協力していただける方を探したりしたいと考えている。情報発信については、一般の方へも発信することも大切ではないかなと思う。分かりやすくどの学校でも使えるノウハウを構築していくことも必要ではないかなと思う。

【井上 敏憲委員長】

SSHとSGHの連携をおこなっていくことも良いのではないかな。

SGHネットワークとして、GL、SGH事業の内容の整理なども必要ではないかな。

(2) 令和3年度 第2回 松山東地域との協働による高等学校教育改革推進事業運営指導委員会 記録

～日時：令和4年3月10日（木） 場所：愛媛県立松山東高等学校 会議室～

参加者 井上 敏憲委員、佐伯 三麻子委員、菅 紀子委員、高岡 伸夫委員

川本 昌宏主幹、近藤 啓司指導主事、名本 雅一指導主事

和田 真志校長、仲尾 頼和教頭、村井 浩昭教頭、高山 由美事務長

皆川 雅文GL事業課長、稲葉 麻衣GL事業課員、武智 豊GL事業課員

【川本主幹挨拶】

指定期間3年の最終年度が終わろうとしているが、新型コロナウイルスの影響で予定通りできなかったことも多かったと思われるが、感染防止対策を図りながら、産官学の連携の下、多数の外部講師の方の協力を得て、講演会やワークショップ等を交えた高い水準での課題研究を行ったり、校内成果発表会を定期的に実施したり、可能な限りの取組を実施していただきました。県教育委員会としても、本校の地域と協働した取組が、今後ますます充実したものになるとともに、取組を通して地域の将来を担う人材が育成されることを期待しています。

【学校長挨拶】

今年度コロナ禍の中、12月に大阪大学フィールドワークを実施できたり、3年生の成果発表では、生徒一人ひとりが自分の課題として取り組んだ結果、GLコース生全員が発表することができたりした。この成果は、愛媛大学、松山大学をはじめとして数多くの外部講師の先生方のアドバイスと熱意のおかげと感謝申し上げます。最終年度となりますが、この形での学びを継続していく計画をしていますので、忌憚のない御意見をお願いしたい。

【事業内容説明】 (GL事業課長) 本年度の取組と来年度以降の取組について

協 議

【井上 敏憲委員長】

発表の形式が昨年度と変わっているが、生徒は例年通りの発表をしており、対応力の高さがうかがえた。

【佐伯 三麻子委員】

1年生のポスターセッションと2年生のSDGs関連の発表を見たが、思考力が高く、多面的な捉え方ができていた。

【高岡 伸夫委員】

12月のポスターセッションを見たが、しっかりとしたデータに基づいて分析され、説得力のあるポスターであった。各ポスターで「あなたなら研究してテーマでどのようなことができますか」と質問したが、レスポンス良く、自分が研究してきたことに基づいて自分の意見を述べておられ立派であった。

【菅 紀子委員】

全員に発表の機会を与えられているのが良い。2年生ではグローバルな視点での取組が多く見られたが、

1年生ではテーマで愛媛のコアな部分のものもあった。良い点ではあるが、これをどのようにグローバルにつなげていくかも考えさせてほしい。

【井上 敏憲委員長】

課題研究が本事業のメインであるが、高いレベルで実践されていることは間違いなく、上手くいっているのではないか。

次年度以降への提案等があればお願いしたい。

【佐伯 三麻子委員】

3年生での研究は、2年生での研究の継続であるのか。

【GL事業課】

同じ先生に指導していただいているので継続した研究を行っている。大学での研究の素地ができるような取組と考えている。

【佐伯 三麻子委員】

課題研究で提案型の研究が行われているが、国や文化によって背景となるものが異なるので、その背景を十分に考慮した上での提案が求められる。

【高岡 伸夫委員】

報告書のアンケート中で、1年次の1年生と2年次の2年生では、「地域に対する理解が深まった」の項目が高くなっており、市の立場としてアイデンティティの確立やシビックプライドの確立がなされており、将来故郷を思って行動できる人材が育っており嬉しく感じている。また、GLコース生と非GLコース生との差も広がっており、この事業によって地域のために貢献したいという生徒が育っており、今後も事業を継続していくことが大切であると感じた。

1年生の課題研究で取組の差があったということであるが、今年はどうであったのか。改善されたのか。

【GL事業課】

本年度は1年生の課題研究が2年目を迎え、昨年度の反省の下取り組んできた。昨年度のノウハウを引き継ぎ、また地域協働学習支援員の支援も受けながら実施してきた。教員間による差は依然としてあるものの、各教員が熱心に取り組んだ結果、生徒の満足度は高い課題研究を行うことができている。

【井上 敏憲委員長】

地域理解のためにはフィールドワークが大切であるが、来年度はどうするのか。

【GL事業課】

新型コロナウイルス次第であるが、様々なフィールドワークは実施していきたい。

【井上 敏憲委員長】

来年度以降も継続できる体制はできているのか。

【GL事業課】

教育課程の特例申請を行い、認められたので実施できる体制になっている。

【高岡 伸夫委員】

2年生のGLコースへの希望が多いようなので、希望者全員が取り組めるように改善して行ってほしい。また、他校との交流の様子はどのようになっているのか。

【GL事業課】

毎月市内の高校生を招待し、一緒にディスカッションすることを続けている。その生徒たちが各学校に戻って、それを広げていくような取組となっている。

【菅 紀子委員】

今後の継続に向けて、資金についてはどのようになっているのか。

【和田学校長】

同窓会を中心としたグローバル基金や、外部機関の助成事業などを活用して実施していくように計画している。

【井上 敏憲委員長】

生徒の感想から、本事業を通して生徒自身が得たものの大きさがうかがえる。

編集後記

5年間のSGH事業と3年間の地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）の計8年間、創立140年以上を誇る伝統校である本校に新たな息吹を吹き込む様々な取組に挑戦できるチャンスを、文部科学省や愛媛県教育委員会からいただいたことに感謝申し上げます。

この8年間、3つの大きな柱の形成のため様々な挑戦をしてきました。まず、課題研究プログラムの開発です。本校の課題研究は当初より、産官学の連携による温かい支援を受け、広範囲で高レベルの課題研究を実施することができました。さらに事業指定終了後を見据えて、本校教員指導による課題研究にも取り組んできました。その結果、特に1年生で実施している総合的な探究の時間を活用した「G明教」のプログラムは、オンラインの活用により他校でも実施可能なものになったと確信しています。2つ目の資質・能力育成のための「E a s t C L I L」の取組は、科目内容と言語を統合した学習で、生徒の英語への興味・関心が高まるとともに、英語科以外の教員の成長する機会にもなりました。3つ目が、学校のグローバル化です。コロナ禍であり直接海外に行くことはこの2年間難しい状況でしたが、コロナ禍以前は、学年の3分の2の生徒が、在学中に海外を経験できる体制を確立できたり、海外からの留学生が同じ教室で学んでいたりと、海外の高校生とオンラインで定期的に交流したりと、グローバルな視点の育成環境を整えることができました。また、グローバル化を牽引するSGH部も、中四国高校生会議や市内高校生交流会などを企画・運営するなど、本校を代表する部活動に成長しました。

この8年間、本事業に取り組んできた教職員・生徒ともに、「失敗を恐れず挑戦を続ける」ことを常に意識し実践してきました。大きな成果を残せたかどうかは、この事業で学んだ生徒たちの、数年後、数十年後の姿を見るしか分かりません。しかし、世界・日本・地域のいずれかの場所で活躍することが期待できる小さな種を、それぞれの生徒に与えることはできたと信じています。本年度で、本事業は終了しますが、来年度以降も本事業を継承していく基盤もつくることができました。これからも、地域から支えていただいている県立学校として、地域に貢献できる人材、また進学校として、世界や日本全体の発展に寄与できる人材の育成を目指して、教職員・生徒一同「東高がんばっていきましょい」の合言葉のもと精進していきます。

最後に、今まで課題研究等で支援をいただいた愛媛大学や松山大学の先生方、講演や各種交流に協力・支援をいただいた愛媛県内の企業関係者の皆様、指導・助言をいただいた愛媛県教育委員会の皆様、さらには、様々な研修の機会を提供していただいた松山市役所や関係機関の皆様のおかげで、本事業が無事実践できたと考えており、深く感謝申し上げます。これからも、東高に今まで以上に温かい御支援をよろしくお願いします。

松山東高等学校GL事業課

第4部

関係資料

- 1 本年度教育課程表（令和元年・2年度・3年度入学生）
- 2 1年生 課題研究成果（ポスター）例
- 3 2年生 課題研究成果（ポスター）例
- 4 本年度取組概要図

1 本年度教育課程表

令和3年度 教育課程表

令和元・2年度入学（普通科）

愛媛県立松山東高等学校（全日制・本校）

区分	科目	標準 単位数	I 型				I型GLコース				II 型				II型GLコース								
			1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計					
国語	国語総合	4	5			5	5			5	5			5	5			5	14				
	現代文B	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4					
	古典	4		3	3	6		3	3	6		3	2	5		3	2	5					
地理	世界史A	2										1	1	2					7				
	世界史B	4		4		4・8		4		4・8													
	日本史B	4			4	0・3・7			4	0・3・7				0・5				0・5					
歴史	地理	4		3		0・3・7		3		0・3・7		2	3	0・5			2	3	0・5				
		4				0・3・7				0・3・7				0・5				0・5					
公民	現代社会	2	2			2	2			2	2			2				2	2				
	倫理	2			2	0・2			2	0・2													
	政治・経済	2		2		0・2			2	0・2													
数学	数Ⅰ	3	3			3	3			3	3			3	3			3	19				
	数Ⅱ	4	1	3		4	1	3		4	1	3		4	1	3		4					
	数Ⅲ	5									1	5		6		1	5			6			
	数A	2	2			2	2			2	2			2	2			2					
	数B	2		2		2		2		2		2		2		2		2					
	☆数学探究Ⅰ	3			△3	0・3				△3	0・3												
	☆数学探究Ⅱ	2			※2	0・2				※2	0・2												
☆数学探究Ⅲ	2											2	2			2	2						
理科	物理基礎	2										3		3			3	3	18				
	物理	4												0・4				0・4					
	化学基礎	2	2			2	2			2				2			2						
	化学	4			□4	0・4			□4	0・4		2	4	4	6		2	4		4			
	生物基礎	2		2		2		2		2		3		3		3		3					
	生物	4			□4	0・4			□4	0・4					0・4			0・4					
	地学基礎	2		2		2		2		2													
	地学	4			□4	0・4			□4	0・4													
	☆化学探究	2			○2	0・2			○2	0・2													
	☆生物探究	2			○2	0・2			○2	0・2													
☆地学探究	2			○2	0・2			○2	0・2														
保健	体育	7~8	3	3	2	8	3	3	2	8	3	3	2	8	3	3	2	8	9				
	保健	2	1	1		2	1			1	1	1		2	1			1					
芸術	音楽Ⅰ	2				0・2				0・2				0・2				0・2	2				
	美術Ⅰ	2	2			0・2	2			0・2	2			0・2	2			0・2					
	書道Ⅰ	2				0・2				0・2				0・2				0・2					
	☆音楽探究	3			△3	0・3				△3	0・3												
	☆美術探究	3			△3	0・3				△3	0・3												
	☆書道探究	3			△3	0・3				△3	0・3												
	☆音楽表現	2			※2	0・2				※2	0・2												
☆美術表現	2			※2	0・2				※2	0・2													
☆書道表現	2			※2	0・2				※2	0・2													
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3			3	3			3	3			3	3			3	17				
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4		4		4		4		3		3		3		3					
	コミュニケーション英語Ⅲ	4			4	4		4		4			4	4			4	4					
	英語表現Ⅰ	2	3			3	3			3		3		3			3	3					
	英語表現Ⅱ	4		2	3	5		2	3	5		2	2	4		2	2	4					
家庭基礎	2	2			2	2	2		2	2	2		2	2	2		2	2					
情報	情報の科学	2	1			1	1		1	1	1		1	1		1	1	1					
共通教科・科目計		30	31	29・31		90・92	30	30	29・31		89・91	30	31	31		92	30	30	31		91		
家庭	生活と福祉	2~6				0・2	0・2			0・2	0・2												
	フードデザイン	2~6			※2	0・2	0・2			0・2	0・2												
専門教科・科目計				0・2		0・2			0・2		0・2												
小計		30	31	31		92	30	30	31		91	30	31	31		92	30	30	31		91		
総合的な探究の時間		3~6	2	1	1	4		2	2	1	5		2	1	1	4		2	2	1	5		8
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3		1	1	1	3		1	1	1	3		1	1	1	3		8
合計			33	33	33		99	33	33	33		99	33	33	33		99	33	33	33		99	

備考

- I型は文科系進学類型。I型GLコースは、文科系進学類型で「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の対象となるコース。
- II型は理科系進学類型。II型GLコースは、理科系進学類型で「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の対象となるコース。
- ☆は学校設定科目。
- △印から3単位、※印から2単位を選択する。ただし、数学探究Ⅱを選択する者は数学探究Ⅰも選択する。
- 2年次に地理B（日本史B）を選択した者は、3年次に日本史B（地理B）を選択することができない。
- I型、I型GLコースの第3学年の地歴公民の2つの選択科目を、ともに世界史B（地理B）とすることはできない。
- I型、I型GLコースの第3学年の理科は、化学探究、生物探究、地学探究を2科目又は化学、生物、地学を1科目選択する。
- まとめ取りを実施する科目
 - 地歴（2年II型、II型GL）：日本史Bまたは地理B（4月～10月で延べ55時間、11月～3月で延べ15時間）、世界史A（11月～3月で延べ35時間）
 - 地歴（3年II型、II型GL）：日本史Bまたは地理B（4月～7月で延べ20時間、7月～3月で延べ85時間）、世界史A（4月～7月で延べ35時間）
 - 数学（2年II型、II型GL）：数学Ⅱ（4月～10月、延べ105時間）、数学B（11月～3月、延べ70時間）
 - 数学（2年II型、II型GL）：数学Ⅱ（4月～9月、延べ105時間）、数学Ⅲ（2月～3月、延べ35時間）、数学B（10月～1月、延べ70時間）
 - 数学（1年）：数学Ⅰ（4月～6月、11月～12月延べ105時間）、数学Ⅱ（1月～3月、延べ35時間）、数学A（7月～10月、延べ70時間）
- 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の特例措置により、情報の科学、保健を、それぞれ1単位減ずる。（保健のI型、II型を除く。）
- 英語表現Ⅰ・Ⅱでは、それぞれの科目の目標を踏まえた上で、SGH事業において設置した学校設定科目「Discussion & Debate」での取組を継続し、年間を通じて即典型ディベートを体系的に学習することにより、論理的思考力や批判的思考力を段階的に育成する。
- 総合的な探究の時間(G明教)では、質の高い課題研究を全生徒が行うことを柱とし、体験と実践を伴った探究的な学びを実践する。

令和3年度 教育課程表

令和3年度入学（普通科）

区分	科目	標準 単位数	I 型				II 型						
			1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計			
国語	国語総合	4	5			5	15	5			5	14	
	現代文B	4		2	2	4			2	2	4		
	古典B	4		3	3	6			3	2	5		
地理 歴史	世界史A	2					11・ 15		1	1	2	7	
	世界史B	4		4		4・8							
	日本史B	4		3	4	0・3・7			2	3	0・5		
	地理B	4				0・3・7					0・5		
公民	現代社会	2	2			2	2・ 6	2			2	2	
	倫理	2			2	0・2							
	政治・経済	2			2	0・2							
数学	数学I	3	3			3	11・ 14・ 16	3			3	19	
	数学II	4	1	3		4			1	3	4		
	数学III	5								1	5		6
	数学A	2	2			2			2		2		
	数学B	2		2		2				2	2		
	☆数学探究I	3			△3	0・3							
	☆数学探究II	2			※2	0・2							
理科	物理基礎	2					10		3		3	18	
	物理	4									0・4		
	化学基礎	2	2			2			2		2		
	化学	4			□4	0・4				2	4		6
	生物基礎	2		2		2			3		3		
	生物	4			□4	0・4					0・4		
	地学基礎	2		2		2							
	地学	4			□4	0・4							
	☆化学探究	2			○2	0・2							
	☆生物探究	2			○2	0・2							
体育	体育	7-8	3	3	2	8	10	3	3	2	8	10	
	保健	2	1	1		2			1	1	2		
芸術	音楽I	2				0・2	2・ 4・ 7				0・2	2	
	美術I	2	2			0・2			2		0・2		
	書道I	2				0・2					0・2		
	☆音楽探究	3			△3	0・3							
	☆美術探究	3			△3	0・3							
	☆書道探究	3			△3	0・3							
	☆音楽表現	2			※2	0・2							
	☆美術表現	2			※2	0・2							
☆書道表現	2			※2	0・2								
外国語	コミュニケーション英語I	3	3			3	19	3			3	17	
	コミュニケーション英語II	4		4		4			3		3		
	コミュニケーション英語III	4			4	4				4	4		
	英語表現I	2	3			3			3		3		
	英語表現II	4		2	3	5				2	2		4
家庭	家庭基礎	2	2			2	2	2			2	2	
情報	情報の科学	2	1			1		1			1		1
共通	教科・科目計		30	31	29・31	90・92		30	31	31	92		
家庭	生活と福祉	2-6			※2	0・2	0・2						
	フードデザイン	2-6				0・2		0・2					
専門	教科・科目計				0・2	0・2							
小	計		30	31	31	92		30	31	31	92		
総合的な探究の時間	3-6		2	1	1	4	7	2	1	1	4	7	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3		1	1	1	3		
合	計		33	33	33	99		33	33	33	99		

- 備考
- I型は文科系進学類型。
 - II型は理科系進学類型。
 - ☆は学校設定科目。
 - △印から3単位、※印から2単位を選択する。ただし、数学探究IIを選択する者は数学探究Iも選択する。
 - 2年次に地理B（日本史B）を選択した者は、3年次に日本史B（地理B）を選択することができない。
 - I型の第3学年の地理公民の2つの選択科目を、ともに世界史B（地理B）とすることはできない。
 - I型の第3学年の理科は、化学探究、生物探究、地学探究を2科目又は化学、生物、地学を1科目選択する。
 - まとめ取りを実施する科目
 - 地歴（2年II型）：日本史Bまたは地理B（4月～10月で延べ55時間、11月～3月で延べ45時間）、世界史A（11月～3月で延べ35時間）
 - 地歴（3年II型）：日本史Bまたは地理B（4月～7月で延べ20時間、7月～3月で延べ85時間）、世界史A（4月～7月で延べ35時間）
 - 数学（2年I型）：数学II（4月～10月、延べ105時間）、数学B（11月～3月、延べ70時間）
 - 数学（2年II型）：数学II（4月～9月、延べ105時間）、数学III（2月～3月、延べ35時間）、数学B（10月～1月、延べ70時間）
 - 数学（1年）：数学I（4月～6月、11月～12月延べ105時間）、数学II（1月～3月、延べ35時間）、数学A（7月～10月、延べ70時間）
 - 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の特例措置により、情報の科学を1単位減ずる。
 - 英語表現I・IIでは、それぞれの科目の目標を踏まえた上で、SGH事業において設置した学校設定科目「Discussion & Debate」での取組を継続し年間を通じて即興型ディベートを体系的に学習することにより、論理的思考力や批判的思考力を段階的に育成する。
 - 総合的な探究の時間（G明教）では、質の高い課題研究を全生徒が行うことを柱とし、体験と実践を伴った探究的な学びを実践する。

SDG5 ジェンダー平等を実現しよう

広がれ！ジェンダー平等の輪！！

～政治の視点から見たジェンダーギャップ～



愛媛県立松山東高等学校 李喜延・小笠原寧珂 (稲葉麻衣先生講座)

研究の理由・方法

・SDG DASHBOARDを見て日本が5番「ジェンダー平等実現しよう」の目標の達成度が低いことを知り、近年話題になっているもののいまだ実現できていないのはなぜだろうと思ったから。

【研究方法】

- ①日本のジェンダー平等(特に政治)の現状について調べる
 - ②高校生のジェンダー平等に対する意識について調べる
 - ③日本・スウェーデン・ナミビア共和国・アルゼンチンを比較し、女性の政治参加の取り組みを調べる
- 【日本の比較対象の3ヶ国を選んだ理由】
- ・スウェーデン→SDGs達成状況を見たところ一番総合数値が高い。
 - ・ナミビア、アルゼンチン→ほかの数値が低いのにジェンダー開発指数は高い。



研究2 他国との比較



【ジェンダー開発指数】
 OUNDP (国連開発計画) による健康・知識・生活水準における男女の格差を測定
 ○日本は55位/167カ国(0.978)

【女性議員の割合】
 スウェーデン 7位
 ナミビア 15位
 アルゼンチン 21位
 日本 166位
 (世界平均は25.5%)

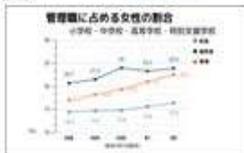
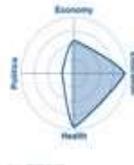
国	スウェーデン	ナミビア	アルゼンチン
政治参加の機会	投票権	投票権	投票権
政治参加の機会	投票権	投票権	投票権
政治参加の機会	投票権	投票権	投票権
政治参加の機会	投票権	投票権	投票権

【他国との政策の比較】
 ◎日本の政策自体は整っている!

研究1 日本の現状

【ジェンダー・ギャップ指数2021】

- 世界経済フォーラムによる、経済・教育・健康・政治の4分野による指標
- 日本は120位/156カ国 (0.656)
- ・0が不平等、1が完全平等
- 経済117位(0.604) 教育92位(0.983)
- 健康65位(0.973) 政治147位(0.061)

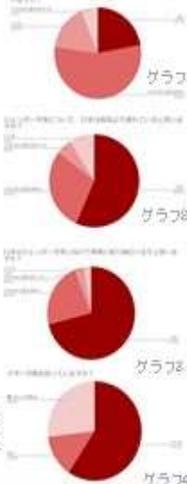


【JILPT『データブック国際労働比較2019』】
 ○日本の賃金の男女格差は24.5% (OECD加盟国の中で2番目に高い)

○女性管理職がわずか12% (世界平均は27.5%)

- ・どちらかと言えばはいと答えた人も含めると、今の日本社会では女性よりも男性の方が優遇されていると思っている人が45%以上いる
- ・85%以上の方が、他国よりも日本の方がジェンダー平等の面で遅れていると答えている
- ・90%以上の方が、日本はジェンダー平等に向けて真剣に取り組むべきだと答えている

* クォータ制: 議員や会社役員などの女性性の割合をあらかじめの一定に定めて積極的に起用する制度のこと



結果と考察

【日本の現状より】

- ・日本の問題は健康や教育の面ではなく、経済や政治の面
- ・選挙権や立候補できる年齢差別など、制度的には男女不平等はない(ハードは整っている)のに実際に女性のリーダーが少ないのは、人々の意識(ソフト)によるところが多い
- 【高校生の意識調査より】
- ・グラフ1→身の回りにジェンダーギャップを感じている人が多い
- ・グラフ2、3→改善したいという意識は十分にある(提案があれば、賛成する人は多いと予想できる)ので、あとは行動に移すきっかけがある状態
- 【他国との比較より】
- ・政治への女性進出の割合の差、開発指数の差が顕著に表れている
- 他国では、政策から国民の意識を向上させるもの(クォータ制など)がある
- ・意識調査に見られるようにクォータ制の認知度低い→クォータ制を制定するかどうかは別として、他国の現状や女性リーダーを増やす工夫を人々に知ってもらうことも効果があるのではないかと

提言

1. 女性の政治家たちが声を上げる→私たちが目を向ける
2. 学校でジェンダーフリー教育を取り入れる
3. メディアがもっとクォータ制などが国会で審議されていることを発信すべき

私たちの意識・行動でこれからの社会が変わります!
女性の皆さん!あなたを必要としているフィールドがあるはず!
勇気ある一歩を!

参考文献

- ・ Global Gender Gap Report 2021 (World Economic Forum)
- ・ Sustainable Development Report 2021 (Cambridge)
- ・ スウェーデン情報男女平等 (スウェーデン文化交際協会発行 2016年11月)
- ・ 「共同歩調」2020年3・4月号 | 内閣府男女共同参画局 (gender.go.jp)
- ・ 【教育×SDGs】日本のジェンダーギャップ是正に向け教育ができることは?

未来ドラフトを通して考える 日本における難民教育について



愛媛県立松山東高等学校 日野 鶴乃 (大川先生講座)

アンケート結果

Q. 難民について知っていますか。 Q. 難民について学んだことはありますか。



～アンケートから分かったこと～

- あまり知らない人が50%近く
- 一方で、約1割の人が興味をもって知ろうとしている
- 難民について学んだことがない人が50%以上
- 難民教育を受けたいと思うかに対して、多くの人が好意的に答えてくれた。
- 「一方的でない、グループ学習のようなものがい！」(アンケート回答者)
- 難民問題に限らず、様々な国際問題に興味を持っている生徒が多い。

日本の難民問題

- 難民申請者数=約10,000人(R1) 約4,000人(R2)
- 難民認定率=約0.4% 約1.2%
- 昔よりは偏見がなくなっている。(シリア難民)
- 入管法改正の見送り(2021年5月18日)
- 他の先進国よりも難民受け入れへの姿勢が消極的。
- 知識が浅薄⇒もっと世界に目を向けて!

未来ドラフト



- ★ 未来ドラフト = 難民支援のアイデアコンペ
- ★ Theme 2021: シリア難民と受け入れ国ヨルダンの子供たちが互いに安心して学校に通えるためには
- ★ 相手のことを知らない・間違った知識の補え付け ⇒ **教育の大切さ**



日本とカナダの教育を比較して

日本

- 文部科学省の学習指導要領重視
- 進学校においては受験に必要な勉強が優先される
- 包括的な教育
- 現代社会の授業において
 - 代表的な人権条約の一つとしての難民条約
 - ノン・ルフールマンの原則
- 政治経済の授業において
 - 難民発生の原因-第三国定住について
 - 生徒同士で難民問題について話し合う時間はない。
 - 政治経済を**選択した人のみしか受けられない**

カナダ・オンタリオ

- 学習指導要項あり(理科、社会)
- 教師の裁量に任せられる部分が多い
- 国語の授業は教科書がなく、国際問題についての資料を扱うことが可能
- "Hot Docs"というプログラム=**国際問題のドキュメンタリー**を見る

カナダ在住の教師の方から...

I teach about global issues in hope that students will be impacted. It makes students aware of what is happening around the globe so that they can become global citizens.

教育現場で難民について学ぶ場を...

教育制度が邪魔をしている
⇒ 政府への**教育制度の改革に関する提言**

- 体験的に学習する場・参加型学習=開発教育
- 生徒が自分から進んで学習しようとする・先生が積極的に学習に取り組める環境づくり
- 学力が高いだけでは社会で生きていくことは厳しくなる
⇒ 様々な国際問題に触れ、広い視野を持ち多くのことに対応できる能力を身に付ける必要性

★ **国際問題に意識して目を向け、地域に生かせる
グローバルな人材の育成**

誰が教えても同じ内容を教えられる

フォーカスした問題を扱うことは難しい

文部科学省の指導要領に一言加えるだけで機会が得られる



東高 がんばっていきましょい ーグローバルからグローバルへの挑戦ー



目標 ・ 人材像

輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、
人間的魅力のあるグローバル・リーダーの育成

- 地域マネジメント力を身に付け、郷土の課題解決に貢献する志を持った人材
- グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献する人材

令和3年度の取組

1年生 (361人)

グローバル課題の発見

- ・**講演**
「これからのよのなかの話をしよう」
「世界共通のゴール(SDGs)の達成に向けて」
「地域社会の持続可能な発展に向けて」
「レベゼン物語！井の中の蛙 大海をゆく」
「企業の見方&地域産品のマーケティング」
「いい、加減。まつやま」等
- ・**講座**
「英語のまつやま まちかど講座」
全15テーマから、2つを選択受講
- ・**県内企業FW代替講演**
三浦工業株式会社・株式会社アテックスより
- ・**国内FW**
12月に大阪大学を訪問
- ・**海外FW代替交流**
三浦工業(蘇州・台湾・韓国・インドネシア)からの講演、台湾国立中興大学附属高級中学・北京月壇中学との交流
- ・**課題研究**
「地域及び世界の持続的な発展のために」
全20テーマに分かれて研究テーマを設定し、本校教員の指導のもとグループ研究を実施
- ・**成果発表会**
グループごとにポスター(128枚)を作成し、ポスターセッションを実施



2年生 (GLコース97人)

グローバル課題への取組

- ・**課題研究**
「地域マネジメント力の育成」
全14テーマに分かれて研究テーマを設定し、愛媛大学・松山大学・松山市・愛媛県立中央病院等の方々より指導を受け研究
テーマ例
「難民と現地の人々が絆を深めるには?」
～未来ドラフトを通じて～
「地域活性化のための理想の多世代交流拠点は?」
「あなたは大丈夫?身近に潜む受動喫煙」
「費解は選挙に本気ですか?」
～世界と日本、比べてみました!～
- ・**国内FW**
12月に大阪大学を訪問
- ・**海外FW代替交流**
BEMAC(フィリピン)からの講演
LIPS(フィリピン)との交流
- ・**中間発表会・成果発表会**
12月に中間発表会をポスター発表で実施
3月に4グループに分かれてシンポジウムを実施



3年生 (GLコース80人)

グローバル課題の解決と発信

- ・**課題研究**
2年次から研究している内容を論文としてまとめる
論文タイトル例
「抗アレルギー効果のある食品の研究」
「効率的な技術学習のためのAR、VR、MRの活用法」
「まつやま防災マップの活用についての提案」
「コロナ禍の調査期と出生前診断」
「愛媛のインバウンドを活性化させるために」
- ・**松山市への提言**
防災教育フォーラムで防災マップに関する提言を行う
- ・**研究成果発表会**
9月に全員が論文を発表



課題研究のための資質能力の育成

- ・**East CLIL**
松山東高校版内容言語統合型学習
プレゼンテーション能力の育成
- ・**英語表現**
教える英語力の育成



学校環境のグローバル化

- ・**SGH部の取組**
インターナショナルデー開催、市内高校生交流会実施、フェアトレード啓発活動
海外高校生との交流、コンテスト・大会への参加



留学支援及び留学生受入

- 「トビタテ」留学JAPAN説明会の実施
留学生1人の受入
- ・**「EUがあなたの学校にやってくる」**
「外務省『高校講座』」実施
- ・**オンライン語学研修実施**



コンソーシアムの構築

- ・**愛媛大学との連携**
課題研究講師、講演講師、保健講座講師派遣
- ・**松山大学との連携**
課題研究講師
- ・**学習院大学との連携**
講演講師
- ・**松山市との連携**
英語のまつやま まちかど講座実施
松山市SDG推進協議会参加
課題研究講師、講演講師等
- ・**企業・関係機関との連携**
いよざん地域経済研究センター 講師派遣
三浦工業株式会社 講演会実施
株式会社アテックス 講演会実施
- ・**他校との連携**
中四国高校生会議、市内高校生交流会主催



成果

- ・**地域との連携強化と活動の普及**
課題研究・講演等に外部人材が参加した人数の約540人
中四国高校生会議、市内高校生交流会主催
- ・**課題研究指導体制の構築**
3年生GLコース生課題研究の満足度100%達成
今年度で発表会を実施
- ・**学校外での発表機会の活用**
「未来ドラフト2021」オーディエンス賞、「地方創生☆政策アイデアコンテスト2021」西国経済産業局長賞
「Global High School Meeting 2022」金賞、「西国高等学校国際教育生徒研究発表会」研究発表の部優秀等

